



Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR

Contents

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR について	4
Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR	7
解決された問題	57
既知の問題	59
システム要件と互換性	60
インストールとアンインストール	66
展開	87
ストア構成	95
更新とプラグイン管理	106
アップデート	107
プラグイン管理	119
アプリエクスペリエンス	129
アプリケーションの配信	129
仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上	140
アプリ設定	141
SaaS アプリ	149
データ収集と監視	150
セキュリティと認証	153
セキュリティ	153
セキュリティで保護された通信	156
認証	171
ドメインパススルーアクセスのマトリックス	194

オンプレミス Citrix Gateway を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー	200
Azure Active Directory を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー	215
Okta を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー	219
シングルサインオンの拡張ドメインパススルー (強化された SSO)	221
HDX	227
グラフィックとディスプレイ	227
最適化された Microsoft Teams	238
HDX トランスポート	241
ブラウザコンテンツリダイレクト	243
コンテンツの双方向リダイレクト	246
ICA 設定リファレンス	251
デバイス	251
マウス	252
キーボード	254
印刷	270
USB	273
クライアントドライブマッピング	291
マイク	294
グループポリシー	294
セッションエクスペリエンス	297
Citrix Workspace アプリ Desktop Lock	308
ソフトウェア開発キット (SDK) と API	314
Storebrowse	316

Workspace の Storebrowse	326
トラブルシューティング	328
廃止	334

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR について

June 14, 2024

このドキュメントでは、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR の機能と構成が説明されています。このバージョンは、Windows 向け Citrix Workspace アプリの最新の長期サービスリリース (LTSR) であり、LTSR のお客様のみに関連します。

Windows 向け Citrix Workspace アプリの最新リリース (CR) のドキュメントは、「[Windows 向け Citrix Workspace アプリ](#)」で入手できます。最新リリースおよび LTSR のライフサイクルについて詳しくは、「[Lifecycle Milestones for Citrix Workspace app](#)」を参照してください。

注:

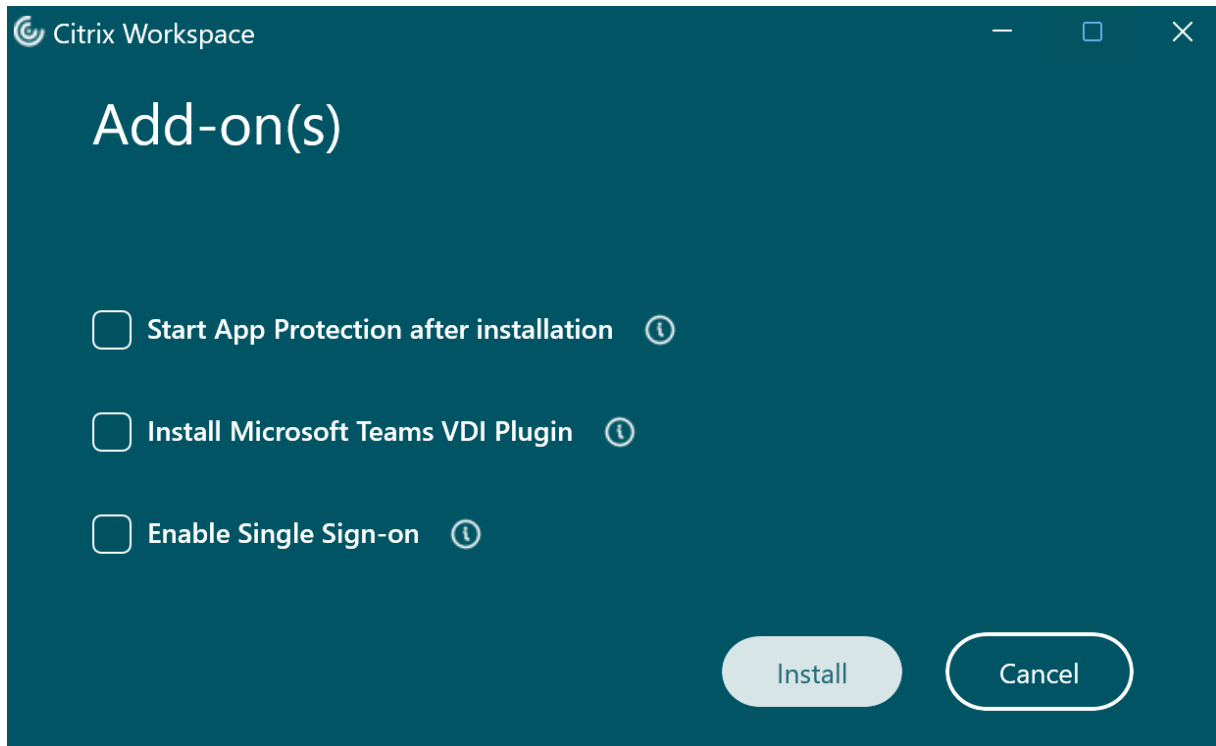
- Citrix Workspace アプリで自動更新を有効にし、LTSR プログラムを選択した場合、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2203.1 LTSR は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR に自動的に更新されます。
- Citrix Workspace アプリで自動更新を有効にし、CR プログラムを選択した場合、Citrix Workspace アプリ CR バージョンは、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2311.1 に自動的に更新されます。

ダウンロード

[Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR](#)

新しいアドオンとパッケージ

Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR では、Citrix Workspace アプリのインストール中に、アドオンページから Microsoft Teams 最適化プラグイン、Citrix Enterprise Browser、App Protection をインストールできます。これらのアドオンは、Citrix Workspace アプリとは独立して管理できます。たとえば、Citrix Workspace アプリとは個別に更新またはアンインストールできます。



ブラウザーコンテンツのリダイレクト (BCR)

Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR バージョンの場合:

- BCR クライアントコンポーネントは、デフォルトでは Citrix Workspace アプリインストーラー UI で、またはコマンドラインからインストールされません。
- 新しい Citrix Workspace アプリのコマンドラインインストールでは、BCR クライアントコンポーネントとその他の必要なコンポーネントを、`ADDLOCAL` コマンドラインパラメーターを使用して指定する必要があります。詳しくは、「[1 つまたは複数の特定コンポーネントのインストール](#)」を参照してください。
- 新しい Citrix Workspace アプリインストーラー UI では、`{page.cwa}` のインストール後、`%ProgramFiles(x86)%\Citrix\Citrix Workspace 2402` ディレクトリにある `BCR_Client.msi` を実行して、BCR クライアントコンポーネントをインストールできます。
- BCR コンポーネントが以前にインストールされていた場合、インストールプロセス中にアップグレードされます。

Microsoft Teams の最適化の動作の変更

Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR のリリースにより、ユーザーは Citrix Workspace アプリのインストール中に、アドオン画面から直接、新しい Microsoft Teams VDI プラグイン をインストールできるようになりました。

詳しくは、「[新機能](#)」を参照してください。

「[Microsoft Teams 2.1 Supported for VDI/Daas](#)」も参照してください。

新機能と機能強化

このリリースの新機能、解決された問題、既知の問題について詳しくは、次のセクションを参照してください。

- [2402 LTSR の新機能](#)
- [2402 LTSR で解決された問題](#)
- [2402 LTSR の既知の問題](#)

便利なリンク

- [Citrix Workspace アプリの機能マトリックス](#)
- [Citrix Workspace アプリのライフサイクルマイルストーン](#)
- [Citrix Receiver for Windows のその他のライフサイクル情報](#)

Citrix 製品の名前と番号の変更

2018 で導入された製品名およびバージョン番号の変更について詳しくは、「[新しい製品名およびバージョン番号](#)」を参照してください。

ベースラインコンポーネント

2402 LTSR のベースラインコンポーネント	バージョン
Citrix Virtual Apps and Desktops 7 LTSR と CU	1912 LTSR
Citrix Virtual Apps and Desktops 7 LTSR と CU	2203.1 LTSR
Citrix Virtual Apps and Desktops 7 最新リリース	2402 CR

互換コンポーネント

以下のコンポーネントは、LTSR 環境と互換性があります。これらは、LTSR の特典（ライフサイクルの延長と修正のみの累積更新プログラム）の対象にはなりません。

互換性のあるコンポーネントと機能

Citrix Endpoint Analysis

Citrix DaaS (旧称: Citrix Virtual Apps and Desktops サービス)

ブラウザーコンテンツリダイレクト

Citrix Enterprise Browser

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR

June 14, 2024

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR の新機能および利用可能な機能強化について説明します。

重要:

- Citrix Enterprise Browser は、Citrix Workspace アプリ LTSR と互換性のあるコンポーネントとして使用できます。ただし、デフォルトではインストールされません。
Citrix Enterprise Browser をインストールするには、コマンドラインインストールでインストールスイッチ `InstallEmbeddedBrowser=Y` または `AddLocalParameter-CitrixEnterpriseBrowser` を追加します。
- ブラウザーコンテンツリダイレクトのインストールについて詳しくは、「[ブラウザーコンテンツリダイレクト](#)」を参照してください。

2402 LTSR の新機能

以下は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR で使用できる機能の一覧です。

注:

新しいアドオンとパッケージの変更については、「[新しいアドオンとパッケージ](#)」を参照してください。

- 2402
 - クラウドハイブリッド起動でのサステナビリティに関する取り組み
 - シングルサインオンの拡張ドメインパススルー (強化された SSO)
 - Windows における Storebrowse の高度な NetScaler ポリシーのサポート
 - Chromium Embedded Framework のバージョンのアップグレード
 - Citrix 用の Microsoft Teams VDI プラグインのインストール

- 会議でのシステムオーディオの共有 (Technical Preview)
- エンドユーザー向けのトラブルシューティングオプションの非表示
- App Protection
 - * スクリーンショットの許可リスト
 - * プロセスの除外リスト
 - * USB フィルタードライバー除外リスト
- Citrix Endpoint Analysis
- Citrix Enterprise Browser
 - * Web サイトにアクセスする場合のセキュリティインジケータ
 - * Citrix Enterprise Browser は Global App Configuration Service で追加の設定を導入します
- 2311.1
 - Citrix Workspace アプリの新しいインストーラーを導入
 - クラウドストアでのアクティビティマネージャーのサポート
 - ビデオコーデックの自動選択
 - オーディオの損失耐性モード
 - セッション開始時に複数のキーボードを同期
 - BCR のパフォーマンスの向上
 - Chromium Embedded Framework のバージョンのアップグレード
 - App Protection ファイルとドライバーの名前に関する重要な更新
 - HDX を使用した Microsoft Teams 最適化の背景のぼかしおよび効果の機能強化
 - Citrix Enterprise Browser
 - * [ユーザーエクスペリエンスとセッションの再読み込み時間の向上](#)
 - * [ウォーターマークデザインの向上](#)
 - * [カスタムブラウザ拡張機能のサポート](#)
 - * Global App Configuration Service によってシンプルになった Web および SaaS アプリの SSO
 - * [Citrix Enterprise Browser でのパススルー認証の管理](#)
 - * [エンドユーザーのアクティビティを監視する機能の強化](#)
- 2309
 - 追加の.NET 前提条件
 - 仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上
 - Citrix Workspace アプリのシステムトレイにトラブルシューティングオプションを追加
 - Citrix Workspace アプリでのサステナビリティに関する取り組み
 - コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成するコマンド
 - Citrix Workspace アプリをクリーンアップしてインストールするコマンド

- 最適化された Microsoft Teams の更新
- App Protection
 - * ファイル名に関する重要な更新
 - * ポリシーの改ざんの検出
 - * ダブルホップシナリオでの App Protection
- Citrix Enterprise Browser
 - * [Citrix Enterprise Browser](#) での認証
- 2307
 - 最適化された Microsoft Teams で短いトーンを再生するサポートを追加
 - Citrix Enterprise Browser
 - * [Citrix Enterprise Browser](#) のショートカット
- 2305.1
 - 仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上
 - Storebrowse コマンドのステータスの追跡
 - StoreFront ストアの先進認証方法のサポート
 - Azure Active Directory で 200 を超えるグループをサポート
 - App Protection
 - * キーロガー対策の強化
 - Citrix Enterprise Browser
 - * ブラウザー拡張機能のサポート
 - * 内部 Web アプリおよび SaaS アプリでの SPA ポリシー実装の変更
 - * Global App Configuration Service を使用した Citrix Enterprise Browser の管理
- 2303
 - ブラウザーコンテンツリダイレクトオーバーレイのブラウザーの一時データストレージパスを構成する
 - StoreFront ストアの先進認証方法のサポート
 - 最適化された Microsoft Teams ビデオ会議通話のエクスペリエンスの向上
 - App Protection の強化: DLL インジェクション対策
 - Citrix Enterprise Browser
 - * StoreFront の Secure Private Access のサポート
- 2302
 - 仮想アプリとデスクトップの再接続エクスペリエンスの向上
 - Zoom プラグインのクライアントアプリ管理
 - 最適化された Microsoft Teams のオーディオ デバイス選択動作の更新
 - App Protection の機能強化

- Citrix Enterprise Browser
 - * すべての Web アプリおよび SaaS アプリを Citrix Enterprise Browser で開く
 - * Citrix Workspace アプリ内から Citrix Enterprise Browser を起動するオプション

- 2212
 - クライアントアプリ管理
 - バージョン自動更新の制御
 - フェデレーション ID プロバイダーのログインプロンプトの強制
 - 接続リースファイルの有効期限が切れた後の再接続エクスペリエンスの向上
 - App Protection のデフォルトインストールのサポート
 - App Protection の機能強化: スクリーンショットの検出と通知
 - Desktop Viewer の最適化
 - Citrix Enterprise Browser
 - * [Citrix Enterprise Browser](#) を仕事用ブラウザーにする

- 2210.5
 - 自動更新の機能強化

- 2210
 - Web カメラリダイレクトの背景のぼかし
 - Windows 11 での Web アプリおよび SaaS アプリの App Protection の強化
 - ビデオ解像度の制限
 - Citrix Workspace Browser のリブランディング
 - すべての Web アプリおよび SaaS アプリを Citrix Enterprise Browser で開く
 - VDA の Citrix Workspace アプリの自動更新サポート
 - Citrix Enterprise Browser (旧称 Citrix Workspace Browser)

- 2207
 - HDX を使用した Microsoft Teams 最適化の背景のぼかしおよび効果
 - 自動更新エクスペリエンスの向上
 - Citrix Workspace アプリの更新に関する注意

- 2206
 - グラフィックパフォーマンスの向上
 - DPI マッチングの有効化

- 2205
 - Citrix Casting への変更
 - リソースへのクイックアクセス

- Citrix Workspace アプリ終了時のカスタム Web ストアからのサインアウト
 - 最大化モードで Citrix Workspace アプリを開くためのサポート
 - Workspace で Storebrowse をサポート
- 2204.1
 - オーディオダイレクトの機能強化
 - Microsoft Teams の最適化

2402 LTSR (初期リリース)

クラウドハイブリッド起動でのサステナビリティに関する取り組み

注:

この機能は、Citrix Workspace アプリ 2309 バージョン以降のネイティブ起動（クラウドおよびオンプレミス）で以前使用できました。

Citrix Workspace アプリ 2402 バージョン以降では、この機能はクラウド上のハイブリッド起動で利用できます。この機能を有効にすると、ユーザーが仮想デスクトップを閉じるときに、デスクトップセッションからのサインアウトを求めるプロンプトが表示されます。ユーザーがログインしていないときに仮想マシンをシャットダウンするために使用される Windows OS ポリシーがある場合、この機能は省エネに役立ちます。[**Save energy**] 画面のテキストをカスタマイズすることもできます。詳しくは、「[クラウドハイブリッド起動でのサステナビリティに関する取り組み](#)」を参照してください。

シングルサインオンの拡張ドメインパススルー（強化された SSO）

以前は、Windows 向け Citrix Workspace アプリは、ユーザー認証情報を使用した Citrix Virtual Apps and Desktops 環境へのシングルサインオンで、SSON またはドメインパススルー認証のみをサポートしていました。この認証により、ユーザーはデバイス上のドメインに対して認証され、再認証することなく仮想アプリとデスクトップを使用できるようになります。

このリリースでは、Citrix Workspace アプリは、SSO の新しい方法である拡張ドメインパススルーをサポートします。ユーザー資格情報の代わりに Kerberos 認証を活用します。ユーザーは、統合 Windows 認証を使用して Citrix Virtual Apps and Desktops および StoreFront にサインインできるようになりました。詳しくは、「[シングルサインオンの拡張ドメインパススルー（強化された SSO）](#)」を参照してください。

Windows における Storebrowse の高度な NetScaler ポリシーのサポート

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、Storebrowse を使用した NetScaler Gateway の高度なポリシーをサポートするようになりました。サポートされている認証プロトコルは LDAP 認証です。Storebrowse は、ク

クライアントとサーバー間の相互通信に使用されるコマンドラインユーティリティです。StoreFront 内および Citrix Gateway 内のすべての操作を認証するために使用されます。詳しくは、[Storebrowse](#)を参照してください。

注:

nFactor 認証プロトコルは、Windows 上の Storebrowse ではサポートされていません。

Citrix 用の Microsoft Teams VDI プラグインのインストール

次のいずれかのオプションを使用して、Citrix Workspace アプリのインストール中に Microsoft Teams VDI プラグインをインストールできるようになりました。

- [UI の使用](#)
- [コマンドラインの使用](#)

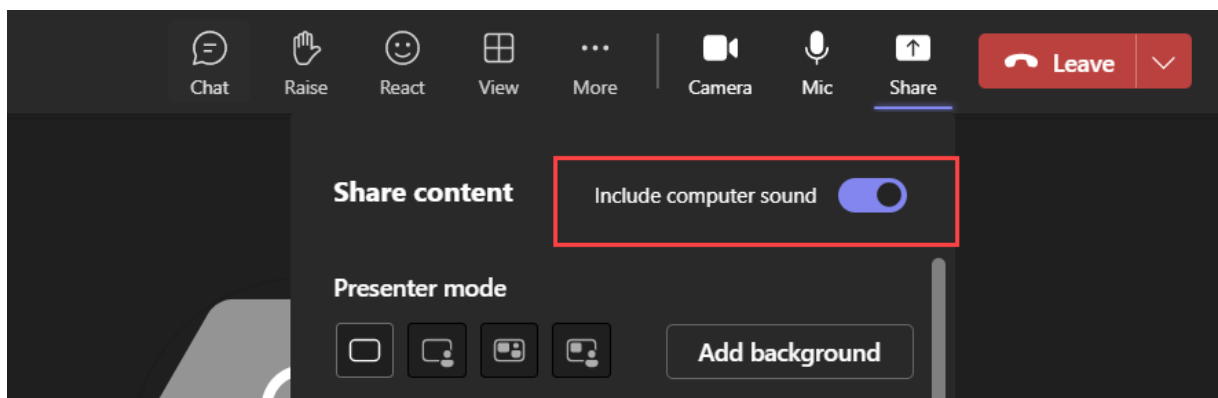
注:

VDI とのバージョン互換性と構成の詳細については、「[Microsoft Teams 2.1 Supported for VDI/Daas](#)」と新しい [Teams VDI の要件](#)を参照してください。

システムオーディオの共有 [**Technical Preview**]

VDA で再生されているオーディオを会議の参加者と共有できるようになりました。会議の機能をさらに拡張するために、**[Include computer sound]** オプションを選択します。HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\HDXMediaStream\EnableSystemAudio (DWORD) を 1 に設定して、レジストリ経由でこの機能を有効にする必要があります。

エンドユーザーの場合、このオプションはデフォルトでは有効になっていないため、画面を共有する前にオンにする必要があります。



制限事項

- RAVE および BCR にリダイレクトされたアプリまたはタブで画面を共有する場合、この機能を使用してオーディオを共有することはできません。

- この機能は公開デスクトップでのみサポートされます。

注:

この機能は、今後の更新が Microsoft Teams からロールアウトされた後のみ使用できます。

エンドユーザー向けのトラブルシューティングオプションの非表示

管理者は、GPO エディターを使用して、エンドユーザーのトラブルシューティングオプションを非表示にできるようになりました。この設定を有効にすると、以前はシステムトレイ上でエンドユーザーに表示されていたトラブルシューティングオプションが非表示になります。詳しくは、「[エンドユーザーのトラブルシューティングオプションを非表示にする](#)」を参照してください。

PNAgent サポートの廃止

このリリース以降、ストアに接続するための XenApp Services の URL (PNAgent とも呼ばれる) のサポートは廃止されています。Citrix Workspace アプリを使用して、ストア URL からストアに接続します。詳しくは、以下参照してください:

- Windows 向け Citrix Workspace アプリのドキュメントの「[廃止](#)」ページ。
- StoreFront ドキュメントの「[廃止のお知らせ](#)」ページ。

Chromium Embedded Framework のバージョンのアップグレード

Chromium Embedded Framework (CEF) のバージョンは 120 にアップグレードされました。このバージョンのアップグレードは、セキュリティの脆弱性の解決に役立ちます。

App Protection

スクリーンショットの許可リスト Citrix Workspace アプリ、仮想アプリとデスクトップ、または SaaS アプリで、App Protection のスクリーンキャプチャ対策ポリシーが有効になっている場合は、スクリーンショットツールを使用して画面をキャプチャすることはできません。

ただし、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 リリース以降では、スクリーンショットの許可リスト機能を使用して、アプリをスクリーンショットの許可リストに追加できるようになりました。この機能を使用すると、許可リストに登録されたアプリを使用して、App Protection のスクリーンキャプチャ対策ポリシーが有効になっているリソースの画面をキャプチャできます。詳しくは、「[スクリーンショットの許可リスト](#)」を参照してください。

プロセスの除外リスト デバイス上でプロセスまたはアプリケーションを起動すると、App Protection が有効になっている場合は、各プロセスに App Protection DLL が挿入されます。場合によっては、DLL との互換性の問題により、プロセスまたはアプリケーションが動作しなくなることがあります。

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 リリース以降では、プロセスの除外リストに任意のプロセスを追加して、特定のプロセスへの App Protection DLL の挿入を回避し、App Protection DLL の存在によって発生する互換性の問題から回復することができます。詳しくは、「[プロセスの除外リスト](#)」を参照してください。

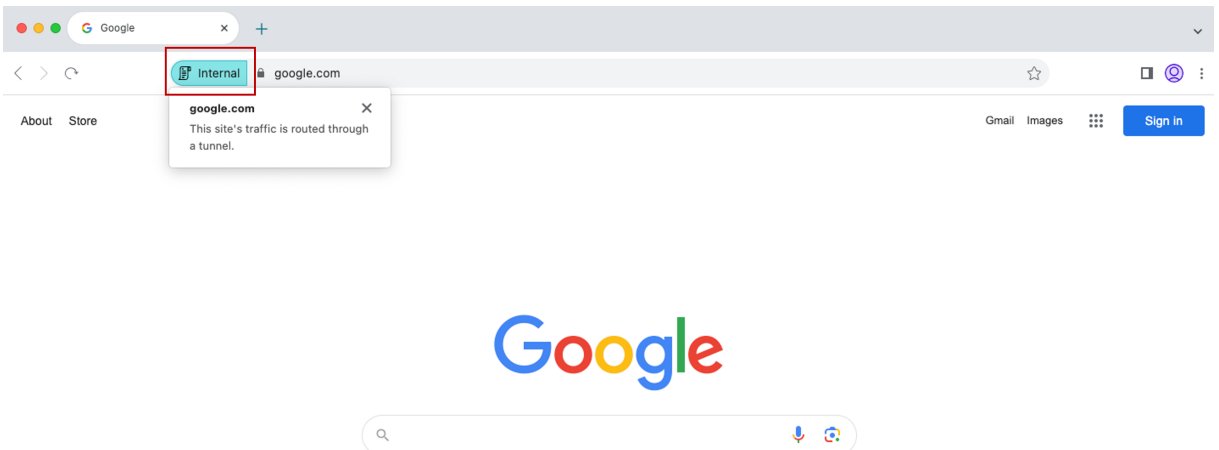
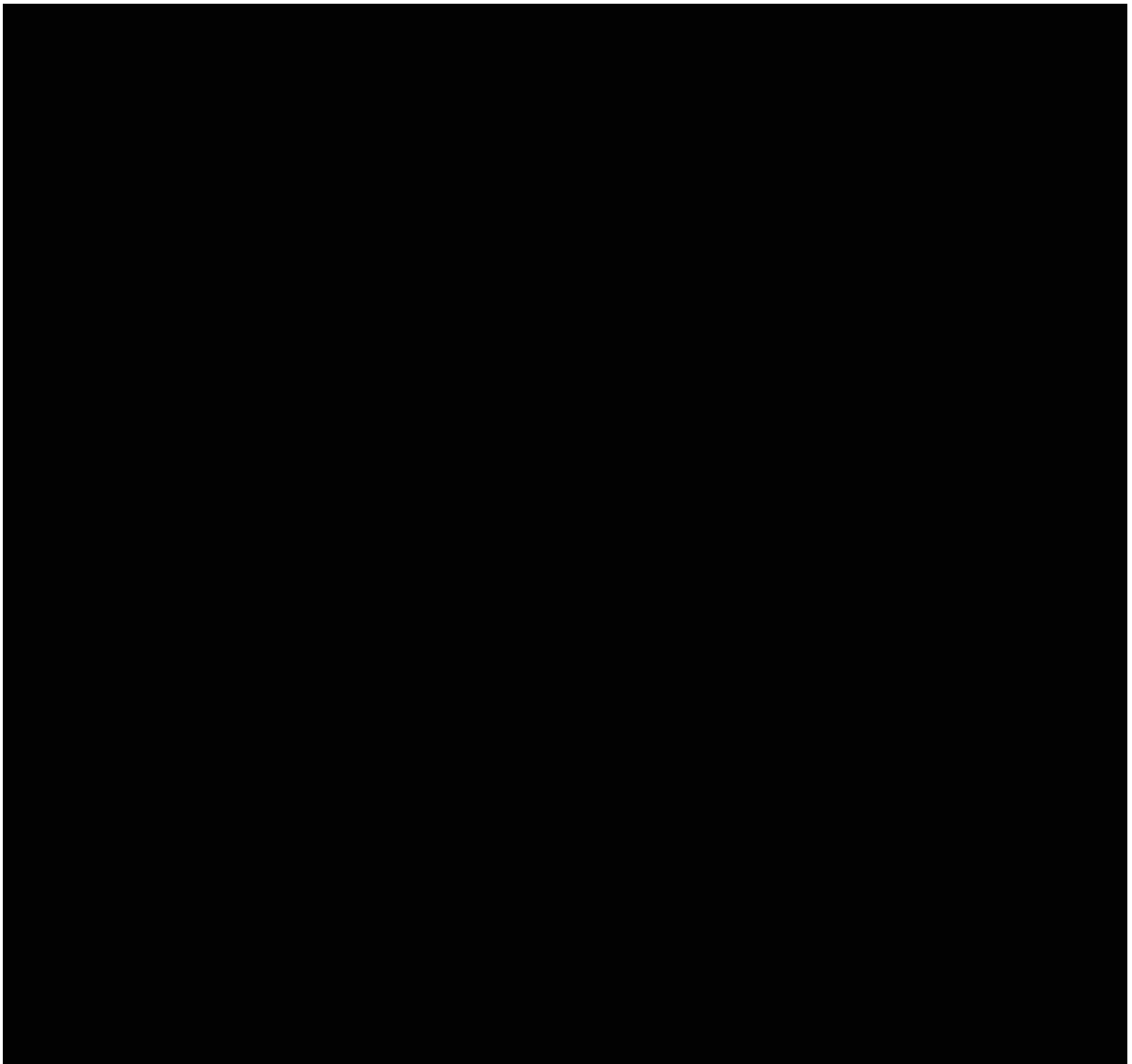
USB フィルタードライバー除外リスト 場合によっては、Citrix Workspace アプリでゲーミングキーボードなどの特殊な外付けキーボードを使用すると、App Protection USB フィルタードライバーによって互換性の問題が発生し、キーボードの使用がブロックされることがあります。

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 リリース以降では、USB フィルタードライバーの除外リスト機能により、デバイスのベンダー ID と製品 ID を使用して、Citrix Workspace アプリとの互換性の問題がある USB デバイスを除外できます。詳しくは、「[USB フィルタードライバーの除外リスト](#)」を参照してください。

Citrix Enterprise Browser

このリリースの Citrix Enterprise Browser は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 とともにインストールされ、Chromium バージョン 122 に基づいています。

Web サイトにアクセスする場合のセキュリティインジケータ Citrix Enterprise Browser では、ユーザーが Web サイトにアクセスしたときに、アドレスバーにセキュリティインジケータが表示されるようになりました。このインジケータは、内部サイトであるかどうか、潜在的なセキュリティ制限があるかどうかなど、Web サイトのセキュリティ面についてユーザーに通知することを目的としています。インジケータをクリックすると、詳しい情報が表示されます。インジケータはデフォルトで Enterprise Browser に表示され、ユーザーエクスペリエンスが向上します。



Citrix Enterprise Browser が **Global App Configuration Service** に追加の設定を導入 Citrix Enterprise Browser を構成するための追加設定が Global App Configuration Service (GACS) に追加されました。

- 住所情報の自動入力を有効にする - 管理者が住所の自動入力候補を有効または無効にできるようにします。
- クレジットカード情報の自動入力を有効にする - 管理者がクレジットカード情報の自動入力候補を有効または無効にできるようにします。
- 起動元からの自動起動プロトコル - 管理者は、ユーザーにプロンプトを表示せずに、起動元の一覧から外部アプリを起動できるプロトコルの一覧を指定できます。
- コマンドラインフラグのセキュリティの警告を有効にする - 潜在的に危険なコマンドラインフラグが Enterprise Browser を起動しようとするときに表示されるセキュリティの警告を、管理者が表示または非表示にできるようにします。
- デフォルトの Cookie 設定の管理 - 管理者が Web サイトの Cookie を管理できるようにします。
- デフォルトのポップアップ設定の管理 - 管理者が Web サイトからのポップアップを管理できるようにします。
- 拡張機能のインストール元 - 管理者は、ユーザーが拡張機能、アプリ、テーマをインストールするための有効なインストール元を指定できます。
- 類似警告ページを無効にする - ユーザーがそのドメインのページにアクセスしたときに類似警告ページが表示されない優先ドメインを、管理者が指定できるようにします。
- 決済方法の問い合わせを有効にする - 管理者は、ユーザーが決済方法を保存したかどうかを Web サイトで確認できるようになります。
- ブラウザー履歴の保存を管理 - 管理者が Enterprise Browser 履歴の保存を管理できるようにします。
- 検索候補の管理 - 管理者は、Enterprise Browser のアドレスバーで検索候補を有効または無効にすることができます。
- ブックマークのエクスポートを有効にする - 管理者が Enterprise Browser でブックマークをエクスポートするオプションを有効にできるようにします。
- 一時的なプロファイルを強制する - ユーザーが Enterprise Browser を閉じたときに、管理者がユーザープロファイルデータを消去または保持できるようにします。

詳しくは、Citrix Enterprise Browser ドキュメントの「[Global App Configuration Service を使用した Citrix Enterprise Browser の管理](#)」を参照してください。

JSON データの例について詳しくは、「[JSON データの例](#)」を参照してください。

Citrix Endpoint Analysis

このリリースでは、EPA クライアントは Citrix Workspace アプリインストーラーにバンドルされています。クライアントをインストールするには、コマンドラインオプション `InstallEPAClient` を使用して Citrix Workspace アプリをインストールする必要があります。

例: `./CitrixworkspaceApp.exe InstallEPAClient`

注:

EPA はデフォルトではインストールされません。

このリリースでは、パッケージ化されている EPA バージョンは 23.11.1.20 です。

以前のリリースから含まれている機能

このリリースでは、以下に示すように、Windows 向け Citrix Workspace アプリのバージョン 2204.1 から 2311.1 に含まれていた機能がサポートされています。

2311.1

このリリースでは次の機能が追加されています:

- Citrix Workspace アプリの新しいインストーラーを導入
- クラウドストアでのアクティビティマネージャーのサポート
- ビデオコーデックの自動選択
- オーディオの損失耐性モード
- セッション開始時に複数のキーボードを同期
- BCR のパフォーマンスの向上
- Chromium Embedded Framework のバージョンのアップグレード
- App Protection のファイル名に関する重要な更新
- Citrix Enterprise Browser
 - ユーザーエクスペリエンスとセッションの再読み込み時間の向上
 - ウォーターマークデザインの向上
 - カスタムブラウザ拡張機能のサポート
 - Global App Configuration Service によってシンプルになった Web および SaaS アプリの SSO
 - Citrix Enterprise Browser でのパススルー認証の管理
 - エンドユーザーのアクティビティを監視する機能の強化

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2311.1 以降、Internet Explorer ベースのブラウザコンテンツリダイレクトは廃止になりました。代替オプションとして、Google Chrome ベースのブラウザコンテンツリダイレクトを使用します。

Citrix Workspace アプリの新しいインストーラーを導入

Citrix Workspace アプリインストーラーのユーザーインターフェイスが刷新され、最新のシンプルな外観とより優れたユーザーエクスペリエンスが提供されます。デフォルトでは、新しいインストーラーは有効になっています。

前提条件:

.Net Desktop Runtime 6.0.20 以降は、新しいインストーラーの追加の前提条件です。その他の要件については、「[システム要件](#)」セクションを参照してください。

新しいインストーラーはデフォルトで有効になっています。詳しくは、「[ユーザーインターフェイスベースのインストール](#)」を参照してください。

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2311.1 バージョン以降、TrolleyExpressはCWAInstaller-<date and timestamp>に置き換えられます。たとえば、ログはC:\Program Files (x86)\Citrix\Logs\CTXWorkspaceInstallLogs-20231225-093441に記録されます。

クラウドストアでのアクティビティマネージャーのサポート

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、アクティビティマネージャー機能をサポートしています。この機能により、エンドユーザーはすべてのアクティブなアプリとデスクトップセッションを 1 か所に表示し、操作できるようになります。アクティビティマネージャーでアクティブなセッションを表示するには、アクティビティマネージャーアイコンをクリックします。アクティビティマネージャーで、それぞれの省略記号 (...) ボタンをクリックすることで、アプリまたはデスクトップ上で次のアクションを実行できます:

- ログアウト: 現在のセッションからログアウトされます。セッション内のすべてのアプリが閉じられ、保存されていないファイルはすべて失われます。
- 切断: リモートセッションは切断されますが、アプリとデスクトップはバックグラウンドでアクティブになっています。
- 再起動: デスクトップをシャットダウンし、再度起動します。
- シャットダウン: 切断されたデスクトップを閉じます。
- 強制終了: 技術的な問題が発生した場合、デスクトップの電源を強制的に切ります。
- 「**X**」 ボタンをクリックして、アクティビティマネージャーからアクティブなアプリセッションを終了します。

詳しくは、「[アクティビティマネージャー](#)」を参照してください。

注:

この機能は、[新しい Workspace エクスペリエンス](#)が有効になっている場合にのみ、Windows 向け Citrix Workspace アプリで利用できます。

ビデオコーデックの自動選択

このリリースでは、Windows 向け Citrix Workspace アプリが、使用できる最適なビデオコーデックを自動的に検出するようになりました。Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール中に、エンドポイントのデコー

ド機能が評価されます。この情報に基づいて、Windows 向け Citrix Workspace アプリは、セッションの開始時に VDA で使用する最適なコーデックを選択します。ビデオコーデックが評価される順序は次のとおりです：

1. AV1
2. H.265
3. H.264

この機能は、圧縮にビデオコーデックを使用するポリシーが次のいずれかに設定されている場合に使用できます：

- 可能であれば使用
- 画面全体に使用
- 領域をアクティブに変更

圧縮にビデオコーデックを使用するポリシーについては、「[圧縮にビデオコーデックを使用する](#)」を参照してください。

自動選択は、これらのコーデックの YUV 4:2:0 バリエーションにのみ適用されます。YUV 4:2:0 は使用する帯域幅が少なくなり、品質が低下します。表示品質ポリシー設定が [操作時は低品質] または [常に無損失] に設定されており、視覚的無損失の圧縮を使用するポリシーが [有効] に設定されている場合、ビデオコーデックの自動選択は無効になり、代わりに YUV 4:4:4 H.264 または H.265 が使用されます。

これらのポリシーについては、次を参照してください：

- [表示品質](#)
- [視覚的無損失の圧縮を使用する](#)

この機能はデフォルトで有効になっています。

詳しくは、「[ビデオコーデックの自動選択](#)」を参照してください。

H.265 Citrix Workspace アプリは、リモートグラフィックやビデオのハードウェアアクセラレーションで H.265 ビデオコーデックの使用をサポートしています。H.265 ビデオコーデックが VDA と Citrix Workspace アプリの両方でサポートされ、有効になっている必要があります。

Citrix Workspace アプリ 2311.1 以降、ビデオコーデックの自動選択機能の導入により、この機能は自動的に有効になります。

詳しくは、[H.265](#)のドキュメントを参照してください。

AV1 Citrix Workspace アプリは、リモートグラフィックやビデオのハードウェアアクセラレーションで AV1 ビデオコーデックの使用をサポートしています。AVI 1 ビデオコーデックが VDA と Citrix Workspace アプリの両方でサポートされ、有効になっている必要があります。

Citrix Workspace アプリ 2311.1 以降、ビデオコーデックの自動選択機能の導入により、この機能は自動的に有効になります。

詳しくは、[AV1](#)のドキュメントを参照してください。

オーディオの損失耐性モード

このリリースでは、Citrix Workspace アプリはオーディオリダイレクトの損失耐性モード (EDT lossy) をサポートします。この機能により、ユーザーが遅延やパケット損失が大きいネットワーク経由で接続している場合に、リアルタイムストリーミングのユーザーエクスペリエンスが向上します。

VDA バージョン 2311 以降を使用する必要があります。デフォルトでは、この機能は Windows 向け Citrix Workspace アプリで有効になっています。ただし、VDA では無効になっています。

詳しくは、[オーディオの損失耐性モード](#)のドキュメントを参照してください。

セッション開始時に複数のキーボードを同期

以前は、セッションが全画面モードで開始された後、クライアント上のアクティブなキーボードのみが VDA と同期されました。このシナリオでは、Citrix Workspace アプリで [セッション起動時に 1 回だけ同期する] を構成してから、別のキーボードに変更する必要がある場合は、リモートデスクトップにキーボードを手動でインストールする必要があります。同様に、Citrix Workspace アプリで [動的な同期を許可する] を構成した場合は、ウィンドウモードに移行し、クライアントのキーボードを変更してから、全画面モードに戻る必要があります。

このリリースでは、セッションが全画面モードで開始された後、クライアントで使用可能なすべてのキーボードが VDA と同期されます。セッションが全画面モードで開始された後、クライアントにインストールされているキーボードまたは使用可能なキーボードの一覧から必要なキーボードを選択できます。

詳しくは、[セッション開始時に複数のキーボードを同期](#)のドキュメントを参照してください。

BCR のパフォーマンスの向上

以前は、BCR はクライアント側のディスクスペースキャッシュを使用しており、キャッシュされた情報はアップグレード中に削除されませんでした。この設定により、時間の経過とともにディスクスペースの使用量が増加し、BCR を使用してページがリダイレクトされる際の動作に一貫性がなくなります。

このリリースでは、この問題を解決するために、BCR はインメモリキャッシュを使用します。この機能強化は、BCR のパフォーマンスの向上に役立ちます。

この機能はデフォルトでは無効になっています。

詳しくは、「[BCR のパフォーマンスの向上](#)」を参照してください。

Chromium Embedded Framework のバージョンのアップグレード

Chromium Embedded Framework (CEF) のバージョンは 117 にアップグレードされました。このバージョンのアップグレードは、セキュリティの脆弱性の解決に役立ちます。

App Protection ファイルとドライバーの名前に関する重要な更新

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2311.1 以降、次のようにファイル名とドライバー名が更新されます：

既存の名称	新名称
EntryProtect.dll	ctxapdotnet.dll
entryprotect.sys	ctxapdriver.sys
epclient32.dll	ctxapclient32.dll
epclient64.dll	ctxapclient64.dll
epinject.sys	ctxapinject.sys
epusbfilter.sys	ctxapusbfilter.sys
entryprotectdrv	ctxapdriver
epinject6	ctxapinject

これらのファイルはデフォルトで%ProgramFiles(x86)%\Citrix\ICA Clientにインストールされます。

上記のファイル名またはドライバー名のいずれかを環境の許可リストに追加している場合は、許可リストを更新してください。

HDX を使用した Microsoft Teams 最適化の背景のぼかしおよび効果の機能強化

Citrix Workspace アプリバージョン 2311.1 以降では、背景のぼかしと効果について次のオプションを選択できます：

- 背景効果なし
- 背景のぼかしを選択
- 背景画像を選択

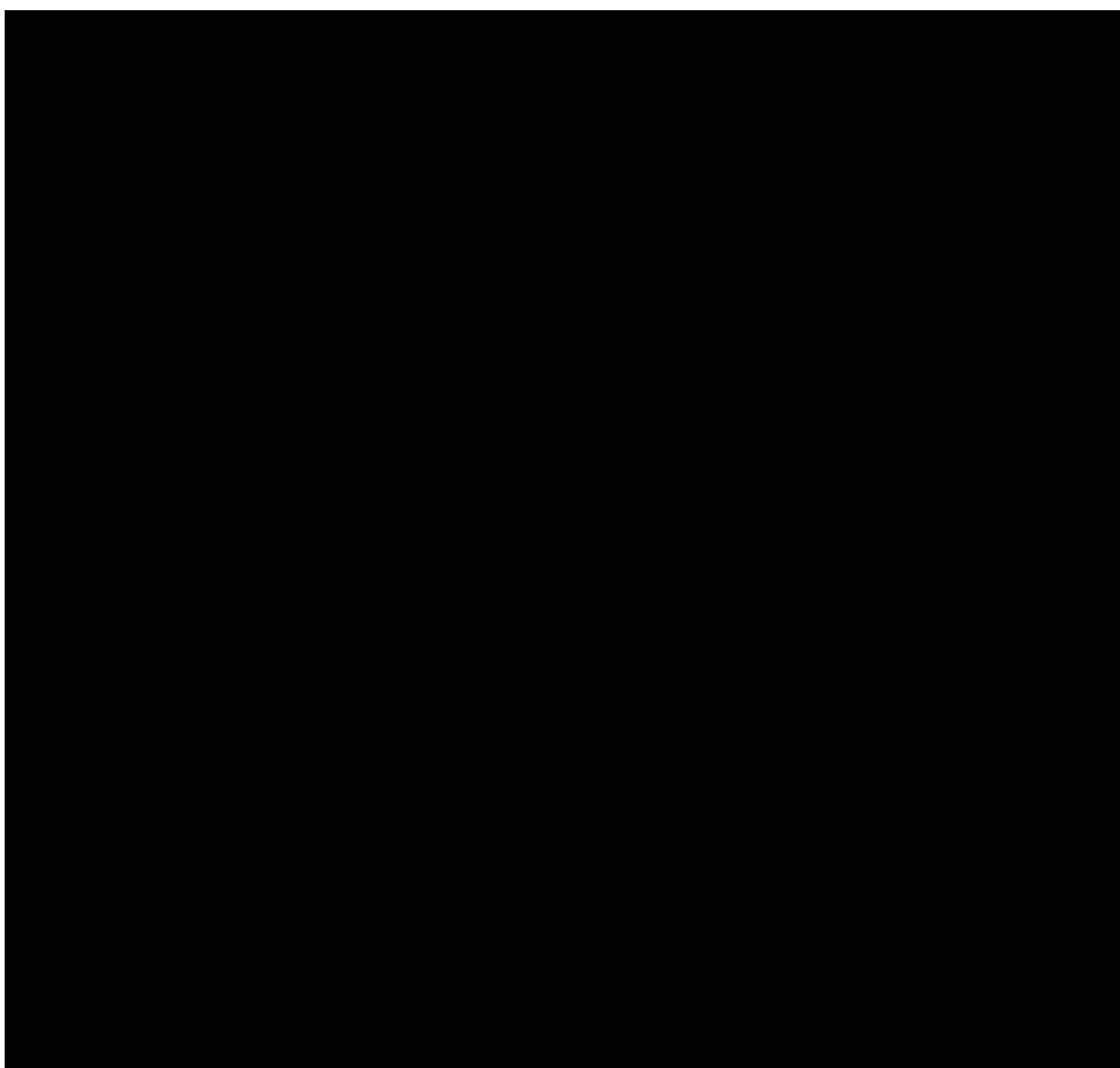
Citrix Enterprise Browser

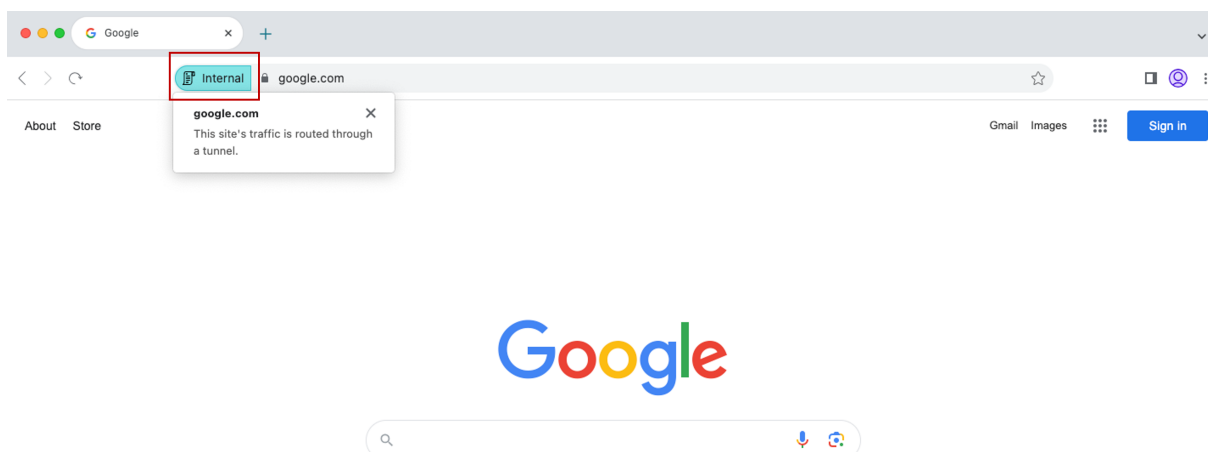
このリリースには、Chromium バージョン 115 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 119.1.1.60 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

Citrix Enterprise Browser が **Global App Configuration Service** に追加の設定を導入 Citrix Enterprise Browser を構成するための追加設定が Global App Configuration Service (GACS) に追加されました。詳しくは、「[GACS を使用した Citrix Enterprise Browser の管理](#)」を参照してください。

Web サイトにアクセスする場合のセキュリティインジケータ

Citrix Enterprise Browser では、ユーザーが Web サイトにアクセスしたときに、アドレスバーにセキュリティインジケータが表示されるようになりました。このインジケータは、内部サイトであるかどうか、潜在的なセキュリティ制限があるかどうかなど、Web サイトのセキュリティ面についてユーザーに通知することを目的としています。インジケータをクリックすると、詳しい情報が表示されます。インジケータはデフォルトで Enterprise Browser に表示され、ユーザーエクスペリエンスが向上します。





ユーザーエクスペリエンスの向上 以前は、セッションの有効期限が切れた後にアクションを実行しようとする、Citrix Enterprise Browser に再接続モーダルが表示されました。Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2311.1 (Chromium バージョン 119.1.1.60 に対応) 以降、再接続モーダルはなくなりました。代わりに、セッションの有効期限が切れた後に何らかのアクションを実行しようとする、ブラウザータブに読み込みアイコンが表示されるようになりました。

ウォーターマークデザインの向上 Citrix Enterprise Browser には、視認性を妨げないような、より優れたユーザーエクスペリエンスを提供する新しいウォーターマークデザインが採用されました。

カスタムブラウザー拡張機能のサポート Citrix Enterprise Browser の拡張機能が拡張されました。以前は、Chrome ウェブストアの拡張機能のみが許可されていました。Citrix Enterprise Browser では、カスタム拡張機能を安全に追加できるようになりました。管理者は、必須リストの一部としてカスタム拡張機能を構成できます。エンドユーザーは、必要に応じて、これらの拡張機能を `citrixbrowser://extensions` 経由で、または **More** ボタンの **Extensions** オプションをクリックして、アクセスして使用できます。カスタム拡張機能の構成方法について詳しくは、「[必須のカスタム拡張機能](#)」を参照してください。

Global App Configuration Service によってシンプルになった **Web** および **SaaS** アプリの **SSO** 以前は、PowerShell モジュールを使用して Citrix Enterprise Browser のシングルサインオン (SSO) が構成されていました。このシンプルになった SSO 機能により、Global App Configuration Service (GACS) に新しく導入された設定を使用して、Citrix Enterprise Browser で SSO を構成できるようになります。管理者は、この新しい設定を使用して、Citrix Enterprise Browser のすべての Web アプリおよび SaaS アプリに対して SSO を有効にすることができます。この方法では、複雑な PowerShell モジュールが必要なくなります。GACS を使用して SSO を管理する方法について詳しくは、「[Global App Configuration Service を使用した Web および SaaS アプリのシングルサインオンの管理](#)」を参照してください。

注:

GACS で Citrix Enterprise Browser の設定を変更する場合は、Citrix Workspace アプリを再起動することをお勧めします。ただし、自動更新が完了するまで待つこともできます。GACS から取得されたポリシーの同期期間について詳しくは、「[更新された設定を取得する頻度](#)」を参照してください。

シンプルになったシングルサインオン機能を **StoreFront** に拡張 シングルサインオン (SSO) 機能が StoreFront で利用できるようになり、統合された SSO エクスペリエンスが保証されます。この新しい機能により、ユーザーは StoreFront 経由でアプリにアクセスするときに個別に認証する必要がなくなります。この SSO 機能を有効にするには、Web アプリと SaaS アプリの両方、および StoreFront に同じ ID プロバイダー (IdP) を使用します。GACS を使用して SSO を管理する方法について詳しくは、「[Global App Configuration Service を使用した Web および SaaS アプリのシングルサインオンの管理](#)」を参照してください。

Citrix Enterprise Browser でのパススルー認証の管理 パススルー認証 (PTA) は、Azure AD Connect の機能です。PTA は、ユーザーの資格情報がクライアントマシンからサーバーに渡される認証方法です。バックエンドで機能するため、ユーザーが目にすることはありません。この方法では、クライアントマシンが認証サーバーと直接通信して、ユーザーの資格情報を検証します。PTA は通常、クライアントマシンと認証サーバーが信頼関係にあり、クライアントマシンが安全であると見なされる場合に使用されます。Microsoft Azure AD パススルー認証について詳しくは、「[Microsoft Entra シームレスシングルサインオン](#)」を参照してください。

パススルー認証を容易にするには、Enterprise Browser 内で Azure AD ベースのアクセスを必要とするアプリケーションと通信するための、Windows アカウント拡張機能が必要です。管理者は、この [Windows アカウント拡張機能](#) を **ExtensionInstallForcelist** の下の必須リストの一部として構成する必要があります。必須の拡張機能の構成について詳しくは、「[必須の拡張機能](#)」を参照してください。

エンドユーザーのアクティビティを監視する機能の強化 以前は、管理者は、アクセスされたアプリやトラフィックの種類などのエンドユーザーアクティビティを監視できませんでした。Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2311.1 以降 (Chromium バージョン 119.1.1.60 に対応) 以降では、これらの詳細も監視できるようになりました。

- アクセスされたアプリ: Enterprise Browser は、アプリがポリシードキュメントに記載されている場合、エンドユーザーがアクセスするすべてのアプリに関する情報を提供します。
- トラフィックの種類: Enterprise Browser は、データが直接送信されるか、Secure Private Access 認証を通じて送信されるかに関する情報を提供します。

Enterprise Browser からエンドユーザーのアクティビティを監視するには、Citrix Cloud アカウントで Citrix Analytics サービスを使用します。Citrix Cloud にサインインした後、**[Analytics]** > **[セキュリティ]** > **[検索]** に移動します。ここでは、**[Self-Service Search]** セクションの **[Apps and Desktops]** を参照できます。Citrix Analytics について詳しくは、「[はじめに](#)」を参照してください。

2309.1

新機能

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンスや安定性が総合的に向上しています。

Citrix Enterprise Browser

このリリースには、Chromium バージョン 117 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 117.1.1.13 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

2309

新機能

注:

今回のリリースから、Microsoft Edge WebView2 ランタイムのバージョンが 117 以降であることを確認してください。最新の機能およびセキュリティ上の修正を適用するために、最新バージョンをインストールすることをお勧めします。

このリリースでは次の機能が追加されています:

- [追加の.NET 前提条件](#)
- [仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上](#)
- [Citrix Workspace アプリのシステムトレイにトラブルシューティングオプションを追加](#)
 - [Citrix Workspace アプリに関するフィードバックを送信する](#)
- [Citrix Workspace アプリでのサステナビリティに関する取り組み](#)
- [コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成](#)
- [Citrix Workspace アプリをクリーンアップしてインストールするコマンド](#)
- [App Protection](#)
 - [ファイル名に関する重要な更新](#)
 - [ポリシーの改ざんの検出](#)
 - [ダブルホップシナリオでの App Protection](#)
- [Citrix Enterprise Browser](#)
 - [Citrix Enterprise Browser での認証](#)

追加の**.NET** 前提条件 Citrix Workspace アプリには、.NET Framework 4.8 に加えて、管理者権限を持つ x86 および x64 システムの両方で x86 バージョンの .NET Desktop Runtime 6.0 が必要です。詳しくは、「[.NET の要件](#)」を参照してください。

仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上

注:

Citrix Workspace アプリのバージョン 2305.1 以降、この機能はクラウドストアで一般提供されており、オンプレミスストアでは 2309 以降で利用できます。

以前は、起動の進行状況を表示するダイアログボックスが、ユーザーにとって直感的なものではありませんでした。通知メッセージが変わらないため、ユーザーの多くは起動プロセスが応答していないものと誤解してダイアログボックスを閉じていました。

改善されたアプリおよびデスクトップの起動エクスペリエンスは、より有益で最新のものであり、Windows 向け Citrix Workspace アプリでユーザーフレンドリーなエクスペリエンスを提供します。この機能により、起動ステータスに関するタイムリーな関連情報にユーザーが関心を持ち続けることができます。

詳細については、「[Virtual Apps and Desktops の起動エクスペリエンスの向上](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリのシステムトレイにトラブルシューティングオプションを追加 トラブルシューティングオプションは、ユーザーエクスペリエンスを向上させ、トラブルシューティングを容易にするために導入されました。画面の右下隅にあるシステムトレイで Citrix Workspace アプリのアイコンを右クリックし、[トラブルシューティング] を選択してアクセスできます。

[トラブルシューティング] で使用できるオプションは次のとおりです:

- フィードバックの送信
- ログの収集
- 構成の確認
- アプリデータのリセット
- ヘルプ

Citrix Workspace アプリに関するフィードバックを送信する [フィードバックの送信] オプションを使用すると、Citrix Workspace アプリの使用中に問題が発生した場合に Citrix に通知できます。Citrix Workspace アプリのエクスペリエンスを改善するためのご提案を送信いただくこともできます。

詳しくは、「[Citrix Workspace アプリのシステムトレイにトラブルシューティングオプションを追加](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリでのサステナビリティに関する取り組み この機能が有効になっていると、ユーザーが仮想デスクトップを閉じるときに、デスクトップセッションからのサインアウトを求めるプロンプトが表示されます。

ユーザーがログインしていないときに仮想マシンをシャットダウンするために使用される Windows OS ポリシーがある場合、この機能は電力の節約に役立つ可能性があります。

詳しくは、「[Citrix Workspace アプリでのサステナビリティに関する取り組み](#)」を参照してください。

コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成するコマンド 以前は、GUI を使用するか構成ファイルを更新することによってのみ、キーボードレイアウトの同期を構成できました。このリリースでは、コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成するための、新しいコマンドが導入されました。

詳しくは、「[コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリをクリーンアップしてインストールするコマンド `/CleanInstall` コマンドを使用して、以前のアンインストールで残ったファイルやレジストリ値などのトレースをクリーンアップし、新しいバージョンの Citrix Workspace アプリを新たにインストールします。

例:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe /CleanInstall
2 <!--NeedCopy-->
```

最適化された **Microsoft Teams** の更新

EOL 予定の **Microsoft Teams** シングルウィンドウ 2024 年 1 月 31 日、Microsoft は VDI で Microsoft Teams 最適化を使用した場合のシングルウィンドウ UI に対するサポートを終了し、マルチウィンドウ エクスペリエンスのみをサポートします。特定の最適化された Microsoft Teams 機能を引き続き使用するには、マルチウィンドウ機能をサポートするバージョンの Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix Workspace アプリを使用する必要があります。詳しくは、「[EOL 予定の Microsoft Teams シングルウィンドウ](#)」を参照してください。

WebRTC による **SDP** 形式 (**Plan B**) の廃止に関する情報 Citrix は、将来のリリースで WebRTC による現在の SDP 形式 (Plan B) のサポートを廃止する予定です。特定の最適化された Microsoft Teams 機能を引き続き使用するには、Unified Plan をサポートするバージョンの Citrix Workspace アプリを使用する必要があります。詳しくは、「[WebRTC による SDP 形式 \(Plan B\) の廃止に関する情報](#)」を参照してください。

App Protection

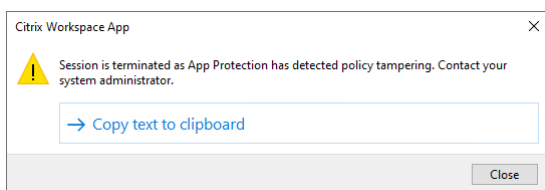
ファイル名に関する重要な更新 Windows 向け Citrix Workspace アプリの将来のリリースでは、次のファイル名が更新される予定です:

既存のファイル名	新しいファイル名
EntryProtect.dll	ctxapdotnet.dll
entryprotect.sys	ctxapdriver.sys
epclient32.dll	ctxapclient32.dll
epclient64.dll	ctxapclient64.dll
epinject.sys	ctxapinject.sys
epusbfilter.sys	ctxapusbfilter.sys
entryprotectdrv	ctxapdriver
epinject6	ctxapinject

これらのファイルはデフォルトで%ProgramFiles(x86)%\Citrix\ICA Clientにインストールされます。

上記のファイル名のいずれかを環境の許可リストに追加している場合は、許可リストを更新してください。

ポリシーの改ざんの検出 ポリシーの改ざん検出機能は、App Protection のスクリーンキャプチャ対策ポリシーとキーロガー対策ポリシーが改ざんされている場合、ユーザーが仮想アプリまたはデスクトップセッションにアクセスできないようにします。ポリシーの改ざんが検出された場合、仮想アプリまたはデスクトップセッションは次のエラーメッセージが表示されて終了します:



注:

この機能は、Citrix Virtual Apps and Desktops の今後のバージョンのリリース後にのみ利用可能になります。

ポリシーの改ざんの検出機能について詳しくは、「[ポリシーの改ざんの検出](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリを使用した **VDA** の完全なデスクトップ共有機能 以前は、App Protection が有効になっていると、画面のキャプチャが許可されないため、最適化された Microsoft Teams のデスクトップ共有が無効になりました。

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2309 バージョン以降では、App Protection が有効になっている場合でも、最適化された Microsoft Teams のデスクトップ共有が有効になります。

詳しくは、「[Microsoft Teams の HDX 最適化との互換性](#)」を参照してください。

ダブルホップシナリオでの App Protection App Protection 機能は、ダブルホップシナリオではサポートされません。ダブルホップとは、Citrix Virtual Desktops セッション内で実行される Citrix Virtual Apps または Virtual Desktops セッションを意味します。ダブルホップシナリオでは、App Protection ポリシーが有効になっている仮想アプリとデスクトップを起動できました。ただし、App Protection 機能は適用されませんでした。

今回、Windows グループポリシーが導入され、ダブルホップシナリオで App Protection ポリシーが有効になっている仮想アプリやデスクトップを開くことを禁止できるようになりました。[ダブルホップ起動をブロックする] 設定を有効にする方法について詳しくは、「[ダブルホップ起動をブロックする設定を有効にする](#)」を参照してください。

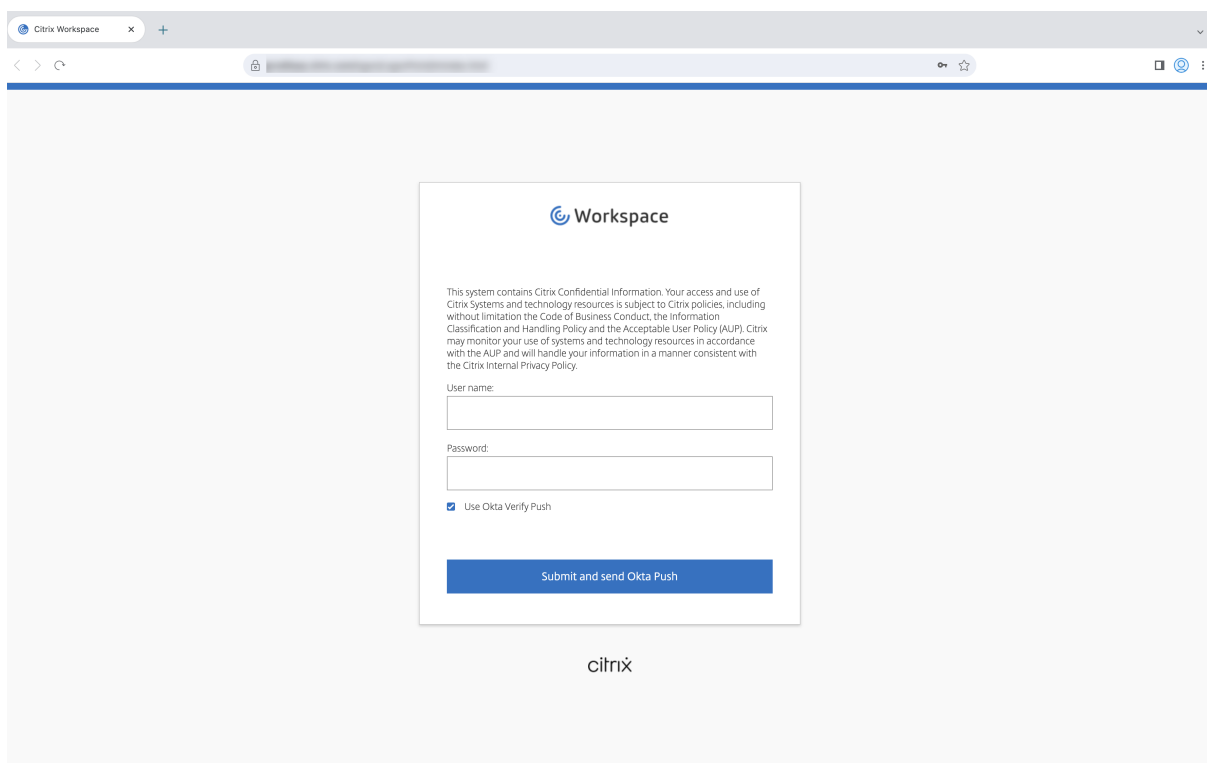
Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 117 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 117.1.1.9 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

Citrix Enterprise Browser での認証 以前は、Citrix Workspace アプリの認証トークンの有効期限が切れると、Enterprise Browser を使用できませんでした。Enterprise Browser を引き続き使用するには、Citrix Workspace アプリに切り替えて再認証する必要がありました。

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2309 バージョン（Chromium バージョン 117.1.1.9 に対応）以降、ストアが同じである場合にのみ、Enterprise Browser 内で認証できるようになりました。Citrix Workspace アプリへの認証も保証されます。さらに、この機能はシームレスなログインエクスペリエンスを提供することになります。

注:

- この機能はワークスペースストアに適用されます。



2307.1

新機能

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンスや安定性が総合的に向上しています。

2307

新機能

最適化された **Microsoft Teams** で短いトーンを再生するサポートを追加。以前は、セカンダリ呼び出し機能が有効になっていると、ピープ音や通知などの短いトーンが繰り返し再生されていました。たとえば、ゲストが Microsoft Teams 会議に参加するときのトーンが繰り返し再生されました。これを回避する唯一の方法は、Microsoft Teams を終了して再起動することでした。この問題により、エンドユーザーエクスペリエンスが低下していました。

このリリースでは、Citrix Workspace アプリが必要に応じた短いトーンの再生をサポートします。このサポートでは、セカンダリ呼び出し機能も有効にすることができます。

前提条件：

Microsoft Teams を最新バージョンに更新してください。

注:

上記の機能は、Microsoft Teams からの対応する更新のロールアウト後のみ使用できます。[CTX253754](#)のドキュメントの更新と発表を確認してください。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 112 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 112.1.1.24 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

Citrix Enterprise Browser のショートカット Windows 向け Citrix Workspace アプリのバージョン 2307 から、管理者は [スタート] メニュー上での Citrix Enterprise Browser のショートカットのプレゼンスを構成および制御できるようになりました。

注:

デフォルトでは、この設定はワークスペースストアに対して有効になっています。

構成 IT 管理者は、次のいずれかの方法で Citrix Enterprise Browser のショートカットのプレゼンスを構成できます:

- グループポリシーオブジェクト (GPO)
- Global Admin Configuration Service (GACS)
- web.config.file。

メモ:

- どの方法で構成しても、優先順位に変わりはありません。つまり、これらのいずれかを構成すれば、ショートカットが有効になります。
- ショートカットを構成していない場合でも、1 つ以上のワークスペースストアがあるときは、ショートカットが自動的に有効になります。
- エンドユーザーの場合、Citrix Enterprise Browser をお気に入りのアプリにすると、そのショートカットが構成に関係なく表示されます。
- ワークスペースストアに対してこの機能を無効にするには、管理者は次のいずれかで設定を適用する必要があります。
 - set the **CEBShortcutEnabled** attribute to **false** in the **web.config** file.
 - disable the **Enable Citrix Enterprise Browser shortcut** property in GPO and GACS.

グループポリシーオブジェクトの使用

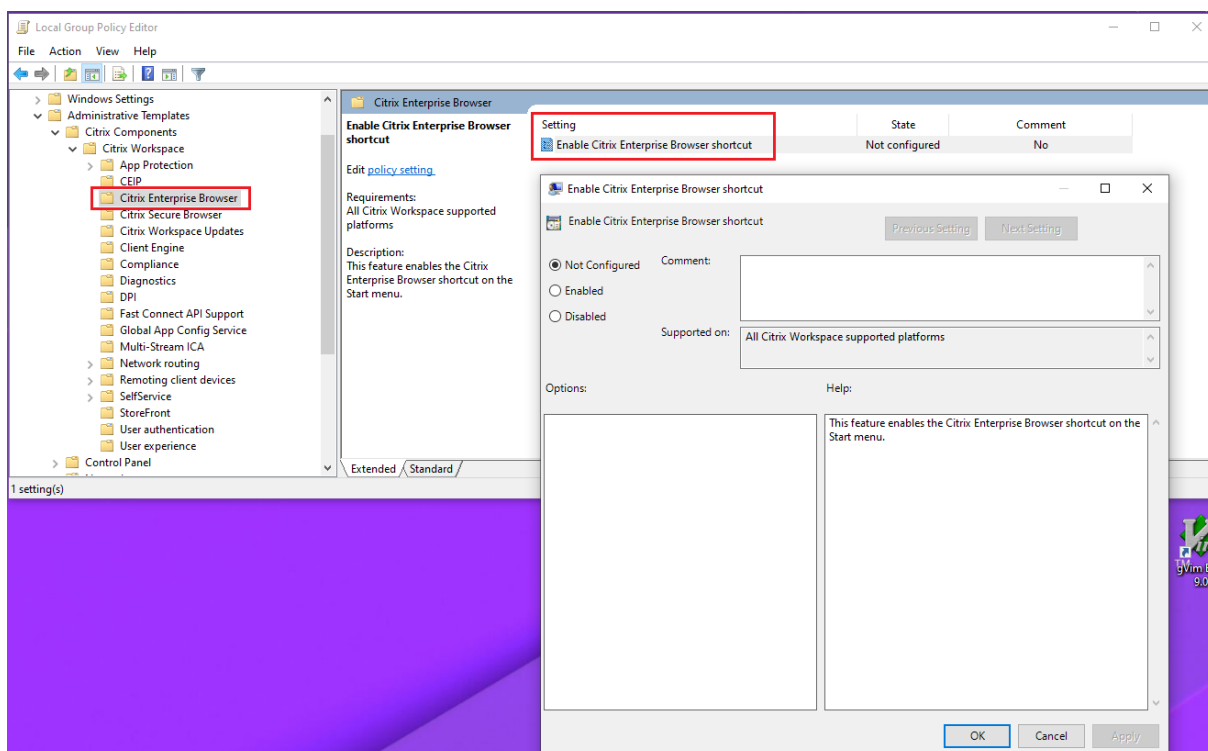
管理者は、[**Citrix Enterprise Browser** ショートカットを有効にする] プロパティを使用して、[スタート] メニュー上の Citrix Enterprise Browser ショートカットの表示を制御できます。

注:

GPO を介した構成は、Workspace と StoreFront に適用できます。

Citrix Enterprise Browser のショートカットを有効にするには、次の手順を実行します。

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [Citrix Enterprise Browser] . の順に移動します。
3. [Citrix Enterprise Browser を有効にする] ショートカットオプションを選択します。



GPO の使用方法の詳細については、「[グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート](#)」ページを参照してください。

Global Admin Configuration Service (GACS)

[ワークスペース構成] > [アプリ構成] > [Citrix Enterprise Browser] に移動し、[Citrix Enterprise Browser のショートカットを有効にする] を有効にします。

GACS の UI の使用方法について詳しくは、Citrix Enterprise Browser ドキュメントに記載されている「[ユーザーインターフェイス](#)」の記事を参照してください。

注:

この構成方法は、Workspace と StoreFront に適用できます。

web.config ファイル:

[プロパティ] にある属性 **CEBShortcutEnabled** を有効にします。

```
1 <properties>
2
3     <property name="CEBShortcutEnabled" value="True" />
4
5 </properties>
6 <!--NeedCopy-->
```

注:

web.config を介した構成は、StoreFront に適用できます。

web.config ファイルの使用:

Citrix Enterprise Browser のショートカットを有効にするには、次の手順を実行します。

1. テキストエディターを使って **web.config** ファイルを開きます。このファイルは通常、**C:\inetpub\wwwroot\Citrix\Roaming directory** にあります。
2. このファイルで、ユーザーアカウント要素の場所を見つけます（「Store」は使用環境のアカウント名です）。
例: `<account id=... name="Store">`
3. `</account>` タグの前にあるユーザーアカウントのプロパティに移動し、次の内容を追加します:

```
1 <properties>
2
3     <property name="CEBShortcutEnabled" value="True" />
4
5 </properties>
6 <!--NeedCopy-->
```

以下は **web.config** ファイルの例です:

```
1 <account>
2
3     <clear />
4
5     <account id="d1197d2c-ac82-4f13-9346-2ee14d4b0202" name="
6         F84Store"
7         description="" published="true" updaterType="Citrix"
8         remoteAccessType="None">
9         <annotatedServices>
10            <clear />
11            <annotatedServiceRecord serviceRef="1__Citrix_F84Store">
12                <metadata>
13                    <plugins>
14                        <clear />
15                    </plugins>
16                <trustSettings>
```

```
16         <clear />
17     </trustSettings>
18     <properties>
19         <property name="CEBShortcutEnabled" value="True
20             " />
21     </properties>
22 </annotatedServiceRecord>
23 </annotatedServices>
24 <metadata>
25     <plugins>
26         <clear />
27     </plugins>
28     <trustSettings>
29         <clear />
30     </trustSettings>
31     <properties>
32         <clear />
33     </properties>
34 </metadata>
35 </account>
36
37 <!--NeedCopy-->
```

2305.1

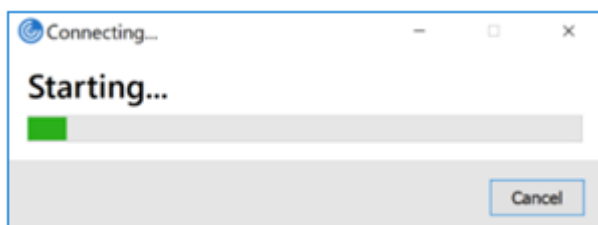
新機能

仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上

注:

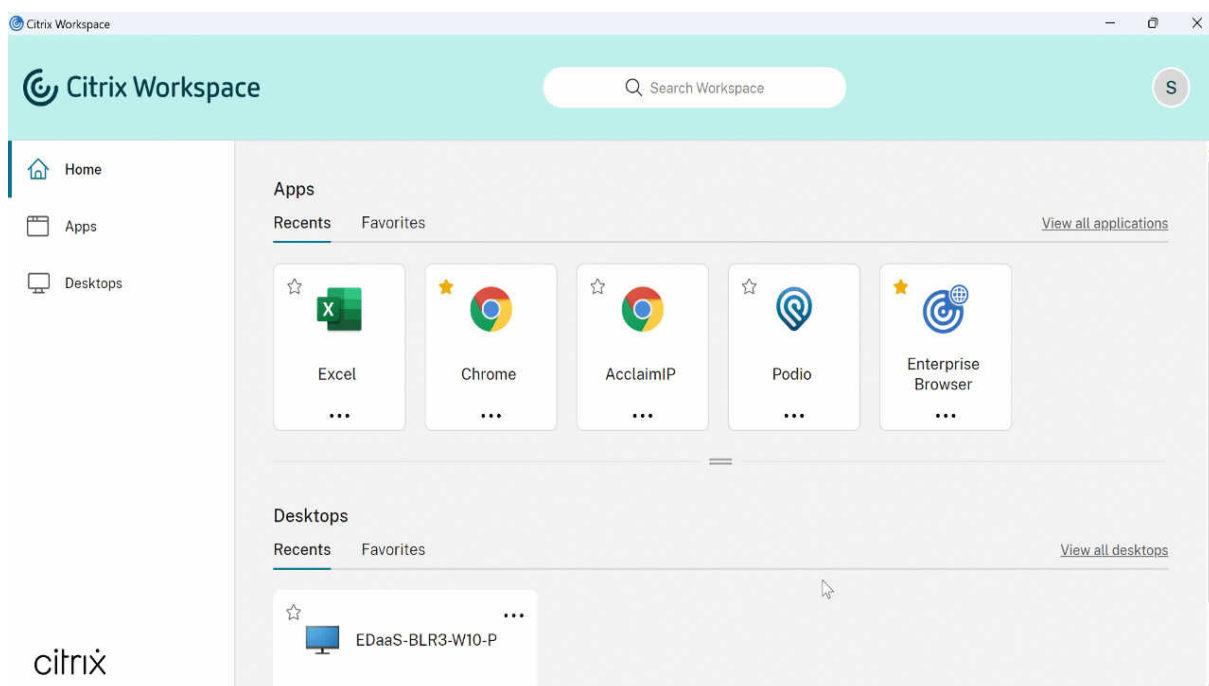
この機能はクラウドストアで一般提供されており、オンプレミスストアでは Technical Preview 段階にあります。

以前は、起動の進行状況を表示するダイアログボックスが、ユーザーにとって直感的なものではありませんでした。通知メッセージが変わらないため、ユーザーの多くは起動プロセスが応答していないものと誤解してダイアログボックスを閉じていました。



改善されたアプリおよびデスクトップの起動エクスペリエンスは、より有益で最新のものであり、Windows 向け Citrix Workspace アプリでユーザーフレンドリーなエクスペリエンスを提供します。この機能により、起動ステー

タスに関するタイムリーな関連情報にユーザーが関心を持ち続けることができます。画面の右下隅に通知が表示されます。



ユーザーには、読み込み中アイコンだけでなく、起動の進行状況に関する重要な通知が表示されます。起動中にユーザーが Web ブラウザーを閉じようとする、警告メッセージが表示されます。

Windows 2305.1 向け Citrix Workspace アプリより、この機能はクラウドセッションでデフォルトで有効になります。

StoreFront（オンプレミス）セッションのレジストリキーを使用して、この機能を有効にできます。詳細については、「[Virtual Apps and Desktops の起動エクスペリエンスの向上](#)」を参照してください。

Storebrowse コマンドのステータスの追跡 Storebrowse コマンドの実行ステータスをファイルで追跡できます。成功ステータスを追跡するには、`-f launch` コマンドで一意的なファイル名を指定します。このコマンドは、指定した名前のファイルを生成します。失敗ステータスは、自動的に作成される `ica.error` ファイルに存在します。

注:

`-f launch` コマンドでファイル名に必ず `.ica` 拡張子を追加してください。そうしない場合、ファイルは生成されません。

成功と失敗の両方を追跡するファイルは `%LOCALAPPDATA%\citrix\selfservice\cache` にあり、必要に応じてこれらのファイルを監視できます。

この拡張機能は、デフォルトで有効になっています。

以下は、`-f` オプションで起動コマンドを使用する例です:

```
1 -launch -f <uniqueFileName.ica> "launchcommandline"  
2 For example:  
3 SelfService.exe storebrowse -launch -f uniqueFileName.ica -s store0-5  
   c3ec017 -CitrixID store0-5c3ec017@@a9a8e3ac-099d-4577-b84e-  
   e33d0695df39.Notepad -ica "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/  
   Citrix/Store/resources/v2/  
   YTLh0GUzYWMtMDk5ZC00NTc3LWI4NGUtZTMzZDA2OTVkJZjM5Lk5vdGVwYWQ-/launch/  
   ica" -cmdline  
4  
5 <!--NeedCopy-->
```

StoreFront ストアの先進認証方法のサポート Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2305.1 は、StoreFront ストアで先進認証方法をサポートしています。次のいずれかの方法を使用して、Citrix StoreFront ストアを認証できます：

- Windows Hello と FIDO2 セキュリティキーの使用。詳しくは、「[その他の認証方法](#)」を参照してください。
- ID プロバイダーとして Azure Active Directory (AAD) を使用し AAD 参加済みのマシンから Citrix StoreFront ストアにシングルサインオン (SSO)。詳しくは、「[その他の認証方法](#)」を参照してください。
- Workspace 管理者は、Citrix StoreFront ストアへの認証を行うユーザーに対して Azure Active Directory の条件付きアクセスポリシーを構成および適用できます。詳しくは、「[Azure AD を使用した条件付きアクセスのサポート](#)」を参照してください。

この機能を有効にするには、Microsoft Edge WebView2 を StoreFront およびゲートウェイによる直接認証の基盤となるブラウザとして使用する必要があります。

注：

Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 102 以降を使用してください。

Global App Config Service およびグループポリシーオブジェクト (GPO) テンプレートを使用して、StoreFront ストアの先進認証方法を有効にすることができます。詳しくは、「[StoreFront ストアの先進認証方法のサポート](#)」セクションを参照してください。

Azure Active Directory で 200 を超えるグループをサポート このリリースでは、200 を超えるグループに属している Azure Active Directory ユーザーは、そのユーザーに割り当てられているアプリとデスクトップを表示できるようになります。以前は、同じユーザーがこれらのアプリとデスクトップを表示することはできませんでした。

注：

この機能を有効にするには、ユーザーは Citrix Workspace アプリからサインアウトし、再度サインインする必要があります。

App Protection

キーロガー対策の強化 この機能強化により、次の基準のいずれかが満たされる場合、認証画面と Self-service Plug-in (SSP) 画面でキーロガー対策が有効になります：

- 次のいずれかを使用して App Protection を有効にしました：
 - インストール中に **[App Protection を開始する]** チェックボックスをオンにする。
 - `startappprotection` コマンドラインパラメーターのを使用して App Protection コンポーネントを開始します。
- インストール中に **[App Protection を開始する]** チェックボックスをオンにしていない場合、または `startappprotection` コマンドラインパラメーターを使用していない場合は、最初の保護されたリソースを起動した後にキーロガー対策保護が有効になります。

注：

Global App Configuration Service (GACS) とグループポリシーオブジェクト (GPO) の設定は、直前の動作を上書きします。たとえば、これらの画面に対して GACS または GPO ポリシーを無効にしている場合、認証画面と SSP 画面ではキーロガー対策が有効になりません。

ファイル名に関する重要な更新 Windows 向け Citrix Workspace アプリの将来のリリースでは、次のファイル名が更新される予定です：

- EntryProtect.dll
- entryprotect.sys
- epclient32.dll
- epclient64.dll
- epinject.sys
- epushfilter.sys
- entryprotectdrv
- epinject6

これらのファイルは `%ProgramFiles(x86)%\Citrix\ICA Client\` にインストールされています。

これらのファイル名のいずれかを環境の許可リストに追加している場合は、新しいファイル名が発表されたときに許可リストを更新してください。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 105 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 105.1.1.27 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

ブラウザー拡張機能のサポート 管理者から提供された拡張機能を、セキュアに Citrix Enterprise Browser に追加できます。管理者は拡張機能を展開、管理、および制御できます。エンドユーザーは、必要に応じ

で `citrixbrowser://extensions` の下にある拡張子を表示して使用できます。設定について詳しくは、「[Global App Configuration Service](#)」を参照してください。

構成方法について詳しくは、「[ブラウザ拡張機能のサポート](#)」を参照してください。

内部 **Web** アプリおよび **SaaS** アプリでの **SPA** ポリシー実装の変更 この機能により、Web および SaaS アプリでのセキュリティポリシーの実装が強化されます。Web ページのポリシーと Web ページ内の I フレームのポリシーが異なる場合は、より厳密なポリシー実装を行うようになり、すべてのポリシーを結合して I フレームを含む Web ページ全体で適用されることとなります。ただし、ウォーターマークは Web ページにのみ適用されます。

Global App Configuration Service を使用した **Citrix Enterprise Browser** の管理 管理者は、Citrix Workspace 用の Global App Configuration Service (GACS) を使用して、一元管理されたサービスによって Citrix Enterprise Browser の設定を配信できます。

Global App Configuration Service は、管理者が簡単に Citrix Workspace を構成し、Citrix Workspace アプリの設定を管理できるように設計されています。この機能により、管理者は Global App Configuration Service を使用して、特定のストアの Citrix Enterprise Browser にさまざまな設定またはシステムポリシーを適用できます。管理者は、GACS 管理者 UI を使用して、次の Citrix Enterprise Browser 設定を構成および管理できるようになりました:

- 「Enable CEB for all apps」 - Citrix Workspace アプリから Web アプリおよび SaaS アプリを開くデフォルトのブラウザとして、Citrix Enterprise Browser を使用します。
- 「Enable save passwords」 - エンドユーザーがパスワードを保存する機能を許可または拒否します。
- 「Enable incognito mode」 - シークレットモードを有効または無効にします。
- 「Managed Bookmarks」 - 管理者がブックマークを Citrix Enterprise Browser にプッシュできるようにします。
- 「Enable developer tools」 - Enterprise Browser で開発者ツールを有効または無効にします。
- 「Delete browsing data on exit」 - 管理者が Citrix Enterprise Browser の終了時に削除されるデータを構成できるようにします。
- 「Extension Install Force list」 - 管理者が Citrix Enterprise Browser で拡張機能をインストールできるようにします。
- 「Extension Install Allow list」 - ユーザーが Citrix Enterprise Browser に追加できる拡張機能の許可リストを管理者が構成できるようにします。この一覧は Chrome Web ストアを使用しています。

詳しくは、「[Global App Configuration Service を使用した Citrix Enterprise Browser の管理](#)」を参照してください。

メモ:

- 名前と値のペアでは大文字と小文字が区別されます。
- [Global App Configuration Service](#) のすべてのブラウザ設定は、次のカテゴリにあります:

```
1 {
2
3     "category": "browser",
4     "userOverride": false,
5     "assignedTo": [
6         "AllUsersNoAuthentication"
7     ]
8 }
9
10
11 <!--NeedCopy-->
```

- 管理者は、管理されていないデバイスにも設定を適用できます。詳しくは、[Global App Configuration Service](#)のドキュメントを参照してください。

ユーザーインターフェイス

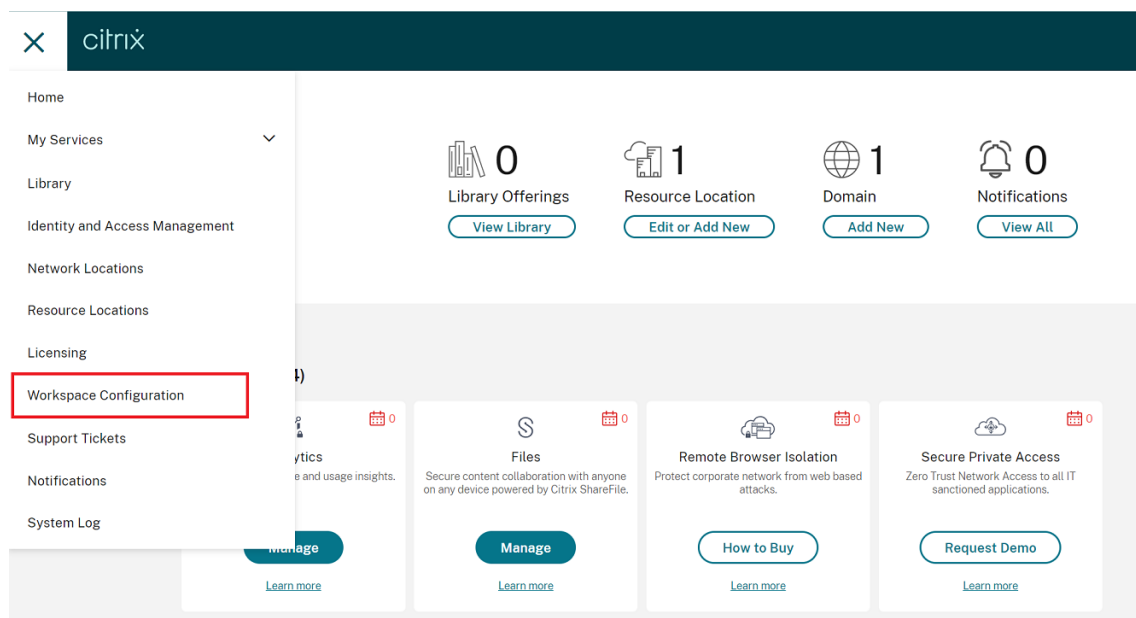
GACS 管理 UI で Citrix Enterprise Browser を構成するには、次の手順を実行します：

1. 資格情報を使用してcitrix.cloud.comにサインインします。

注：

Citrix Cloud アカウントを作成するための手順については、「[Citrix Cloud へのサインアップ](#)」の記事を参照してください。

2. 認証後、左上隅のメニューボタンをクリックし、[ワークスペース構成] を選択します。



[ワークスペース構成] 画面が開きます。

3. [アプリ構成] > [**Citrix Enterprise Browser**] の順にクリックします。

Citrix Enterprise Browser の機能設定を構成、変更、公開できるようになりました。

詳しくは、「[Global App Configuration Service を使用した Citrix Enterprise Browser の管理](#)」を参照してください。

2303

新機能

ブラウザーコンテンツリダイレクトオーバーレイのブラウザーの一時データストレージパスを構成する Citrix Workspace アプリ 2303 バージョン以降では、Chromium Embedded Framework (CEF) ベースのブラウザーの一時データストレージパスを構成するように求められます。

詳しくは、「[ブラウザーコンテンツリダイレクトオーバーレイのブラウザーの一時データストレージパスを構成する](#)」を参照してください。

StoreFront ストアの先進認証方法のサポート Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2303 は、StoreFront ストアで先進認証方法をサポートしています。次のいずれかの方法を使用して、Citrix StoreFront ストアを認証できます：

- Windows Hello と FIDO2 セキュリティキーの使用。詳しくは、「[その他の認証方法](#)」を参照してください。
- ID プロバイダーとして Azure Active Directory (AAD) を使用し AAD 参加済みのマシンから Citrix StoreFront ストアにシングルサインオン (SSO)。詳しくは、「[その他の認証方法](#)」を参照してください。
- Workspace 管理者は、Citrix StoreFront ストアへの認証を行うユーザーに対して Azure Active Directory の条件付きアクセスポリシーを構成および適用できます。詳しくは、「[Azure AD を使用した条件付きアクセスのサポート](#)」を参照してください。

この機能を有効にするには、Microsoft Edge WebView2 を StoreFront およびゲートウェイによる直接認証の基盤となるブラウザーとして使用する必要があります。

注：

Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 102 以降を使用してください。

GPO テンプレートを使用して、StoreFront ストアの先進認証方法を有効にすることができます。詳しくは、「[StoreFront ストアの先進認証方法のサポート](#)」セクションを参照してください。

最適化された Microsoft Teams ビデオ会議通話のエクスペリエンスの向上 このリリース以降、最適化された Microsoft Teams ビデオ会議通話に対して、デフォルトでサイマルキャストサポートが有効になっています。このサポートにより、すべての発信者に最適な通話エクスペリエンスを提供できる適切な解像度に適応するため、さまざまなエンドポイントでのビデオ会議通話の品質とエクスペリエンスが向上します。

この向上したエクスペリエンスにより、各ユーザーは、エンドポイントの機能、ネットワークの状態などのいくつかの要因に応じて、複数のビデオストリームを異なる解像度（720p、360p など）で配信できます。受信側のエンドポイントは、最高品質の解像度を要求します。これにより、すべてのユーザーに最適なビデオ体験を提供できます。

注:

この機能は、Microsoft Teams からの更新のロールアウト後にのみ使用できます。ETA については、<https://www.microsoft.com/>にアクセスして、Microsoft 365 ロードマップを検索してください。Microsoft によって更新プログラムがロールアウトされたら、ドキュメントのアップデートおよび発表内容について、[CTX253754](#)を確認することができます。

App Protection の強化: DLL インジェクション対策 App Protection の一環として、Citrix Workspace アプリを特定の不正なダイナミックリンクライブラリ (DLL) または信頼されていないモジュールから保護するためのセキュリティ強化が行われました。こうした信頼できないモジュールがインジェクトされた場合、Citrix Workspace アプリはこれらの介入を検出し、そのモジュールの読み込みを停止します。

DLL インジェクション対策は、次のコンポーネントで有効にすることができます:

- Citrix Auth Manager
- Citrix Workspace アプリの UI
- Citrix Virtual Apps and Desktops

詳しくは、「[App Protection](#)」のドキュメントを参照してください。

免責事項:

この機能はオペレーティングシステムの必須機能へのアクセス (DLL の読み込みが必要な特定の API 呼び出し) をフィルタリングすることで機能します。これにより、この機能は、目的別に構築された特定のカスタムのハッカーツールからも保護できます。ただし、オペレーティングシステムの進化とともに、DLL の読み込みにも新しい方法が出てきます。引き続きこうした方法に対応していきますが、特定の構成や展開では完全な保護を保証することはできません。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 109 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 109.1.1.29 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

StoreFront の Secure Private Access のサポート 管理者は、Secure Private Access ソリューションを使用して、StoreFront で Web アプリおよび SaaS アプリを構成できるようになりました。管理者がアプリを構成すると、エンドユーザーは、セキュリティが強化された Citrix Enterprise Browser を使用して Web および SaaS アプリを開くことができます。

詳しくは、Citrix Secure Private Access ドキュメントの「[オンプレミスの Secure Private Access](#)」を参照してください。

2302

新機能

仮想アプリとデスクトップの再接続エクスペリエンスの向上 このリリースでは、切断された仮想アプリやデスクトップに再接続する際のユーザー エクスペリエンスが強化されています。

Citrix Workspace アプリが、切断された Citrix Workspace アプリを更新するか、ワークスペースコントロール機能の一部として新しい仮想アプリまたはデスクトップを開始しようとする、次のプロンプトが表示されます：

Restore session?

You have one or more apps/desktops running from the previous session in Citrix Workspace app. Would you like to restore them?

Remember my preference



このプロンプトは、Global App Configuration Service で **show reconnection prompt to reconnect sessions** が true に設定されている場合にのみ表示されます。

[復元] をクリックして再接続し、切断された新しい仮想アプリとデスクトップを開きます。新しく選択したアプリとデスクトップのみを起動する場合は、[キャンセル] をクリックします。

また、[基本設定を記憶する] を選択して、選択した設定を次のログインに適用することもできます。

上記の新しい [セッションを復元しますか] メッセージは次の場合にのみ表示されます：

- ユーザーがワークスペースストアに属するアプリを起動しようとする、
- ワークスペースコントロール機能が管理ポリシーまたはアプリ構成設定で構成されていない、
- ワークスペースコントロールの再接続オプションが、クライアントでデフォルトに設定されている。

注：

[再接続オプション] の再接続設定は、ダイアログボックスで設定されたものよりも優先されます。詳しくは、「[\[高度な設定\] ダイアログを使用した再接続オプションの構成](#)」を参照してください。

Zoom プラグインのクライアントアプリ管理 クライアントアプリ管理機能を使用して Zoom プラグインを管理できるようになりました。

詳しくは、「[Zoom プラグインのクライアントアプリ管理](#)」を参照してください。

最適化された **Microsoft Teams** のオーディオ デバイス選択動作の更新 このリリース以降、エンドポイントのサウンド設定でデフォルトのオーディオデバイスを変更すると、Citrix VDI の最適化された Microsoft Teams は、エンドポイントのデフォルトに一致するように現在のオーディオデバイスの選択を変更します。

ただし、Microsoft Teams で明示的にデバイスを選択すると、その選択が優先され、エンドポイントのデフォルト値には従いません。Microsoft Teams のキャッシュをクリアするまで、選択内容は保持されます。

App Protection の機能強化 このリリース以降、Windows 向け Citrix Workspace アプリでは、Global App Configuration を使用して認証および Self-service Plug-in の App Protection を構成できます。以前は、グループポリシーオブジェクトを使用してのみこれらのコンポーネントを構成できました。

Global App Configuration Service を使用してキーロガー対策と画面キャプチャ対策機能を有効にすると、認証と Self-service Plug-in の両方に適用できます。

注:

Global App Configuration Service の構成は、仮想アプリ、仮想デスクトップ、Web アプリ、および SaaS アプリには適用されません。これらのリソースは、引き続き Delivery Controller および Citrix Secure Private Access を使用して制御されます。詳しくは、App Protection のドキュメントの「[構成](#)」セクションを参照してください。

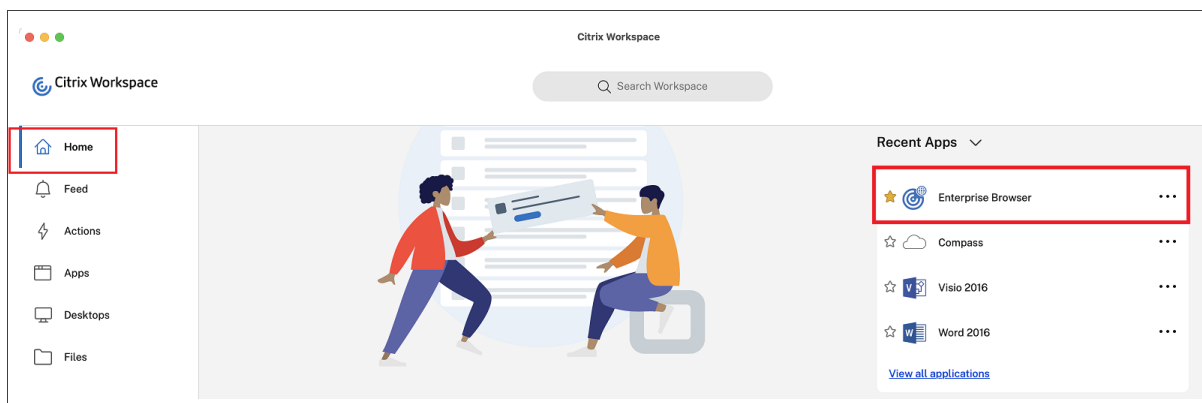
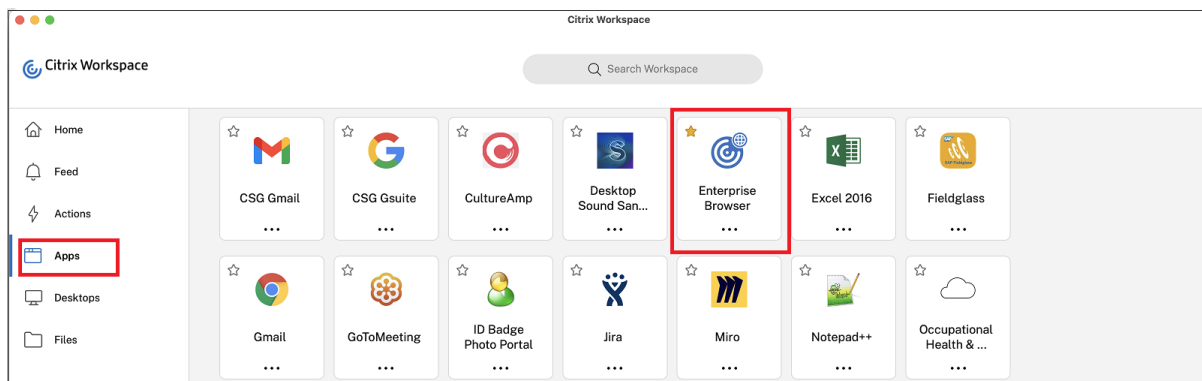
詳しくは、「[App Protection の機能強化](#)」を参照してください。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 108 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 108.1.1.97 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

すべての **Web** アプリおよび **SaaS** アプリを **Citrix Enterprise Browser** で開く (Windows 向け Citrix Workspace アプリの) Enterprise Browser のこのリリース以降、Citrix Workspace アプリで使用できるすべての内部 Web アプリと外部 SaaS アプリは Citrix Enterprise Browser で開きます。

Citrix Workspace アプリ内から **Citrix Enterprise Browser** を起動するオプション 以前は、Web アプリまたは SaaS アプリを開いた後に、Citrix Workspace アプリから Citrix Enterprise Browser を開くことができました。

このリリース以降、Web アプリまたは SaaS アプリを開かなくても、Citrix Workspace アプリから直接 Citrix Enterprise Browser を開くことができます。この機能により、Citrix Enterprise Browser に簡単にアクセスでき、管理者による構成は必要ありません。この機能はデフォルトで利用可能です。



注:

エンドユーザーは、Secure Private Access を介して、少なくとも 1 つの Web アプリまたは SaaS アプリに対する使用権を持っている必要があります。

2212

新機能

注:

今回のリリースから、Microsoft Edge WebView2 ランタイムのバージョンが 102 以降であることを確認してください。詳しくは、「[システム要件と互換性](#)」を参照してください。

クライアントアプリ管理 Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2212 で、クライアントアプリ管理機能が提供されるようになりました。ここでは、Citrix Workspace アプリが、Secure Access Agent や EPA (End Point Analysis: エンドポイント解析) プラグインなどのエージェントをインストールおよび管理するためにエンドポイントに必要な単一のクライアントアプリになります。

この機能により、管理者は必要なエージェントを 1 つの管理コンソールから簡単に展開および管理できます。

詳しくは、「[クライアントアプリ管理](#)」を参照してください。

バージョン自動更新の制御 管理者は、組織内のデバイスのバージョン自動更新を管理できるようになりました。

管理者は、Global App Config Service の `maximumAllowedVersion` プロパティでバージョンを設定することにより、バージョンを制御できます。

Global App Config Service の JSON ファイルの例:

```
1 {
2
3   "category": "AutoUpdate",
4   "userOverride": false,
5   "assignedTo": [
6     "AllUsersNoAuthentication"
7   ],
8   "settings": [
9     {
10
11       "name": "Auto Update plugins settings",
12       "value": [
13         {
14
15           "pluginSettings": {
16
17             "upgradeToLatest": false,
18             "deploymentMode": "InstallAndUpdate",
19             "stream": "Current",
20             "maximumAllowedVersion": "23.03.0.49",
21             "minimumAllowedVersion": "0.0.0.0",
22             "delayGroup": "Fast"
23           }
24         },
25         {
26           "pluginName": "WorkspaceApp",
27           "pluginId": "1CDF566D-B2C7-47CA-802F-6283C862E1D6"
28         }
29       ]
30     }
31   ]
32 }
33
34
35
36 <!--NeedCopy-->
```

バージョンが設定されると、ユーザーのデバイス上の Citrix Workspace アプリは、`maximumAllowedVersion` プロパティで指定されたバージョンに自動更新されます。

メモ:

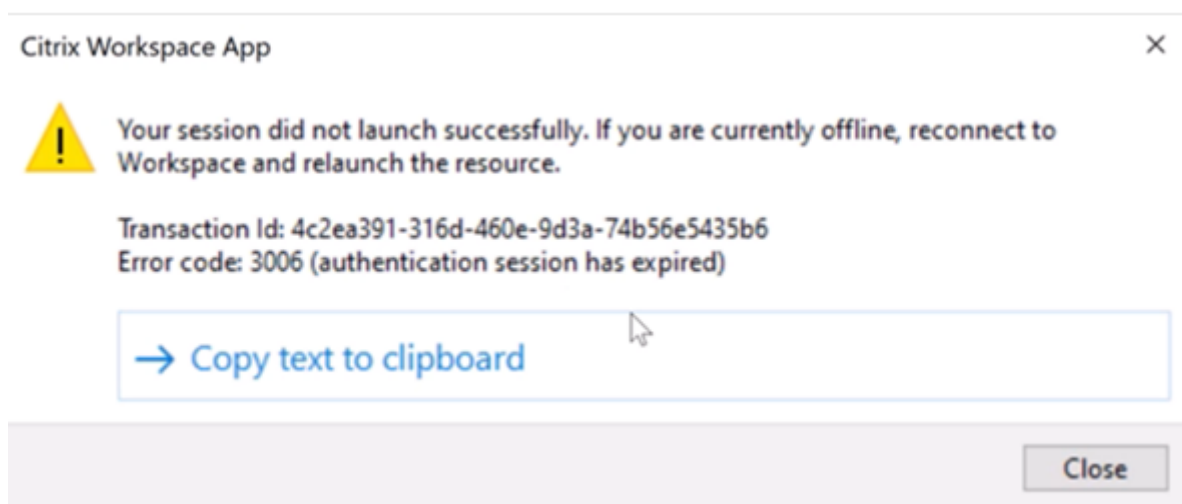
- 現在、前述の JSON ファイルに記載されているすべてのパラメーターは必須です。組織の要件に基づいて、`upgradeToLatest`設定と`maximumAllowedVersion`設定の値を指定する必要があります。ただし、残りのパラメーターについては、サンプルの JSON ファイルと同様の値を使用できます。
- バージョン自動更新を制御するには、Global App Config Service の`upgradeToLatest`設定を `false` に設定する必要があります。この設定が `true` の場合、`maximumAllowedVersion`は無視されます。
- この ID は Citrix Workspace アプリにマッピングされているため、`pluginId` は変更しないでください。
- 管理者が Global App Config Service でバージョンを構成していない場合、デフォルトで Citrix Workspace アプリは利用可能な最新バージョンに更新されます。

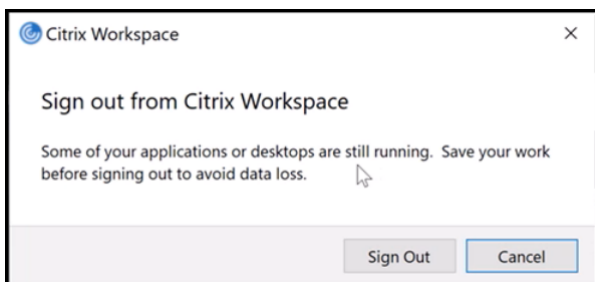
フェデレーション ID プロバイダーのログインプロンプトの強制 Citrix Workspace アプリで、フェデレーション ID プロバイダーセッションを設定できるようになりました。詳しくは、Knowledge Center の[CTX253779](#)を参照してください。

ログインプロンプト強制のためにストア認証トークンポリシーを使用する必要がなくなりました。

接続リースファイルの有効期限が切れた後の再接続エクスペリエンスの向上 以前は、エンドユーザーに対して、接続リースファイルと認証トークンの有効期限が切れたことを知らせる通知がありませんでした。

今回のリリース以降、エラーメッセージと同意を求めるダイアログボックスが表示されます。同意を求めるダイアログボックスは、セッションでリソースを実行している場合にのみ表示されます。実行中のリソースがない場合は、エラーダイアログボックスのみが表示されます。同意を求めないダイアログボックスが表示されずにサインアウトされます。





[サインアウト] をクリックして現在の Citrix Workspace アプリセッションからサインアウトするか、[キャンセル] をクリックしてセッションを続行できます。

注:

[サインアウト] をクリックする前に、データを保存してください。

App Protection のデフォルトインストールのサポート Citrix Workspace アプリのインストール中に、App Protection コンポーネントがデフォルトでインストールされるようになりました。

インストール中に表示される [App Protection を有効にする] チェックボックスは、[インストール後に App Protection を開始する] に置き換えられます。



このチェックボックスをオンにすると、インストール直後に App Protection が開始されます。

注:

このチェックボックスをオンにしない場合、App Protection は、App Protection の権限を持っている顧客の保護されたリソースまたはコンポーネントが最初に起動したときに自動的に開始されます。

コマンドラインパラメーターの `/startappprotection` を使用して App Protection コンポーネントを開始することもできます。ただし、以前の `/includeappprotection` スイッチは廃止されました。

注:

以前は、Citrix 認証画面と Citrix Workspace アプリ画面では、スクリーンキャプチャ防止機能とキーロギング防止機能がデフォルトで適用されていました。しかし、2212 以降、これらの機能はデフォルトで無効となり、現在はグループポリシーオブジェクトを使用して構成する必要があります。GPO 構成について詳しくは、「[App Protection 構成の機能強化](#)」を参照してください。

App Protection の機能強化: スクリーンショットの検出と通知 今回のリリース以降、保護されたリソースでスクリーンショットが試行された可能性がある場合に、通知を表示できます。App Protection によって保護されるリソースについては、「[App Protection によって保護される内容](#)」を参照してください

次の場合に通知が表示されます:

- 画面キャプチャツールを使用して、スクリーンショットを撮ったり、ビデオを録画したりしようとした。
- Print Screen キーを使用してスクリーンショットを撮ろうとした。

注:

この通知は、スクリーンショットツールの実行中のインスタンスごとに 1 回だけ表示されます。ツールを再起動してスクリーンショットを試みると、通知が再び表示されます。

Desktop Viewer の最適化 今回のリリースでは、起動時間が 5 秒短縮され、Desktop Viewer エクスペリエンスが最適化されています。**Desktop Viewer** ツールバーがすばやく開き、デフォルトの Windows セッションサインイン画面が表示される場合があります。管理者は、以下のレジストリを構成してミリ秒単位の遅延を設定することで、このエクスペリエンスを非表示にすることができます:

- 場所: HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\XenDesktop\DesktopViewer
- 名前: ExtendConnectScreenMS
- 種類: DWORD
- 値: 00000000 (ミリ秒単位の遅延)

注:

レジストリ構成は任意です。

Citrix Enterprise Browser

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリのバージョン 2210 から、[すべての **Web** アプリおよび **SaaS** アプリを **Citrix Enterprise Browser** で開く] 機能が無効になります。

このリリースには、Chromium バージョン 107 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 107.1.1.13 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

- **Citrix Enterprise Browser** を仕事用ブラウザにする

Citrix Enterprise Browser を仕事用ブラウザとして構成し、すべての仕事用リンクを開けるようになりました。代替ブラウザを選択して、仕事用以外のリンクを開くことができます。

仕事用リンクは、管理者がエンドユーザー用に構成した Web アプリまたは SaaS アプリに関連付けられたリンクです。ユーザーがネイティブアプリケーション内のリンクをクリックすると、それが仕事用リンクであれば、Enterprise Browser で開きます。仕事用リンクでない場合は、エンドユーザーが選択した別のブラウザで開きます。

詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser を仕事用ブラウザにする](#)」を参照してください。

2210.5

新機能

このリリースでは問題に対応しているため、パフォーマンス、セキュリティ、および安定性が総合的に向上しています。

自動更新の機能強化 Citrix Workspace アプリは、プロキシ自動構成 (PAC) および Web プロキシ自動発見プロトコル (WPAD) の検出が有効になっている場合、自動更新をサポートするようになりました。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 105 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 105.2.1.40 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

2210

新機能

Web カメラリダイレクトの背景のぼかし Windows 向け Citrix Workspace アプリが、Web カメラリダイレクトの背景ぼかしをサポートするようになりました。この機能を有効にするには、[基本設定] > [接続] > [背景のぼかし]

しを有効にする] チェックボックスを選択します。

Windows 11 での **Web** アプリおよび **SaaS** アプリの **App Protection** の強化 App Protection の機能を強化することにより、Windows 11 の Web アプリおよび SaaS アプリユーザーのエクスペリエンスとセキュリティ機能が最適化されます。この強化された機能は、Secure Private Access のお客様が Citrix Enterprise Browser からご利用いただけます。

ビデオ解像度の制限 パフォーマンスの低いクライアントエンドポイントを使用しているユーザーがいる場合、管理者が受信または送信のビデオ解像度を制限して、これらのエンドポイントでのビデオのエンコードおよびデコードへの負担を軽減することができます。Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2010 以降では、クライアント構成オプションを使用してこれらの解像度を制限できます。

注:

Microsoft Teams サーバーは、すべての会議参加者に低レベルの解像度を使用するよう強制されるため、制限付きの解像度で実行しているユーザーがいると、会議の全体的なビデオ品質に影響を与えます。

Citrix Workspace アプリ 2210 を使用しているクライアントでは、通話の制約はデフォルトで無効になっています。これを有効にするには、管理者が HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\HDXMediaStream で次のクライアント側の構成を設定する必要があります:

名前	種類	Mandatory (必須)	許容値
EnableSimulcast	Int	はい	1~3 (1 に設定)
MaxOutgoingResolution	Int	はい	180、240、360、540、720、1080 (Microsoft Teams でサポートされている解像度)
MaxIncomingResolution	Int	はい	180、240、360、540、720、1080 (Microsoft Teams でサポートされている解像度)
MaxIncomingStreams	Int	はい	1~8
MaxSimulcastLayers	Int	はい	1~3 (1 に設定)
MaxVideoFrameRate	Int	いいえ	1~30
MaxScreenshareFrameRate	Int	いいえ	1~15

すべてのキーが DWORD です。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 105 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 105.1.1.27 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

Citrix Workspace Browser のリブランディング Citrix Workspace Browser は、Citrix Enterprise Browser に名称変更されました。カスタムスキームが `citrixworkspace://` から `citrixbrowser://` に変更されました。

現在、製品と製品ドキュメントで移行作業が行われています。この移行の間はご迷惑をおかけしますが、何卒ご容赦願います。

- 製品の UI、製品内のコンテンツ、および製品ドキュメント内の画像と手順は、数週間以内に更新されます。
- 既存の顧客のスクリプトの破損を防ぐために、コマンドや MSI などの一部のアイテムでは、以前の名前を引き続き保持できます。
- 関連する製品ドキュメントや、この製品のドキュメントからリンクされているその他のリソース（ビデオやブログの投稿など）には、以前の名前が含まれている場合があります。

すべての **Web** アプリおよび **SaaS** アプリを **Citrix Enterprise Browser** で開く このリリース以降、Citrix Workspace アプリで使用できるすべての内部 Web アプリと外部 SaaS アプリは Citrix Enterprise Browser で開きます。

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリのバージョン 2210 から、[すべての **Web** アプリおよび **SaaS** アプリを **Citrix Enterprise Browser** で開く] 機能が無効になります。

VDA の **Citrix Workspace** アプリの自動更新サポート 次のレジストリ値を作成することで、VDA で自動更新機能を有効にできるようになりました:

32 ビットマシンの場合:

- レジストリキー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\AutoUpdate
- レジストリ値: AllowAutoUpdateOnVDA
- レジストリの種類: REG_SZ
- レジストリデータ: True

64 ビットマシンの場合:

- レジストリキー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\ICA Client\AutoUpdate
- レジストリ値: AllowAutoUpdateOnVDA
- レジストリの種類: REG_SZ
- レジストリデータ: True

Citrix Enterprise Browser (旧称 **Citrix Workspace Browser**) このリリースには、Chromium バージョン 103 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 103.2.1.10 が含まれています。Citrix Enterprise Browser について詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

- **Citrix Enterprise Browser** プロファイル

プロファイルによって、履歴、ブックマーク、パスワードなどの個人情報、およびその他の設定を Citrix Workspace アカウントごとに個別に保持できます。ワークスペースストアに基づいてプロファイルが作成され、独自のパーソナライズされたブラウジング環境を利用できます。

注:

バージョン 103.2.1.10 にアップグレードして初めてデバイスにサインインすると、以前保存したパスワードのみが削除されます。初めて別のストアを使用してデバイスにサインインすると、以前保存したデータはすべて失われます。

2207

新機能

HDX を使用した **Microsoft Teams** 最適化の背景のぼかしおよび効果 Windows 向け Citrix Workspace アプリで、HDX を使用した Microsoft Teams の最適化における背景のぼかしと効果が導入されるようになりました。

これで、背景をぼかしたり、カスタムイメージに置き換えたりして、会話の最中シルエット（体と顔）に集中できるようにすることで、突然集中力が乱されることを回避できます。この機能は、P2P または電話会議のいずれかで使用できます。

注:

この機能は、Microsoft Teams の UI/ボタンと統合されました。マルチウィンドウのサポートは、VDA を 2112 以降に更新するときに必要な前提条件です。詳しくは、「[マルチウィンドウ会議とチャット](#)」を参照してください。

制限事項:

- 管理者およびユーザーが定義したバックグラウンドの置換はサポートされていません。
- バックグラウンド効果はセッション間で持続しません。Microsoft Teams を閉じて再起動するか、VDA を再接続すると、バックグラウンド効果がオフにリセットされます。
- ICA セッションが再接続された後、効果はオフになります。ただし、Microsoft Teams UI は、前の効果がまだオンになっていることをチェックマークで示しています。Citrix と Microsoft は、この問題を解決するために協力しています。
- 背景画像を置き換えるときは、デバイスをインターネットに接続する必要があります。

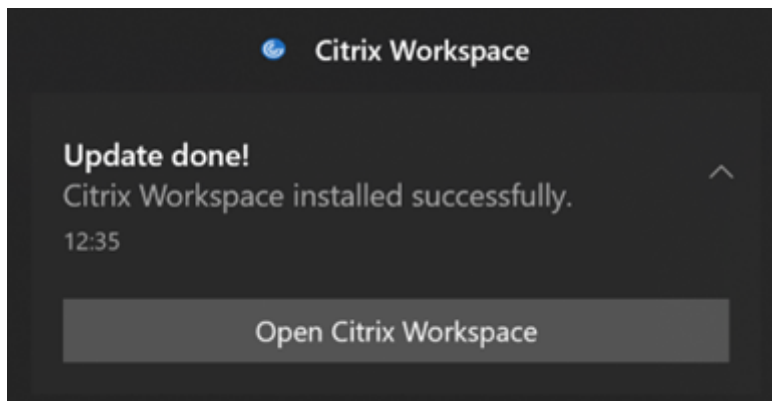
注:

この機能は、Microsoft Teams から以降の更新がロールアウトされた後のみ使用できます。Microsoft によって更新プログラムがロールアウトされたら、Knowledge Center の記事 [CTX253754](#) および [Microsoft 365 の公開ロードマップ](#) を参照してください。

自動更新エクスペリエンスの向上 自動更新機能は、ユーザーの操作を必要とせずに、自動的に Citrix Workspace アプリを最新バージョンに更新します。

Citrix Workspace アプリは、アプリの利用可能な最新バージョンを定期的にチェックしてダウンロードします。Citrix Workspace アプリは、ユーザーのアクティビティに基づいてインストールの最適なタイミングを決定し、中断を引き起こさないようにします。

インストールが完了すると、次の通知が表示されます:



Citrix Workspace アプリが更新をバックグラウンドでインストールする適切なタイミングを見つけられない場合、通知プロンプトが表示されます。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 102 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 102.1.1.14 が含まれています。

Citrix Workspace アプリの更新に関する注意 Windows 向け Citrix Workspace アプリを以前のバージョンから 2207 に更新している間、ユーザーはサインインを求められます。サインインプロンプトは、ワークスペースストアでのみ表示されます。

2206

新機能

グラフィックパフォーマンスの向上 Citrix Workspace アプリ 2206 は、Intel 内蔵 GPU のパフォーマンスを大幅に向上させます。

- グラフィック GPU の消費量が減り、全体的なパフォーマンスが向上しました。

次の問題が解決されています：

- Intel 第 10 世代 GPU 以降でビデオを再生した後の 1 秒あたりのフレーム数が少ない。
- Intel GPU および AMD GPU における [操作時は低品質] または [領域をアクティブに変更] の明るさの違い。

DPI マッチングの有効化 Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2206 以降、DPI マッチングはデフォルトで有効になっています。これは、Citrix Workspace アプリが、ローカル Windows クライアントのディスプレイ解像度と DPI スケール設定を Citrix セッションに自動的に一致させようとする機能です。この変更の一環として、Citrix Workspace アプリの [高度な設定] で [高 DPI] オプションは使用できなくなりました。詳しくは、Knowledge Center の [CTX460068](#) を参照してください。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 101 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 101.1.1.12 が含まれています。Citrix Enterprise Browser の機能またはバグ修正については、Citrix Enterprise Browser ドキュメントの「[新機能](#)」を参照してください。

2205

新機能

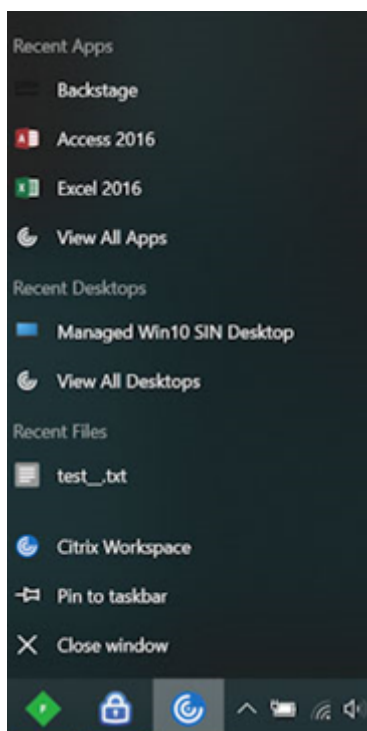
注：

今回のリリースから、Microsoft Edge WebView2 ランタイムのバージョンが 99 以降であることを確認してください。詳しくは、「[システム要件と互換性](#)」を参照してください。

Citrix Casting への変更 以前は、Citrix Workspace アプリのインストール時、Citrix Casting がデフォルトで有効になっていました。今回のリリース以降、インストール中に「`/IncludeCitrixCasting`」コマンドで Citrix Workspace アプリインストーラーを実行した場合にのみ、Citrix Casting が有効になります。

Citrix Workspace アプリを更新すると、Citrix Casting が自動的に更新されます。Citrix Casting については、[Citrix Casting](#) に関するセクションを参照してください。

リソースへのクイックアクセス このリリース以降、最近使用したアプリおよびデスクトップにすばやくアクセスできるようになりました。タスクバーの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから最近使用したリソースを表示して開きます。



Citrix Workspace アプリ終了時のカスタム **Web** ストアからのサインアウト `signoutCustomWebstoreOnExit` 属性が `True` に設定されている場合、Citrix Workspace アプリを閉じると、カスタム Web ストアからサインアウトします。`signoutCustomWebstoreOnExit`属性は、**Global App Configuration Service** で構成できます。

詳しくは、[Global App Configuration Service](#)のドキュメントを参照してください。

最大化モードで **Citrix Workspace** アプリを開くためのサポート 今回のリリースから、Citrix Workspace アプリを最大化モードで開くことを選択できます。毎回 Citrix Workspace アプリを手動で最大化する必要がなくなるよう、管理者は、Global App Configuration Service の`maximise workspace window`プロパティにより、デフォルトで Citrix Workspace アプリを最大化モードで開くように設定できます。

Global App Configuration Service について詳しくは、「[はじめに](#)」を参照してください。

Workspace で **Storebrowse** をサポート Windows 向け Citrix Workspace アプリは、セルフサービスに Storebrowse サポートを提供し、Storebrowse ユーザーが Cloud および Workspace の機能にアクセスできるようになりました。

注:

- この機能は、シングルサインオンのみで Storebrowse のサポートを提供します。
- この機能を使用するには、「[システム要件と互換性](#)」に記載されている前提条件が利用できる必要があります。

ます。

詳しくは、「[Workspace の Storebrowse](#)」セクションを参照してください。

Citrix Enterprise Browser

- このリリースには、Chromium バージョン 99 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 99.1.1.8 が含まれています。Citrix Enterprise Browser の機能またはバグ修正については、Citrix Enterprise Browser ドキュメントの「[新機能](#)」を参照してください。
- Citrix Workspace アプリで次のいずれかを実行すると、アクティブなブラウザーウィンドウを閉じることを促すアラートが表示されるようになりました：
 - ストアからサインアウトする
 - 別のストアに切り替える
 - 新しいストアを追加する
 - 現在のストアを削除する

2204.1

新機能

オーディオリダイレクトの機能強化 アダプティブオーディオおよび従来のすべてのオーディオコーデックなど、すべてのオーディオコーデックのオーディオエコーキャンセル機能のサポートが改善されました。

Citrix Enterprise Browser このリリースには、Chromium バージョン 98 ベースの Citrix Enterprise Browser バージョン 98.1.2.20 が含まれています。Citrix Enterprise Browser の機能またはバグ修正については、Citrix Enterprise Browser ドキュメントの「[新機能](#)」を参照してください。

Microsoft Teams の最適化

- **App Protection** と **Microsoft Teams** の機能強化: Microsoft Teams は、App Protection が有効になっている Windows 向け Citrix Workspace アプリが Desktop Viewer モードの場合のみに、着信ビデオと画面共有をサポートします。シームレスモードの公開アプリは、着信ビデオと画面共有をレンダリングしません。

古いドキュメント

保守終了 (EOL) に達した製品リリースについては、[古いドキュメント](#)を参照してください。

サードパーティ製品についての通知

Windows 向け Citrix Workspace アプリには、次のドキュメントで定義された条件の下でライセンスが有効になったサードパーティのソフトウェアが含まれている可能性があります：

[Windows 向け Citrix Workspace アプリのサードパーティ製品についての通知](#) (PDF のダウンロード)

解決された問題

June 14, 2024

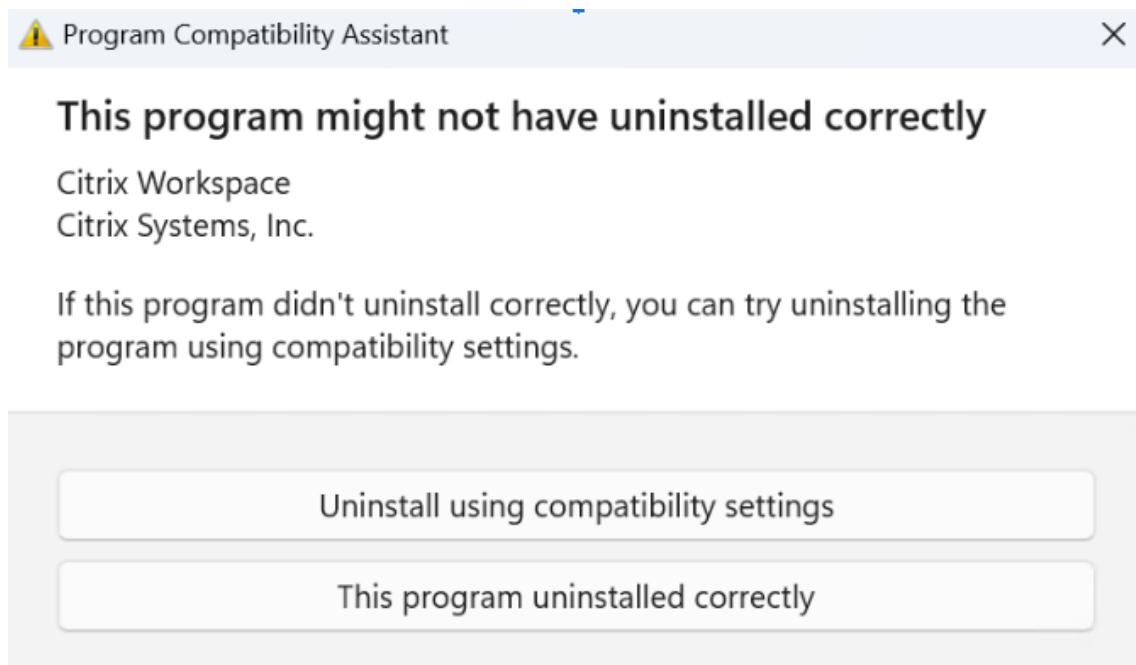
2402 LTSR で解決された問題

- 全画面モードで開かれた仮想デスクトップ内には自動フォーカスがない場合があります。フォーカスを取り戻すには、セッション内をクリックする必要があります。[RFFWIN-32051]
- 公開アプリを再接続すると、公開アプリのインスタンスがさらに開きます。[CVADHELP-24485]
- Windows 向け Citrix Workspace アプリをアンインストールすると、カスタムの仮想ドライバーキーで保持されない場合があります。[CVADHELP-24513]
- Windows Surface タッチパッドとソフトキーボードは、Citrix Workspace アプリのサインイン画面でサポートされていない可能性があります。この問題は、Windows VDA から全画面モードで公開されたセッションにサインインすると発生します。回避策として、セッションをウィンドウモードで開き、Citrix Workspace アプリにサインインします。[RFFWIN-32050]
- 公開アプリケーション、たとえば app1 が切断され、同じ VDA から別のアプリケーションが起動された後に、app1 の 2 つのインスタンスが確認できます。[RFFWIN-32517]
- **Windows 10 32bits x86**バージョンでは背景のぼかし効果がサポートされていないため、[**Enable Background blur**] チェックボックスは削除されています。[HDX-60308]
- Windows Surface タッチパッドとソフトキーボードは、Citrix Workspace アプリのサインイン画面でサポートされていない可能性があります。この問題は、Windows VDA から全画面モードで公開されたセッションにサインインすると発生します。[RFFWIN-32050]
- 同じページで複数のストリームが同時に再生されている場合、オーディオが破損する可能性があります。[HDX-50486]
- [基本設定] 画面の [モニターレイアウト] タブで画面を分割したり、プライマリモニターを調整しようとする、視覚的なアーティファクトが表示される場合があります。[HDX-59798]
- プライマリモニターが左端のモニターではない場合 (複数の GPU が機能している場合)、Windows Media Player (WMP) で、1 つのモニター上に Rave が有効になっている黒い画面が表示されます。この問題を解

決するために、デフォルトのレンダラーが **VMR9** から **EVR** に変更されました。

EVR を無効にする場合は、`Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\HDXMediaStream`に「`DWORD AllowEvrH264=0`」を作成します。[HDX-60494]

- コンピューターのサウンドを含む画面を共有するときに、複数のオーディオ出力デバイスがサウンドを再生している場合、1つ以上の受信機がサウンドのアーティファクトを検出する可能性があります。[HDX-48213]
- BCR は、1つのアクティブなオーディオストリームではなく、複数のストリームを同時に再生する場合があります。[HDX-61600]
- 外部モニターを使用しているときに単一モニター（ノート PC など）に切り替えると、Citrix Workspace アプリのメニューオプション、ユーザーインターフェイステキスト、ダイアログボックスのサイズが通常のディスプレイサイズより小さく表示される場合があります。[HDX-47575]
- Citrix Workspace アプリ 2402 バージョンにアップグレードする場合、Citrix Enterprise Browser が既にインストールされていると、`InstallEmbeddedBrowser=N`コマンドは実行されません。[RFWIN-33169]
- ステレオオーディオストリームにモノラルオーディオを使用している場合、片方のイヤピースに1つのオーディオチャンネルの音のみが聞こえ、両方の耳で両方のチャンネルを受信することができない場合があります。[HDX-56344]
- [コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムと機能] から Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR - Technical Preview バージョンをアンインストールするときに、次のポップアップが表示されます:



この問題は Windows 11 マシンで断続的に発生します。また、この問題は [スタート] > [アプリ] > [アプリと機能] からのアンインストールなど、他のアンインストール方法では発生しません。上記のエラーメッセージが表示さ

れても、アンインストールは正常に完了します。[RFIN-32669]

- Citrix Workspace アプリの起動プロセスは、デフォルトで公開アプリセッション内で実行される場合があります。公開アプリセッションで起動プロセスを実行する場合は、`HKLM/Software/Wow6432Node/Citrix/ICA Client`で種類が`DWORD`のレジストリキー`RunCWAInPublishedAppSession`を構成します。[CVADHELP-24070]
- Microsoft Teams のチャットからの画面共有はサポートされていません。[HDX-62146]
- Citrix Workspace アプリのインストーラーは、新規インストール中にコマンドラインで Unicode 文字が指定されると、インストール中に応答を停止します。[RFIN-32987]

既知の問題

June 14, 2024

2402 LTSR の既知の問題

- エンドポイントデバイスに 2.9.700 より古いバージョンの Real-Time Media Engine (RTME) がインストールされている場合、公開アプリまたはデスクトップを開けない可能性があります。この問題は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2403 および Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2402 LTSR バージョンで発生します。解決策として、次を実行できます：
 - RTME プラグインを使用して Skype for Business を使用する場合は、RTME を 2.9.700 バージョン以降にアップグレードしてください。
 - Skype for Business を使用しない場合は、Windows のアンインストールウィザード（プログラムの追加と削除）を使用して HDX RealTime パックをアンインストールします。

この問題について詳しくは、Knowledge Center の記事[CTX676765](#)（英文）を参照してください。[HDX-63684]

- ダブルホップシナリオでは、macOS クライアントで `ALT + TAB` キーが機能しない可能性があります。[CVADHELP-23085]
- BCR MSI 単体は現在、管理者以外のインストールではサポートされていません。[HDX-62636]
- エンドユーザーのマシンに複数のバージョンの .Net がインストールされており、Citrix Workspace アプリで使用されていないバージョンの .Net がアップグレードされると、アプリが再起動します。[RFIN-32377]

システム要件と互換性

June 17, 2024

要件

ハードウェア要件

- 2GB 以上の RAM。
- 次の表に、Citrix Workspace アプリをインストールする場合の必要ディスクスペースの詳細を示します：

インストールの種類	必須ディスクスペース
新規インストール	1GB
アップグレード	1GB

注：

- インストーラーがディスクスペースのチェックを実行するのは、インストールパッケージの抽出後のみです。
- サイレントインストール時にシステムのディスクスペースが少ない場合、ダイアログは表示されませんが、エラーメッセージが\Citrix\Log\CTXWorkspaceInstallLogs-*に記録されます。

ソフトウェア要件

- Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 119 以降
- .NET Framework 4.8 および .NET デスクトップランタイム 6.0.20 以降
- Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージの最新バージョン

注：

Microsoft またはその他のサードパーティ依存コンポーネント（.NET Core、.NET Framework、VC 再頒布可能パッケージ、Edge WebView など）からのセキュリティ パッチを処理するには、次のいずれかの方法を使用できます：

- クライアントマシンで Windows の自動更新を有効にする
- IT 管理者は SCCM などのツールを使用してパッチの展開を管理する

Microsoft Edge WebView2 の要件

- Citrix Workspace アプリは、Microsoft Edge WebView2 ランタイムの[Evergreen Bootstrapper](#)バージョンにパッケージ化されています。
- Citrix Workspace アプリのインストーラーは、Citrix Workspace アプリのインストール中に Microsoft Edge WebView2 ランタイムをインストールできます。ただし、このインストールではインターネットに接続する必要があります。または、Citrix Workspace アプリをインストールする前に、適切なオフラインの[Microsoft Edge WebView2 ランタイムの Evergreen Standalone](#) インストーラーパッケージをインストールすることもできます
- デバイスは次の URL にアクセスできる必要があります。
 - https://*.dl.delivery.mp.microsoft.com Citrix Workspace アプリのインストール中に Microsoft Edge WebView2 ランタイムをダウンロードします。詳細については、「[Microsoft Edge エンドポイントの許可リスト](#)」を参照してください。
 - <https://msedge.api.cdp.microsoft.com> Microsoft Edge WebView2 ランタイムの更新を確認します
 - インターネット接続
 - デバイスは次の URL にアクセスできる必要があります。

注:

管理者以外の権限で Citrix Workspace アプリをインストールまたはアップグレードしようとしていて、Microsoft Edge WebView2 ランタイムが存在しない場合、インストールは次のメッセージを表示して停止します: 「次の前提条件パッケージをインストールするには、管理者としてログオンする必要があります: Edge Webview 2 Runtime」。

.NET の要件

前提条件

- .NET Framework 4.8、および .NET Desktop Runtime 6.0.20 以降の x86 バージョン。x64 システムでも x86 バージョンをインストールする必要があります。
- Citrix Workspace アプリのインストールの一部として .NET をインストールする場合は、インターネット接続が使用できることを確認してください。
- 管理者特権

注:

非管理者権限で Citrix Workspace アプリをインストールまたはアップグレードする場合、.NET Framework 4.8 および .NET デスクトップランタイム 6.0.20 以降がシステム上にインストールされて

いないと、インストールは失敗します。

インストール方法

.NET のバージョン

Citrix Workspace アプリ 1904 以降には、.NET Framework 4.8 が必要です。Citrix Workspace アプリ 2309 以降には、.NET Framework 4.8 に加えて、x86 および x64 システムの両方で x86 バージョンの .NET Desktop Runtime 6.0.20 以降が必要です。

展開方法

方法 1: Citrix Workspace アプリは、アプリのインストールとともに .NET Framework 4.8 と最新バージョンの .NET Desktop Runtime 6.0 をインストールします。このインストールはオンラインインストールであり、インターネット接続が必要です。デバイスは downloadplugins.citrix.com ドメインの URL にアクセスできる必要があります。

方法 2: インターネットに接続できないデバイスの場合、管理者は、[ダウンロードページ](#) から Citrix Workspace アプリのオフラインインストーラーをダウンロードするオプションを利用できます。また、管理者は、SCCM などの展開方法を使用してこれらの要件をインストールできます。

方法 3: 管理者は、Citrix Workspace アプリをインストールする前に、Microsoft サイトから [.NET Framework 4.8](#) と [.NET デスクトップランタイム 6.0.20](#) を個別にインストールできます。最新バージョンの .NET デスクトップランタイム 6.0 (6.0.20 以降) をダウンロードすることをお勧めします。

Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージの要件 Citrix Workspace アプリには、Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージの最新バージョンが必要です。

注:

Citrix では Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージの最新バージョンを使用することをお勧めします。そうしないと、アップグレード中に再起動のプロンプトが表示されることがあります。

バージョン 1904 以降、Microsoft Visual C++ 再頒布可能インストーラーは Citrix Workspace アプリのインストーラーとともにパッケージ化されます。Citrix Workspace アプリのインストール時、インストーラーが Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージがシステム上に存在するかどうかを確認し、必要に応じてインストールします。

注:

Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージがシステムに存在しない場合、管理者以外の権限での Citrix Workspace アプリのインストールが失敗することがあります。

Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージをインストールできるのは、管理者のみです。

.NET Framework または Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージのインストールに関する問題のトラブルシューティングについては、Citrix Knowledge Center の記事[CTX250044](#)を参照してください。

接続の要件

フィーチャーフラグ管理 実稼働環境の Citrix Workspace アプリで問題が発生した場合、フィーチャーフラグと LaunchDarkly というサードパーティサービスを使用することで、影響を受ける機能を（出荷後の機能であっても）Citrix Workspace アプリで動的に無効にすることができます。

ファイアウォールまたはプロキシが送信トラフィックをブロックしている場合を除いて、LaunchDarkly へのトラフィックを有効にするために構成する必要はありません。送信トラフィックがブロックされている場合、ポリシー要件に応じて、特定の URL または IP アドレス経由の LaunchDarkly へのトラフィックを有効にします。

次の URL へのトラフィックを有効にできます：

- events.launchdarkly.com
- stream.launchdarkly.com
- clientstream.launchdarkly.com
- [Firehose.launchdarkly.com](https://firehose.launchdarkly.com)
- mobile.launchdarkly.com

IP アドレスの許可リストを作成する必要がある場合、現在のすべての IP アドレス範囲については、「[LaunchDarkly のパブリック IP 一覧](#)」を参照してください。この一覧を使用すると、インフラストラクチャの更新に合わせてファイアウォールの構成が自動的に更新されることを確認できます。インフラストラクチャの変更の状態について詳しくは、[LaunchDarkly Status](#)のページを参照してください。

LaunchDarkly のシステム要件 Citrix ADC の分割トンネリングが以下のサービスに対して [オフ] に設定されている場合、アプリがこれらのサービスと通信できることを確認してください：

- LaunchDarkly サービス
- APNs リスナーサービス

LaunchDarkly サービスの無効化 グループポリシーオブジェクト (GPO) ポリシーを使用して、LaunchDarkly サービスを無効にできます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。

2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [コンプライアンス] の順に移動します。
3. [サードパーティへのデータの送信を無効にします] ポリシーを選択し、[有効] に設定します。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。

ポート

必要なポートについて詳しくは、「[共通の Citrix 通信ポート](#)」を参照してください。

互換性マトリックス

Citrix Workspace アプリは、現在サポートされているすべてのバージョンの Citrix Virtual Apps and Desktops、Citrix DaaS (Citrix Virtual Apps and Desktops サービスの新名称)、および [Citrix 製品マトリックス](#) の一覧にある Citrix Gateway のバージョンと互換性があります。

注:

- Citrix Gateway End-Point Analysis Plugin (EPA) は Citrix Workspace でサポートされています。ネイティブの Citrix Workspace アプリでは、nFactor 認証を使用する場合にのみサポートされます。詳しくは、Citrix ADC ドキュメントの「[nFactor 認証の要素として認証前および認証後の EPA スキャンを構成](#)」を参照してください。
- Windows での Citrix Workspace アプリのインストールは、顧客が Microsoft からのメインストリームサポートまたは延長サポートを受けている場合にのみサポートされます。
- Windows 向け Citrix Workspace アプリは、エミュレーターモードの Windows ARM64 オペレーティングシステムでのみサポートされています。
- Windows 10 バージョンがサービス終了になると、Microsoft からバージョンのサービスやサポートが提供されなくなります。シトリックスでは、製造元がサポートするオペレーティングシステムで実行する場合のみ Citrix ソフトウェアをサポートします。Windows 10 のサービス終了について詳しくは、[Microsoft の Windows ライフサイクルファクトシート](#)を参照してください。

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、以下の Windows オペレーティングシステムと互換性があります:

オペレーティングシステム

Windows 11

Windows 10 Enterprise (32 ビット版および 64 ビット版)。互換性のある Windows 10 のバージョンについて詳しくは、「[Windows 10 と Windows 向け Citrix Workspace アプリとの互換性](#)」を参照してください。

Windows 10 Enterprise (2016 LTSB 1607、LTSC 2019)

Windows 10 (Home エディション*、Pro)

オペレーティングシステム

Windows Server 2022

Windows Server 2019

Windows Server 2016

* ドメインパススルー認証、Desktop Lock、FastConnect API、およびドメイン参加済み Windows マシンを必要とする構成はサポートされていません。

Windows 10 または 11 と Windows 向け Citrix Workspace アプリとの互換性

次の表は、Windows 10 のバージョン番号と対応する互換性のある Windows 向け Citrix Workspace アプリのリリースを示します。

Windows 10 のバージョン番号	ビルド番号	Citrix Workspace アプリのバージョン
22H2	19045	2206 以降
21H2	19044	2112.1 以降
21H1	19043.928	2106 以降
20H2	19042.508	2012 以降
2004	19041.113	2006.1 以降
1909	18363.418	1911 以降
1903	18362.116	1909 以降
1809	17763.107	1812 以降
1803	17134.376	1808 以降

注:

Windows 10 バージョンは、前述の Citrix Workspace アプリバージョンとのみ互換性があります。たとえば、Windows 10 バージョン 21H1 は、2106 より前のバージョンと互換性がありません。

次の表は、Windows 11 のバージョン番号と対応する互換性のある Windows 向け Citrix Workspace アプリのリリースを示します。

Windows 11 のバージョン番号	ビルド番号	Citrix Workspace アプリのバージョン
23H2	22631	2311 以降
22H2	22621	2209 以降
21H2	22000	2109.1 以降

インストールとアンインストール

June 17, 2024

Citrix Workspace アプリは、Citrix の [\[ダウンロード\] ページ](#) または所属する組織の [\[ダウンロード\] ページ](#)（存在する場合）からダウンロードできます。

パッケージは次の方法でインストールできます：

- Windows ベースのインタラクティブなインストールウィザードを実行する。
または
- コマンドラインインターフェイスを使用して、インストーラーのファイル名、インストールコマンド、インストールプロパティを入力する。コマンドラインインターフェイスを使用した Citrix Workspace アプリのインストールについて詳しくは、「[コマンドラインパラメーターの使用](#)」を参照してください。

注：

[システム要件](#)に関するセクションに記載されているように、必要なシステム要件をすべてインストールしたことを確認します。

管理者権限と非管理者権限によるインストール：

ユーザーと管理者の両方が Citrix Workspace アプリをインストールできます。Windows 向け Citrix Workspace アプリで [パススルー認証](#)、[シングルサインオン](#)、[App Protection](#)、[Microsoft Teams VDI プラグイン](#)、および [Citrix Ready ワークスペースハブ](#) を使用する場合にだけ、管理者権限が必要です。

次の表では、Citrix Workspace アプリを管理者またはユーザーとしてインストールした場合の違いについて説明します：

	インストールフォルダー	インストールの種類
管理者	64 ビットの場合: C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client。32 ビットの場合: C:\Program Files\Citrix\ICA Client。	システムごとのインストール
ユーザー	%USERPROFILE%\AppData\Local\Citrix\ICA Client	ユーザーごとのインストール

注:

Citrix Workspace アプリのユーザーがインストールしたインスタンスを管理者が上書きし、インストールを正常に続行できます。

Citrix Workspace アプリをクリーンアップしてインストールするコマンド

/CleanInstall コマンドを使用して、以前のアンインストールで残ったファイルやレジストリ値などのトレースをクリーンアップし、新しいバージョンの Citrix Workspace アプリを新たにインストールします。

例:

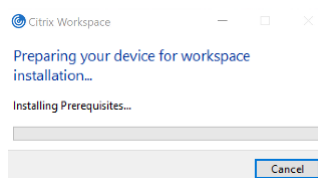
```
1 CitrixWorkspaceApp.exe /CleanInstall
2 <!--NeedCopy-->
```

ユーザーインターフェイスベースのインストール

CitrixWorkspaceApp.exe インストーラーパッケージを手動で実行することで、Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールできます。

1. CitrixWorkspaceApp.exe ファイルを起動します。

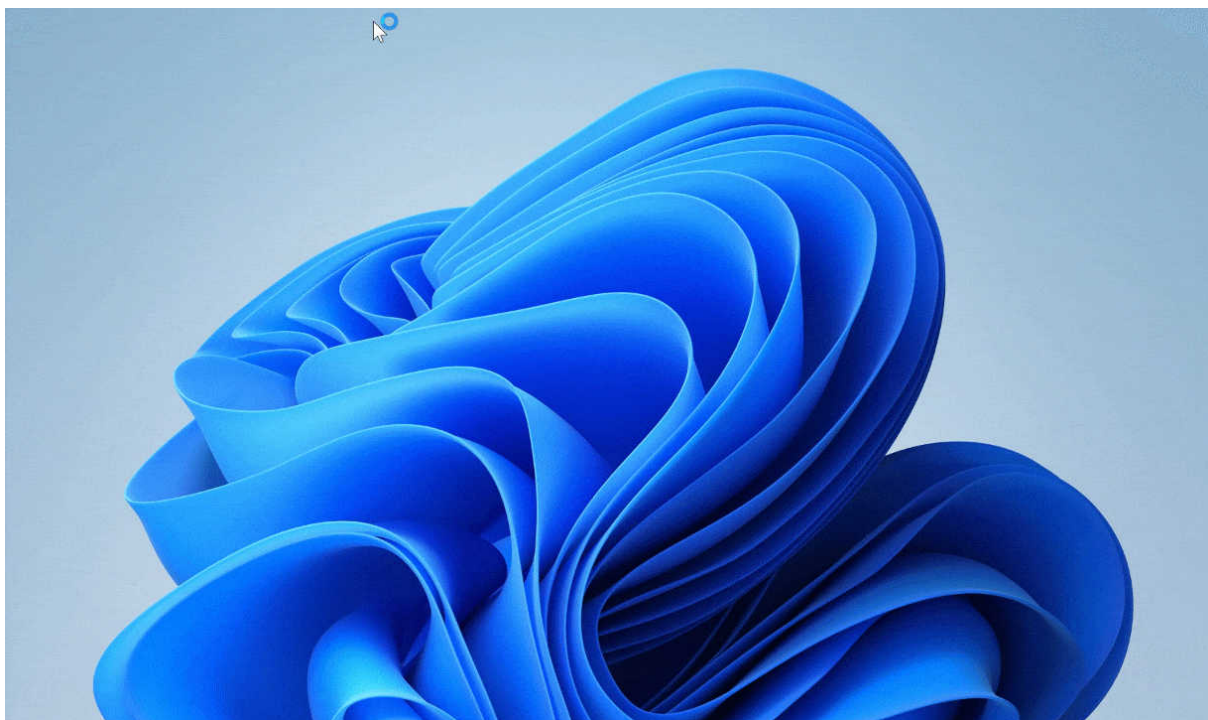
システムは Citrix Workspace アプリに必要な前提条件を検証し、必要な場合は自動的にインストールします。



前提条件をインストールすると、[Citrix Workspace インストーラーへようこそ] 画面が表示されます。

2. [続行] をクリックします。[Citrix ライセンス契約] ページが開きます。

3. Citrix ライセンス契約を読んで同意してから、インストールを続行します。Citrix Workspace アプリのインストールは続行され、正常に完了します。
4. 管理者権限でインストールする場合、アプリ保護機能を有効にする必要があるときは、[インストール後に **App Protection** を開始する] チェック ボックスをオンにします。Citrix Workspace アプリのインストールは続行され、正常に完了します。

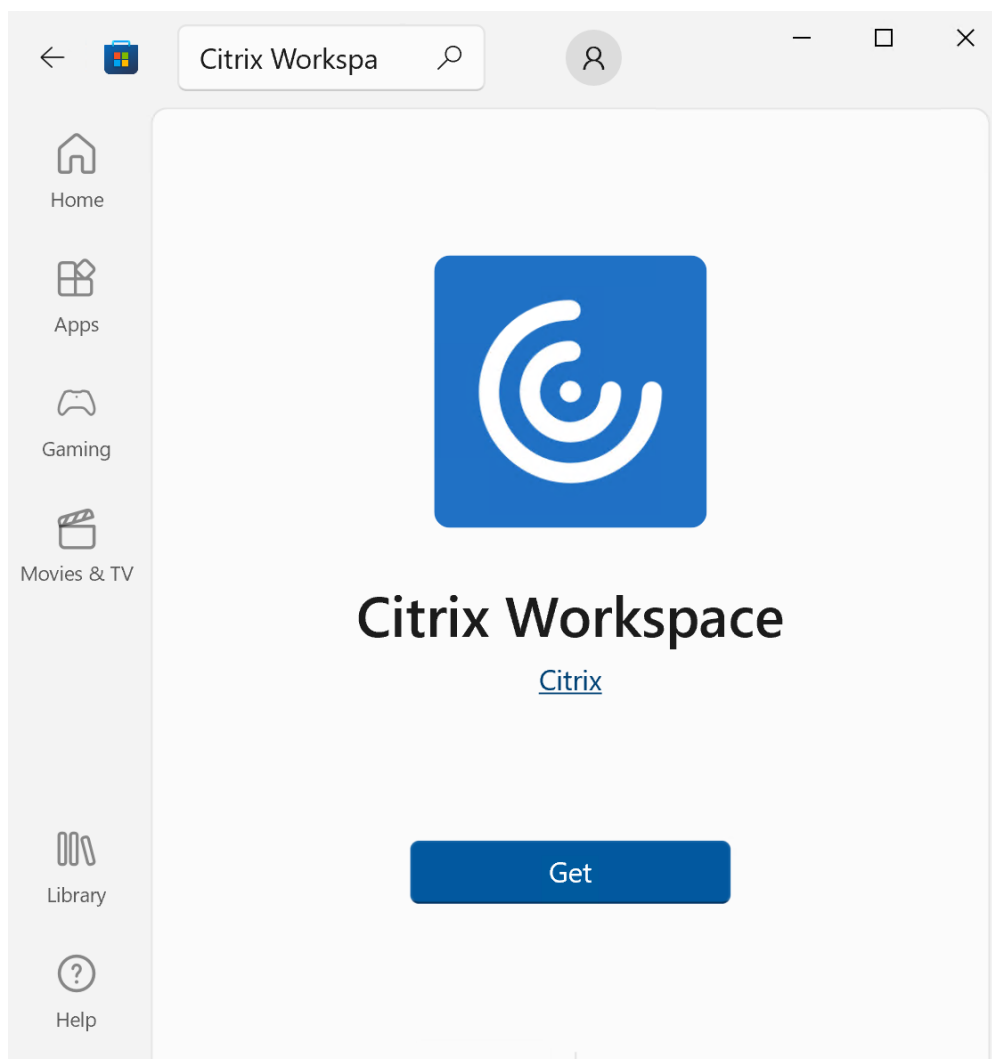


重要:

TrolleyExpressはCWAInstaller-<date and timestamp>に置き換えられます。たとえば、ログはC:\Program Files (x86)\Citrix\Logs\CTXWorkspaceInstallLogs-20231225-093441に記録されます。

Windows ストアの使用

1. Microsoft Store に移動します。
2. Citrix Workspace を検索します。



1. **[Get]** をクリックします。Citrix Workspace アプリがインストールされます。

コマンドラインベースのインストール

さまざまなコマンドラインオプションを指定して、Citrix Workspace アプリのインストーラーをカスタマイズできます。インストーラーパッケージは自己展開型であり、セットアッププログラムが起動する前にシステムの一時フォルダーに展開されます。領域要件には、プログラムファイル、ユーザーデータ、およびいくつかのアプリケーションを起動した後の一時ディレクトリが含まれます。

Windows コマンドラインを使用して Citrix Workspace アプリをインストールするには、コマンドプロンプトを起動し、次の項目を 1 行で入力します：

- インストーラーのファイル名
- インストールコマンド
- インストールプロパティ

以下は、使用可能なインストールコマンドとプロパティです：

`CitrixWorkspaceApp.exe [commands] [properties]`

コマンドラインパラメーター一覧

パラメーターは大まかに次のように分類されます：

- [一般的なパラメーター](#)
- [アップデートのパラメーター](#)
- [インストールパラメーター](#)
- [HDX 機能のパラメーター](#)
- [基本設定とユーザーインターフェイスのパラメーター](#)
- [認証パラメーター](#)

一般的なパラメーター

コマンド	説明
<code>?またはhelp</code>	すべてのインストールコマンドとプロパティを一覧表示します。
<code>/silent</code>	インストール中に、インストールに関するダイアログおよびプロンプトを表示しません。
<code>noreboot</code>	インストール中に再起動のプロンプトを表示しません。再起動プロンプトを表示しない場合、一時停止状態だった USB デバイスは認識されません。USB デバイスは、デバイスの再起動後のみアクティブ化されます。
<code>/forceinstall</code>	このスイッチは、システム上の Citrix Workspace アプリの既存の構成またはエントリをクリーンアップするときに役立ちます。このスイッチは、Citrix Workspace アプリのサポートされていないバージョンからアップグレードする場合、およびインストールまたはアップグレードが失敗した場合に使用します。

注：

`forceinstall`スイッチは、`rcu`スイッチに置き換わります。`rcu`スイッチは、バージョン 1909 で廃止されます。詳しくは、「[廃止](#)」を参照してください。

自動更新パラメーター

利用可能な更新プログラムを検出する

- コマンド: [AutoUpdateCheck](#)
- 説明: このコマンドは、Citrix Workspace アプリが利用可能な更新プログラムを検出することを示します。

設定可能な値は、次のとおりです:

AutoUpdateCheck コマンド値	説明	例
Auto (デフォルト)	更新プログラムが利用可能になると通知されます。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AutoUpdateCheck=auto。</code>
手動	更新プログラムが利用可能になっても通知されません。手動で更新をチェックします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AutoUpdateCheck=manual</code>
無効	自動更新を無効にします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AutoUpdateCheck=disabled。</code>

注:

[AutoUpdateCheck](#)は、[AutoUpdateStream](#)、[DeferUpdateCount](#)、[AURolloutPriority](#)などのほかのパラメーターを構成するために設定する必要がある必須パラメーターです。

更新プログラムのバージョンの選択

- コマンド [AutoUpdateStream](#)
- 説明 - 自動更新を有効にすると、更新するバージョンを選択できます。詳しくは、「[ライフサイクルマイルストーン](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

AutoUpdateStream コマンド値	説明	例
LTSR	長期サービスリリース (LTSR) 累積更新プログラム (CU) にのみ自動更新します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AutoUpdateStream=LTSR。</code>

AutoUpdateStream コマンド値	説明	例
最新	Citrix Workspace アプリの最新バージョンに直接、自動更新します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AutoUpdateStream=Current</code>

更新プログラムの通知の延期

- コマンド: `DeferUpdateCount`
- 説明: 更新プログラムが利用可能になった場合の通知を延期できる回数を示します。詳しくは、「[Citrix Workspace 更新プログラム](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

DeferUpdateCount コマンド値	説明	例
-1 (デフォルト)	何度でも通知を延期できます	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DeferUpdateCount=-1</code>
0	0 - 更新プログラムが利用可能になるときに 1 回 (だけ) 通知を受信します。更新プログラムについて再度通知されることはありません。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DeferUpdateCount=0</code>
任意の数の「n」	<ul style="list-style-type: none"> • 何度でも通知を延期できます。[後で通知する] オプションは、「n」回表示されます。 	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DeferUpdateCount=<n></code>

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2207 以降から、自動更新機能が改善されて、`DeferUpdateCount` パラメーターが適用されなくなりました。

ロールアウトの優先度の設定

- コマンド: `AURolloutPriority`
- 説明: 新しいバージョンのアプリが利用可能になると、特定の配信期間に更新プログラムが Citrix からロールアウトされます。このパラメーターを使用すると、配信期間中に更新プログラムを受信するタイミングを制御できます。

設定可能な値は、次のとおりです:

AURolloutPriority コマンド値	説明	例
Auto (デフォルト)	Citrix が構成した配信期間中に更新プログラムを受信します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AURolloutPriority=Auto</code>
高速	配信期間の開始時に更新プログラムを受信します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AURolloutPriority=Fast</code>
中	配信期間の中頃に更新プログラムを受信します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AURolloutPriority=Medium</code>
低速	配信期間の最後に更新プログラムを受信します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe AURolloutPriority=Slow</code>

ストア構成パラメーター

ストアの構成

- コマンド: `ALLOWADDSTORE`
- 指定されたパラメーターを基にしてストア (HTTP または https) の構成を許可します。

設定可能な値は、次のとおりです:

ALLOWADDSTORE コマンド値	説明	例
S (デフォルト)	ストアの追加や削除を許可します (HTTPS で構成されたセキュアなストアのみ)。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOWADDSTORE=S</code>
A	ストアの追加や削除を許可します (HTTPS または HTTP で構成されたストア)。Citrix Workspace アプリがユーザー単位でインストールされている場合は使用できません。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOWADDSTORE=A</code>
N	ユーザーによるストアの追加や削除を許可しません。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOWADDSTORE=N</code>

ローカルへのストア認証情報の保存

- コマンド: **ALLOWSAVEPWD**
- 説明: ストア認証情報をローカルに保存できます。このパラメーターは、Citrix Workspace アプリプロトコルを使用するストアにのみ適用されます。

設定可能な値は、次のとおりです:

ALLOWSAVEPWD コマンド値	説明	例
S (デフォルト)	(HTTPS が構成された) セキュアなストアにだけパスワードの保存を許可します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOWSAVEPWD=S</code>
N	パスワードの保存を許可しません。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOWSAVEPWD=N</code>
A	セキュアなストア (HTTPS) およびセキュアではないストア (HTTP) の両方にパスワードの保存を許可します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOWSAVEPWD=A</code>

コマンドラインインストールを使用したストア構成の例

StoreFront のストア URL を指定するには:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe /silent
2 STORE0="AppStore;https://testserver.net/Citrix/MyStore/discovery;on;HR
  App Store
3
4 <!--NeedCopy-->
```

Citrix Gateway のストア URL を指定するには:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe STORE0= HRStore;https://ag.mycompany.com#
  Storename;On;Store
2 <!--NeedCopy-->
```

ここで **Storename** は、構成する必要があるストアの名前です。

注:

- 複数ストア環境で Citrix Gateway のストア URL は 1 つだけ構成でき、その URL を一覧の先頭に指定する必要があります (パラメーターは STORE0)。
- Citrix Gateway のストア URL を上記の方法で構成した場合、Citrix Gateway を使用している PNA サービスサイトはサポートされません。
- Citrix Gateway のストア URL を指定する場合、「Discovery」パラメーターは必要ありません。

複数ストアを構成するには:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe STORE0= NetScaler Store;https://ag.mycompany.com#Storename;On;NetScaler Store
2 STORE1="StoreFront Store;https://testserver.net/Citrix/MyBackupStore/discovery;on; StoreFrontStore
3 <!--NeedCopy-->
```

注:

- パススルー認証を成功させるには、ストア URL に **discovery** を含める必要があります。
- Citrix Gateway のストア URL は、構成済みのストア URL 一覧で最初のエントリにする必要があります。

インストールパラメーター

アプリ保護の開始

- コマンド: `startAppProtection`
- 説明: アプリ保護コンポーネントを開始し、セキュリティを強化して、キーロギングや画面キャプチャマルウェアによってクライアントが侵害される可能性を抑えます。
- 例: `CitrixWorkspaceApp.exe startAppProtection`

詳しくは、「[App Protection](#)」を参照してください。

注:

`startAppProtection` スイッチは、`includeAppProtection` スイッチに置き換わります。`includeAppProtection` は廃止済みです。詳しくは、「[廃止](#)」を参照してください。

Citrix Enterprise Browser バイナリの除外

- コマンド: `InstallEmbeddedBrowser`
- 説明: Citrix Enterprise Browser バイナリを除外します。
- 例: `InstallEmbeddedBrowser=N` スイッチを実行することで、Citrix 組み込みブラウザ機能を除外します。

Citrix Enterprise Browser バイナリを除外できるのは、次の場合のみです:

- 新規インストール
- Citrix Enterprise Browser バイナリが含まれていないバージョンからのアップグレード。

Citrix Workspace アプリのバージョンに Citrix Enterprise Browser バイナリが含まれていて、バージョン 2002 にアップグレードする場合には、Citrix Enterprise Browser バイナリはアップグレード中に自動的に更新されません。

カスタムインストールディレクトリの指定

- コマンド: `INSTALLDIR`
- 説明: Citrix Workspace アプリをインストールするためのカスタムインストールディレクトリを指定します。デフォルトのパスは `C:\Program Files\Citrix` です。
- 例: `CitrixWorkspaceApp.exe INSTALLDIR=C:\custom path\Citrix`。

注:

Program Files フォルダはオペレーティングシステムによって保護されています。Program Files 以外のカスタムフォルダを使用する場合は、そのフォルダが保護されていると同時に、ユーザーがそのフォルダへの必要な権限を持っていることを確認してください。

1 つまたは複数の特定コンポーネントのインストール

- コマンド: `ADDLOCAL`
- 説明: `ADDLOCAL` キーを使用して、Citrix Workspace アプリの特定コンポーネントを 1 つまたは複数インストールします。このキーを使用して特定のコンポーネントをインストールすると、Citrix Workspace アプリにより、デフォルトですべての必須コンポーネントがインストールされます。

注:

`ADDLOCAL` キーは、Citrix Workspace アプリの特定のコンポーネントをインストールする場合にのみ使用することをお勧めします。デフォルトでは、`ADDLOCAL` パラメーターが指定されていない場合、Citrix Workspace アプリのインストール中に、サポートされているすべてのコンポーネントがインストールされません。

次の表に、`ADDLOCAL` キーがサポートするコンポーネントを示します:

ADDLOCAL キー	コンポーネント名	説明
<code>ReceiverInside</code>	Receiver	Self-service Plug-in にワークスペース SDK サービスを提供します。
<code>ICA_Client</code>	HDX Engine	このコンポーネントは、ICA ファイルまたはセッションの起動プロセスを処理します。
<code>BCR_Client</code>	BCR client	ブラウザーコンテンツのリダイレクトを処理するプラグイン。
<code>USB</code>	USB Client	USB リダイレクトを処理するプラグイン。
<code>DesktopViewer</code>	Desktop Viewer Client	仮想デスクトップの UI フレームワーク。

ADDLOCAL キー	コンポーネント名	説明
AM	AuthManager	Authentication Manager - Citrix Workspace アプリに対してユーザーを承認します。
SSON	SSON	シングルサインオンコンポーネント - シングルサインオンをサポートします。
SELSERVICE	セルフサービス	ネイティブ起動用の Citrix Workspace のプラグイン。
WebHelper	Web Helper	ブラウザをネイティブワークスペースアプリに接続するためのヘルパー。
CitrixEnterpriseBrowser	ブラウザ	ユーザーは Citrix Workspace アプリから安全な方法で Web アプリまたは SaaS アプリを開くことができるネイティブブラウザ。
EPAClient	EPA クライアント	エンドポイント解析スキャンを実行するためのプラグイン。

たとえば、次のコマンドを使用して、コマンドに記載されているコンポーネントをインストールできます：

```
1 CitrixWorkspaceapp.exe ADDLOCAL=ReceiverInside,ICA_Client,BCR_Client,
  USB,DesktopViewer,AM,SSON,SelfService,WebHelper,
  CitrixEnterpriseBrowser
2 <!--NeedCopy-->
```

注：

App Protection 機能がデフォルトでインストールされます。その結果、AppProtectionは ADDLOCAL の有効なオプションではなくなりました。

Citrix Casting のインストール

重要：

Citrix Workspace アプリ LTSR バージョン 2402 以降では、IncludeCitrixCasting コマンドを使用しても Citrix Casting をインストールできません。この機能を使用するには、Citrix Workspace アプリの古いバージョンを使用する必要があります。詳しくは、「[廃止](#)」ページを参照してください。

- コマンド: `IncludeCitrixCasting`
- 説明: コンポーネントのインストール中に Citrix Casting をインストールします。

Citrix Casting について詳しくは、[Citrix Casting](#)に関するセクションを参照してください。

HDX 機能のパラメーター

コンテンツの双方向へのリダイレクトの設定

- コマンド: [ALLOW_BIDIRCONTENTREDIRECTION](#)
- 説明: コンテンツの、クライアントとホスト間での双方向のリダイレクトを有効化するかどうかを示します。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops のドキュメントで「[双方向のコンテンツリダイレクトのポリシー設定](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

ALLOW_BIDIRCONTENTREDIRECTION

コマンド値	説明	例
0 (デフォルト)	コンテンツの双方向へのリダイレクトを無効化します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOW_BIDIRCONTENTREDIRECTION=0</code>
1	コンテンツの双方向へのリダイレクトを有効化します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ALLOW_BIDIRCONTENTREDIRECTION=1</code>

ローカルアプリアクセスの設定

- コマンド: [FORCE_LAA](#)
- 説明: Citrix Workspace アプリはクライアント側ローカルアプリアクセスのコンポーネントとともにインストールされます。このコンポーネントを動作させるには、管理者権限で Workspace アプリをインストールします。詳しくは、「製品ドキュメント」の「Citrix Virtual Apps and Desktops」の項にある「[ローカルアプリアクセスと URL リダイレクト](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

FORCE_LAA コマンド値	説明	例
0 (デフォルト)	ローカルアプリアクセスのコンポーネントをインストールしないことを示します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe FORCE_LAA =0</code>
1	クライアント側ローカルアプリアクセスのコンポーネントをインストールします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe FORCE_LAA =1</code>

ユーザーデバイスの **URL** リダイレクト機能の設定

- コマンド: [ALLOW_CLIENTHOSTEDAPPSURL](#)
- ユーザーデバイスの URL リダイレクト機能を有効にします。詳しくは、「製品ドキュメント」の「Citrix Virtual Apps and Desktops」の項にある「[ローカルアプリアクセスと URL リダイレクト](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

ALLOW_CLIENTHOSTEDAPPSURL

コマンド値	説明	例
0 (デフォルト)	ユーザーデバイスの URL リダイレクト機能を無効にします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe</code> <code>ALLOW_CLIENTHOSTEDAPPSURL=0</code>
1	ユーザーデバイスの URL リダイレクト機能を有効にします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe</code> <code>ALLOW_CLIENTHOSTEDAPPSURL=1</code>

ドキュメントまたはファイルのアイコンの表示

- コマンド: [LEGACYFTAICONS](#)
- 説明: サブスクライブするアプリケーションに関連付けられているファイルタイプのドキュメントまたはファイルに、そのアプリケーションのアイコンを表示するかどうかを指定します。

設定可能な値は、次のとおりです:

LEGACYFTAICONS コマンド値	説明	例
False (デフォルト)	サブスクライブするアプリケーションに関連付けられているファイルタイプのドキュメントまたはファイルに、そのアプリケーションのアイコンが表示されません。False に設定すると、特定のアイコンが割り当てられていないドキュメントのアイコンがオペレーションシステムで生成されます。生成されたアイコンでは、標準的なアイコン上にアプリケーションの小さいアイコンが重なって表示されます。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe LEGACYFTAICONS=False</code>
True	サブスクライブするアプリケーションに関連付けられているファイルタイプのドキュメントまたはファイルに、そのアプリケーションのアイコンが表示されません。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe LEGACYFTAICONS=True</code>

基本設定とユーザーインターフェイスのパラメーター

[スタート] メニューとデスクトップの上にあるショートカットのディレクトリの指定

コマンド値	説明	ディレクトリ名	例
<code>CitrixWorkspaceApp.exe STARTMENUDIR</code>	[スタート] メニューのショートカットのディレクトリを指定します。	デフォルトでは、[スタート] > [すべてのプログラム] の下にアプリケーションのショートカットが追加されます。ショートカットを配置するフォルダーを <code>Programs</code> からの相対パスで指定します。	たとえば、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Workspace] にショートカットを配置するには、「 <code>STARTMENUDIR=Workspace</code> 」と指定します。

コマンド値	説明	ディレクトリ名	例
<code>CitrixWorkspaceApp.exe DESKTOPDIR</code>	デスクトップのショートカット用ディレクトリを指定します。	ショートカットは相対パスで指定できます。	たとえば、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Workspace] にショートカットを配置するには、「DESKTOPDIR=Workspace」と指定します。

注：
DESKTOPDIR オプションを使用するときは、`PutShortcutsOnDesktop` キーを `True` に設定します。

セルフサービスへのアクセスの制御

- コマンド: `SELFSERVICEMODE`
- 説明: セルフサービスの Citrix Workspace アプリのユーザーインターフェイスに対するアクセスを制御します。

設定可能な値は、次のとおりです:

SELFSERVICEMODE コマンド値	説明	例
True	ユーザーはセルフサービスのユーザーインターフェイスにアクセスできます。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe SELFSERVICEMODE=True</code>
False	ユーザーはセルフサービスのユーザーインターフェイスにアクセスできません。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe SELFSERVICEMODE=False</code>

セッションの事前起動の制御

- コマンド: `ENABLEPRELAUNCH`
- 説明: セッションの事前起動を制御します。詳しくは、「[Application launch time](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

ENABLEPRELAUNCH コマンド値	説明	例
True	セッションの事前起動が有効です。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ENABLEPRELAUNCH=True</code>
False	セッションの事前起動が無効です。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe ENABLEPRELAUNCH=False</code>

[ショートカット] および [再接続] オプションの非表示

- コマンド: [DisableSetting](#)
- 説明: [高度な設定] シートに [ショートカット] および [再接続] オプションが表示されないようにします。詳しくは、「[\[高度な設定\] シートから特定の設定を非表示にする](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

DisableSetting コマンド値	説明	例
0 (デフォルト)	[高度な設定] シートに [ショートカット] と [再接続] の両方のオプションを表示します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DisableSetting=0</code>
1	[高度な設定] シートに [再接続] オプションを表示します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DisableSetting=1</code>
2	[高度な設定] シートに [ショートカット] オプションを表示します。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DisableSetting=2</code>
3	[高度な設定] シートに [ショートカット] と [再接続] の両方のオプションが表示されないようにします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe DisableSetting=3</code>

カスタマーエクスペリエンス向上プログラムの有効化

- コマンド: [EnableCEIP](#)
- 説明: カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) に参加することを示します。詳しくは、「[カスタマーエクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\) について](#)」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

EnableCEIP コマンド値	説明	例
True (デフォルト)	カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) へのオプトイン	<code>CitrixWorkspaceApp.exe EnableCEIP=True</code>
False	Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラムからのオプトアウト	<code>CitrixWorkspaceApp.exe EnableCEIP=False</code>

常時トレースの有効化

- コマンド: `EnableTracing`
- 説明: 常時トレース機能を制御します。

設定可能な値は、次のとおりです:

EnableTracing コマンド値	説明	例
True (デフォルト)	常時トレース機能を有効にします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe EnableTracing=true</code>
False	常時トレース機能を無効にします。	<code>CitrixWorkspaceApp.exe EnableTracing=false</code>

ユーザーデバイスを識別するための名前の指定

- コマンド: `CLIENT_NAME`
- 説明: サーバーでユーザーデバイスを識別するために使用される名前を指定します。
- `<ClientName>` - サーバーでユーザーデバイスを識別するために使用される名前です。デフォルト名は `%COMPUTERNAME%` です。
- 例: `CitrixReceiver.exe CLIENT_NAME=%COMPUTERNAME%`

クライアント名へのコンピューター名と同じ名前の設定

- コマンド: `ENABLE_DYNAMIC_CLIENT_NAME`
- 説明: クライアント名をコンピューター名と同じ名前にすることができます。この場合、ユーザーがコンピューター名を変更すると、クライアント名もそれに応じて変更されます。

設定可能な値は、次のとおりです:

ENABLE_DYNAMIC_CLIENT_NAME

コマンド値	説明	例
はい (デフォルト)	クライアント名をコンピューター名と同じ名前にすることができます。	CitrixWorkspaceApp.exe ENABLE_DYNAMIC_CLIENT_NAME=Yes
いいえ	クライアント名をコンピューター名と同じ名前にできません。 CLIENT_NAMEプロパティの値を指定します。	CitrixWorkspaceApp.exe ENABLE_DYNAMIC_CLIENT_NAME=No

認証パラメーター

シングルサインオンの追加

- コマンド: `/includeSSON`
- 説明: 管理者としてインストールする必要があります。Citrix Workspace アプリはシングルサインオンコンポーネントとともにインストールされます。詳しくは、「[ドメインパススルー認証]」(</en-us/citrix-workspace-app-for-windows/authentication#domain-pass-through-authentication>) を参照してください。
- 例: `CitrixWorkspaceApp.exe /includeSSON`

注:

`includeSSON` コマンドでは、Citrix Workspace アプリの新規インストールだけがサポートされています。

シングルサインオンの有効化

- コマンド: `ENABLE_SSON`
- Citrix Workspace アプリが `/includeSSON` コマンドでインストールされた場合、シングルサインオンを有効にします。詳しくは、「[ドメインパススルー認証]」を参照してください。

設定可能な値は、次のとおりです:

ENABLE_SSON コマンド値	説明	例
はい (デフォルト)	シングルサインオンが有効であることを示します。	CitrixWorkspaceApp.exe ENABLE_SSON=Yes
いいえ	シングルサインオンが無効になります。	CitrixWorkspaceApp.exe ENABLE_SSON=No

Citrix Workspace アプリのアンインストール

Windows ベースのアンインストーラーを使用したアンインストール

コントロールパネルから Windows 向け Citrix Workspace アプリをアンインストールできます。詳しくは、「[Windows 向け Citrix Workspace アプリのアンインストール](#)」セクションを参照してください。

注:

Citrix Workspace アプリのインストール中、Citrix HDX RTME パッケージのアンインストールを求めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックしてアンインストールを続行します。

コマンドラインインターフェイスを使用したアンインストール

ユーザーは、コマンドラインから以下のコマンドを実行して Citrix Workspace アプリをアンインストールすることもできます:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe /uninstall
2 <!--NeedCopy-->
```

Citrix Workspace アプリをサイレントアンインストールするには、次のスイッチを実行します:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe /silent /uninstall
2 <!--NeedCopy-->
```

注:

Citrix Workspace アプリインストーラーは GPO 関連のレジストリキーを制御していないため、アンインストール後も保持されます。エントリが見つかった場合は、[gpedit](#) を使用して更新するか、手動で削除してください。

トラブルシューティング

エラーコード

- インストーラー関連のエラーコードについては、「[MsiExec.exe および InstMsi.exe のエラーメッセージ](#)」を参照してください。
- システム関連のエラーコードについては、「[System Error Codes \(0-499\)](#)」を参照してください。

インストーラーログの場所

デフォルトでは、インストーラーログは次の場所にあります:

	インストールログフォルダー	インストールの種類
管理者	64 ビットの場合: C:\Program Files (x86)\Citrix\Logs。32 ビットの場合: C:\Program Files\Citrix\ICA Client	システムごとのインストール
ユーザー	%USERPROFILE%\AppData\Local\Citrix\Logs	ユーザーごとのインストール

注:

TrolleyExpressはCWAInstaller-<date and timestamp>に置き換えられます。たとえば、ログはC:\Program Files (x86)\Citrix\Logs\CTXWorkspaceInstallLogs-20231225-093441に記録されます。

トラブルシューティング

エラーコード

- インストーラー関連のエラーコードについては、「[MsiExec.exe および InstMsi.exe のエラーメッセージ](#)」を参照してください。
- システム関連のエラーコードについては、「[System Error Codes \(0-499\)](#)」を参照してください。

インストーラーログの場所

デフォルトでは、インストーラーログは次の場所にあります:

	インストールログフォルダー	インストールの種類
管理者	64 ビットの場合: C:\Program Files (x86)\Citrix\Logs。32 ビットの場合: C:\Program Files\Citrix\ICA Client	システムごとのインストール
ユーザー	%USERPROFILE%\AppData\Local\Citrix\Logs	ユーザーごとのインストール

Citrix Workspace アプリのリセット

Citrix Workspace アプリをリセットすると、デフォルト設定が復元されます。

Citrix Workspace アプリのリセットにより、次のアイテムがリセットされます。

- 構成されたすべてのアカウントとストア。
- Self-service Plug-in によって配信されたアプリ、それらのアイコンとレジストリキー。
- Self-service Plug-in によって作成されたファイルタイプの関連付け。
- キャッシュされたファイルと保存されたパスワード。
- ユーザーごとのレジストリ設定。
- マシンごとのインストール、およびそれらのレジストリ設定。
- Citrix Workspace アプリの Citrix Gateway レジストリ設定。

コマンドラインインターフェイスから次のコマンドを実行して、Citrix Workspace アプリをリセットします：

```
1 "C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client\SelfServicePlugin\CleanUp.exe  
   " -cleanUser  
2 <!--NeedCopy-->
```

サイレントリセットには、次のコマンドを使用します：

```
1 "C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client\SelfServicePlugin\CleanUp.exe  
   " /silent -cleanUser  
2 <!--NeedCopy-->
```

注：

パラメーターに大文字の U を使用します。

Citrix Workspace アプリをリセットしても、以下には影響しません：

- Citrix Workspace アプリまたはプラグインのインストール。
- マシンごとの ICA のロックダウン設定。
- Citrix Workspace アプリのグループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレートの構成。

展開

June 14, 2024

次のいずれかの方法で Citrix Workspace アプリを展開できます：

- Active Directory およびサンプルスタートアップスクリプトを使用して Windows 向け Citrix Workspace アプリを展開します。Active Directory については詳しくは、「[Active Directory とサンプルスクリプトの使用](#)」を参照してください。
- Workspace for Web 起動する前に、Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールします。詳しくは、「[Workspace for Web の使用](#)」を参照してください。
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2 などの電子ソフトウェア配信（ESD）ツールを使用します。詳しくは、「[System Center 2012 R2 Configuration Manager の使用](#)」を参照してください。

- Microsoft Endpoint Manager (Intune) を使用します。詳しくは、「[Microsoft Endpoint Manager \(Intune\) への Citrix Workspace アプリの展開](#)」を参照してください。

Active Directory とサンプルスクリプトの使用

Active Directory のグループポリシースクリプトを使用し、所属する組織の構造に基づいて Citrix Workspace アプリを展開することができます。Citrix では、.msi ファイルの展開ではなくスクリプトの使用をお勧めします。スタートアップスクリプトの概要については、[Microsoft 社のドキュメント](#)を参照してください。

Active Directory でスクリプトを使用するには：

1. 各スクリプトの組織単位を作成します。
2. 新しく作成した組織単位のグループポリシーオブジェクトを作成します。

Azure Active Directory で組織単位を作成する方法については、「[Azure Active Directory Domain Services のマネージドドメインに組織単位 \(OU\) を作成する](#)」を参照してください。

スクリプトの編集

各ファイルのヘッダーセクションにあるスクリプトの次のパラメーターを編集します：

- **CURRENT VERSION OF PACKAGE** (パッケージの現在のバージョン) - ここに指定するバージョン番号が検証され、そのバージョンが存在しない場合は展開 (インストール) が開始されます。たとえば、`DesiredVersion= 3.3.0.XXXX`に、展開するバージョンの番号を指定します。バージョンの一部 (たとえば 3.3.0) を指定すると、その接頭辞を持つすべてのバージョン (3.3.0.1111、3.3.0.7777 など) に一致します。
- **PACKAGE LOCATION/DEPLOYMENT DIRECTORY** (パッケージの場所/展開ディレクトリ) - Citrix Workspace アプリインストーラーパッケージを格納するネットワーク共有を指定します。この共有にアクセスするための認証はスクリプトで実行しません。共有フォルダーで読み取りアクセス許可を EVERYONE に設定する必要があります。
- **SCRIPT LOGGING DIRECTORY** (スクリプトのログディレクトリ) - インストールログをコピーし、スクリプトが認証しなかったものが含まれるネットワーク共有です。共有フォルダーに Everyone の読み取り/書き込みアクセス許可を設定する必要があります。
- **PACKAGE INSTALLER COMMAND LINE OPTIONS** (パッケージインストーラーのコマンドラインオプション) - インストーラーに渡すコマンドラインオプションです。コマンドライン構文については、「[コマンドラインパラメーターの使用](#)」を参照してください。

スクリプト

Citrix Workspace アプリインストーラーには、Citrix Workspace アプリのインストールおよびアンインストール用のコンピューター単位およびユーザー単位でのサンプルスクリプトの両方が含まれています。スクリプトは、Windows 向け Citrix Workspace アプリのページから[ダウンロード](#)できます。

展開の種類	展開する	削除する
コンピューター単位	CheckAndDeployWorkspacePerMachineStartWorkspacePerMachine.bat	CheckAndRemoveWorkspacePerMachine.bat
ユーザー単位	CheckAndDeployWorkspacePerUserStartWorkspacePerUser.bat	CheckAndRemoveWorkspacePerUser.bat

スタートアップスクリプトを追加するには:

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [コンピューターの構成] または [ユーザーの構成] > [ポリシー] > [Windows の設定] > [スクリプト] の順に選択します。
3. グループポリシー管理コンソールの右ペインで [ログオン] を選択します。
4. [ファイルの表示] を選択して適切なスクリプトを表示されたフォルダーにコピーし、ダイアログボックスを閉じます。
5. [スタートアップのプロパティ] ダイアログボックスで [追加] をクリックし、[参照] をクリックして新しく作成したスクリプトを検索し追加します。

Windows 向け Citrix Workspace アプリを展開するには:

1. 作成した OU (組織単位) に展開対象の、割り当てられているユーザーデバイスを移動します。
2. ユーザーデバイスを再起動してログオンします。
3. 新しくインストールしたパッケージが [プログラムと機能] に表示されることを確認します。

Windows 向け Citrix Workspace アプリを削除するには:

1. 作成した組織単位に、削除対象として選択したユーザーデバイスを移動します。
2. ユーザーデバイスを再起動してログオンします。
3. 新しくインストールしたパッケージが [プログラムと機能] に表示されないことを確認します。

Workspace for Web の使用

Workspace for Web を使用すると、ユーザーはブラウザーの Web ページを経由して StoreFront ストアにアクセスできます。

ブラウザーからアプリに接続する前に、次の操作を実行します:

1. Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールします。
2. Workspace for Web を使用した Citrix Workspace アプリの展開

Workspace for Web で適切なバージョンの Citrix Workspace アプリがインストールされていないことが検出されると、プロンプトが表示されます。プロンプトには、Windows 向け Citrix Workspace アプリをダウンロードしてインストールする必要があることが表示されます。

注:

Web 向けワークスペースは、メールアドレスによるアカウント検出をサポートしていません。

ユーザーの混乱を避けるため、サーバーアドレスの入力のみが求められるようにします。

1. `CitrixWorkspaceApp.exe`をローカルコンピューターにダウンロードします。
2. `CitrixWorkspaceApp.exe`を`CitrixWorkspaceAppWeb.exe`という名前に変更します。
3. 名前を変更した実行可能ファイルを通常の方法で展開します。StoreFront を使用している場合は、StoreFront のドキュメントの「[構成ファイルを使った StoreFront の構成](#)」を参照してください。

Microsoft System Center 2012 R2 Configuration Manager の使用

Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) を使用して、Citrix Workspace アプリを展開できます。

次の 4 段階で SCCM を使用して Citrix Workspace アプリを展開できます:

1. Citrix Workspace アプリを SCCM 展開環境に追加する
2. 配布ポイントを追加する
3. Citrix Workspace アプリをソフトウェアセンターに展開する
4. デバイスコレクションを作成する

Citrix Workspace アプリを SCCM 展開環境に追加する

1. ダウンロードした Citrix Workspace アプリのインストールフォルダーを Configuration Manager サーバー上のフォルダーにコピーして、Configuration Manager コンソールを起動します。
2. [ソフトウェアライブラリ]、[アプリケーション管理] の順に選択します。[アプリケーション] を右クリックして、[アプリケーションの作成] を選択します。
アプリケーションの作成ウィザードが開きます。
3. [全般] ページで [アプリケーションの情報を手動で指定する] をクリックし、[次へ] をクリックします。
4. [一般情報] ペインで、アプリケーションの情報 (名前、製造元、ソフトウェアバージョンなど) を指定します。
5. [アプリケーションカタログ] ウィザードで、追加の情報 (言語、アプリケーション名、ユーザーカテゴリなど) を指定して、[次へ] をクリックします。

注:

ユーザーはここで指定した情報を表示できます。

6. [展開の種類] ペインで、[追加] を選択して Windows 向け Citrix Workspace アプリのセットアップで展開の種類を構成します。
展開の種類の作成ウィザードが開きます。

7. [全般] ペイン: 展開の種類を Windows インストーラー (*.msi ファイル) に設定し、[展開の種類の手動で指定する] を選択して、[次へ] をクリックします。
8. [一般情報] ペイン: 展開の種類の詳細 (例: Workspace の展開) を指定して、[次へ] をクリックします。
9. [コンテンツ] ペイン:
 - a) Citrix Workspace アプリセットアップファイルのある場所へのパスを指定します。例: SCCM サーバー上のツール。
 - b) [インストールプログラム] に次のいずれかを指定します:
 - `CitrixWorkspaceApp.exe /silent`を指定して、サイレントインストールする。
 - `CitrixWorkspaceApp.exe /silent /includeSSON`を指定して、ドメインパススルーを有効にする。
 - `CitrixWorkspaceApp.exe /silent SELFSERVICEMODE=false`を指定して、セルフサービスモード以外で Citrix Workspace アプリをインストールします。
 - c) [アンインストールプログラム] に `CitrixWorkspaceApp.exe /silent /uninstall` を指定します (SCCM でのアンインストールを有効にする)。
10. [検出方法] ペイン: [この展開の種類のパレゼンスを検出する規則を構成する] を選択して [句の追加] をクリックします。

[検出方法] ダイアログボックスが開きます。

 - [設定の種類] をファイルシステムに設定します。
 - [このアプリケーションを検出するためのファイルまたはフォルダーを指定してください] で、次のように設定します:
 - 種類 - ドロップダウンメニューから、[ファイル] を選択します。
 - パス - `%ProgramFiles(x86)%\Citrix\ICA Client\Receiver\`
 - ファイル名またはフォルダー名 - `receiver.exe`
 - プロパティ - ドロップダウンメニューで [バージョン] を選択します
 - 演算子 - ドロップダウンメニューで [次のもの以上] を選択します
 - 値 - 現在の Citrix Workspace アプリのバージョン番号を入力します

注:

この規則の組み合わせは、Windows 向け Citrix Workspace アプリのアップグレードにも適用されません。

11. [ユーザー側の表示と操作] ペインで、次の値を設定します:
 - [インストールの動作] - [システム用にインストールする]
 - [必要なログオン状態] - [ユーザーのログオン状態に関係なし]
 - [インストールプログラムの表示] - [通常][次へ] をクリックします。

注:

この展開の種類には、要件や依存関係を指定しないでください。

12. [概要] ペインで、この展開の種類の設定を確認します。[次へ] をクリックします。
成功メッセージが表示されます。
13. [完了] ペインの [展開の種類] 一覧に新しい展開の種類 (Workspace の展開) が表示されます。
14. [次へ] をクリックして、[閉じる] をクリックします。

配布ポイントを追加する

1. [**Configuration Manager**] コンソールで Citrix Workspace アプリを右クリックして、[コンテンツの配布] を選択します。
コンテンツの配布ウィザードが開きます。
2. [コンテンツの配布] ペインで、[追加] > [配布ポイント] を選択します。
[配布ポイントの追加] ダイアログボックスが開きます。
3. コンテンツが利用可能な SCCM サーバーに移動して、[OK] をクリックします。
[完了] ペインで、成功メッセージが表示されます。
4. [閉じる] をクリックします。

Citrix Workspace アプリをソフトウェアセンターに展開する

1. Configuration Manager コンソールで Citrix Workspace アプリを右クリックして、[展開] を選択します。
ソフトウェアの展開ウィザードが開きます。
2. アプリケーションを展開するコレクション (デバイスコレクションまたはユーザーコレクション) を検索して、[次へ] をクリックします。
3. [展開設定] ペインで [アクション] を [インストール] に [目的] を [必須] に設定します (無人インストールを有効にする)。[次へ] をクリックします。
4. [スケジュール] ペインで、対象のデバイスでソフトウェアを展開するスケジュールを指定します。
5. [ユーザー側の表示と操作] ペインで、[ユーザーへの通知] 動作を設定します。[メンテナンスの期限または期間中の変更を確定する (再起動が必要)] を選択し、[次へ] をクリックしてソフトウェアの展開ウィザードを終了します。

[完了] ペインで、成功メッセージが表示されます。

対象のエンドポイントデバイスを再起動します (すぐにインストールを開始する場合のみ必要)。

エンドポイントデバイスの Citrix Workspace アプリは、利用可能なソフトウェアのソフトウェアセンターに表示されます。構成されたスケジュールに基づいて、自動的にインストールが開始します。オンデマンドでスケジュール設定したり、インストールしたりすることもできます。インストールの状態は、インストールの開始後、ソフトウェアセンターに表示されます。

デバイスコレクションを作成する

1. **Configuration Manager** コンソールを起動して、[資産とコンプライアンス] > [概要] > [デバイス] の順にクリックします。
2. [デバイスコレクション] を右クリックして、[デバイスコレクションの作成] を選択します。
デバイスコレクションの作成ウィザードが開きます。
3. [全般] ペインでデバイスの [名前] を入力して、[参照] をクリックして制限するコレクションを選択します。
これによって、デバイスの対象が決定されます。SCCM で作成されるデフォルトのデバイスコレクションの場合もあります。
[次へ] をクリックします。
4. [メンバーシップの規則] ペインで、[規則の追加] を選択してデバイスを絞り込みます。
ダイレクトメンバーシップの規則の作成ウィザードが開きます。
 - [リソースの検索] ペインで、絞り込みたいデバイスに基づいて [属性名] を選択し、属性名を入力して、デバイスを選択します。
5. [次へ] をクリックします。[リソースの選択] ペインで、デバイスコレクションの一部にする必要があるデバイスを選択します。
[完了] ペインで、成功メッセージが表示されます。
6. [閉じる] をクリックします。
7. [メンバーシップの規則] ペインで、新しい規則の一覧が [次へ] をクリックの下に表示されます。
8. [完了] ペインで、成功メッセージが表示されます。[閉じる] をクリックして、デバイスコレクションの作成ウィザードを完了します。
[デバイスコレクション] の一覧に新しいデバイスコレクションが表示されます。新しいデバイスコレクションは、[ソフトウェアの展開] ウィザードの参照中のデバイスコレクションの一部です。

注:

MSIRESTARTMANAGERCONTROL 属性を **False** に設定した場合、SCCM を使用して Citrix Workspace アプリを構成すると失敗することがあります。

分析によると、Windows 向け Citrix Workspace アプリはこのエラーの原因ではありません。再試行で展開が成功することがあります。

Microsoft Endpoint Manager (Intune) への Citrix Workspace アプリの展開

Citrix Workspace アプリ (Microsoft Endpoint Manager (Intune) のネイティブ Win32 アプリ) を展開するには、次の手順を実行します:

1. 次のフォルダーを作成します:
 - インストールに必要なすべてのソースファイルを保存するフォルダー (例: `C:\CitrixWorkspace_Executable`)。
 - 出力ファイル用のフォルダー。出力ファイルは `.intunewin` ファイルにあります (例: `C:\Intune_CitrixWorkspaceApp`)。
 - Microsoft Win32 コンテンツ準備ツールのフォルダー (例: `C:\Intune_WinAppTool`)。このツールは、インストールファイルを `.intunewin` 形式に変換するのに役立ちます。パッケージ化ツールは、[Microsoft-Win32-Content-Prep-Tool](#) からダウンロードできます。
2. インストールに必要なすべてのソースファイルを `.intunewin` ファイルに変換します:
 - a) コマンドプロンプトを起動し、Microsoft Win32 コンテンツ準備ツールが存在するフォルダー (例: `C:\Intune_WinAppTool`) に移動します。
 - b) `IntuneWinAppUtil.exe` コマンドを実行します。
 - c) プロンプトで、次の情報を入力します:
 - ソースフォルダー: `C:\CitrixWorkspace_Executable`
 - セットアップファイル: `CitrixWorkspaceApp.exe`
 - 出力フォルダー: `C:\Intune_CitrixWorkspaceApp`
`.intunewin` ファイルが作成されます。
3. パッケージを Microsoft Endpoint Manager (Intune) に追加します:
 - a) Microsoft Endpoint Manager (Intune) コンソールを開きます: <https://endpoint.microsoft.com/#home>。

注:

以下の手順は <https://endpoint.microsoft.com/#home> でのみ実行できます。
<https://portal.azure.com> を使用してパッケージを追加することもできます。
 - b) **[Apps]** > **[Windows app]** を選択してから、**[+Add]** をクリックします。
 - c) **[App type]** ドロップダウンリストから **[Windows app (Win 32)]** を選択します。
 - d) **[App package file]** をクリックし、`CitrixWorkspaceApp.intunewin` ファイルを見つけて、**[OK]** をクリックします。
 - e) **[App information]** をクリックし、必須の情報、**[Name]**、**[Description]**、**[Publisher]** を入力して、**[OK]** をクリックします。

f) **[Program]** をクリックし、次の情報を入力して、**[OK]** をクリックします:

- インストールコマンド: `CitrixWorkspaceApp.exe /silent`
- アンインストールコマンド: `CitrixWorkspaceApp.exe /uninstall`
- インストール動作: システム

g) **[Requirement]** をクリックし、必要な情報を入力して、**[OK]** をクリックします。

注:

[Operating System Architecture] リストから [x64] と [x32] の両方を選択します。オペレーティングシステムのバージョンは、Win 1607 以降であれば何でもかまいません。

h) **[Detection rules]** をクリックし、**[Rules format]** として **[Manually configure detection rules]** を選択してから、**[OK]** をクリックします。

i) **[Add]** をクリックし、必要な **[Rule type]** を選択してから、**[OK]** をクリックします。

- **[Rule type]** が **[File]** の場合、パスはたとえば「`C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client\wfica32.exe`」になります。
- **[Rule type]** が **[Registry]** なら、**[Path]** として「`HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix`」を入力し、**[Detection method]** として **[Key exists]** を選択します。

j) **[Return codes]** をクリックし、デフォルトのリターンコードが有効かどうかを確認して、**[OK]** をクリックします。

k) **[Add]** をクリックして、アプリを Intune に追加します。

4. 展開が成功したことを確認します:

a) **[Home]** > **[Apps]** > **[Windows]** をクリックします。

b) **[Device install status]** をクリックします。

デバイスステータスでは、Citrix Workspace アプリがインストールされているデバイスの数が表示されます。

ストア構成

June 14, 2024

ストア

この記事は、Citrix Workspace アプリのインストール後、環境をセットアップする場合に参照できます。

ストアは、ユーザーが使用できるアプリケーションとデスクトップを 1 つの場所に集約します。ユーザーは複数のストアを持ち、必要に応じてストアを切り替えることができます。管理者は、リソースと設定が事前に構成されたストア URL を配信します。ストアには、Citrix Workspace アプリからアクセスできます。

ストアの種類

Citrix Workspace アプリでは、Workspace、StoreFront、Citrix Gateway ストア、およびカスタム Web ストアを追加できます。

ワークスペース

Citrix Workspace は、場所とデバイスを選ばず、アプリ、デスクトップ、およびコンテンツ（リソース）へのセキュアで統合されたアクセスを提供する、クラウドベースのエンタープライズアプリストアです。これらのリソースには、Citrix DaaS、コンテンツアプリ、ローカルアプリとモバイルアプリ、SaaS アプリと Web アプリ、ブラウザアプリなどがあります。詳しくは、「[Citrix Workspace の概要](#)」を参照してください。

StoreFront

StoreFront は、Citrix Virtual Apps and Desktops サイトからアプリケーションとデスクトップを集約して、使いやすい単一のストアとして機能するオンプレミスのエンタープライズアプリストアです。

詳しくは、[StoreFront](#)のドキュメントを参照してください。

Citrix Gateway Store

ユーザーが内部ネットワークの外から接続できるように Citrix Gateway を構成します。たとえば、インターネットやリモートの場所から接続するユーザーです。

カスタム **Web** ストア

この機能では、Windows 向け Citrix Workspace アプリから組織のカスタム Web ストアへのアクセスが可能になります。この機能を使用するには、管理者は Global App Configuration Service で許可されている URL に、ドメインまたはカスタム Web ストアを追加する必要があります。

エンドユーザー向けの Web ストア URL の構成について詳しくは、「[Global App Configuration Service](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリの [アカウントの追加] 画面でカスタム Web ストアの URL を指定できます。カスタム Web ストアはネイティブの Citrix Workspace アプリウィンドウで開きます。

カスタム Web ストアを削除するには、[アカウント] > [アカウントの追加または削除] に移動して、カスタム Web ストアの URL を選択し、[削除] をクリックします。

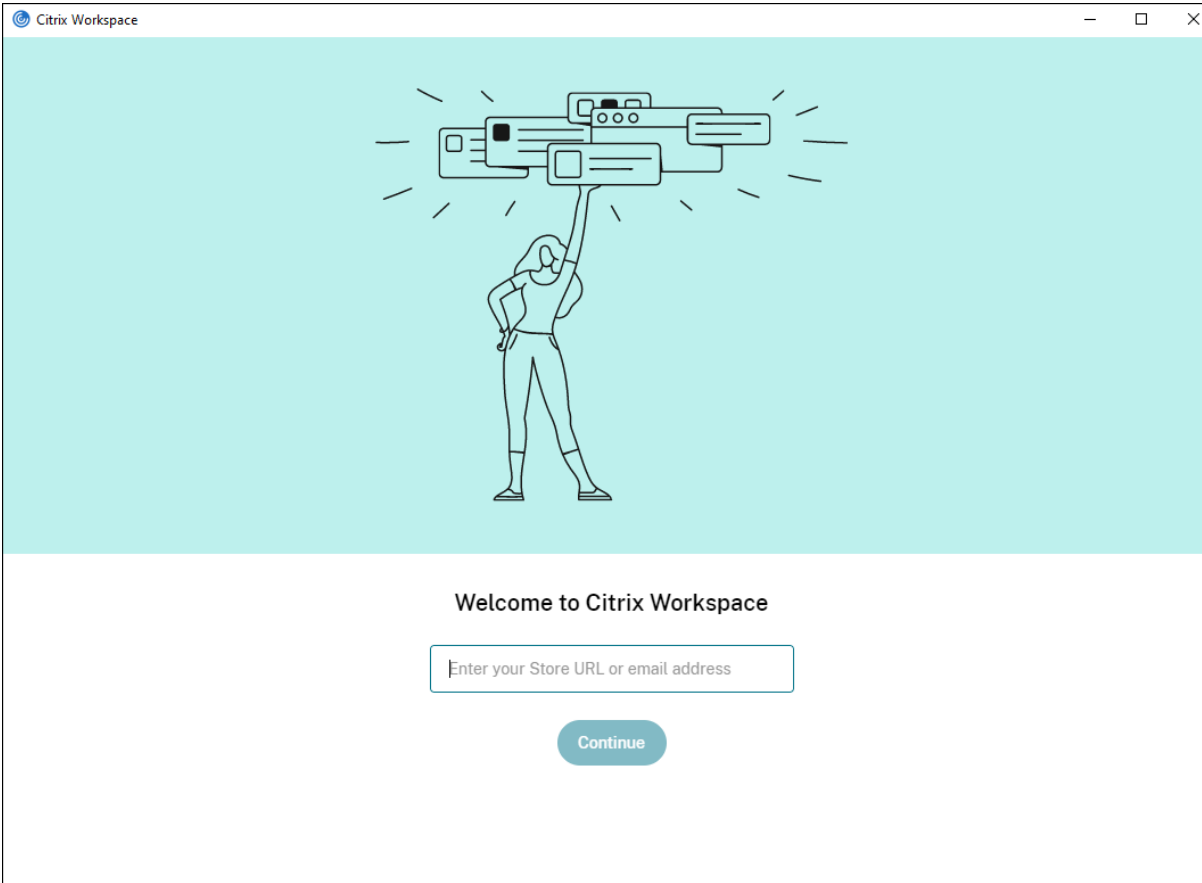
Citrix Workspace アプリへのストア URL の追加

以下により仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするために必要なアカウント情報をユーザーに提供できます:

- アカウント情報をユーザーに手入力させる
- メールアドレスによるアカウント検出の構成
- CLI を使用したストアの追加
- プロビジョニングファイル
- グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートの使用

アカウント情報をユーザーに手入力させる

Citrix Workspace アプリが正常にインストールされると、次の画面が表示されます。ユーザーは、アプリやデスクトップにアクセスするためにメールアドレスまたはサーバーアドレスを入力する必要があります。ユーザーが新しいアカウントの詳細を入力すると、Citrix Workspace アプリにより接続が検証されます。検証に成功すると、Citrix Workspace アプリでそのアカウントにログオンするための画面が開きます。



Welcome to Citrix Workspace

Enter your Store URL or email address

Continue

ユーザーが手動でアカウントをセットアップできるようにするには、ユーザーが仮想デスクトップとアプリケーションに接続するために必要な情報を提供します。

- Workspace ストアに接続するには、Workspace URL を指定します。
- StoreFront ストアに接続する場合は、そのサーバーの URL を提供します。例: <https://servername.company.com>。
- Citrix Gateway を介して接続する場合は、ユーザーに対してすべての構成済みストアを表示する必要があるのか、または特定の Citrix Gateway に対するリモートアクセスが有効になった単一のストアだけを表示する必要があるのかを最初に判断します。
 - 構成済みストアをすべて表示させる場合は、ユーザーに Citrix Gateway の完全修飾ドメイン名を提供します。
 - 特定のストアへのアクセスに限定する場合は、ユーザーに Citrix Gateway の完全修飾ドメイン名とストア名を次の形式で提供します。

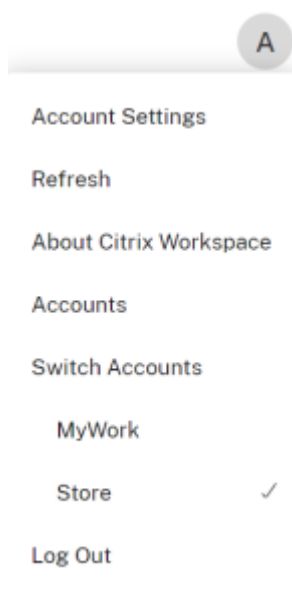
CitrixGatewayFQDN?MyStoreName:

たとえば、「SalesApps」という名前のストアで server1.com へのリモートアクセスが有効で、「HRApps」という名前のストアで server2.com へのリモートアクセスが有効な場合、次のように入力します:

- * <server1.com?SalesApps> - SalesApps にアクセスする。
- * <server2.com?HRApps> - **HRApps** にアクセスする。

CitrixGatewayFQDN?MyStoreName 機能では、新規ユーザーは URL を入力してアカウントを作成する必要があり、電子メールアドレスの検出は使用できません。

Citrix Workspace アプリにストア URL を設定すると、プロファイルメニューの [アカウント] オプションからアカウントを管理できます。



プロキシ認証用に構成されたクライアントマシンでプロキシの資格情報が **Windows Credential Manager** に保存されていない場合は、認証プロンプトが表示され、プロキシの資格情報の入力を求められます。その後、Citrix

Workspace アプリがプロキシサーバーの資格情報を **Windows Credential Manager** に保存します。これにより、Citrix Workspace アプリにアクセスする前に **Windows** 資格情報マネージャーに資格情報を手動で保存する必要がなくなり、シームレスにログインできます。

メールアドレスによるアカウント検出を構成する

管理者がメールアドレスによるアカウント検出機能を有効にした場合、ユーザーは Citrix Workspace アプリの初期設定時にサーバーの URL の代わりに自分のメールアドレスを入力できます。DNS (Domain Name System: ドメインネームシステム) サービス (SRV) レコードに基づき、Citrix Workspace アプリで、そのメールアドレスに関連付けられている Citrix Gateway または StoreFront サーバーが検出され、仮想デスクトップやアプリケーションにアクセスするためのログオンを求めるメッセージが表示されます。

Citrix Workspace のストア用にメールアドレスによるアカウント検出を構成するには、Global App Configuration Service ドキュメントの「[Getting started](#)」を参照してください。

Citrix StoreFront または Citrix Gateway のストア用にメールアドレスによるアカウント検出を構成するには、「[Configuring email-based account discovery](#)」を参照してください。

CLI を使用したストアの追加

管理者として、コマンドラインインターフェイスを使用して Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールします。

詳しくは、「[コマンドラインパラメーターの使用](#)」を参照してください。

ユーザーにプロビジョニングファイルを提供する

StoreFront により提供されるプロビジョニングファイルを使用して、ユーザーはストアに接続できます。

管理者は、StoreFront を使用して、アカウントの接続の詳細情報を定義したプロビジョニングファイルを作成できます。作成したプロビジョニングファイルをユーザーに提供して、Citrix Workspace アプリを自動的に構成できるようにします。Citrix Workspace アプリのインストール後、ファイルを開いて Citrix Workspace アプリを構成するだけです。Web 向け Workspace を構成すると、ユーザーはそれらのサイトから Citrix Workspace アプリのプロビジョニングファイルを取得することもできます。

詳しくは、StoreFront のドキュメントの「[ユーザーに配布するストアプロビジョニングファイルをエクスポートするには](#)」を参照してください。

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートの使用 グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して Citrix StoreFront または Gateway を追加または指定するには:

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。

2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [従来の管理用テンプレート (ADM)] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [StoreFront] の順に移動します。
3. [Citrix Gateway URL\StoreFront アカウント一覧] を選択します。
4. [有効] オプションを選択し、[表示] をクリックします。このポリシー設定を有効にすると、StoreFront アカウントおよび NetScaler Gateway URL の一覧を入力できます。
5. [値] フィールドに URL を入力します。
6. Citrix Workspace アプリで使用されるストア URL を指定します。

```
STOREx="storename;http[s]://servername.domain/IISLocation/discovery  
;[On, Off]; [storedescription]"
```

値:

- x - ストアを識別するために使用される整数 0~9。
- storename - ストアの名前。これは、StoreFront サーバーで構成される名前と同じである必要があります。
- servername.domain - ストアをホストするサーバーの完全修飾ドメイン名。
- IISLocation - IIS 内のストアへのパス。このストア URL は、StoreFront プロビジョニングファイルに記述されている URL と同じである必要があります。ストア URL は「/Citrix/store/discovery」の形式で指定します。URL を取得するには、StoreFront からプロビジョニングファイルをエクスポートしてそれをメモ帳などのテキストエディターで開き、Address エレメントから URL をコピーします。
- [On, Off] - Off オプションを指定すると、無効なストアを配信できるようになります。これにより、そのストアにアクセスするかをユーザーが選択できるようになります。このオプションを指定しない場合、デフォルトの設定は On になります。
- storedescription - ストアの説明（「HR App Store」など）。

7. Citrix Gateway URL を追加または指定します。URL 名をセミコロンで区切って入力します:

例: `STORE0= HRStore;https://ag.mycompany.com#Storename;On;Store`
ここで、#Storename は Citrix Gateway の背後にあるストアの名前です。

注:

- Citrix Gateway ストアの URL は、リストの最初にする必要があります（パラメーター STORE0）。
- 複数ストア環境で Citrix Gateway ストアの URL は、1 つのみ構成できます。
- Citrix Gateway のストア URL を上記の方法で構成した場合、Citrix Gateway を使用している PNA サービスサイトはサポートされません。
- Citrix Gateway のストア URL を指定する場合、「/Discovery」パラメーターは必要ありません。

バージョン 1808 以降、Citrix Gateway URL/StoreFront アカウント一覧ポリシーに加えられた変更は、Citrix Workspace アプリを再起動するとセッションに適用されます。リセットは不要です。

注:

Citrix Workspace アプリのバージョン 1808 以降では、新規インストール時のリセットは必要ありません。1808 以降にアップグレードする場合は、変更を有効にするために Citrix Workspace アプリをリセットする必要があります。

制限事項:

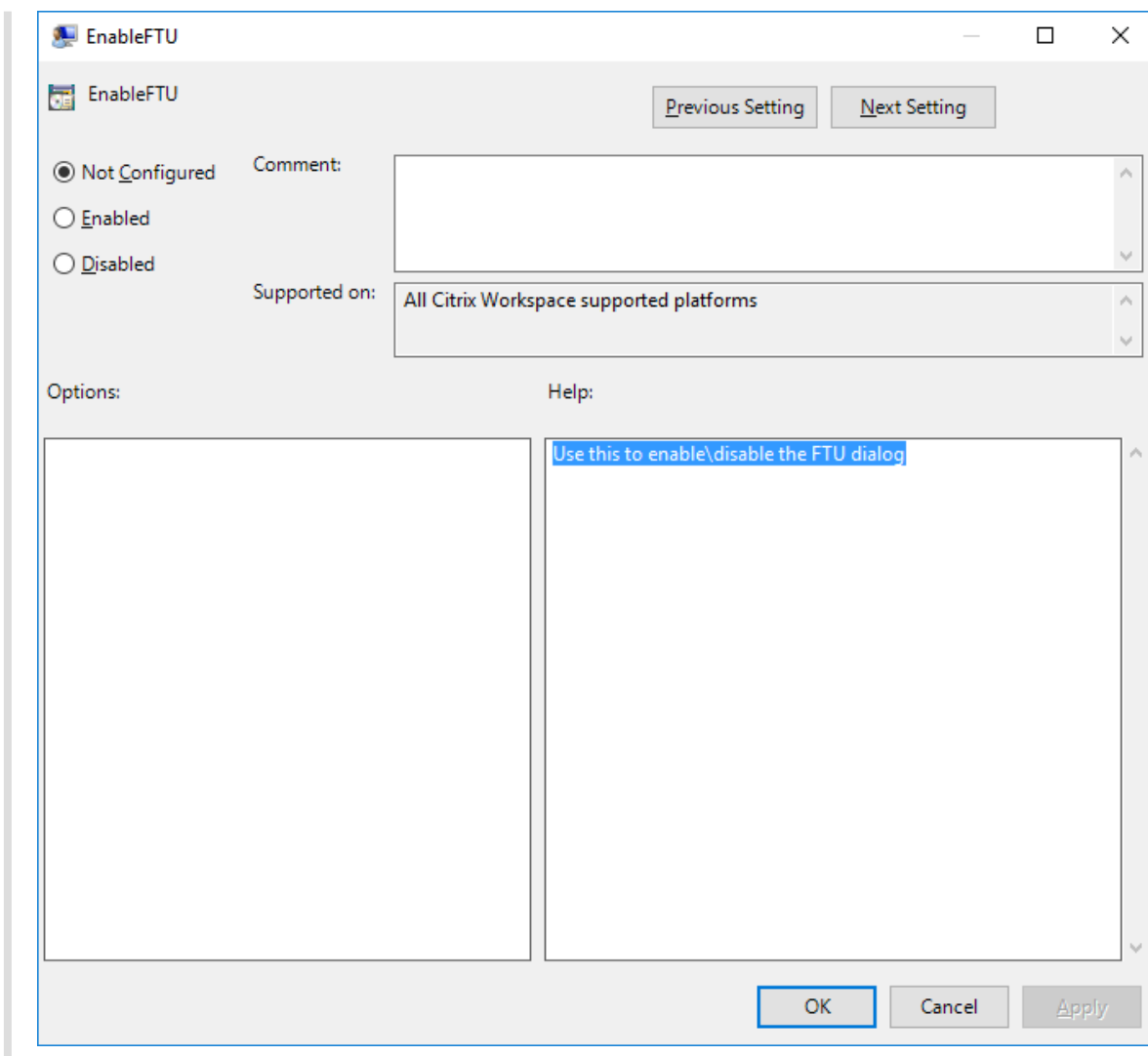
- Citrix Gateway URL は先頭に入力し、その後に StoreFront の URL を続ける必要があります。
- 複数の Citrix Gateway URL はサポートされていません。

注:

ユーザーは、Web ブラウザーを介してストアにアクセスすることもできます。ユーザーは Web ブラウザーから Citrix Store にログインし、Web から仮想アプリまたはデスクトップを起動できます。仮想アプリまたはデスクトップの起動では、ネイティブにインストールされた Citrix Workspace アプリの機能が使用されます。

この場合、ユーザーに対して [アカウントの追加] プロンプトを非表示にすることが望ましい場合があります。これは、次の設定を使って実現できます:

- **Citrix** 実行ファイルの名前を変更する: ファイルの名前を **CitrixWorkspaceApp.exe** から **Citrix-WorkspaceAppWeb.exe** に変えて、[アカウントの追加] ダイアログボックスの動作を変更します。名前を変更することにより、[アカウントの追加] ダイアログボックスが [スタート] メニューに表示されなくなります。
- グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート: Citrix Workspace アプリインストールウィザードで [アカウントの追加] オプションが表示されないようにするには、以下のとおりにローカルグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートで Self-Service ノードにある **EnableFTUpolicy** を無効にします。この設定はマシンごとであるため、動作の設定はすべてのユーザーに適用されます。



DNS 名前解決

Citrix XML Service を使用してサーバーファームに接続するときに IP アドレスの代わりにサーバーの DNS（ドメインネームサービス）名を要求するように Windows 向け Citrix Workspace アプリを構成できます。

重要:

この機能を使用するために DNS 環境を設定していない場合は、Citrix ではサーバーで DNS 名前解決を有効にしないことをお勧めします。

デフォルトでは、DNS 名前解決はサーバーで無効、Citrix Workspace アプリで有効になっています。サーバーで DNS 名前解決が無効になっている場合、Citrix Workspace アプリが DNS 名を要求すると IP アドレスが返されます。Citrix Workspace アプリで DNS 名前解決を無効にする必要はありません。

特定のユーザーデバイスの DNS 名前解決を無効にするには：

DNS 名前解決が使用されるサーバー展開環境で特定のユーザーデバイスに問題が発生した場合、そのデバイスの DNS 名前解決を無効にすることができます。

注意:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

1. レジストリキー `HKEY\LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Citrix\ICA Client\Engine\Lockdown Profiles\All Regions\Lockdown\Application Browsing` に文字列値 `xmlAddressResolutionType` を追加します。
2. 値を **IPv4-Port** に設定します。
3. ユーザーデバイスの各ユーザーでこれを繰り返します。

接続

Citrix Workspace アプリにより、仮想デスクトップやアプリケーションへの安全なセルフサービスアクセスと、Windows、Web、および SaaS (Software as a Service) アプリケーションへのオンデマンドアクセスが提供されます。ユーザーのアクセスは、Citrix StoreFront や従来の Web Interface の Web ページにより管理されます。

Citrix Workspace のユーザーインターフェイスを使用してリソースに接続するには

Citrix Workspace アプリのホームページには、ユーザーのアカウント設定（つまり接続先のサーバー）と Citrix Virtual Apps and Desktops または Citrix DaaS の管理者による構成に基づいて、そのユーザーに提供されている仮想デスクトップやアプリケーションが表示されます。ユーザーは、[基本設定] ダイアログボックスの [アカウント] ページに StoreFront サーバーの URL や自分のメールアドレス（メールアドレスによるアカウント検出が有効な場合）を入力してアカウントの構成を行います。

ストアへの接続後、セルフサービスで次のタブが表示されます：お気に入り、デスクトップ、アプリ。セッションを起動するには、適切なアイコンをクリックします。アイコンを [お気に入り] に追加するには、アイコンの横の [...] アイコンをクリックして [お気に入りに追加] を選択します。

StoreFront から Workspace への URL の移行

StoreFront から Workspace への URL 移行により、最小限のユーザー操作でエンドユーザーを StoreFront ストアから Workspace ストアにシームレスに移行できます。

すべてのエンドユーザーが Citrix Workspace アプリに StoreFront ストア `storefront.com` を追加することを前提とします。管理者は、Global App Configuration Service で StoreFront URL から Workspace URL

へのマッピング { 'storefront.com' : 'xyz.cloud.com' } を構成できます。Global App Config Service は、StoreFront URL `storefront.com` が追加された、管理対象デバイスと非管理対象デバイスの両方で、すべての Citrix Workspace アプリインスタンスに設定をプッシュします。

設定が検出されると、Citrix Workspace アプリはマップされた Workspace URL `xyz.cloud.com` を別のストアとして追加します。エンドユーザーが Citrix Workspace アプリを起動すると、Citrix Workspace ストアが開きます。以前に追加された StoreFront ストア `storefront.com` は、Citrix Workspace アプリに追加されたままです。ユーザーは、Citrix Workspace アプリの [アカウントの切り替え] オプションを使用して、いつでも StoreFront ストア `storefront.com` に戻すことができます。管理者は、ユーザーのエンドポイントの Citrix Workspace アプリから StoreFront ストア `storefront.com` の削除を制御できます。削除は、Global App Config Service を介して行うことができます。

この機能を有効にするには、次の手順を実行します：

1. Global App Config Service を使用して、StoreFront から Workspace へのマッピングを構成します。Global App Config Service について詳しくは、「[Global App Configuration Service](#)」を参照してください。
2. App Config Service でペイロードを編集します。

```
1 {
2
3   "serviceURL": {
4
5     "url": "https://storefront.acme.com:443",
6     "migrationUrl": [
7       {
8
9         "url": "https://sampleworkspace.cloud.com:443",
10        "storeFrontValidUntil": "2023-05-01"
11      }
12    ]
13  ]
14 }
15 ,
16 "settings": {
17
18   "name": "Productivity Apps",
19   "description": "Provides access StoreFront to Workspace Migration"
20 ,
21   "useForAppConfig": true,
22   "appSettings": {
23     "windows": [
24       {
25
26         "category": "root",
27         "userOverride": false,
28         "assignmentPriority": 0,
29         "assignedTo": [
30           "AllUsersNoAuthentication"
```

```
31     ],
32     "settings": [
33     {
34         "name": "Hide advanced preferences",
35         "value": false
36     }
37     ]
38 }
39 ]
40 }
41 ]
42 }
43 }
44 }
45 }
46 }
47 }
48 }
49 }
50 <!--NeedCopy-->
```

注:

初めてペイロードを構成する場合は、**POST**を使用します。

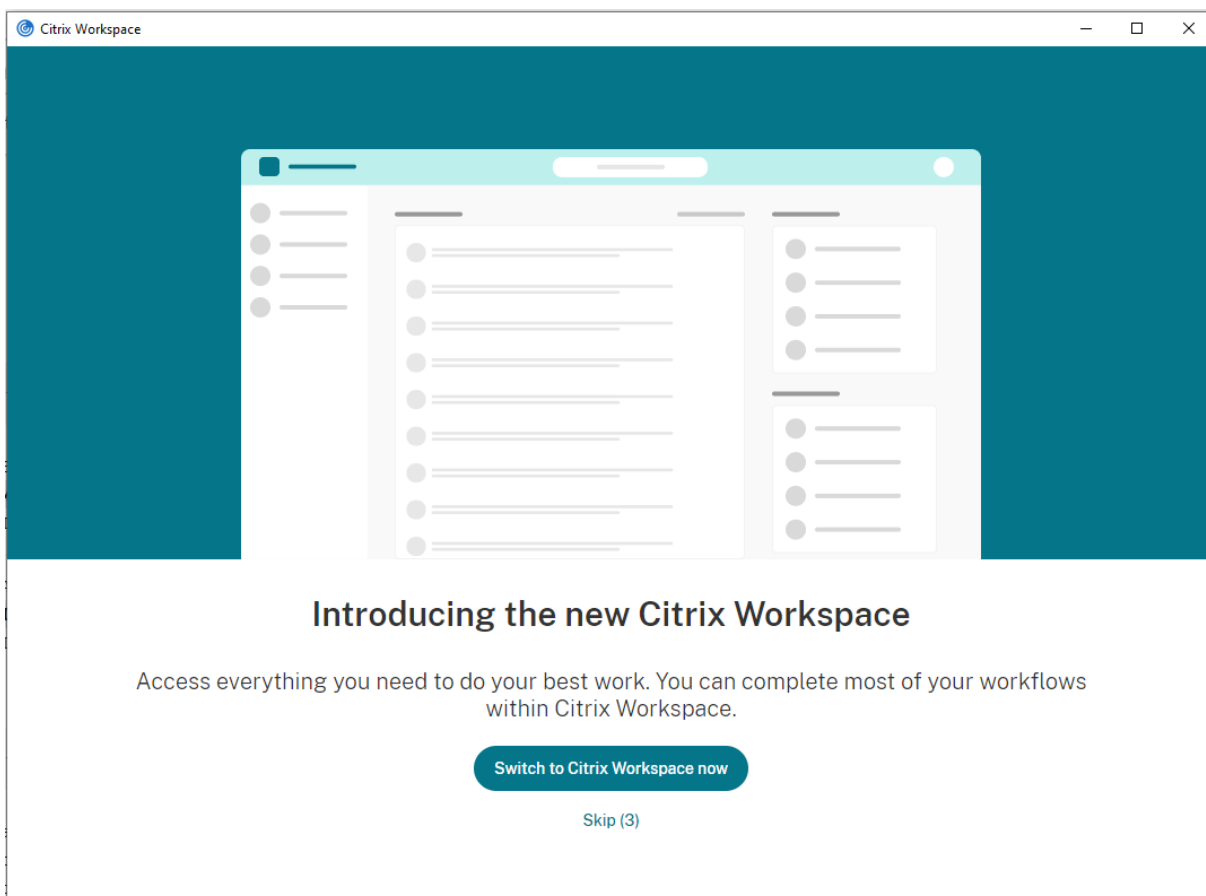
既存のペイロード構成を編集する場合は、**PUT**を使用して、サポートされているすべての設定により構成されたペイロードがあることを確認してください。

3. StoreFront URL `storefront.com` を **serviceURL** セクションの **URL** の値として指定します。
4. セクション **migrationUrl** 内で Workspace URL `xyz.cloud.com` を構成します。
5. **storeFrontValidUntil** を使用して、Citrix Workspace アプリから StoreFront ストアを削除するためのスケジュールを設定します。このフィールドはオプションです。要件に基づいて、次の値を設定できます。
 - YYYY-MM-DD 形式の有効な日付

注:

過去の日付を指定した場合、StoreFront ストアは URL の移行と同時に削除されます。未来の日付を指定した場合、StoreFront ストアは設定された日付に削除されます。

App Config Service 設定がプッシュされると、次の画面が表示されます:



ユーザーが [今すぐ **Citrix Workspace** に切り替える] をクリックすると、Workspace URL が Citrix Workspace アプリに追加され、認証プロンプトが表示されます。ユーザーのオプションは制限されており、移行を最大 3 回遅らせることができます。

Citrix Workspace アプリ内でのローカルアプリ検出のサポート

2112.1 リリースから、管理者は Citrix Workspace アプリ内にローカルにインストールされたアプリケーションの検出と列挙を構成できるようになりました。この機能は、[Global App Configuration Service](#) を使用して構成できます。機能の構成については、「[Global App Configuration Service](#)」を参照してください。

この機能は、キオスクモードで実行されるデバイスや、Citrix Workspace 内で仮想化できないアプリケーションに最適です。

更新とプラグイン管理

April 22, 2024

ここでは、以下の内容について説明します：

- [更新](#)
- [プラグイン管理](#)

アップデート

June 14, 2024

手動更新

既に Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールしている場合は、[Citrix ダウンロードページ](#)から最新バージョンのアプリをダウンロードしてインストールします。インストールについて詳しくは、「[インストールとアンインストール](#)」を参照してください。

自動更新

新しいバージョンの Citrix Workspace アプリが利用できるようになると、Citrix Workspace アプリがインストールされたシステムで更新がプッシュされます。

注:

- 送信プロキシをインターセプトするよう SSL を構成している場合、Workspace の自動更新署名サーバー <https://downloadplugins.citrix.com/> に例外を追加して Citrix からの更新を受信します。
- 自動更新は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2104 および Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1912 LTSR CU4 より前のバージョンでは利用できません。
- 更新を受信するには、システムがインターネットに接続している必要があります。
- デフォルトでは、VDA で Citrix Workspace アプリの更新は無効になっています。リモートデスクトップのマルチユーザーサーバーマシン、VDI、リモート PC アクセスマシンでも同様です。
- Citrix Workspace アプリの更新は、Desktop Lock がインストールされたマシンでは無効になっています。
- Workspace for Web のユーザーは、StoreFront ポリシーを自動的にダウンロードできません。
- Citrix Workspace アプリの更新は、LTSR 更新のみに制限できます。
- Citrix Workspace アプリの更新に Windows 用の HDX RTME が含まれています。Citrix Workspace アプリの LTSR と最新リリースの両方での HDX RTME の更新が利用できるようになると、通知が表示されます。

- バージョン 2105 から、Citrix Workspace アプリの更新ログのパスが変更されています。Workspace の更新ログは、C:\Program Files (x86)\Citrix\Logs にあります。ログについて詳しくは、「[ログ収集](#)」セクションを参照してください。
- 管理者以外のユーザーが、管理者がインストールしたインスタンスの Citrix Workspace アプリを更新できます。この処理を行うには、システムトレイ内の Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックし、[更新の確認] を選択します。Citrix Workspace アプリのユーザーがインストールしたインスタンスと管理者がインストールしたインスタンスの両方で、[更新の確認] オプションが使用できます。
- プロキシ自動構成 (PAC) および Web プロキシ自動発見プロトコル (WPAD) の検出が有効になっている場合、自動更新を実行することもできます。プロキシが認証に資格情報を必要とする場合はサポートされません。
- EDCHE 以外の暗号の組み合わせが追加されている場合、Citrix Workspace アプリは Citrix 自動更新サーバーに接続できず、自動更新中に次のエラーが表示されます：
サーバーに接続できません

手動または自動更新後、Windows 向け Citrix Workspace アプリを再起動します。

デバイスにインストールされている Citrix Workspace アプリの現在のバージョンを確認するには [高度な設定] を使用するか、**DisplayVersion** レジストリを `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\CitrixOnlinePluginPackWeb` からクエリします。

[高度な設定] でバージョンを表示するには：

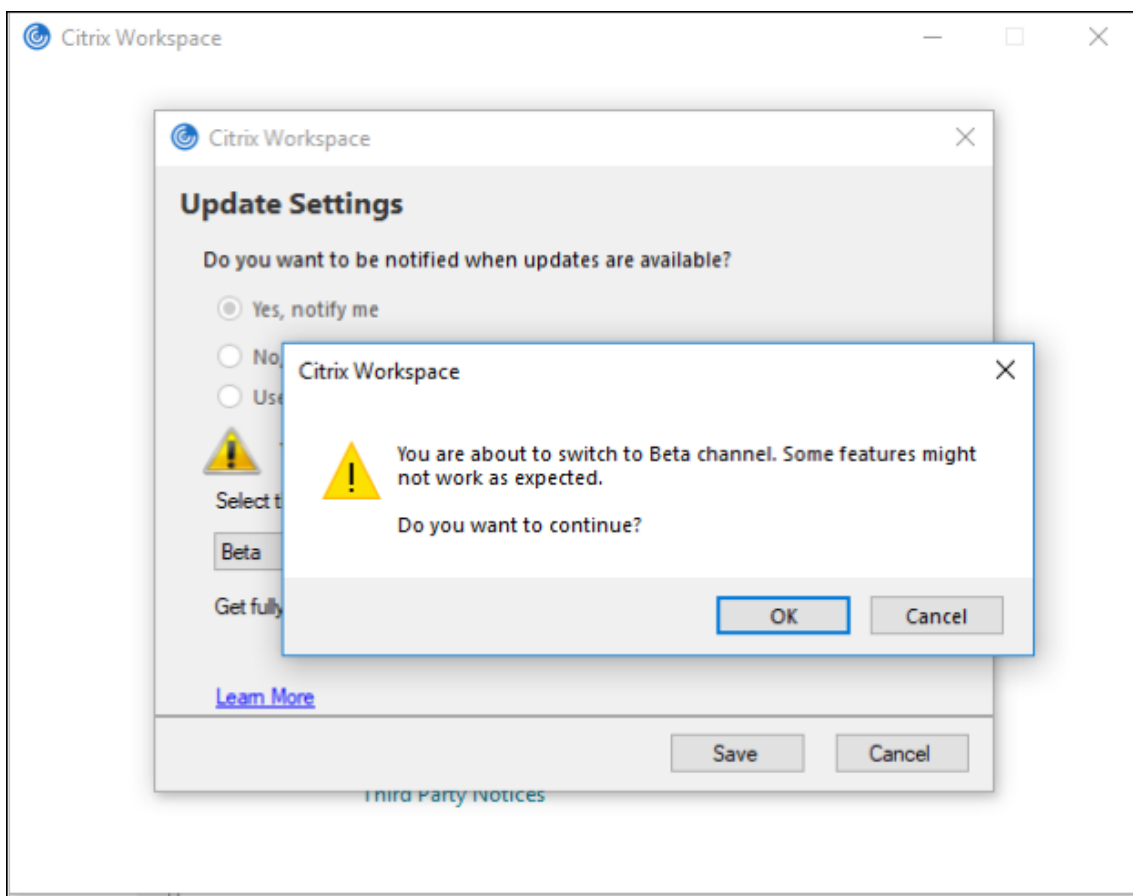
1. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックします。
2. [高度な設定] を選択します。

Citrix Workspace アプリのバージョンが [バージョン情報] セクションに表示されます。

Citrix Workspace アプリのベータプログラムのインストール

Citrix Workspace アプリが自動更新用に構成されている場合は、更新通知を受け取ります。システムにベータビルドをインストールするには、次の手順を実行します：

1. システムトレイから Citrix Workspace アプリを開きます。
2. [高度な設定] > [**Citrix Workspace** 更新プログラム] の順に移動します。
3. ベータビルドが利用可能になったら、ドロップダウンリストから [**Beta**] を選択し、[保存] をクリックします。
通知ウィンドウが開きます。



4. **[OK]** をクリックして、ベータビルドに更新します。

ベータビルドからリリースビルドに切り替えるには、次の手順を実行します：

1. システムトレイから Citrix Workspace アプリを開きます。
2. [高度な設定] > **[Citrix Workspace 更新プログラム]** の順に移動します。
3. [設定の更新] 画面で、更新チャンネルのドロップダウンリストから [リリース] を選択し、[保存] をクリックします。

注：

- 新しいアップデートが利用可能な場合は、自動アップデート通知が表示されます。
- ベータビルドは、お客様が非実稼働環境または制限のある稼働環境でテストし、フィードバックを共有するためのものです。ベータ版のビルドのサポートは行っていませんが、改善に関する **フィードバック** をお待ちしております。重要度と重大度により、フィードバックに対応する場合としない場合があります。ベータビルドは実稼働環境に展開しないことをお勧めします。

VDA の Citrix Workspace アプリの自動更新サポート

Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2209 以降では、VDA で自動更新機能を有効にできます。この機能を有効にするには、以下のレジストリ値を作成する必要があります：

32 ビットマシンの場合：

- レジストリキー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\AutoUpdate
- レジストリ値：AllowAutoUpdateOnVDA
- レジストリの種類：REG_SZ
- レジストリデータ：True

64 ビットマシンの場合：

- レジストリキー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\ICA Client\AutoUpdate
- レジストリ値：AllowAutoUpdateOnVDA
- レジストリの種類：REG_SZ
- レジストリデータ：True

バージョン自動更新の制御

管理者は、組織内のデバイスのバージョン自動更新を管理できるようになりました。

管理者は、Global App Config Service の `maximumAllowedVersion` プロパティでバージョンを設定することにより、バージョンを制御できます。

Global App Config Service の JSON ファイルの例：

```
1 {
2
3   "category": "AutoUpdate",
4   "userOverride": false,
5   "assignedTo": [
6     "AllUsersNoAuthentication"
7   ],
8   "settings": [
9     {
10
11       "name": "Auto Update plugins settings",
12       "value": [
13         {
14
15           "pluginSettings": {
16
17             "upgradeToLatest": false,
18             "deploymentMode": "InstallAndUpdate",
19             "stream": "Current",
20             "maximumAllowedVersion": "23.03.0.49",
21             "minimumAllowedVersion": "0.0.0.0",
```

```
22         "delayGroup": "Fast"
23     }
24     ,
25     "pluginName": "WorkspaceApp",
26     "pluginId": "1CDF566D-B2C7-47CA-802F-6283C862E1D6"
27     }
28
29     ]
30 }
31
32 ]
33 }
34
35
36 <!--NeedCopy-->
```

バージョンが設定されると、ユーザーのデバイス上の Citrix Workspace アプリは、`maximumAllowedVersion` プロパティで指定されたバージョンに自動更新されます。

メモ:

- 現在、前述の JSON ファイルに記載されているすべてのパラメーターは必須です。組織の要件に基づいて、`upgradeToLatest` 設定と `maximumAllowedVersion` 設定の値を指定する必要があります。ただし、残りのパラメーターについては、サンプルの JSON ファイルと同様の値を使用できます。
- バージョン自動更新を制御するには、Global App Config Service の `upgradeToLatest` 設定を `false` に設定する必要があります。これが `true` の場合、`maximumAllowedVersion` は無視されません。
- `pluginId` は Citrix Workspace アプリにマッピングされているため、変更しないでください。
- 管理者が Global App Config Service でバージョンを構成していない場合、デフォルトで Citrix Workspace アプリは利用可能な最新バージョンに更新されます。

自動更新の詳細設定（Citrix Workspace の更新）

Citrix Workspace の更新は、次の方法で構成できます：

1. グループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレート
2. Global Admin Configuration Service（GACS）
3. コマンドラインインターフェイス
4. GUI
5. StoreFront

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用した **Citrix Workspace** 更新プログラムの構成

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開き、[コンピューターの構成] ノードに移動します。

2. [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [Workspace の更新] の順に移動します。

3. 更新を有効または無効にする— [有効] または [無効] を選択して、Workspace の更新を有効または無効にします。

注:

[無効] を選択すると、新しい更新が通知されません。[無効] オプションにより、[高度な設定] シートの [Workspace の更新] オプションも非表示になります。

4. 更新通知—更新が利用可能になったときに、自動的に通知を受信するか、手動で確認するかを選択できます。Workspace の更新を有効にした後、[Citrix Workspace の更新ポリシーを有効にする] ドロップダウンリストの次のオプションからいずれかを選択します:
- 自動 - 更新が利用可能になると通知されます (デフォルト)。これは、Citrix Workspace アプリ 2207 より前のバージョンにのみ適用されます。2207 以降のバージョンでは、Citrix Workspace アプリの更新は自動で行われ、更新プログラムが利用可能になっても通知されません。

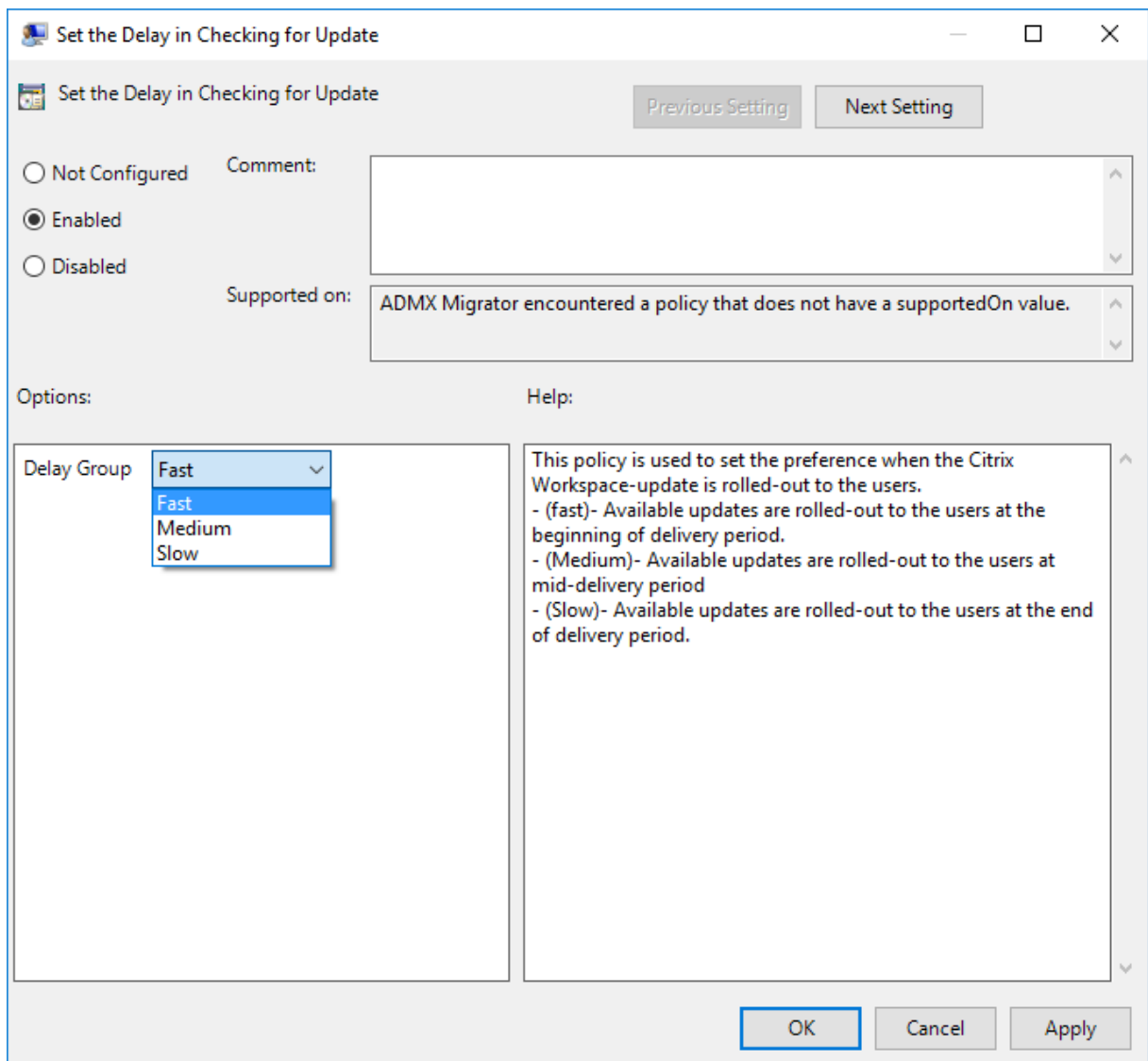
- 手動 - 更新が利用可能になっても通知されません。手動で更新をチェックします。
5. **[LTSR のみ]** を選択して LTSR の更新のみを取得します。
 6. **[Citrix-Workspace-Update-DeferUpdate-Count]** ドロップダウンリストから、-1~30 の値を選択します：
 - 値が 0 の場合、[後で通知する] オプションは表示されません。定期的な更新の自動チェックが行われるたびに、[更新プログラムが使用可能] のメッセージが表示されます。
 - 値が-1 の場合、[更新プログラムが使用可能] のメッセージで [後で通知する] オプションが表示されます。更新通知は任意の回数、延期できます。
 - 1~30 の値は、[後で通知する] オプションの付いた [更新プログラムが使用可能] メッセージが表示される回数を定義します。更新の通知は、このフィールドで定義された値に基づいて延期できます。ただし、[更新プログラムが使用可能] のメッセージは引き続き表示されますが、[後で通知する] オプションは表示されません。

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2207 以降では、自動更新機能が向上し、**Citrix-Workspace-Update-DeferUpdate-Count** フィールドが不要になりました。

更新のチェックで遅延を構成 新しいバージョンの Citrix Workspace アプリが利用できるようになると、特定の配信期間に更新プログラムがロールアウトされます。このプロパティを使用すると、配信期間中に更新を受信するタイミングを制御できます。

配信期間を構成するには、`gpedit.msc`を実行してグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを起動します。[コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [更新のチェックで遅延を設定] の順に移動します。



[有効] を選択し、[遅延グループ] ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します：

- Fast - 配信期間の最初に更新がロールアウトされます。
- Medium - 配信期間の中頃に更新がロールアウトされます。
- Slow - 配信期間の最後に更新がロールアウトされます。

注：

[無効] を選択すると、利用可能な更新が通知されません。[無効] により、[高度な設定] シートの [Workspace の更新] オプションも非表示になります。

コマンドラインインターフェイスを使用した **Citrix Workspace** 更新プログラムの構成

Citrix Workspace アプリのインストール中にコマンドラインパラメーターを指定する：

Citrix Workspace アプリのインストール中にコマンドラインパラメーターを指定することで、Workspace の更新を構成できます。詳しくは、「[パラメーターのインストール](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリのインストール後にコマンドラインパラメーターを使用する：

Citrix Workspace の更新は、Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール後にも構成できます。Windows コマンドラインを使用して、`CitrixReceiverUpdater.exe`の場所に移動します。

通常、`CitrixReceiverUpdater.exe` は `CitrixWorkspaceInstallLocation\Citrix\IcaClient\Receiver` にあります。`CitrixReceiverUpdater.exe` バイナリは、「[インストールパラメーター](#)」セクションに記載されているコマンドラインパラメーターとともに実行できます。

例：

```
CitrixReceiverUpdater.exe /AutoUpdateCheck=auto /AutoUpdateStream=Current /DeferUpdateCount=-1 /AURolloutPriority=fast
```

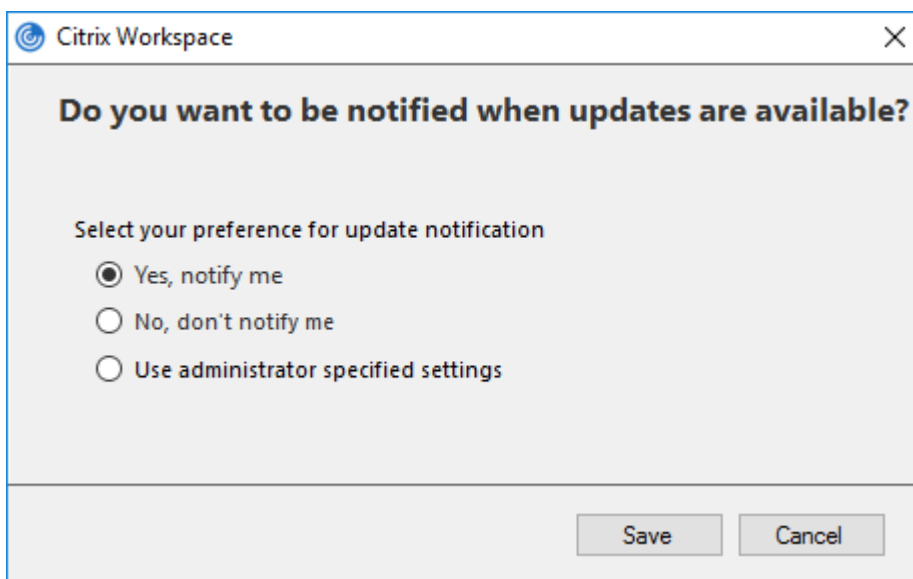
注：

`/AutoUpdateCheck` は、`/AutoUpdateStream`、`/DeferUpdateCount`、`/AURolloutPriority` などのほかのパラメーターを構成するために設定する必要がある必須パラメーターです。

グラフィカルユーザーインターフェイスを使用した **Citrix Workspace** 更新プログラムの構成

各ユーザーが [高度な設定] ダイアログボックスで [**Citrix Workspace** の更新] 設定を上書きできます。このような、ユーザーごとの構成および設定は、現在のユーザーにのみ適用されます。

1. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックします。
2. [高度な設定] > [**Citrix Workspace** の更新] を選択します。
3. 次の通知設定オプションのいずれかを選択します。
 - はい、通知します - Citrix Workspace アプリの更新プログラムが利用可能になると通知されます。
 - いいえ、通知しません - Citrix Workspace アプリの更新プログラムが利用可能になっても通知されません。更新プログラムについて手動で確認してください。
 - 管理者指定の設定を使用 - StoreFront サーバーで構成された設定を使用します。



4. **[Save]** をクリックします。

注:

- [はい、通知します] および [いいえ、通知しません] オプションを適用できるのは、Citrix Workspace アプリ 2207 より前のバージョンのみです。2207 以降のバージョンでは、Citrix Workspace アプリの更新は自動で行われ、更新プログラムが利用可能になっても通知されません。[いいえ、通知しません] オプションを選択した場合は、更新プログラムについて手動で確認してください。
- Citrix Workspace アプリのアイコンから表示できる [高度な設定] シートの一部または全部を非表示にすることができます。詳しくは、「[高度な設定シート](#)」セクションを参照してください。

StoreFront を使用した Citrix Workspace 更新プログラムの構成

1. テキストエディターを使ってストアの `web.config` ファイルを開きます。このファイルは通常、`C:\inetpub\wwwroot\Citrix\Roaming directory` にあります。
2. このファイルで、ユーザーアカウント要素の場所を見つけます（「Store」は使用環境のアカウント名です）。

たとえば、次のようになります: `<account id=... name="Store">`

`</account>` タグの前に、ユーザーアカウントのプロパティに移動します:

```
1 <properties>
2     <clear/>
3 </properties>
4 <!--NeedCopy-->
```

3. `<clear/>` タグの後に、自動更新タグを追加します。

```
1 <account>
2
```

```
3 <clear />
4
5 <account id="d1197d2c-ac82-4f13-9346-2ee14d4b0202" name="
6   F84Store"
7   description="" published="true" updaterType="Citrix"
8     remoteAccessType="None">
9   <annotatedServices>
10
11     <clear />
12
13     <annotatedServiceRecord serviceRef="1__Citrix_F84Store">
14
15       <metadata>
16
17         <plugins>
18
19           <clear />
20
21         </plugins>
22
23         <trustSettings>
24
25           <clear />
26
27         </trustSettings>
28
29         <properties>
30
31           <property name="Auto-Update-Check" value="auto" />
32
33           <property name="Auto-Update-DeferUpdate-Count" value
34             ="1" />
35
36           <property name="Auto-Update-LTSR-Only" value
37             ="FALSE" />
38
39           <property name="Auto-Update-Rollout-Priority" value=
40             "fast" />
41
42         </properties>
43
44       </metadata>
45
46     </annotatedServiceRecord>
47
48   </annotatedServices>
49
50   <metadata>
51
52     <plugins>
```

```
51     <clear />
52
53   </plugins>
54
55   <trustSettings>
56
57     <clear />
58
59   </trustSettings>
60
61   <properties>
62
63     <clear />
64
65   </properties>
66
67 </metadata>
68
69 </account>
70
71 <!--NeedCopy-->
```

以下は、プロパティの意味と使用可能な値の詳細です:

- **Auto-update-Check:** Citrix Workspace アプリが、利用可能な更新を自動的に検出することを示します。
 - Auto (デフォルト) - 更新を自動的にチェックして実行します。
 - Manual - 更新は、ユーザーが Citrix Workspace アプリのシステムトレイメニューからチェックをリクエストした場合にのみ取得されます。
 - Disabled - 更新チェックは実行されません。
- **Auto-update-LTSR-Only:** 更新が LTSR のみであることを示します。
 - True - 更新ツールは、LTSR 有効としてマークされていない更新を無視します。LTSR の更新のみが対象になります。
 - False (デフォルト) - 更新ツールは現在のストリームの更新のみを対象とします。
- **Auto-update-Rollout-Priority:** 更新を受信できる配信期間を示します。
 - Fast - 配信期間の最初に向けて更新がユーザーにロールアウトされます。
 - Medium - 配信期間の中間に向けて更新がロールアウトされます。
 - Slow - 配信期間の最後に向けて更新がロールアウトされます。
- **Auto-update-DeferUpdate-Count:** 更新の通知を延期できる回数を示します。

注:

この構成は、ユーザーが操作可能な更新にのみ適用され、サイレント自動更新機能が有効になっている場合には、ユーザーが更新を延期するオプションを取得できないため適用されません。

- -1: ユーザーは自動更新を任意の回数保留にできます。
- 0: ユーザーは後で通知するオプションを表示できません。
- 数値: 後で通知するオプションが指定された回数表示されます。

プラグイン管理

June 14, 2024

Windows 向け Citrix Workspace アプリでプラグイン管理機能を使用できます。この管理機能により、Citrix Workspace アプリをエンドポイントにインストールするだけで、Secure Access Agent やエンドポイント解析 (EPA) プラグインなどのエージェントをインストールおよび管理できるようになります。

この機能により、管理者は必要なエージェントを 1 つの管理コンソールから簡単に展開および管理できます。

プラグイン管理には次の手順が含まれます:

- 管理者は、Global App Configuration Service でエンドユーザーのデバイスに必要なエージェントを指定する必要があります。管理者は Secure Access Agent とエンドポイント解析 (EPA) エージェントを指定できます。
- Citrix Workspace アプリは、Global App Configuration Service からエージェントの一覧を取得します。
- Global App Configuration Service から取得した一覧に基づいて、Citrix Workspace アプリは自動更新サービスを介してエージェントパッケージをダウンロードします。エンドポイントにエージェントが以前にインストールされていない場合、Citrix Workspace アプリによってエージェントのインストールがトリガーされます。エージェントが既にインストールされている場合は、Citrix Workspace アプリはエージェントの更新をトリガーします (ダウンロードしたエージェントのバージョンがインストールされているバージョンよりも高い場合)。

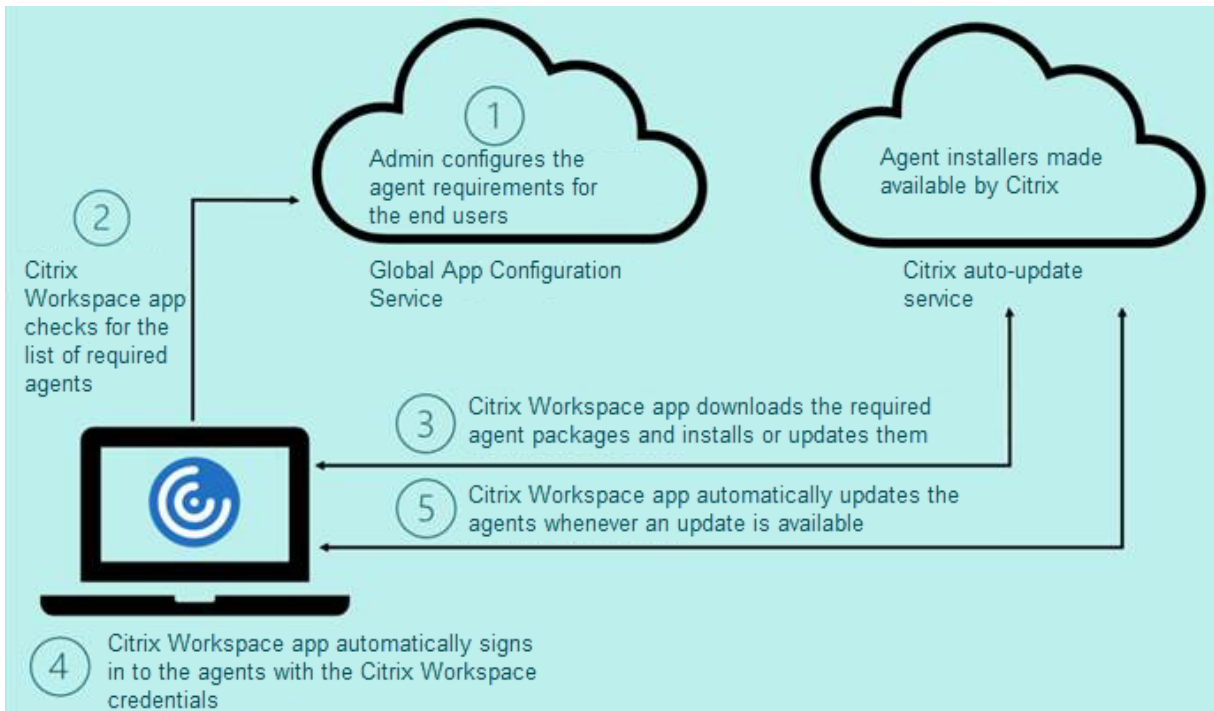
これ以降更新プログラムが利用可能になったときに、Citrix Workspace アプリがエージェントを自動的に更新します。

Citrix Workspace アプリは、Citrix Workspace の資格情報でエージェントに自動的にサインインします。

メモ:

- EPA プラグインおよび ZTNA プラグインがない場合、ストアまたはアカウントを初めて追加するときに、プラグインがダウンロードおよびインストールされます。
- ストアまたはアカウントとプラグインが既に存在し、インストーラーに新しいバージョンが含まれている場合、プラグインは自動更新のサイクルで更新されます。

次の図は、このワークフローを示しています。

**重要:**

プラグイン管理機能を有効にするには、Global App Configuration Service が必要です。

- クラウドストアの場合、Global App Configuration Service の UI は、Citrix Cloud 管理ポータル [ワークスペース構成] セクションでアクセスできます。詳しくは、「[Citrix Workspace アプリの構成](#)」を参照してください。
- オンプレミスストアをオンボードする場合、または顧客がクラウドストアのメールアドレスによる検出をセットアップする必要がある場合は、[Global App Configuration Service](#) のドキュメントを参照してください。

以下の方法を使用して、プラグイン管理機能を有効にすることができます：

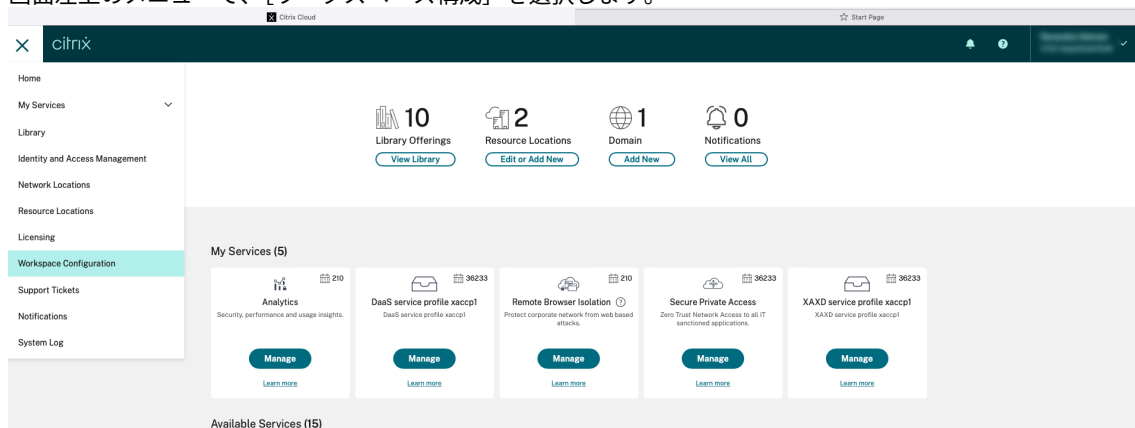
- Global App Configuration Service の UI を使用 - この方法で、クライアントの最新バージョンを展開します。
- Global App Configuration Service の API を使用 - この方法で、バージョン、展開モード、自動更新の間隔などを制御するパラメーターを使用して、インストールをカスタマイズします。

Global App Configuration Service の UI を使用してプラグイン管理を有効にする

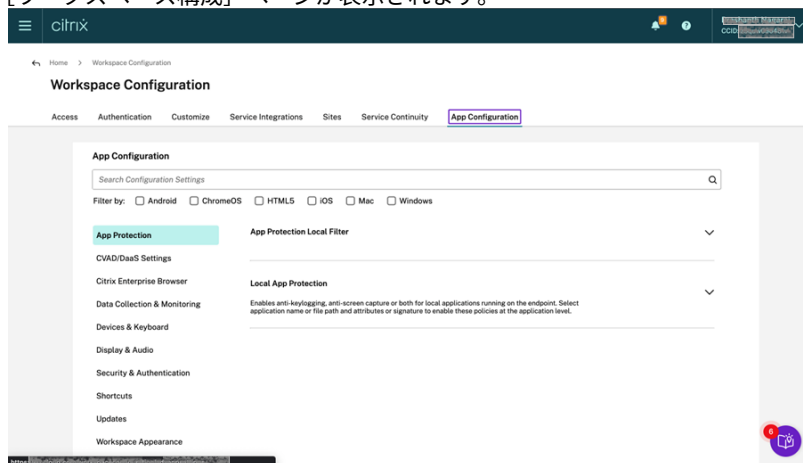
この方法はクラウドストアのみに適用可能であり、エージェント（EPA/Secure Access、Zoom プラグイン、または WebEx プラグイン）は、管理者が UI を使用して展開できます。

1. [Citrix Cloud](#) にサインインします。

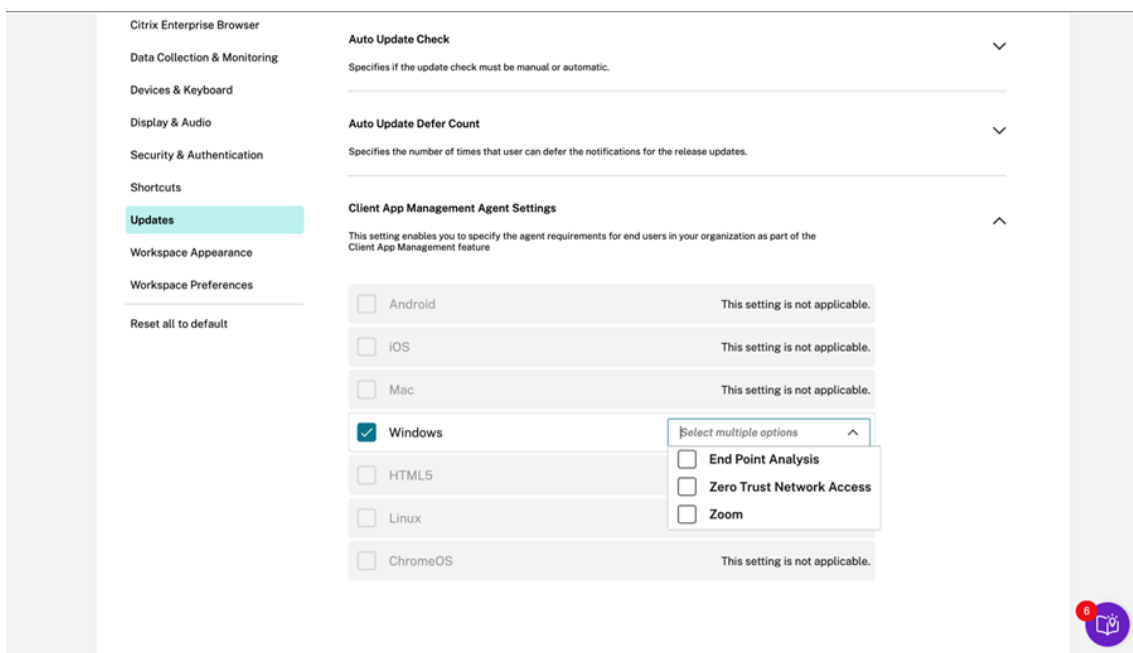
2. 画面左上のメニューで、[ワークスペース構成] を選択します。



-
2. [ワークスペース構成] ページが表示されます。



-
-
3. [アプリ構成] タブをクリックします。
4. [更新] をクリックします。
5. [Windows] チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. [クライアントアプリ管理エージェントの設定] ドロップダウン リストから、[Windows] の横にある必要なエージェントを選択します。



Global App Configuration Service の UI を使用してプラグイン管理を有効にする

1. API を使用して設定を構成し、Global App Configuration Service にオンボードします。詳しくは、[サービス URL のマッピングと設定の構成](#)を参照してください。
2. ZTNA/Secure Access クライアントにオンボードするには、次の Global App Configuration 設定をストアまたはアカウントにオンボードする必要があります：

```
1  {
2
3    "serviceURL":
4    {
5
6      "url": "https://storefront.acme.com:443"
7    }
8  ,
9    "settings":
10   {
11
12     "description": "Install and update plugins",
13     "name": "Install and update plugins",
14     "useForAppConfig": true,
15     "appSettings":
16     {
17
18       "windows":
19       [
20         {
21
22           "assignedTo":
```

```
23     [
24         "AllUsersNoAuthentication"
25     ],
26     "category": "AutoUpdate",
27     "settings":
28     [
29         {
30
31             "name": "Auto Update plugins settings",
32             "value":
33             [
34                 {
35
36                     "pluginId": "8A8AF6C0-11F6-4343-
37                         BA2D-A85A766170D4",
38                     "pluginName": "Citrix EPA Client",
39                     "pluginSettings":
40                     {
41
42                         "delayGroup": "Fast",
43                         "deploymentMode": "
44                             InstallAndUpdate",
45                         "detectRule": "UpgradeCode:{
46                             37A181F7-870E-4BDF-B0EA-E3B4766119FE }
47                             ",
48                         "isBlocking": true,
49                         "isFTU": true,
50                         "maximumAllowedVersion": "
51                             23.8.1.24",
52                         "minimumAllowedVersion": "
53                             0.0.0.0",
54                         "stream": "Current",
55                         "upgradeToLatest": true
56                     }
57                 }
58             ],
59             "pluginId": "9A8AF6C0-11F6-4343-
60                 BA2D-A85A766170D5",
61             "pluginName": "Citrix Secure Access
62                 Client",
63             "pluginSettings":
64             {
65
66                 "delayGroup": "Fast",
67                 "deploymentMode": "
68                     InstallAndUpdate",
69                 "detectRule": "UpgradeCode:{
70                     F0ED53AB-11BE-4E9C-87E5-CD4A81DA2A4D }
71                     ",
72                 "isBlocking": false,
```

```
69         "isFTU": true,
70         "maximumAllowedVersion": "
71             21.8.0.0",
72         "minimumAllowedVersion": "
73             0.0.0.0",
74         "stream": "Current",
75         "upgradeToLatest": true
76     }
77 ,
78     {
79
80         "pluginId": "C03BAE37-F3AC-4D63-8
81             BC1-3C9CD2BC9E8D",
82         "pluginName": "WebEx VDI
83             AutoUpgrade Plugin",
84         "pluginSettings":
85         {
86             "delayGroup": "Fast",
87             "deploymentMode": "
88                 InstallAndUpdate",
89             "detectRule": "UpgradeCode:{
90                 AA2AACDC-D30B-433F-A602-3E25975010A6 }
91             ",
92             "isBlocking": false,
93             "isFTU": false,
94             "maximumAllowedVersion": "
95                 3.1.0.24263",
96             "minimumAllowedVersion": "0.0.0
97                 ",
98             "stream": "Current",
99             "upgradeToLatest": true
100         }
101     }
102 ]
103 ],
104 "userOverride": false
105 }
106 ]
107 }
108 }
109 }
110 }
111 }
112 }
113 }
114 }
```

115 <!--NeedCopy-->

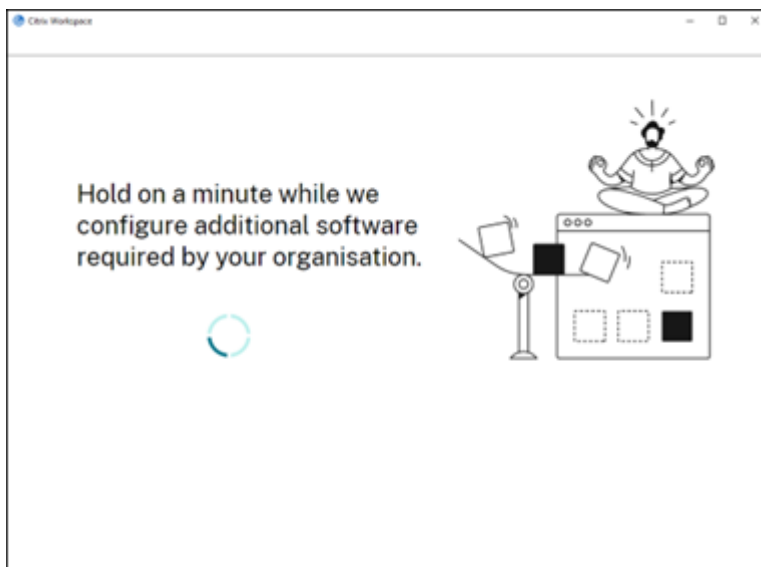
次の表に、プラグイン管理設定のスキーマ、値、および説明を示します。

スキーマ設定	値	説明
isBlocking	True または False	isBlocking パラメーターが true に設定されている場合、プラグインは必須と見なされ、必要なプラグインがインストールされている場合にのみサインインページが表示されます。EPA を必須プラグインとして設定することを Citrix ではお勧めします。
pluginName		プラグインのフレンドリ名。 pluginName は変更できます。
pluginId		プラグインの ID。変更しないでください。
delayGroup	高速、中、低速	プラグインの自動更新の間隔。
deploymentMode	InstallAndUpdate/Update	InstallAndUpdate: プラグインを新規インストール、および新しいバージョンで更新できます。Update: 更新のみが可能であり、新規インストールはできません。
なし		このプラグインには操作の必要なし。
detectRule	値を変更しないでください。	プラグインが既にインストールされているかどうかを確認します。
maximumAllowedVersion		プラグインの最大許容バージョン。
minimumAllowedVersion		プラグインの最小許容バージョン。
upgradeToLatest	True または False	maximumAllowedVersion と minimumAllowedVersion をサポートするには、これを false に設定する必要があります。True: 更新中にプラグインの最新バージョンが考慮されます。
Stream	最新	プラグインのインストールまたは自動更新を受けるには、Current に設定する必要があります

ユーザーのワークフロー

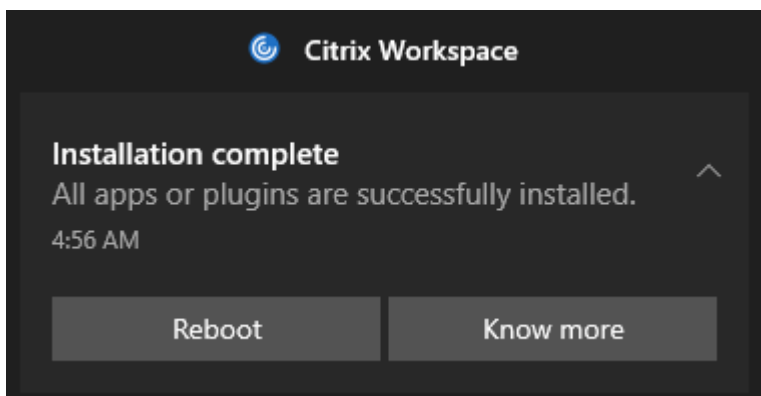
1. Windows 向け Citrix Workspace アプリをダウンロードしてインストールします。
2. インストールの最後に [アカウントの追加] をクリックします。
3. アプリの構成設定がオンボードされている場所にストアまたはアカウントを追加します。

必須プラグインのインストール中に、次のメッセージが表示されます：

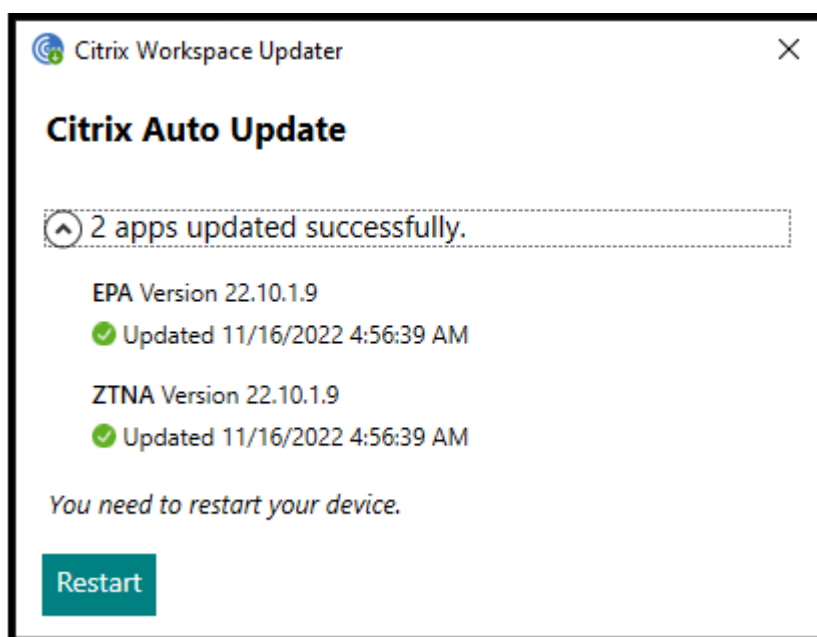


(インストール保留中)

4. インストールが完了すると、次のトースト通知が表示されます：



5. インストールされているプラグインを確認するには、[詳細] をクリックします。



Zoom プラグインのプラグイン管理

Zoom プラグインのダウンロード、インストール、および自動更新もサポートされており、EPA プラグインおよび ZTNA プラグインと同じ方法で処理されます。

この機能を使用するには、次の Global App Configuration 設定をストアまたはアカウントにオンボードする必要があります：

```
1 {
2
3   "serviceURL":
4   {
5
6     "url": "https://storefront.acme.com:443"
7   }
8   ,
9   "settings":
10  {
11
12    "description": "Install and update plugins",
13    "name": "Install and update plugins",
14    "useForAppConfig": true,
15    "appSettings":
16    {
17
18      "windows":
19      [
20        {
21
22          "assignedTo":
23          [
```



```
24         "AllUsersNoAuthentication"
25     ],
26     "category": "AutoUpdate",
27     "settings":
28     [
29         {
30
31             "name": "Auto Update plugins settings",
32             "value":
33             [
34                 {
35
36                     "pluginId": "1A4BB471-022C-4C87-
37                         BDCD-0B64FB42869C",
38                     "pluginName": "Zoom VDI AutoUpgrade
39                         Plugin",
40                     "pluginSettings":
41                     {
42
43                         "delayGroup": "Fast",
44                         "deploymentMode": "
45                         InstallAndUpdate",
46                         "detectRule": "UpgradeCode:{
47                         34225638-14F3-4059-BE34-175AC9B35435 }
48                         ",
49                         "isBlocking": false,
50                         "isFTU": false,
51                         "maximumAllowedVersion": "
52                         5.11.2872",
53                         "minimumAllowedVersion": "0.0.0
54                         ",
55                         "stream": "Current",
56                         "upgradeToLatest": true
57                     }
58                 }
59             ]
60         },
61     ],
62     "userOverride": false
63 }
64 }
65 }
66 }
67 }
68 }
69 }
70 }
71 <!--NeedCopy-->
```

アプリエクスペリエンス

April 22, 2024

ここでは、以下の内容について説明します：

- [アプリケーションの配信](#)
- [仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上](#)
- [アプリ設定](#)
- [SaaS アプリ](#)
- [データ収集と監視](#)

アプリケーションの配信

June 14, 2024

Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS を使用してアプリケーションを配信する場合は、次のオプションを検討してユーザーエクスペリエンスを強化してください：

- **Web アクセスモード** - いずれの構成も行わない場合、Citrix Workspace アプリではアプリケーションおよびデスクトップへのブラウザベースのアクセスが提供されます。Workspace for Web を Web ブラウザーで開き、使用するアプリケーションを選択して実行できます。このモードでは、ユーザーのデスクトップにショートカットは置かれません。
- **セルフサービスモード** - StoreFront アカウントを Citrix Workspace アプリに追加するか、StoreFront Web サイトをポイントするように Citrix Workspace アプリを構成することで、セルフサービスモードを構成できます。セルフサービスモードでは、Citrix Workspace アプリのユーザーインターフェイスからアプリケーションをサブスクライブできます。この拡張ユーザーエクスペリエンスはモバイルアプリストアのものと同様です。セルフサービスモードでは、必要に応じて必須設定、自動プロビジョニング設定、お勧めのアプリキーワード設定を構成できます。

注：

Citrix Workspace アプリのデフォルトでは、[スタート] メニューに表示するアプリケーションを選択できます。

- **アプリのショートカットのみのモード** - 管理者は、Citrix Workspace アプリを構成してアプリケーションおよびデスクトップショートカットを [スタート] メニュー内に直接またはデスクトップ上に自動的に配置できます。この配置は、Citrix Workspace アプリ Enterprise と同様です。新しい「ショートカットのみ」のモードにより、アプリの検索で使い慣れた Windows のナビゲーションスキーマ内で公開アプリを見つけることができます。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[デリバリーグループの作成](#)」セクションを参照してください。

セルフサービスモードの構成

StoreFront アカウントを Citrix Workspace アプリに追加するか、StoreFront サイトをポイントするように Citrix Workspace アプリを構成することで、セルフサービスモードを構成できます。この構成により、ユーザーが Citrix Workspace のユーザーインターフェイスからアプリケーションをサブスクライブできます。この拡張ユーザーエクスペリエンスはモバイルアプリストアのものと同様です。

注:

Citrix Workspace アプリのデフォルトでは、ユーザーは [スタート] メニューに表示するアプリケーションを選択できます。

セルフサービスモードでは、必要に応じて必須設定、自動プロビジョニング設定、お勧めのアプリキーワード設定を構成できます。

デリバリーグループアプリケーションの説明に、適切なキーワードを追加します:

- 個々のアプリを必須にして Citrix Workspace アプリから削除できないようにするには、アプリケーションの説明に「KEYWORDS: Mandatory」という文字列を追加します。ユーザーが必須アプリをサブスクリプション解除するための削除オプションはありません。
- アプリケーションがストアのユーザー全員に自動的にサブスクライブされるようにするには、説明に「KEYWORDS: Auto」という文字列を追加します。ユーザーがストアにログオンすると、そのアプリケーションを手動でサブスクライブしなくても自動的にプロビジョニングされます。
- 説明に「KEYWORDS: Featured」という文字列を追加すると、そのアプリケーションが Citrix Workspace の [おすすめ] 一覧に表示され、ユーザーがそのアプリケーションを見つけやすくなります。

グループポリシーオブジェクトテンプレートを使用したアプリショートカットの場所のカスタマイズ

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [Self Service] の順に移動します。
3. [SelfServiceMode を管理します] ポリシーを選択します。
 - a) Self Service ユーザーインターフェイスを表示するには、[有効] を選択します。
 - b) アプリを手動でサブスクライブするには、[無効] を選択します。このオプションは、Self Service ユーザーインターフェイスを非表示にします。
4. [アプリのショートカットを管理します] ポリシーを選択します。
5. 必要に応じてオプションを選択します。

6. [適用]、[OK] の順にクリックします。
7. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

アプリショートカットをカスタマイズするための **StoreFront** アカウント設定の使用

[スタート] メニュー内およびデスクトップ上のショートカットを StoreFront サイトからセットアップできます。
C:\inetpub\wwwroot\Citrix\Roamingにある web.config ファイルの **<annotatedServices>** セクションに次の設定を追加できます:

- デスクトップ上にショートカットを置くには、PutShortcutsOnDesktop を使用します。設定:” true” または” false” (デフォルトは false)。
- [スタート] メニュー内にショートカットを置くには、PutShortcutsInStartMenu を使用します。設定:” true” または” false” (デフォルトは true)。
- [スタート] メニュー内のカテゴリパスを使用するには、UseCategoryAsStartMenuPath を使用します。設定:” true” または” false” (デフォルトは true)。

注:

Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 では、[スタート] メニュー内には階層分けされたフォルダーを作成できません。代わりに、アプリケーションを個別に、またはルートフォルダー配下に表示します。アプリケーションは、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS で定義されたカテゴリサブフォルダー内にはありません。

- [スタート] メニュー内のすべてのショートカットを単一のフォルダー内に置くには、StartMenuDir を使用します。設定: 文字列値、ショートカットが書き込まれるフォルダーの名前になります。
- 管理者により変更されたアプリが再インストールされるようにする (変更アプリの自動再インストール機能) には、AutoReinstallModifiedApps を使用します。設定:” true” または” false” (デフォルトは true)。
- デスクトップ上のすべてのショートカットを単一のフォルダー内に置くには、DesktopDir を使用します。設定: 文字列値、ショートカットが書き込まれるフォルダーの名前になります。
- クライアントの 'add/remove programs' でエントリを作成しないようにするには、DontCreateAddRemoveEntry を使用します。設定:” true” または” false” (デフォルトは false)。
- 以前はストアから実行できたが今は実行できなくなったアプリケーションのショートカットや Citrix Workspace アイコンを削除するには、SilentlyUninstallRemovedResources を使用します。設定:” true” または” false” (デフォルトは false)。

web.config ファイルで、アカウントの **XML** セクションに変更を追加します。次の開始タグを検索し、このセクションに移動します。

```
<account id=... name="Store"
```

このセクションは、</account> タグで終わります。

このタグ内にある、次のような最初のプロパティセクションに移動します。

```
<properties> <clear> <properties>
```

このセクションの `<clear />` タグの後ろにプロパティを追加できます。1 行ごとに名前と値を記述します。例:

```
<property name="PutShortcutsOnDesktop" value="True"/>
```

注:

`<clear />` タグの前に追加されたプロパティの要素により、それが無効になることがあります。プロパティ名と値の追加が任意の場合は、`<clear />` タグを削除します。

プロパティの追加例:

```
<properties <property name="PutShortcutsOnDesktop" value="True">  
property name="DesktopDir" value="Citrix Applications">
```

重要

複数サーバーによる展開環境では、複数のサーバー上で同時にサーバーグループの構成を変更しないでください。展開内のほかのサーバー上で Citrix StoreFront 管理コンソールを同時に実行していないことを確認してください。変更が完了したら、構成の変更をサーバーグループに反映させて、展開内のほかのサーバーを更新します。詳しくは、[StoreFront](#) のドキュメントを参照してください。

Citrix Virtual Apps and Desktops 7.x のアプリごとの設定を使ったアプリショートカットの場所のカスタマイズ

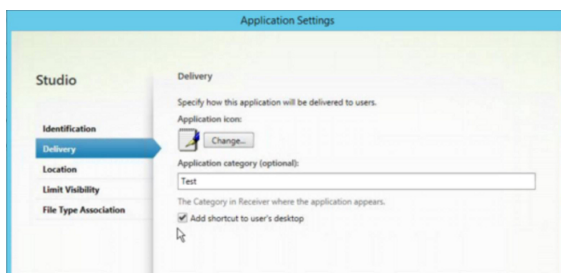
アプリケーションおよびデスクトップショートカットを [スタート] メニュー内に直接またはデスクトップ上に自動的に配置するよう、Citrix Workspace アプリを構成できます。ただし、この構成は、以前の Windows 向け Workspace のバージョンと同様です。ただし、リリース 4.2.100 では Citrix Virtual Apps を使ってアプリ設定ごとにアプリショートカットの配置を制御できる機能が導入されています。この機能は、終始一貫した場所に表示する必要がある一部のアプリケーションが存在する環境で有用です。

XenApp 7.6 のアプリごとの設定を使った、アプリショートカットの場所のカスタマイズ

XenApp 7.6 でアプリごとの公開ショートカットを構成するには

1. Citrix Studio で、[アプリケーション設定] 画面を開きます。
2. [アプリケーション設定] 画面で [配信] を選択します。この画面を使って、アプリケーションがユーザーにどのように配信されるかを指定できます。
3. アプリケーションの適切なアイコンを選択します。[変更] をクリックして、必要なアイコンの場所を参照します。
4. [アプリケーションカテゴリ] に、アプリケーションが表示される Citrix Workspace アプリのカテゴリを指定します。たとえば、ショートカットを Microsoft Office アプリケーションに追加している場合は、「Microsoft Office」と入力します。

5. [ユーザーのデスクトップにショートカットを追加する] チェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。



列挙遅延またはアプリケーションスタブデジタル署名の削減

Citrix Workspace アプリは、次の場合に、ネットワーク共有から.EXE スタブをコピーする機能を提供します：

- サインインするたびにアプリの列挙に遅れがある、または
- アプリケーションスタブにデジタル署名する必要がある。

この機能を実行するには、次の複数の手順を実行します：

1. クライアントマシンにアプリケーションスタブを作成します。
2. アプリケーションスタブをネットワーク共有からアクセスできる場所にコピーします。
3. 必要な場合は、許可リストを作成します（または、エンタープライズ証明書でスタブに署名します）。
4. レジストリキーを追加し、ネットワーク共有からスタブをコピーして Windows 向け Workspace がスタブを作成できるようにします。

RemoveappsOnLogoff および **RemoveAppsonExit** が有効で、ユーザーのログオン時にアプリ列挙に遅延が生じる場合、次の解決策により遅延を削減させます。

1. Regedit を使って、`HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle /v ReuseStubs /t REG_SZ /d "true"` を追加します。
2. Regedit を使って、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle /v ReuseStubs /t REG_SZ /d "true"` を追加します。HKEY_CURRENT_USER は、HKEY_LOCAL_MACHINE よりも優先されます。

注意

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

ネットワーク共有に格納されている事前作成のスタブ実行可能ファイルをマシンが使用できるようにします：

1. クライアントマシン上で、すべてのアプリに対するスタブ実行可能ファイルを作成します。スタブ実行可能ファイルの作成を実行するには、Citrix Workspace アプリを使ってすべてのアプリケーションをマシンに追加します。Citrix Workspace アプリは実行可能ファイルを生成します。
2. %APPDATA%\Citrix\SelfServiceからスタブ実行可能ファイルを取得します。必要なのは.exeファイルだけです。
3. 実行可能ファイルをネットワーク共有にコピーします。
4. ロックダウンされる各クライアントマシンに対して次のレジストリキーを設定します。
 - a) Reg add HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle /v CommonStubDirectory /t REG_SZ /d "\\ShareOne\WorkspaceStubs"
 - b) Reg add HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle /v CopyStubsFromCommonStubDirectory /t REG_SZ /d "true"。また、必要な場合は HKEY_CURRENT_USER でこれらの設定を構成することもできます。HKEY_CURRENT_USER は、HKEY_LOCAL_MACHINE よりも優先されます。
 - d) Citrix Workspace アプリのセッションを終了後再起動して、この変更を適用します。

ユースケースの例:

このトピックでは、アプリショートカットのユースケースについて紹介します。

[スタート] メニューに何を置くか、ユーザーが選べるようにする (**Self-servic**)

数十、または数百のアプリがある場合は、ユーザーがアプリケーションを選択して、[お気に入り] と [スタート] メニューに追加できるようします:

[スタート] メニューに置くアプリケーションをユーザーが選べるようにするには、	Citrix Workspace アプリをセルフサービスモードに構成します。このモードでは、「自動プロビジョニング」設定および「必須」アプリキーワード設定も構成できます。
ユーザーが [スタート] メニューに置くアプリケーションを選べるようにして、また特定のアプリショートカットをデスクトップに置くには。	Citrix Workspace アプリをオプション設定なしで構成して、デスクトップに置くアプリについてアプリごとの設定を使用します。必要に応じて、「自動プロビジョニング」および「必須」アプリを使用します。

[スタート] メニュー内にアプリショートカットなし

コンピューターを家族で共有して使用していて、アプリショートカットを一切置きたくないとします。このような場合、最も簡単なのはブラウザーアクセスです。いずれの構成も行わずに Citrix Workspace アプリをインストールし、Workspace for Web にアクセスします。また、ショートカットをどこにも配置しないでセルフサービスアクセス用に Citrix Workspace アプリを構成することもできます。

Citrix Workspace アプリが [スタート] メニューに自動的にアプリショートカットを配置しないようにするには。

Citrix Workspace アプリで `PutShortcutsInStartMenu=False` と構成します。アプリごとの設定を使ってショートカットを置かない限り、セルフサービスモードであっても、Citrix Workspace アプリは [スタート] メニュー内にアプリを配置しません。

[スタート] メニュー内、またはデスクトップ上にすべてにアプリショートカットを置く

ユーザーが所有するアプリが少ない場合は、そのすべてを [スタート] メニュー内やデスクトップ上に、あるいはデスクトップ上のフォルダー内に配置します。

Citrix Workspace アプリによって [スタート] メニューにすべてのアプリケーションショートカットを自動的に配置するには。

すべてのアプリケーションショートカットをデスクトップ上に置く場合は。

すべてのショートカットをデスクトップ上のフォルダー内に置く場合は。

Citrix Workspace アプリで `SelfServiceMode=False` と構成します。使用可能なすべてのアプリが [スタート] メニュー内に表示されます。

Citrix Workspace アプリで `PutShortcutsOnDesktop=true` と構成します。使用可能なすべてのアプリがデスクトップに表示されます。

Citrix Workspace アプリで `DesktopDir=Name` アプリケーションショートカットを置くデスクトップフォルダーの名前と構成します。

XenApp 6.5 または 7.x でのアプリごとの設定

ショートカットの場所を指定して、すべてのユーザーが同じ場所でそれにアクセスできるようにするには、XenApp のアプリごとの設定を使用します：

セルフサービスモードか、または [スタート] メニューモードかには関係なく、アプリごとの設定によりアプリケーションを配置する場所を決定する場合は。

Citrix Workspace アプリで `PutShortcutsInStartMenu=false` と構成して、アプリごとの設定を有効にします

カテゴリフォルダーまたは特定のフォルダーのアプリ

特定のフォルダー内にアプリケーションを表示する場合は、次のオプションを使用します。

Citrix Workspace アプリにより [スタート] メニューに置かれたアプリケーションショートカットを関連カテゴリ (フォルダー) 内に表示するには。	Citrix Workspace アプリで UseCategoryAsStartMenuPath=True と構成します。
Citrix Workspace アプリにより [スタート] メニューに置かれたアプリケーションを特定のフォルダー内に配置するには。	Citrix Workspace アプリで StartMenuDir= [スタート] メニューフォルダーの名前と構成します。

ログオフまたは終了時にアプリを削除

エンドポイントをほかのユーザーと共有していて、自分のアプリがそのユーザーには表示されないようにしたい場合は、ログオフまたは終了時にアプリを削除できます。

ログオフ時に Citrix Workspace アプリによりすべてのアプリが削除されるようにするには。	Citrix Workspace アプリで RemoveAppsOnLogoff=True と構成します。
終了時に Citrix Workspace アプリによりアプリが削除されるようにするには。	Citrix Workspace アプリで RemoveAppsOnExit=True と構成します。

ローカルアプリアクセスのアプリケーションの構成

ローカルアプリアクセスのアプリケーションを構成する場合は次のようにします。

- 説明に「KEYWORDS:prefer=" <pattern>” という文字列を追加すると、Citrix Workspace アプリでアクセスされるアプリケーションの代わりにローカルのアプリケーションが使用されるようになります。この機能は、「ローカルアプリアクセス」と呼ばれます。

Citrix Workspace アプリは、ユーザーのコンピューターにアプリケーションをインストールする前に pattern で指定されたパターンを検索し、そのアプリケーションがローカルにインストールされているかどうかをチェックします。アプリケーションがローカルにインストールされている場合、Citrix Workspace アプリはそのアプリケーションをサブスクライブして、ショートカットは作成しません。ユーザーが Citrix Workspace アプリからそのアプリケーションを起動すると、ローカルにインストールされたアプリケーション (ここでは「優先アプリケーション」と呼びます) が起動します。

ユーザーが Citrix Workspace アプリを使用せずに優先アプリケーションをアンインストールすると、Citrix Workspace アプリの次回更新時にそのアプリケーションのサブスクリプションが解除されます。ユーザーが

Citrix Workspace アプリを使用して優先アプリケーションをアンインストールすると、Citrix Workspace アプリはそのアプリケーションのサブスクリプションを解除しますが、アンインストールはしません。

注:

Citrix Workspace アプリでアプリケーションをサブスクライブすると、キーワード `prefer` が適用されます。アプリケーションをサブスクライブした後でこの文字列を追加しても、そのアプリケーションには適用されません。

同じアプリケーションに対して複数回 `prefer` キーワードを指定できます。この場合、指定したパターンの 1 つが一致すると、そのアプリケーションに設定が適用されます。以下のパターンを任意に組み合わせて指定できます:

- 説明に「`KEYWORDS:prefer=" <pattern>`」という文字列を追加すると、Citrix Workspace アプリでアクセスされるアプリケーションの代わりにローカルのアプリケーションが使用されるようになります。この機能は、「ローカルアプリアクセス」と呼ばれます。

Citrix Workspace アプリは、ユーザーのコンピューターにアプリケーションをインストールする前に `pattern` で指定されたパターンを検索し、そのアプリケーションがローカルにインストールされているかどうかをチェックします。アプリケーションがローカルにインストールされている場合、Citrix Workspace アプリはそのアプリケーションをサブスクライブして、ショートカットは作成しません。ユーザーが Citrix Workspace アプリからそのアプリケーションを起動すると、ローカルにインストールされたアプリケーション（ここでは「優先アプリケーション」と呼びます）が起動します。

ユーザーが Citrix Workspace アプリを使用せずに優先アプリケーションをアンインストールすると、Citrix Workspace アプリの次回更新時にそのアプリケーションのサブスクリプションが解除されます。ユーザーが Citrix Workspace アプリを使用して優先アプリケーションをアンインストールすると、Citrix Workspace アプリはそのアプリケーションのサブスクリプションを解除しますが、アンインストールはしません。

注:

Citrix Workspace アプリでアプリケーションをサブスクライブすると、キーワード `prefer` が適用されます。アプリケーションをサブスクライブした後でこの文字列を追加しても、そのアプリケーションには適用されません。

同じアプリケーションに対して複数回 `prefer` キーワードを指定できます。この場合、指定したパターンの 1 つが一致すると、そのアプリケーションに設定が適用されます。以下のパターンを任意に組み合わせて指定できます:

- `prefer=" <ApplicationName>`

ショートカットファイルに指定されているアプリケーション名にマッチします。単語または語句を指定できますが、語句の場合は引用句を使用する必要があります。単語やファイルパスの一部がマッチしても無視され、大文字/小文字も区別されません。アプリケーション名によるマッチは、管理者が手作業で設定する場合に便利です。

KEYWORDS:prefer=	Programs 配下のショートカット	マッチする?
Word	\\Microsoft Office\\Microsoft Word 2010	はい
Microsoft Word	\\Microsoft Office\\Microsoft Word 2010	はい
Console	McAfee\\VirusScan Console	はい
Virus	McAfee\\VirusScan Console	いいえ
Console	McAfee\\VirusScan Console	はい

- prefer=" \\Folder1\\Folder2\\...\\ApplicationName"

[スタート] メニューのショートカットファイルの絶対パスおよびアプリケーション名にマッチします。Programs フォルダーは、[スタート] メニューディレクトリのサブフォルダーであるため、フォルダーのアプリケーションを対象にするには絶対パスに Programs フォルダーを含む必要があります。パスにスペースが含まれている場合は、引用符を使用する必要があります。また、大文字と小文字は区別されます。絶対パスによるマッチは、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS でプログラムの優先アプリケーションを設定する場合に便利です。

KEYWORDS:prefer=	Programs 配下のショートカット	マッチする?
\\Programs\\Microsoft Office\\Microsoft Word 2010	\\Programs\\Microsoft Office\\Microsoft Word 2010	はい
\\Microsoft Office	\\Programs\\Microsoft Office\\Microsoft Word 2010	いいえ
\\Microsoft Word 2010	\\Programs\\Microsoft Office\\Microsoft Word 2010	いいえ
\\Programs\\Microsoft Word 2010	\\Programs\\Microsoft Word 2010	はい

- prefer=" \\Folder1\\Folder2\\...\\ApplicationName"

[スタート] メニューのショートカットファイルの相対パスにマッチします。相対パスにはアプリケーション名を含める必要があります、そのショートカットの親フォルダー名を含めることもできます。ショートカットのファイルパスの末尾が、指定したパターンに一致すると、そのアプリケーションに設定が適用されます。パスにスペースが含まれている場合は、引用符を使用する必要があります。また、大文字と小文字は区別されます。相対パスによるマッチは、プログラムの優先アプリケーションを設定する場合に便利です。

KEYWORDS:prefer=	Programs 配下のショートカット	マッチする?
\Microsoft Office\Microsoft Word 2010	\Microsoft Office\Microsoft Word 2010	はい
\Microsoft Office	\Microsoft Office\Microsoft Word 2010	いいえ
\Microsoft Word 2010	\Microsoft Office\Microsoft Word 2010	はい
\Microsoft Word	\Microsoft Word 2010	いいえ

ほかのキーワードについては、StoreFront のドキュメントの「[ユーザーエクスペリエンスの最適化](#)」セクションの「そのほかの推奨事項」を参照してください。

vPrefer 起動

以前のリリースでは、**Citrix Studio** の KEYWORDS:prefer=" application" 属性を設定することで、VDA にインストールされたアプリケーションのインスタンス（このドキュメントではローカルインスタンスと呼びます）を公開アプリケーションよりも優先して起動するよう指定できます。

バージョン 4.11 より、ダブルホップシナリオ（セッションをホストする VDA で Citrix Workspace アプリが実行されている場合）で、Citrix Workspace アプリを起動するかどうかを制御できるようになりました：

- VDA にインストールされているアプリケーションのローカルインスタンス（ローカルアプリとして利用可能な場合）、または
- アプリケーションのホストされたインスタンス。

vPrefer は、StoreFront バージョン 3.14 および Citrix Virtual Desktops 7.17 以降で使用できます。

アプリケーションを起動すると、Citrix Workspace アプリは StoreFront サーバー上のリソースデータを読み取り、列挙時に **vprefer** フラグに基づいてこの設定を適用します。Citrix Workspace アプリは、VDA の Windows レジストリでアプリケーションのインストールパスを検索します。存在する場合は、アプリケーションのローカルインスタンスを起動します。それ以外の場合は、アプリケーションのホストされたインスタンスを起動します。

VDA にないアプリケーションを起動すると、Citrix Workspace アプリはホストされているアプリケーションを起動します。StoreFront でローカル起動を処理する方法については、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[公開デスクトップ上のアプリケーションのローカル起動を制御する](#)」を参照してください。

アプリケーションのローカルインスタンスを VDA で起動しない場合は、Delivery Controller で PowerShell を使用して **LocalLaunchDisabled** を **True** に設定します。詳しくは、[Citrix Virtual Apps and Desktops](#) のドキュメントを参照してください。

この機能によって、アプリケーションをよりすばやく起動できるため、より良いユーザーエクスペリエンスを実現できます。この機能は、グループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレートで構成できます。デフォルトでは、vPrefer はダブルホップシナリオでのみ有効です。

注:

Citrix Workspace アプリを初めてアップグレードまたはインストールする場合、最新のテンプレートファイルをローカル GPO に追加します。テンプレートファイルをローカル GPO に追加する方法について詳しくは、「[グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート](#)」を参照してください。アップグレードの場合、最新のファイルをインポートするときに既存の設定が保持されます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリの GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [SelfService] の順に移動します。
3. **vPrefer** ポリシーを選択します。
4. [有効] をクリックします。
5. [アプリを許可] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれか 1 つを選択します：
 - [すべてのアプリを許可]: このオプションは、VDA 上のすべてのアプリのローカルインスタンスを起動します。Citrix Workspace アプリは、インストールされているアプリケーション（メモ帳、電卓、ワードパッド、コマンドプロンプトなどのネイティブ Windows アプリを含む）を検索します。その後、ホストされているアプリではなく、VDA でアプリケーションを起動します。
 - インストール済みアプリを許可: このオプションは、VDA 上のインストール済みアプリのローカルインスタンスを起動します。アプリが VDA にインストールされていない場合は、ホストされているアプリを起動します。**vPrefer** ポリシーが [有効] に設定されている場合、デフォルトで [インストール済みアプリを許可] が選択されます。このオプションは、メモ帳、電卓などのネイティブ Windows オペレーティングシステムアプリケーションを除外します。
 - ネットワークアプリを許可: このオプションは、共有ネットワークに公開されているアプリのインスタンスを起動します。
6. [適用]、[OK] の順にクリックします。
7. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

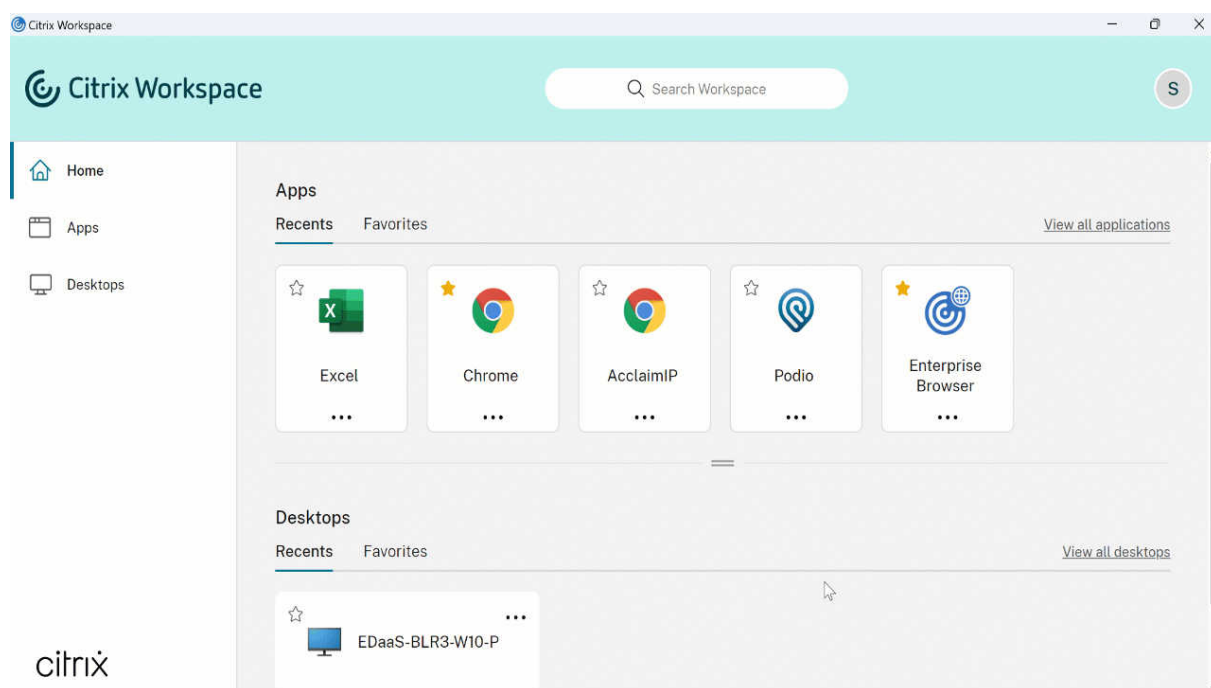
制限事項:

- Workspace for Web はこの機能をサポートしていません。

仮想アプリとデスクトップの起動エクスペリエンスの向上

June 14, 2024

この機能は、クラウドおよびオンプレミスストアではデフォルトで有効になっています。改善されたアプリおよびデスクトップの起動エクスペリエンスは、より有益で最新のものであり、Windows 向け Citrix Workspace アプリでユーザーフレンドリーなエクスペリエンスを提供します。このエクスペリエンスにより、起動ステータスに関するタイムリーな関連情報にユーザーが関心を持ち続けることができます。画面の右下隅に通知が表示されます。



ユーザーには、読み込み中アイコンだけでなく、起動の進行状況に関する重要な通知が表示されます。起動中にユーザーが Web ブラウザーを閉じようとする、警告メッセージが表示されます。

アプリ設定

June 14, 2024

高度な設定シート

システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンの右クリックメニューにある [高度な設定] シートの使用およびシートの内容をカスタマイズできます。これによって、ユーザーはシステムで管理者が指定した設定のみを適用できるようにします。具体的には、次の操作が可能です：

- [高度な設定] シートをすべて非表示にする
- シートから以下の特定の設定を非表示にする
 - データ収集
 - コネクションセンター
 - 構成チェッカー
 - キーボードと言語バー
 - 高 DPI
 - サポート情報

- ショートカットと再接続
- Citrix Casting

右クリックメニューの [高度な設定] オプションを非表示にする

Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレートを使用して、[高度な設定] シートを非表示にすることができます:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix Workspace] > [Self Service] > [高度な設定] オプションの順に移動します。
3. [高度な設定を無効にする] ポリシーを選択します。
4. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックし [有効] を選択して、[高度な設定] オプションを非表示にします。

注:

デフォルトでは、[未構成] オプションが選択されています。

[高度な設定] シートから特定の設定を非表示にする

Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して、[高度な設定] シートからユーザーが構成可能な特定の設定を非表示にすることができます。設定を非表示にするには:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix Workspace] > [Self Service] > [高度な設定] オプションの順に移動します。
3. 非表示にする設定のポリシーを選択します。

以下の表は、選択できるオプションとそれぞれの効果です:

オプション	アクション
未構成	設定を表示します
有効	設定を非表示にします
無効	設定を表示します

[高度な設定] シートでは、以下の設定を非表示にできます。

- 構成チェッカー
- コネクションセンター
- 高 DPI
- データ収集
- 保存したパスワードの削除
- キーボードと言語バー
- ショートカットと再接続
- サポート情報
- Citrix Casting

レジストリエディターを使用して [高度な設定] シートから [**Workspace** をリセット] オプションを非表示にする

レジストリエディターを使用して [高度な設定] シートから [**Workspace** をリセット] オプションを非表示にすることができます。

1. レジストリエディターを起動します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\Dazzle` にアクセスします。
3. 文字列値キー **EnableFactoryReset** を作成し、次のいずれかのオプションに設定します。
 - True - [高度な設定] シートで [Workspace をリセット] オプションが表示されます
 - False - [高度な設定] シートで [Workspace をリセット] オプションが非表示になります

[高度な設定] シートから [**Citrix Workspace** 更新プログラム] オプションを非表示にする

注:

[Citrix Workspace 更新プログラム] オプションのポリシーパスは、[高度な設定] シートにあるほかのオプションのポリシーパスとは異なります。

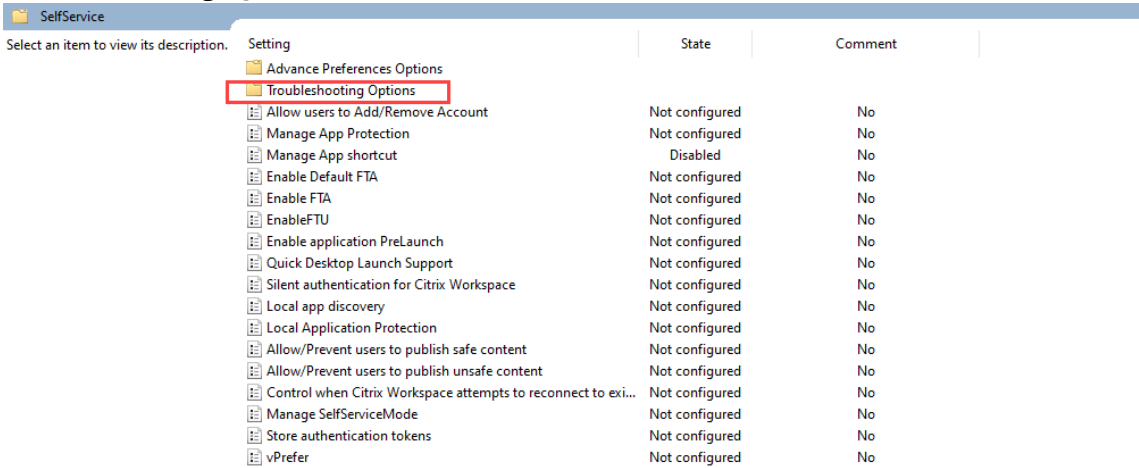
1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [**Citrix** コンポーネント] > [**Citrix Workspace**] > [**Citrix Workspace** の更新] の順に移動します。
3. [**Citrix Workspace** の更新] ポリシーを選択します。
4. [高度な設定] シートで [Workspace の更新] 設定を非表示にするには、[無効] を選択します。

エンドユーザーのトラブルシューティングオプションを非表示にする

管理者は、GPO エディターを使用して、エンドユーザーのトラブルシューティングオプションを非表示にできます。この設定を有効にすると、以前はシステムトレイ上でエンドユーザーに表示されていたトラブルシューティングオプションが非表示になります。

1. GPO エディターで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [Self Service] の順に移動します。

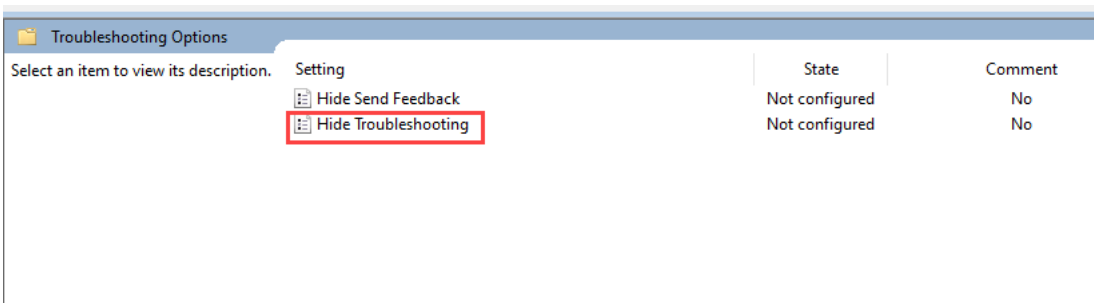
2. **Troubleshooting Options** フォルダーを選択します。



The screenshot shows the 'SelfService' GPO editor. The 'Troubleshooting Options' folder is highlighted with a red box. Below it is a table of settings.

Setting	State	Comment
Advance Preferences Options		
Troubleshooting Options		
Allow users to Add/Remove Account	Not configured	No
Manage App Protection	Not configured	No
Manage App shortcut	Disabled	No
Enable Default FTA	Not configured	No
Enable FTA	Not configured	No
EnableFTU	Not configured	No
Enable application PreLaunch	Not configured	No
Quick Desktop Launch Support	Not configured	No
Silent authentication for Citrix Workspace	Not configured	No
Local app discovery	Not configured	No
Local Application Protection	Not configured	No
Allow/Prevent users to publish safe content	Not configured	No
Allow/Prevent users to publish unsafe content	Not configured	No
Control when Citrix Workspace attempts to reconnect to exi...	Not configured	No
Manage SelfServiceMode	Not configured	No
Store authentication tokens	Not configured	No
vPrefer	Not configured	No

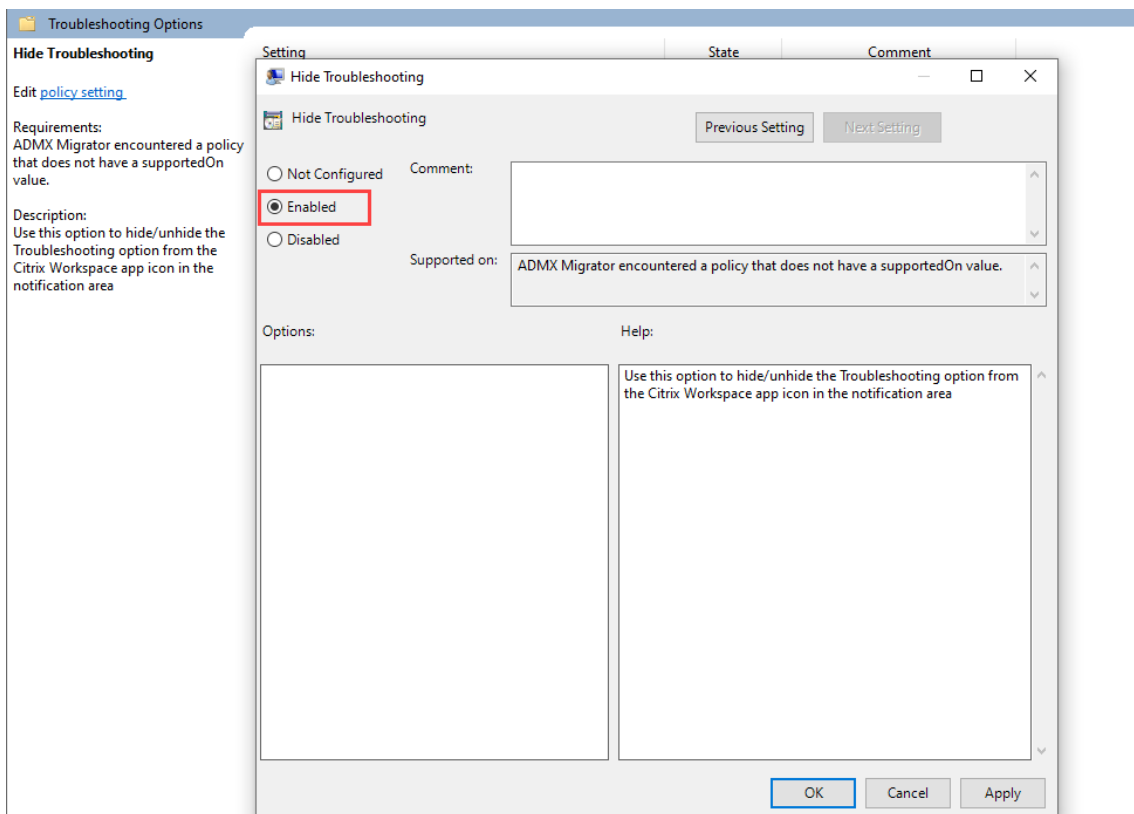
3. **[Hide Troubleshooting]** 設定を選択します。



The screenshot shows the 'Troubleshooting Options' GPO editor. The 'Hide Troubleshooting' setting is highlighted with a red box. Below it is a table of settings.

Setting	State	Comment
Hide Send Feedback	Not configured	No
Hide Troubleshooting	Not configured	No

4. [Hide Troubleshooting] ダイアログボックスで、**[Enabled]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスを選択すると、エンドユーザーに対してトラブルシューティングオプションが非表示になります。



5. **[OK]** をクリックして設定を保存します。

Citrix Casting

Citrix Ready ワークスペースハブは、デジタル環境と物理環境を組み合わせ、セキュアなスマートスペース内にアプリやデータを配信します。このシステム全体が、モバイルアプリやセンサーなどのデバイス（「モノ」）を接続して、インテリジェントで応答性の高い環境を作ります。

Citrix Ready ワークスペースハブは Raspberry Pi 3 プラットフォーム上に構築されます。Citrix Workspace アプリを実行しているデバイスは Citrix Ready ワークスペースハブに接続し、デスクトップまたはアプリをより大きなディスプレイにキャストします。Citrix Casting は、Microsoft Windows 10 バージョン 1607 以降、または Windows Server 2016 でのみサポートされます。

Citrix Casting 機能では、モバイルデバイスから簡単かつセキュアに任意のアプリにアクセスして、大きな画面で表示することができます。

注：

- Citrix Casting for Windows は、Citrix Ready ワークスペースハブバージョン 2.40.3839 以降をサポートしています。以前のバージョンのワークスペースハブが検出されないか、キャストエラーが発生することがあります。
- Citrix Casting 機能は、Windows（ストア）向け Citrix Workspace アプリではサポートされていません。

ん。

前提条件:

- ハブ検出のためにデバイス上で Bluetooth が有効になっている。
- Citrix Ready ワークスペースハブと Citrix Workspace アプリが、同じネットワーク上に存在する。
- Citrix Workspace アプリが実行されているデバイスと Citrix Ready ワークスペースハブとの間でポート 55555 が許可されている。
- Citrix Casting の場合、ポート 1494 をブロックしないでください。
- ポート 55556 は、モバイルデバイスと Citrix Ready ワークスペースハブの間の SSL 接続のデフォルトポートです。Raspberry Pi の設定ページで別の SSL ポートを構成できます。SSL ポートがブロックされている場合、ユーザーはワークスペースハブへの SSL 接続を確立できません。
- Citrix Casting は、Microsoft Windows 10 バージョン 1607 以降、または Windows Server 2016 でのみサポートされます。
- インストール中に「/IncludeCitrixCasting」コマンドを実行して、Citrix Casting を有効にします。

Citrix Casting の起動の構成

注:

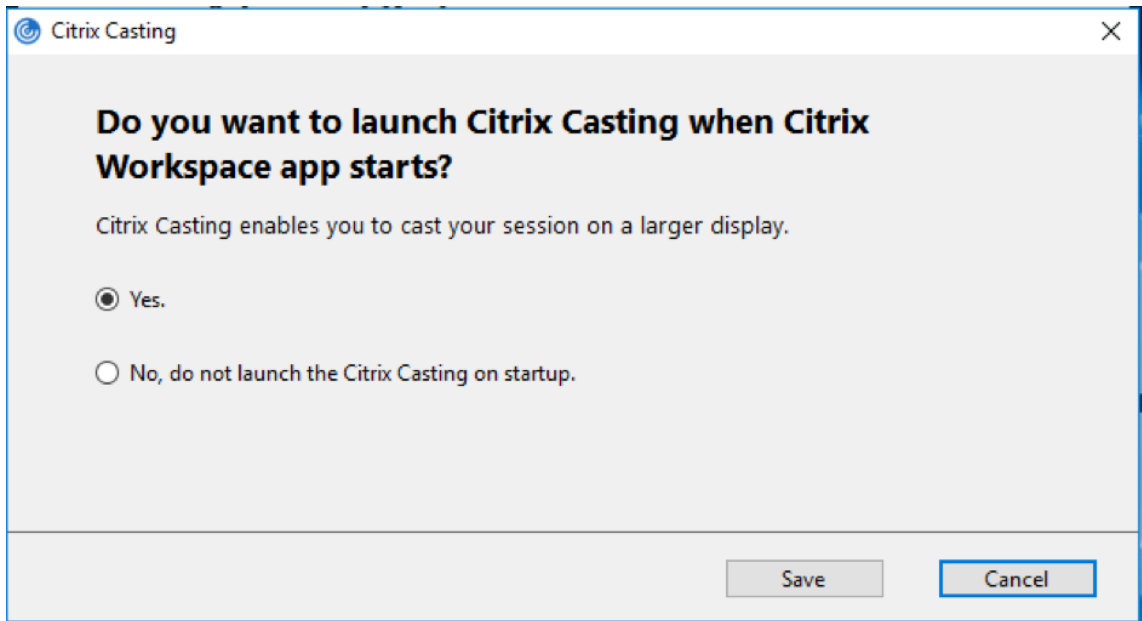
高度な設定シートは、全部または一部を非表示にすることができます。詳しくは、「[高度な設定シート](#)」を参照してください。

1. 通知領域で Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックし、[高度な設定] をクリックします。

[高度な設定] ダイアログボックスが開きます。

2. [Citrix Casting] を選択します。

[Citrix Casting] ダイアログボックスが表示されます。



3. 次のいずれかのオプションを選択します：

- はい–Citrix Workspace アプリの起動時に Citrix Casting が起動されます。
- いいえ。スタートアップ時に Citrix Casting を起動しません–Citrix Workspace アプリの起動時に Citrix Casting は起動されません。

注：

いいえを選択しても、現在の画面キャストのセッションは終了しません。この設定は、次回の Citrix Workspace アプリの起動時にのみ適用されます。

4. [保存] をクリックして変更を適用します。

Citrix Workspace アプリで Citrix Casting を使用する方法

1. Citrix Workspace アプリにログオンし、デバイス上で Bluetooth を有効にします。

使用可能なハブの一覧が表示されます。一覧は、Citrix Ready ワークスペースハブビーコンパッケージの RSSI 値を基準として並べ替えられます。

2. 画面をキャストするワークスペースハブを選択し、次のいずれかを選択します。

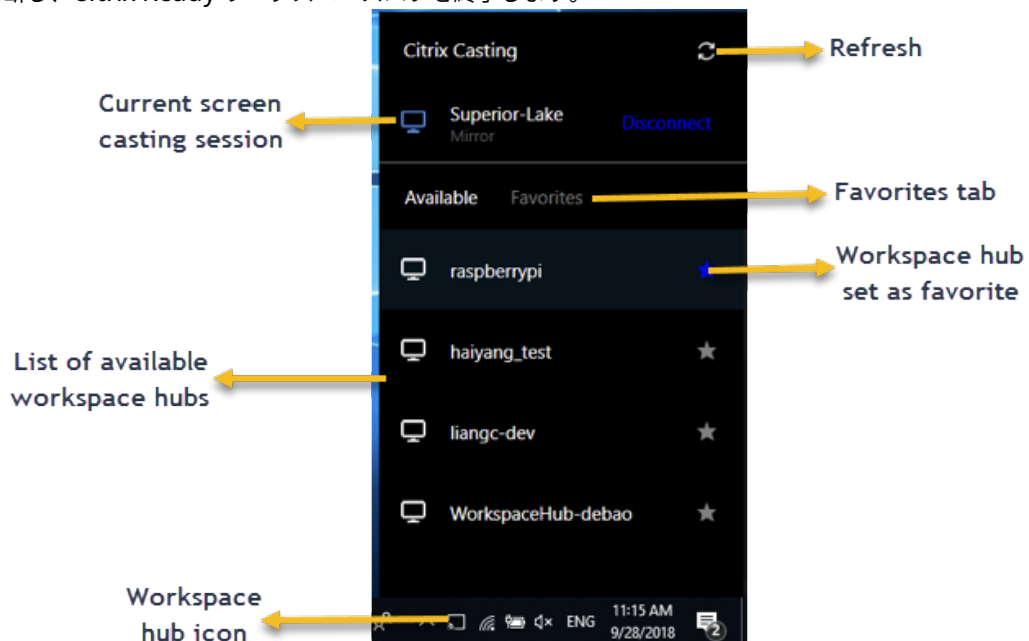
- ミラーリング：プライマリ画面を複製し、接続されたワークスペースハブデバイスに表示をキャストします。
- 拡張：ワークスペースハブデバイス画面をセカンダリ画面として使用します。

注:

Citrix Workspace アプリを終了しても、Citrix Casting は終了しません。

[Citrix Casting の通知] ダイアログボックスには、次のオプションがあります:

1. 現在の画面キャストのセッションが上部に表示されます。
2. アイコンを [更新] します。
3. [切断] を選択して、現在の画面キャストのセッションを停止します。
4. 星アイコンをクリックして、ワークスペースハブを [お気に入り] に追加します。
5. システムトレイのワークスペースハブアイコンを右クリックし、終了を選択して画面キャストのセッションを切断し、Citrix Ready ワークスペースハブを終了します。



セルフチェック一覧

Citrix Workspace アプリが範囲内の使用可能なワークスペースハブを検出して通信することができない場合は、セルフチェックの一環として以下を確認してください:

1. Citrix Workspace アプリと Citrix Ready ワークスペースハブが同じネットワークに接続している。
2. Citrix Workspace アプリが起動されたデバイスで Bluetooth が有効になり、正常に動作している。
3. Citrix Workspace アプリが起動されたデバイスが、Citrix Ready ワークスペースハブの範囲内 (10 メートル未満。壁などの障害物がない) にある。
4. Citrix Workspace アプリでブラウザを起動して、http://<hub_ip>:55555/device-details.xml を入力し、ワークスペースハブデバイスの詳細が表示されるかを確認します。
5. Citrix Ready ワークスペースハブで 更新 をクリックして、ワークスペースハブへの再接続を試みる。

既知の問題と制限事項

- デバイスが Citrix Ready ワークスペースハブと同じネットワークに接続されていないと、Citrix Casting は機能しません。
- ネットワークに問題がある場合、ワークスペースハブデバイスでの表示に時間差が発生することがあります。
- [拡張] を選択すると、Citrix Ready Workspace アプリが起動されるプライマリ画面が数回点滅します。
- [拡張] モードでは、セカンダリディスプレイをプライマリディスプレイとして設定することはできません。
- デバイスのディスプレイ設定が変更された場合、画面キャストのセッションは自動的に切断されます。たとえば、画面の解像度を変更されたり、画面の方向が変更されたりした場合などです。
- 画面キャストのセッション中に、Citrix Workspace アプリを実行しているデバイスがロック、スリープまたは休止状態になると、ログイン時にエラーが表示されます。
- 複数の画面キャストのセッションはサポートされていません。
- Citrix Casting でサポートされている画面の最大解像度は 1920 x 1440 です。
- Citrix Casting は、Citrix Ready ワークスペースハブバージョン 2.40.3839 以降をサポートしています。以前のバージョンのワークスペースハブが検出されないか、キャストエラーが発生することがあります。
- この機能は、Windows (ストア) 向け Citrix Workspace アプリではサポートされていません。
- Windows 10 ビルド 1607 では、[拡張] モードの Citrix Casting が正しく配置されないことがあります。

Citrix Ready ワークスペースハブについて詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[Citrix Ready ワークスペースハブ](#)」のセクションを参照してください。

SaaS アプリ

June 14, 2024

SaaS アプリへのセキュリティ保護されたアクセス機能によって、統合されたユーザーエクスペリエンスで公開 SaaS アプリをユーザーに提供できます。SaaS アプリはシングルサインオンで利用できます。管理者は、マルウェアやデータ漏えいから組織のネットワークやエンドユーザーデバイスを保護できるようになりました。管理者は、特定の Web サイトおよび Web サイトカテゴリへのアクセスをフィルタリングすることで、これを実現できます。

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、Citrix Secure Private Access を使用した SaaS アプリの使用をサポートします。このサービスにより、管理者は一貫したエクスペリエンスを提供し、シングルサインオンを統合し、コンテンツ検査を利用することができます。

SaaS アプリをクラウドで提供する利点は次のとおりです：

- シンプルな構成 - 操作、更新、使用が簡単です。
- シングルサインオン - シングルサインオンで簡単にログオンできます。
- さまざまなアプリの標準テンプレート - 一般的なアプリをテンプレートを使用して構成できます。

Citrix Workspace アプリは、Citrix Enterprise Browser (旧称 Citrix Workspace Browser) で SaaS アプリを起動します。詳しくは、「[Citrix Enterprise Browser](#)」のドキュメントを参照してください。

制限事項:

- 印刷オプションを有効にしてダウンロードを無効にした公開アプリを起動し、起動したアプリで印刷コマンドを発行すると、PDF を保存できます。ダウンロード機能を厳密に無効にするには、印刷オプションを無効にします。
- アプリに埋め込まれた動画が機能しないことがあります。
- Storebrowse コマンドを使用して SaaS アプリを開くことはできません。

ワークスペース構成について詳しくは、Citrix Cloud の「[ワークスペース構成](#)」を参照してください。

データ収集と監視

June 14, 2024

Citrix Analytics

Citrix Workspace アプリには、Citrix Analytics にログをセキュアに送信するための機能があります。この機能が有効になっていると、ログは分析され、Citrix Analytics サーバーに保存されます。Citrix Analytics については、[Citrix Analytics](#)ドキュメントを参照してください。

Citrix Analytics Service の機能強化

このリリースの Citrix Workspace アプリには、最新のネットワークホップのパブリック IP アドレスを Citrix Analytics Service にセキュアに送信するための機能があります。このデータは、セッションの起動ごとに収集されます。Citrix Analytics Service は、パフォーマンスの低下に関する問題が特定の地域に関連しているかどうかを分析するのに役立ちます。

デフォルトでは、IP アドレスログは Citrix Analytics Service に送信されます。ただし、レジストリエディターを使用して Citrix Workspace アプリでこのオプションを無効にすることができます。

IP アドレスログの送信を無効にするには、次のレジストリパスに移動し、`SendPublicIPAddress`キーを **off** に設定します。

- 64 ビット Windows マシンの場合、次のパスです: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\Dazzle`。
- 32 ビット Windows マシンの場合、次のパスです: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\Dazzle`。

注:

- IP アドレスの送信はベストエフォートで行われます。Citrix Workspace アプリは起動に使用されるすべての IP アドレスを送信しますが、一部のアドレスは正確でない可能性があります。
- エンドポイントがイントラネット内で動作している閉じられた顧客環境では、URL <https://locus.analytics.cloud.com/api/locateip> がエンドポイントのホワイトリストに登録されていることを確認してください。

Citrix Workspace アプリには、ブラウザから起動した ICA セッションから Citrix Analytics Service にデータをセキュアに転送するための機能があります。

パフォーマンス分析がこの情報を使用する方法については、「[Self-Service Search for Performance](#)」（パフォーマンスのセルフサービス検索）を参照してください。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）

収集データ	説明	データの利用目的
構成および使用状況データ	Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）では、Windows 向け Citrix Workspace アプリの構成および使用に関するデータが収集され、そのデータが Citrix と Google Analytics に自動的に送信されます。	このデータは、Citrix が Citrix Workspace アプリの品質、機能、およびパフォーマンスを向上させ、製品開発目的でリソースを適切に割り当て、サービス レベルを維持し、人員配置とインフラストラクチャへの投資を管理するのに役立ちます。

収集データ

上記のとおり、このデータは、Citrix が Citrix Workspace アプリの品質、機能、およびパフォーマンスを向上させ、製品開発目的でリソースを適切に割り当て、サービス レベルを維持し、人員配置とインフラストラクチャへの投資を管理するのに役立ちます。データは集計された形式でのみ使用および分析されます。CEIP データに基づいてユーザーまたはそのマシンが特定されることはなく、特定のエンドユーザーに対する分析も実行されません。

Google Analytics および Citrix Analytics が収集する特定の CEIP データ要素は次のとおりです:

オペレーティングシステムバージョン *	Citrix Workspace アプリのバージョン *	認証構成	Citrix Workspace アプリの言語
セッションの起動方法	接続エラー	接続プロトコル	VDA 情報

インストーラー構成	インストーラーの状態	クライアントのキーボード レイアウト	ストア構成
自動更新の設定	コネクションセンターの使 用状況	App Protection 構成	オフラインバナーの理由
デバイスモデル/プロパテ ィ	Citrix Virtual Apps and Desktops のセッション 起動状態	仮想アプリ/デスクトップ 名	自動更新の状態
接続リリースの詳細	StoreFront から Workspace への URL の 移行機能の使用状況	Citrix Enterprise Browser の使用状況	チャンネルの自動更新
非アクティブタイムアウト の詳細	Citrix Enterprise Browser のバージョン		

データ収集設定

バージョン 2205 以降、ユーザーと管理者の両方が、以下の手順に従って CEIP データの送信を停止できます（以下の注で指定されている、ブロックできる 2 つのデータ要素を除く）。

1. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックします。
2. [高度な設定] を選択します。
[高度な設定] ダイアログボックスが開きます。
3. [データ収集] を選択します。
4. [いいえ] を選択して CEIP を無効にするか、参加を見送ります。
5. [Save] をクリックします。

また、管理者として次のレジストリエントリに移動し、推奨されている値を設定することもできます：

パス: `HKEY_LOCAL_MACHINE\ SOFTWARE\Citrix\ICA Client\CEIP`

キー: `Enable_CEIP`

値: `False`

注:

[同意しません] を選択するか、`Enable_CEIP` キーを `False` に設定した後、最後の 2 つの CEIP データ要素（オペレーティングシステムと Citrix Workspace アプリのバージョン）の送信を停止する場合は、次のレジストリエントリに移動し、記載のように値を設定することもできます：

パス: `HKEY_LOCAL_MACHINE\ SOFTWARE\Citrix\ICA Client\CEIP`

キー: `DisableHeartbeat`

値: `True`

追加情報

Citrix は、お客様のデータを Citrix との契約条件に従って処理し、[Citrix Services Security Exhibit](#)で指定されているとおりに保護します。Citrix Services Security Exhibit は、[Citrix Trust Center](#)で入手できます。

セキュリティと認証

April 22, 2024

ここでは、以下の内容について説明します：

- [セキュリティ](#)
- [セキュリティで保護された通信](#)
- [認証](#)
 - [ドメインパススルーアクセスのマトリックス](#)
 - [オンプレミス Citrix Gateway を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー](#)
 - [Azure Active Directory を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー](#)
 - [Okta を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー](#)

セキュリティ

June 14, 2024

App Protection

App Protection 機能は、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS (Citrix Virtual Apps and Desktops サービスの新名称) の使用時にセキュリティを強化する機能です。この機能により、キーロガーや画面キャプチャマルウェアによりクライアントが侵害される可能性が制限されます。App Protection では、画面に表示されるユーザーの資格情報や個人情報などの機密情報の流出を防ぎます。この機能を使うと、ユーザーおよび攻撃者がスクリーンショットを撮る、またはキーロガーを使用することにより機密情報を収集、悪用することを防ぐことができます。詳しくは、「[App Protection](#)」を参照してください。

免責事項

App Protection ポリシーは基礎となるオペレーティングシステムの必要な機能へのアクセスをフィルタリングします（画面のキャプチャまたはキーボードの操作が必要な特定の API 呼び出し）。App Protection ポリシーは、カスタムの目的別に構築されたハッカーツールに対しても保護を提供します。ただし、オペレーティングシステムの進化によって、画面のキャプチャやキーのログ記録には新しい方法が出てくる場合があります。引き続きこうした方法に対応していきますが、特定の構成や展開では完全な保護を保証することはできません。

Windows 向け Citrix Workspace アプリで App Protection を構成するには、[構成](#)の記事の「Windows 向け Citrix Workspace アプリ」セクションを参照してください。

注:

App Protection は、バージョン 1912 以降のアップグレードでのみサポートされます。

改善された ICA ファイルのセキュリティ

この機能は、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションの起動中に ICA ファイルを処理する際のセキュリティを強化します。

Citrix Workspace アプリでは、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションを起動する際、ICA ファイルをローカルディスクではなくシステムメモリに保存することができます。

この機能は、ローカルに保存されたときに ICA ファイルを悪用する可能性のある攻撃やマルウェアを排除することを目的としています。この機能は、Workspace for Web で起動される仮想アプリと仮想デスクトップのセッションにも適用できます

構成

ICA ファイルのセキュリティは、Citrix Workspace または StoreFront に Web 経由でアクセスする場合にもサポートされます。Web 経由でアクセスした場合にこの機能が動作するためには、クライアントの検出が前提条件です。ブラウザーを使用して StoreFront にアクセスしている場合は、StoreFront 展開の web.config ファイルで次の属性を有効にします:

StoreFront のバージョン	属性
2.x	pluginassistant
3.x	protocolHandler

ブラウザーからストアにサインインするときは、**[Workspace アプリを検出]** をクリックしてください。プロンプトが表示されない場合は、ブラウザーの Cookie をクリアして、再試行してください

Workspace 展開の場合、[アカウント設定] > [詳細] > [アプリおよびデスクトップの起動設定] に移動してクライアント検出設定を見つけることができます。

システムメモリに保存されている ICA ファイルを使用してのみセッションが開始されるように、追加の対策を講じることができます。次のいずれかの方法を使用します：

- クライアント上のグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。
- Global App Config Service。
- Workspace for Web。

GPO の使用：

ローカルディスクに保存されている ICA ファイルからのセッションの起動をブロックするには、次の手順を実行します：

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [クライアントエンジン] の順に移動します。
3. [セキュアな ICA ファイルからのセッション起動] ポリシーを選択し、[有効] に設定します。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。

Global App Config Service の使用：

Global App Config Service は、Citrix Workspace アプリ 2106 以降で使用できます。

ローカルディスクに保存されている ICA ファイルからのセッションの起動をブロックするには、次の手順を実行します：

Block Direct ICA File Launches 属性を **True** に設定します。

Global App Config Service について詳しくは、[Global App Config Service](#) のドキュメントを参照してください。

Workspace for Web の使用：

Web 向け Workspace を使用しているときにローカルディスクへの ICA ファイルのダウンロードを禁止するには、次の手順を実行します：

PowerShell モジュールを実行します。「[DisallowICADownload を構成する](#)」を参照してください。

注：

DisallowICADownload ポリシーは、StoreFront 展開では使用できません。

Workspace セッションの非アクティブタイムアウト

管理者は、非アクティブタイムアウト値を構成して、ユーザーが Citrix Workspace セッションから自動的にサインアウトするまでのアイドル時間を指定できます。指定された時間内に、マウス、キーボード、またはタッチによる操

作がない場合は、自動的に Workspace からサインアウトされます。非アクティブタイムアウトは、アクティブな仮想アプリと仮想デスクトップのセッションや Citrix StoreFront ストアには影響しません。

非アクティブタイムアウト値は、1 分から 1,440 分まで設定できます。デフォルトでは、非アクティブタイムアウトは構成されていません。管理者は、PowerShell モジュールを使用して `inactivityTimeoutInMinutes` プロパティを構成できます。Citrix Workspace 構成のための PowerShell モジュールをダウンロードするには、[こちら](#)をクリックしてください。

エンドユーザーエクスペリエンスは次のとおりです：

- サインアウトの 3 分前にセッションウィンドウに通知が表示され、サインインしたままにするか、サインアウトするかを選択できます。
- この通知は、設定された非アクティブタイムアウト値が 5 分以上の場合にのみ表示されます。
- ユーザーは [サインイン状態を維持] をクリックして通知を閉じ、アプリの使用を続行できます。その場合、無通信タイマーは構成された値にリセットされます。[サインアウト] をクリックして、現在のストアのセッションを終了することもできます。

注：

管理者は、Workspace (クラウド) セッションに対してのみ非アクティブタイムアウトを構成できます。

セキュリティで保護された通信

June 14, 2024

Citrix Virtual Apps and Desktops サーバーと Citrix Workspace アプリ間の通信を保護するには、以下の一連のセキュリティ保護技術を使用して、Citrix Workspace アプリの接続を統合できます：

- Citrix Gateway: 詳しくは、このセクションのトピックと、Citrix Gateway および StoreFront のドキュメントを参照してください。
- ファイアウォール: ネットワークファイアウォールは、送信先アドレスとポート番号に基づいてパケットを通過させたりブロックしたりできます。
- TLS (Transport Layer Security) バージョン 1.0 から 1.3 がサポートされます。
- 信頼済みサーバーで、Citrix Workspace アプリの接続で信頼関係を確立します。
- ICA ファイルの署名
- ローカルセキュリティ機関 (LSA) の保護
- Citrix Virtual Apps 展開のみでのプロキシサーバー: SOCKS プロキシサーバーまたはセキュアプロキシサーバー。プロキシサーバーは、ネットワークとのアクセスを制限するのに役立ちます。また、Citrix Workspace アプリとサーバー間の接続も処理します。Citrix Workspace アプリは、SOCKS プロトコルとセキュアプロキシプロトコルをサポートしています。
- 送信プロキシ

Citrix Gateway

Citrix Gateway (旧称「Access Gateway」) を使用すると、StoreFront ストアへの接続をセキュアに保護します。また、管理者がデスクトップやアプリケーションへのユーザーアクセスを詳細に管理できます。

Citrix Gateway 経由でデスクトップやアプリケーションに接続するには:

1. 以下のいずれかの方法で、管理者により提供された Citrix Gateway の URL を指定します:
 - セルフサービスユーザーインターフェースの初回使用時に、[アカウントの追加] ダイアログボックスで URL を入力します。
 - セルフサービスユーザーインターフェースの初回使用から後は、[基本設定] > [アカウント] > [追加] の順に選択してから URL を入力します。
 - storebrowse コマンドで接続する場合は、コマンドラインに URL を入力します。

URL により、ゲートウェイと、必要に応じて特定のストアが指定されます:

- Citrix Workspace アプリで検出された最初のストアに接続されるようにするには、URL を次の形式で指定します:
 - <https://gateway.company.com>
 - 特定のストアに接続する場合は、URL を <https://gateway.company.com?<ストア名>> のような形式で指定します。この動的 URL は、非標準の形式です。そのため、この URL には等号 (=) を含めないでください。storebrowse コマンドで特定のストアに接続する場合は、URL を引用符で囲んで指定します。ストア名 >
1. 資格情報の入力を確認するメッセージが表示されたら、ユーザー名、パスワード、およびセキュリティトークンを入力します。この手順について詳しくは、Citrix Gateway のドキュメントを参照してください。

認証処理が完了すると、デスクトップまたはアプリケーションが表示されます。

ファイアウォールを介した接続

ネットワークファイアウォールは、送信先アドレスとポート番号に基づいてパケットを通過させたりブロックしたりできます。ファイアウォールが使用されている場合、Windows 向け Citrix Workspace アプリと Web サーバーおよび Citrix 製品のサーバーとの通信がファイアウォールでブロックされないように設定できます。

共通の Citrix 通信ポート

接続元	種類	ポート	詳細
Citrix Workspace アプリ	TCP	80/443	StoreFront との通信

接続元	種類	ポート	詳細
ICA または HDX	TCP/UDP	1494	アプリケーションおよび仮想デスクトップへのアクセス
ICA または HDX (セッション画面の保持機能)	TCP/UDP	2598	アプリケーションおよび仮想デスクトップへのアクセス
ICA/HDX (TLS 経由)	TCP/UDP	443	アプリケーションおよび仮想デスクトップへのアクセス

ポートについて詳しくは、Knowledge Center の記事[CTX101810](#)を参照してください。

Transport Layer Security

Transport Layer Security (TLS) は、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルに代わるものです。IETF (Internet Engineering TaskForce) が、TLS の公開標準規格の開発を Netscape Communications から引き継いだときに、SSL という名前を TLS に変更しました。

TLS は、サーバーの認証、データの暗号化、メッセージの整合性の確認を行って、データ通信をセキュアに保護します。米国政府機関をはじめとする組織の中には、データ通信を保護するために TLS の使用を義務付けているところもあります。このような組織では、さらに FIPS 140 (Federal Information Processing Standard) などのテスト済み暗号化基準の使用を義務付けられる場合があります。FIPS 140 は、暗号化の情報処理規格です。

TLS 暗号化を通信メディアとして使用するには、ユーザーデバイスと Citrix Workspace アプリを構成する必要があります。StoreFront 通信の保護については、StoreFront ドキュメントの「[セキュリティ](#)」セクションを参照してください。VDA のセキュリティ保護については、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[Transport Layer Security \(TLS\)](#)」を参照してください

以下のポリシーで、次のことを実行できます：

- TLS の使用を適用する：インターネットを含めて、信頼されていないネットワークを介する接続で、TLS の使用をお勧めします。
- FIPS (Federal Information Processing Standards) 準拠の暗号化の使用を適用し、NIST SP 800-52 の推奨セキュリティに従います。デフォルトでは、これらのオプションは無効になっています。
- 特定の TLS バージョンおよび特定の TLS 暗号の組み合わせの使用を適用する：TLS 1.0、TLS 1.1、TLS 1.2 プロトコルが Citrix ではサポートされません。
- 特定のサーバーのみに接続する。
- サーバー証明書の失効を確認する。
- 特定のサーバー証明書発行ポリシーを確認する。

- 特定のクライアント証明書を選択する（サーバーが要求するよう構成されている場合）。

Windows 向け Citrix Workspace アプリは TLS 1.2 プロトコルの以下の暗号の組み合わせをサポートします：

- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA

サポートされている暗号の組み合わせについて詳しくは、Knowledge Center の記事[CTX250104](#)を参照してください。

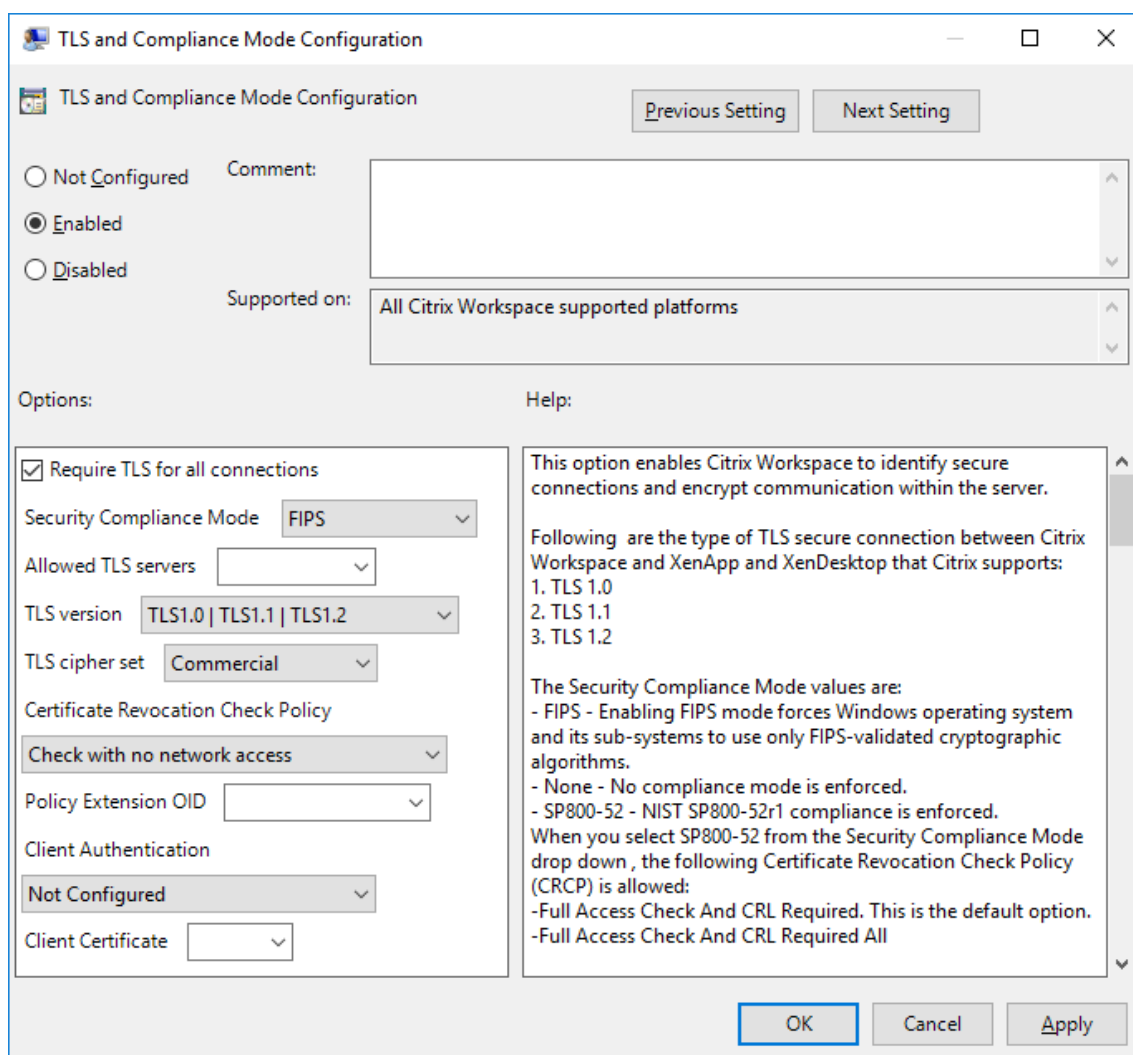
重要：

次の暗号の組み合わせは、セキュリティを強化するために廃止されました：

- 暗号の組み合わせ RC4 および 3DES
- 接頭辞が「TLS_RSA_*」の暗号の組み合わせ
- TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (0x009d)
- TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 (0x009c)
- TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 (0x003d)
- TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA (0x0035)
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA (0x002f)
- TLS_RSA_WITH_RC4_128_SHA (0x0005)
- TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA (0x000a)

TLS のサポート

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリの GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [**Citrix Workspace**] > [ネットワークルーティング] の順に移動して、[**TLS** およびコンプライアンスモードの構成] ポリシーを選択します。



3. [有効] を選択してセキュリティで保護された接続を有効にし、サーバー上の通信を暗号化します。次のオプションを設定します。

注:

セキュリティで保護された接続で、TLS を使用することを Citrix ではお勧めします。

- a) [すべての接続で **TLS** が必要] を選択することによって、公開アプリケーションおよびデスクトップに対する Citrix Workspace アプリの通信で強制的に TLS を使用させることができます。
- b) [セキュリティコンプライアンスモード] メニューから、適切なオプションを選択します:
 - i. なし - コンプライアンスモードが適用されません。
 - ii. **SP800-52 - SP800-52** を選択して NIST SP 800-52 に準拠します。このオプションは、サーバーまたはゲートウェイが NIST SP 800-52 推奨セキュリティに従っている場合にのみ選択してください。

注:

[**SP800-52**] を選択すると、[**FIPS** を有効にします] が選択されていない場合でも、自動的に FIPS 準拠の暗号化が使用されます。また、Windows セキュリティオプションの [システム暗号化: 暗号化、ハッシュ、署名のための **FIPS** 準拠アルゴリズムを使う] を有効にします。有効にしない場合、Citrix Workspace アプリが公開アプリケーションおよびデスクトップに接続できないことがあります。

[**SP800-52**] を選択した場合、[証明書失効チェックのポリシー] を [完全なアクセス権のチェックと **CRL** が必要です] に設定します。

[**SP800-52**] を選択すると、Citrix Workspace アプリはサーバー証明書が NIST SP 800-52 の推奨セキュリティに従っているかを検証します。サーバー証明書が準拠していない場合、Citrix Workspace アプリが接続できないことがあります。

- i. **FIPS** を有効にします - FIPS 準拠の暗号化の使用を適用するには、このオプションを選択します。また、オペレーティングシステムのグループポリシーから Windows セキュリティオプションの [システム暗号化: 暗号化、ハッシュ、署名のための **FIPS** 準拠アルゴリズムを使う] を有効にします。有効にしない場合、Citrix Workspace アプリが公開アプリケーションおよびデスクトップに接続できないことがあります。
- c) [許可された **TLS** サーバー] ドロップダウンメニューから、ポート番号を選択します。コンマ区切りの一覧を使用して、Citrix Workspace アプリが指定されたサーバーにのみ接続できるようにします。ワイルドカードおよびポート番号を指定できます。たとえば、「*.citrix.com: 4433」により、共通名が「.citrix.com」で終わるどのサーバーともポート 4433 での接続が許可されます。セキュリティ証明書の情報の正確さは、証明書の発行者によって異なります。Citrix Workspace が証明書の発行者を認識しない、または信頼しないと、接続は拒否されます。
- d) [**TLS** バージョン] メニューから、次のいずれかのオプションを選択します:
 - **TLS 1.0**、**TLS 1.1**、または **TLS 1.2** - これはデフォルトの設定です。このオプションは、業務上 TLS 1.0 との互換性が必要な場合のみお勧めします。
 - **TLS 1.1** または **TLS 1.2** - このオプションで接続が TLS 1.1 または TLS 1.2 を使用するようになります。
 - **TLS 1.2** - このオプションは、業務上 TLS 1.2 が必要な場合のみお勧めします。
- a) **TLS** 暗号セット - 特定の TLS 暗号セットの使用を適用するには、GOV (行政機関)、COM (営利企業)、または ALL (すべて) を選択します。詳しくは、Knowledge Center の記事 [CTX250104](#) を参照してください。
- b) [証明書失効チェックのポリシー] メニューから、次の任意のオプションを選択します:
 - ネットワークアクセスなしでチェックします - 証明書失効一覧チェックが実行されます。ローカルの証明書失効一覧のストアのみが使用されます。すべての配布ポイントが無視されます。対象の SSL Relay/Citrix Secure Web Gateway サーバーから利用できるサーバー証明書を検証する証明書失効一覧チェックは、必須ではありません。

- 完全なアクセス権のチェック - 証明書失効一覧チェックが実行されます。ローカル証明書失効一覧のストアとすべての配布ポイントが使用されます。証明書の失効情報が検出されると、接続は拒否されます。対象のサーバーから利用できるサーバー証明書を検証する証明書失効一覧チェックは重要ではありません。
 - 完全なアクセス権と **CRL** のチェックが必要です - ルート証明機関を除いて証明書失効一覧チェックが実行されます。ローカル証明書失効一覧のストアとすべての配布ポイントが使用されます。証明書の失効情報が検出されると、接続は拒否されます。証明書失効一覧をすべて検出することが、検証では重要です。
 - すべてに完全なアクセス権と **CRL** のチェックが必要です - ルート CA を含めた証明書失効一覧チェックが実行されます。ローカル証明書失効一覧のストアとすべての配布ポイントが使用されます。証明書の失効情報が検出されると、接続は拒否されます。証明書失効一覧をすべて検出することが、検証では重要です。
 - チェックなし - 証明書失効一覧チェックは実行されません。
- a) [ポリシーの拡張 **OID**] を使用して、Citrix Workspace アプリが特定の証明書の発行ポリシーがあるサーバーにのみ接続するように制限できます。[ポリシーの拡張 **OID**] を選択すると、Citrix Workspace アプリはポリシーの拡張 **OID** があるサーバー証明書のみを受け入れます。
- b) [クライアント認証] メニューから、以下の任意のオプションを選択します：
- 無効 - クライアント認証が無効になります。
 - 証明書セレクタを表示します - 常にユーザーが証明書を選択するよう求めます。
 - 可能な場合、自動的に選択します - 特定する証明書に選択肢がある場合のみ、ユーザーに表示します。
 - 未構成 - クライアント認証が構成されていないことを意味します。
 - 指定された証明書を使用します - [クライアント証明書] オプションの設定で指定された「クライアント証明書」を使用します。
- a) [クライアント証明書] 設定を使用して、識別証明書の拇印を指定します。これにより、ユーザーに不要なプロンプトを表示しないようにすることができます。
- b) [適用] および [**OK**] をクリックしてポリシーを保存します。

内部および外部ネットワーク接続マトリックスについて詳しくは、Knowledge Center の記事[CTX250104](#)を参照してください。

信頼されたサーバー

信頼済みサーバーの接続を適用する

信頼済みサーバー構成ポリシーを使用して、Citrix Workspace アプリの接続で信頼関係を識別し適用できます。

管理者は、このポリシーを使用することで、クライアントが接続先の公開アプリケーションまたはデスクトップをどのように識別するかを制御できます。クライアントは、接続の「信頼領域」と呼ばれる信頼レベルを決定します。次に信頼領域はクライアントがどのように接続を構成するかを決定します。

このポリシーを有効にすると、信頼領域にないサーバーへの接続が防止されます。

デフォルトでは、領域の識別はクライアントが接続しているサーバーのアドレスをベースにしています。信頼領域のメンバーになるには、サーバーは Windows 信頼済みサイトゾーンのメンバーである必要があります。これは、Windows のインターネットゾーン設定で構成できます。

または、アドレス設定を使用して、サーバーアドレスを明確に信頼することもできます。サーバーアドレスは、`cps*.citrix.com`などのワイルドカード文字の使用をサポートするサーバーのコンマ区切りのリストである必要があります。

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して信頼済みサーバーの構成を有効にするには

前提条件:

コネクションセンターなどの Citrix Workspace アプリコンポーネントを終了します。

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリの GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ネットワークルーティング] > [信頼済みサーバーの構成を構成します] の順に選択します。
3. [有効] を選択して、Citrix Workspace アプリに領域の識別を適用します。
4. [信頼済みサーバーの構成を適用します] を選択します。このオプションによって、クライアントに信頼済みサーバーを使用した識別を適用します。
5. [Windows インターネットゾーン] ドロップダウンメニューから、クライアントのサーバーアドレスを選択します。この設定は Windows の信頼済みサイトゾーンにのみ適用できます。
6. [アドレス] フィールドで、Windows 以外の信頼済みサイトゾーンのクライアントのサーバーアドレスを設定します。コンマ区切り一覧を使用できます。
7. [OK] および [適用] をクリックします。

このポリシーが有効で、サーバーが信頼領域にない場合、接続は防止され、エラーメッセージが表示されます。

接続を成功させるには、識別されたサーバーを Windows の信頼済みサイトゾーンに追加する必要があります。たとえば、`http://` または `https://` (SSL 接続の場合) としてサーバーを追加します。

注:

SSL 接続では、証明書の共通名は信頼されている必要があります。SSL 接続ではない場合は、通信するすべてのサーバーが個別に信頼されている必要があります。

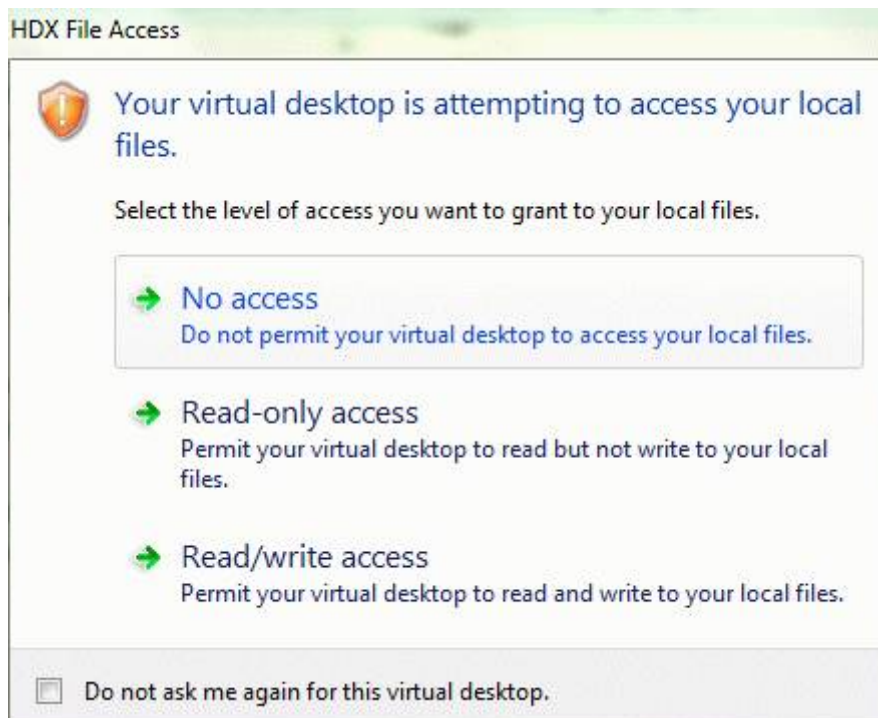
また、内部 StoreFront FQDN がローカルイントラネットゾーンまたは信頼済みサイトゾーンに追加されていることを確認します。詳しくは、「[認証](#)」セクションの「**Internet Explorer 設定の変更**」を参照してください。

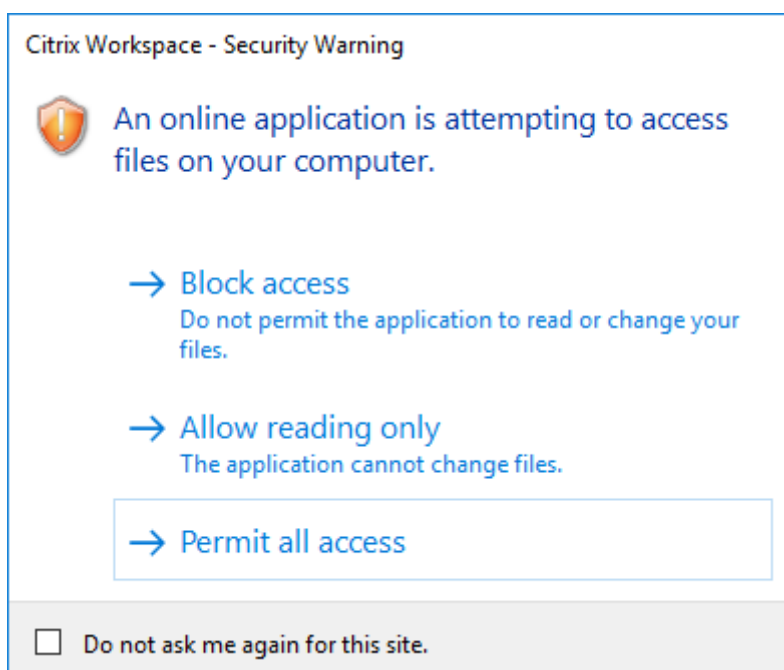
クライアントが選択する信頼

サーバーへの接続を許可または禁止するだけでなく、クライアントは領域によって、ファイル、マイク、または Web カメラ、SSO アクセスを識別します。

リージョン	リソース	アクセスレベル
インターネット	ファイル、マイク、Web	ユーザーにアクセス許可を求めるプロンプト。SSO を許可しない
イントラネット	マイク、Web	ユーザーにアクセス許可を求めるプロンプト。SSO を許可する
制限付きサイト	すべて	アクセスや接続ができない可能性がある
信頼済み	マイク、Web	読み取りまたは書き込み、SSO を許可する

ユーザーが領域のデフォルト値を選択すると、次のダイアログボックスが表示されることがあります：





管理者は、グループポリシーまたはレジストリを使用して、**Client Selective Trust**（クライアントが選択する信頼）のレジストリキーを作成および構成することにより、このデフォルトの動作を変更できます。Client Selective Trust レジストリキーの構成方法について詳しくは、Knowledge Center 記事の[CTX133565](#)を参照してください。

ICA ファイルの署名

ICA ファイル署名機能は、認証していないアプリケーションやデスクトップの起動を回避するために役立ちます。Citrix Workspace アプリは、信頼できるソースからアプリケーションまたはデスクトップが生成されたことを管理

ポリシーに基づいて検証し、信頼されていないサーバーからの起動を防ぎます。グループポリシーオブジェクトの管理用テンプレートまたは StoreFront を使用して、ICA ファイルの署名を構成できます。ICA ファイルの署名機能はデフォルトで無効になっています。

StoreFront に対する ICA ファイル署名については、StoreFront のドキュメントの「[ICA ファイル署名の有効化](#)」を参照してください。

ICA ファイルの署名の構成

注:

CitrixBase.admx\adml がローカル GPO に追加されないと、**[ICA ファイルの署名を有効にします]** ポリシーが表示されないことがあります。

- gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
- [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > **[Citrix コンポーネント]** に移動します。
- [ICA ファイルの署名を有効にします]** を選択し、必要に応じて次のいずれかのオプションを選択します。
 - 有効 - 署名証明書の拇印を信頼された機関からの証明書の拇印の許可リストに追加できます。
 - 信頼証明書 - [表示] をクリックして、許可リストから既存の署名証明書の拇印を削除します。署名証明書のサムプリントは署名証明書のプロパティからコピーして貼り付けることができます。
 - セキュリティポリシー - メニューから次のいずれかのオプションを選択します。
 - 署名による起動のみを許可します (安全性が高い): 信頼できるサーバーからの署名されたアプリケーションおよびデスクトップの起動のみを許可します。無効な署名があると、セキュリティ警告が表示されます。認証されていないため、セッションを開始できません。
 - 署名されていない起動 (安全性が低い) でユーザーにプロンプトを表示します: 署名されていないセッション、または署名が無効なセッションが開始されると、メッセージが表示されます。起動を続行するか、起動をキャンセルするか (デフォルト) を選択できます。
- [適用] および **[OK]** をクリックしてポリシーを保存します。
- Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

デジタル署名証明書を選択して配布するには:

デジタル署名証明書を選択するときは、次の一覧の上位のオプションから順にお勧めします:

- 周知の証明機関からコード署名証明書または SSL 署名証明書を購入する。
- 社内に証明機関がある場合はその証明機関を使用して、コード署名証明書または SSL 署名証明書を作成する。
- 既存の SSL 証明書を使用する。
- ルート証明書を作成して、GPO または手動インストールによりユーザーデバイスに配布する。

ローカルセキュリティ機関 (LSA) の保護

Citrix Workspace アプリは Windows のローカルセキュリティ機関 (LSA) の保護をサポートします。この仕組みはシステムのローカルセキュリティに関するあらゆる情報を管理します。このサポートにより、ホストされるデスクトップに LSA レベルのシステム保護が提供されます。

プロキシサーバー経由の接続

プロキシサーバーは、ネットワークから外部へのアクセスや外部からネットワークへのアクセスを制限して、Windows 向け Citrix Workspace アプリとサーバー間の接続を制御するために使います。Citrix Workspace アプリは、SOCKS プロトコルとセキュアプロキシプロトコルをサポートしています。

Citrix Workspace アプリでサーバーと通信する場合、Web 向け Workspace を実行するサーバー上でリモートで構成されているプロキシサーバー設定が使用されます。

また、Citrix Workspace アプリが Web サーバーと通信するときは、ユーザーデバイス上でデフォルトの Web ブラウザーのインターネット設定で構成したプロキシサーバー設定が使用されます。適宜、ユーザーデバイス上のデフォルトの Web ブラウザーで、インターネット設定を構成します。

StoreFront の ICA ファイルを介してプロキシ設定を適用するには、Knowledge Center の記事[CTX136516](#)を参照してください。

送信プロキシのサポート

SmartControl を使用すると、管理者は環境に影響を与えるポリシーを構成して適用できます。たとえば、ユーザーがドライブをリモートデスクトップにマップできないようにしたい場合があります。Citrix Gateway の SmartControl 機能を使用して、このような詳細設定を実現できます。

Citrix Workspace アプリと Citrix Gateway が別々のエンタープライズアカウントに属している場合、状況は異なります。このような場合は、クライアントドメインにゲートウェイが存在しないため、ドメインは SmartControl 機能を適用できません。代わりに、送信 ICA プロキシを利用できます。送信 ICA プロキシ機能を使用すると、Citrix Workspace アプリと Citrix Gateway が異なる組織に展開されている場合でも、SmartControl 機能を使用できます。

Citrix Workspace アプリは、NetScaler LAN プロキシを使用したセッションの起動をサポートします。送信プロキシプラグインを使用して、単一の静的プロキシを構成するか、実行時にプロキシサーバーを選択します。

送信プロキシは、次の方法を使用して構成できます：

- 静的プロキシ：プロキシのホスト名とポート番号を指定してプロキシサーバーを構成します。
- 動的プロキシ：プロキシプラグイン DLL を使用して、1 つ以上のプロキシサーバーから 1 つのプロキシサーバーを選択できます。

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートまたはレジストリエディターを使用して、送信プロキシを構成できます。

送信プロキシについて詳しくは、Citrix Gateway のドキュメントの「[送信 ICA プロキシのサポート](#)」を参照してください。

送信プロキシのサポート - 構成

注:

静的プロキシと動的プロキシの両方が構成されている場合は、動的プロキシの構成が優先されます。

GPO 管理用テンプレートを使用した送信プロキシの構成:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix Workspace] > [ネットワークルーティング] の順に移動します。
3. 次のいずれかのオプションを選択します:
 - 静的プロキシの場合: [NetScaler LAN プロキシを手動で構成する] ポリシーを選択します。[有効] を選択して、ホスト名とポート番号を入力します。
 - 動的プロキシの場合: [NetScaler LAN プロキシを DLL を使用して構成する] ポリシーを選択します。[有効] を選択して、DLL ファイルのフルパスを入力します。例: `C:\Workspace\Proxy\ProxyChooser.dll`。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。

レジストリエディターを使用して、次のように送信プロキシを構成します:

- 静的プロキシの場合:
 - レジストリエディターを起動して、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICA Client\Engine\Network Routing\Proxy\NetScaler`に移動します。
 - DWORD 値キーを次のように作成します:

```
"StaticProxyEnabled"=dword:00000001
"ProxyHost"="testproxy1.testdomain.com
"ProxyPort"=dword:000001bb
```
- 動的プロキシの場合:
 - レジストリエディターを起動して、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICA Client\Engine\Network Routing\Proxy\NetScaler LAN Proxy`に移動します。

- DWORD 値キーを次のように作成します:

```
"DynamicProxyEnabled"=dword:00000001
```

```
"ProxyChooserDLL"="c:\\Workspace\\Proxy\\ProxyChooser.dll"
```

接続と証明書

接続

- HTTP ストア
- HTTPS ストア
- Citrix Gateway 10.5 以降

証明書

注:

Windows 向け Citrix Workspace アプリはデジタル署名されています。デジタル署名にはタイムスタンプが付けられています。したがって、証明書は有効期限が切れても有効です。

- プライベート（自己署名）証明書
- ルート証明書
- ワイルドカード証明書
- 中間証明書

プライベート（自己署名）証明書

リモートゲートウェイにプライベート証明書が存在する場合、Citrix リソースにアクセスするユーザーデバイスに組織の証明機関のルート証明書をインストールします。

注:

接続時にリモートゲートウェイの証明書を検証できない場合、信頼されていない証明書の警告が表示されます。この警告は、ルート証明書がローカルキーストアにない場合に表示されます。ユーザーが警告に対してそのまま続行することを選択した場合、アプリの一覧が表示されますが、アプリの起動に失敗することがあります。

ルート証明書

ドメイン参加コンピューターでは、グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して CA 証明書を配布および信頼できます。

ドメイン非参加コンピューターでは、カスタムインストールパッケージを作成して、CA 証明書を配布およびインストールできます。詳しくは、システム管理者に問い合わせてください。

ワイルドカード証明書

ワイルドカード証明書は、同一ドメイン内のサーバーで使用されます。

Citrix Workspace アプリでは、ワイルドカード証明書がサポートされています。ワイルドカード証明書は、組織のセキュリティポリシーに従って使用してください。サーバー名とサブジェクトの別名 (SAN) 拡張の一覧が含まれる証明書が、ワイルドカード証明書に代わるものです。このような証明書は、私的証明機関および公的証明機関が発行します。

中間証明書

証明書チェーンに中間証明書が含まれる場合は、中間証明書を Citrix Gateway のサーバー証明書に追加する必要があります。詳しくは、「[中間証明書の構成](#)」を参照してください。

証明書失効一覧

証明書失効一覧 (CRL) によって、Citrix Workspace アプリはサーバー証明書が失効していないかチェックできます。証明書のチェックにより、サーバーの暗号化認証機能が強化され、ユーザーデバイスとサーバー間の TLS 接続の全体的なセキュリティが向上します。

証明書失効一覧のチェック機能はさまざまな設定レベルで有効にできます。たとえば、ローカルの証明書一覧だけがチェックされるように Citrix Workspace アプリを構成したり、ローカルおよびネットワーク上の証明書一覧がチェックされるように構成したりできます。すべての証明書失効一覧で証明書の有効性が検証されたときのみログオンするように構成することもできます。

ローカルコンピューターで証明書チェックを構成する場合は、Citrix Workspace アプリを終了します。コネクションセンターを含むすべての Citrix Workspace コンポーネントが停止しているかどうか確認します。

詳しくは、「[Transport Layer Security](#)」を参照してください。

中間者攻撃を回避するためのサポート

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、Microsoft Windows の証明書のピン留め機能を使用して、中間者攻撃のリスクを軽減します。中間者攻撃は、相互に直接通信していると考えている 2 者間のメッセージを密かに攻撃者が傍受して中継するサイバー攻撃の一種です。

以前は、ストアのサーバーに接続するときに、受信した応答が接続しようとしているサーバーからのものかどうかを確認する方法がありませんでした。Microsoft Windows のエンタープライズ証明書のピン留め機能を使用すると、サーバーの証明書をピン留めすることで、サーバーの有効性と整合性を検証できます。

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、証明書ピン留め規則を使用して、特定のドメインまたはサイトに必要なサーバー証明書を認識するように事前構成されています。サーバー証明書が事前構成済みのサーバー証明書と一致しない場合、Windows 向け Citrix Workspace アプリはセッションが実行されないようにします。

エンタープライズの証明書ピン留め機能を展開する方法については、[Microsoft 社のドキュメント](#)を参照してください。

注:

証明書の有効期限を認識し、グループポリシーと証明書信頼リストを正しく更新する必要があります。そうしないと、攻撃がない場合でも、セッションを開始できないことがあります。

認証

June 14, 2024

Citrix Workspace アプリで、ドメインパススルー、スマートカード、Kerberos パススルー（シングルサインオンまたは SSON）など、さまざまな種類の認証を構成できます。

ドメインパススルー（シングルサインオン）認証

ドメインパススルー（シングルサインオンまたは SSON）を使用すると、ドメインに対して認証することで、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS（Citrix Virtual Apps and Desktops サービスの新名称）を再認証する必要なく使用できます。

注:

グループポリシーオブジェクトテンプレートで **Enable MPR notifications for the System** ポリシーを無効にした場合、Windows 11 でドメインパススルー（シングルサインオン）認証機能はサポートされません。この機能は、Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2012 以降で利用できます。

有効にすると、ドメインパススルー（シングルサインオン）によって資格情報がキャッシュされるため、毎回サインインしなくてもほかの Citrix アプリケーションに接続できます。企業ポリシーに従うソフトウェアのみをデバイスで実行し、資格情報が侵害されるリスクを軽減するようにしてください。

Citrix Workspace アプリにログオンすると、スタートメニューの設定を含め、アプリやデスクトップとともに資格情報が StoreFront にパススルーされます。シングルサインオンの構成後、資格情報を複数回入力することなく、Citrix Workspace アプリにログオンして仮想アプリと仮想デスクトップのセッションを開始できます。

すべての Web ブラウザーで、グループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレートを使用してシングルサインオンを構成する必要があります。グループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレートを使用したシングルサインオンの構成について詳しくは、「[Citrix Gateway でのシングルサインオンの構成](#)」を参照してください。

新規インストールまたはアップグレードの両方で次のいずれかのオプションを使用して、シングルサインオンを構成できます:

- コマンドラインインターフェイス

- GUI

注:

ドメインパススルー、シングルサインオン、および SSON という用語は、このドキュメントで区別なく使用されることがあります。

新規インストール中のシングルサインオンの構成

新規インストールでシングルサインオンを構成するには、次の手順を実行します:

1. StoreFront で構成します。
2. Delivery Controller で XML 信頼サービスを構成します。
3. Internet Explorer の設定を変更します。
4. Citrix Workspace アプリのインストールでシングルサインオンを構成します。

StoreFront でのシングルサインオンの構成

シングルサインオンを使用すると、ドメインに対して認証でき、各アプリまたはデスクトップを再認証する必要なく同じドメインの Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS を使用できます。

Storebrowse ユーティリティでストアを追加すると、スタートメニューの設定を含め、列挙されたアプリやデスクトップとともに資格情報が Citrix Gateway サーバーにパススルーされます。シングルサインオンの構成後、資格情報を何度も入力しなくても、ストアを追加したり、アプリやデスクトップを列挙したり、必要なリソースを起動することができます。

Citrix Virtual Apps and Desktops 展開によって、StoreFront で管理コンソールを使用してシングルサインオン認証を構成できます。

次の表で異なる使用例とそれぞれの構成を参照します:

使用例	構成の詳細	追加情報
StoreFront での構成	Citrix Studio を起動して、[ストア] > [認証方法の管理 - ストア] に移動して [ドメインパススルー] を有効にします。	Citrix Workspace アプリでシングルサインオンが構成されていない場合、認証方法は自動的に [ドメインパススルー] から [ユーザー名とパスワード] に切り替えられます (利用可能な場合)。

使用例	構成の詳細	追加情報
Workspace for Web が必要な場合	[ストア] > [Workspace for Web サイト] > [認証方法の管理 - ストア] で [ドメインパススルー] を有効にします。	Citrix Workspace アプリでシングルサインオンが構成されていない場合、認証方法は自動的に [ドメインパススルー] から [ユーザー名とパスワード] に切り替えられます (利用可能な場合)。

Citrix Gateway でのシングルサインオンの構成

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して Citrix Gateway でシングルサインオンを有効にします。ただし、Citrix Gateway で基本認証と単一要素 (1 要素を含む nFactor) 認証が有効になっていることを確認する必要があります。

1. `gpedit.msc`を実行して、Citrix Workspace アプリの GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > **[Citrix コンポーネント]** > **[Citrix Workspace]** > [ユーザー認証] に移動し、**[Citrix Gateway のシングルサインオン]** ポリシーを選択します。
3. [有効] をクリックします。
4. [適用]、**[OK]** の順にクリックします。
5. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

Delivery Controller で XML 信頼サービスを構成

Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS の Delivery Controller で管理者として次の PowerShell コマンドを実行します:

```
asnpx Citrix* ; Set-BrokerSite -TrustRequestsSentToTheXmlServicePort $True
```

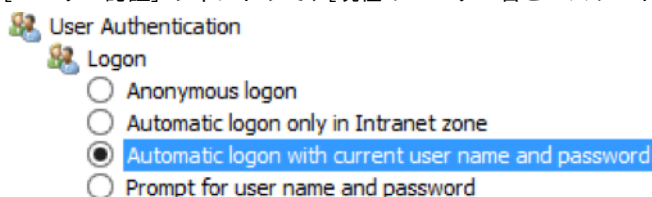
Internet Explorer 設定の変更

1. Internet Explorer を使用して信頼済みサイトの一覧に StoreFront サーバーを追加します。追加するには:
 - a) [コントロール] パネルで [インターネットオプション] を起動します。
 - b) [セキュリティ] > [ローカルイントラネット] を選択し、[サイト] をクリックします。
[ローカルイントラネット] ウィンドウが開きます。
 - c) [詳細設定] を選択します。
 - d) 適切な HTTP または HTTPS プロトコルを使用して、StoreFront の FQDN の URL を追加します。

e) [適用]、[OK] の順にクリックします。

2. **Internet Explorer** で [ユーザー認証] の設定を変更します。変更するには：

- a) [コントロール] パネルで [インターネットオプション] を起動します。
- b) [セキュリティ] タブ > [ローカルイントラネット] をクリックします。
- c) [レベルのカスタマイズ] をクリックします。[セキュリティ設定 - ローカルイントラネットゾーン] ウィンドウが開きます。
- d) [ユーザー認証] ウィンドウで、[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする] を選択します。



e) [適用]、[OK] の順にクリックします。

コマンドラインインターフェイスを使用したシングルサインオンの構成

/includeSSONスイッチを使用して Citrix Workspace アプリをインストールし、再起動して変更を有効にします。

GUI を使用したシングルサインオンの構成

1. Citrix Workspace アプリインストールファイル (**CitrixWorkspaceApp.exe**) を検索します。
2. **CitrixWorkspaceApp.exe**をダブルクリックしてインストーラーを起動します。
3. [シングルサインオンを有効化] ウィザードで、[シングルサインオンを有効化] オプションを選択します。
4. [次へ] をクリックし、ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

Citrix Workspace アプリを使用してユーザー資格情報を入力することなく既存のストア（または構成した新しいストア）にログオンできるようになりました。

Workspace for Web でのシングルサインオンの構成

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して、Workspace for Web のシングルサインオンを構成できます。

1. gpedit.msc を実行して、Workspace for Web の GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] の順に移動します。

3. [ローカルユーザー名とパスワード] ポリシーを選択して [有効] に設定します。
4. [パススルー認証を有効にします] をクリックします。このオプションを使用すると、Workspace for Web はリモートサーバーでの認証にログイン資格情報を使用できます。
5. [すべての ICA 接続にパススルー認証を許可します] をクリックします。このオプションは、すべての認証制限を省略し、すべての接続で資格情報のパススルーを許可します。
6. [適用]、[OK] の順にクリックします。
7. Workspace for Web のセッションを再起動して、この変更を適用します。

シングルサインオンが有効になっていることを確認するには、タスクマネージャーを起動し、`ssonsvr.exe` プロセスが実行中であることを確認します。

Active Directory を使用したシングルサインオンの構成

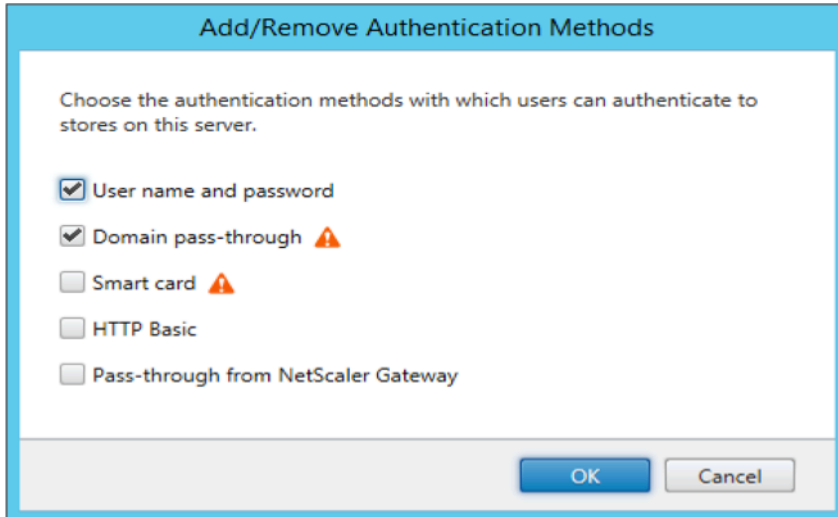
次の手順を完了し、Active Directory グループポリシーを使用して Citrix Workspace アプリでパススルー認証を構成します。このシナリオでは、Microsoft System Center Configuration Manager などのエンタープライズソフトウェア展開ツールを使用することなくシングルサインオン認証を構成できます。

1. Citrix Workspace アプリインストールファイル ([CitrixWorkspaceApp.exe](#)) をダウンロードして適切なネットワーク共有に配置します。Citrix Workspace アプリをインストールする対象マシンからアクセス可能であることが必要です。
2. [Windows 向け Citrix Workspace アプリのダウンロード](#) ページから `CheckAndDeployCitrixReceiverPerMachine.bat` テンプレートを入手します。
3. `CitrixWorkspaceApp.exe` の場所およびバージョンが反映されるようコンテンツを編集します。
4. **Active Directory** のグループポリシー管理コンソールで `CheckAndDeployCitrixReceiverPerMachine.bat` をスタートアップスクリプトとして入力します。スタートアップスクリプトの展開について詳しくは、「[Active Directory](#)」のセクションを参照してください。
5. [コンピューターの構成] ノードで [管理用テンプレート] > [テンプレートの追加と削除] に移動して `receiver.adml` ファイルを追加します。
6. `receiver.adml` テンプレートの追加後、[コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] に移動します。テンプレートファイルの追加について詳しくは、「[グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート](#)」を参照してください。
7. [ローカルユーザー名とパスワード] ポリシーを選択して [有効] に設定します。
8. [パススルー認証を有効にします] チェックボックスをオンにして [適用] を選択します。
9. 変更を保存するには、マシンを再起動します。

StoreFront でのシングルサインオンの構成

StoreFront の構成

1. StoreFront サーバーで **Citrix Studio** を起動して、[ストア] > [認証方法の管理 - ストア] の順に選択します。
2. [ドメインパススルー] を選択します。



認証トークン

認証トークンは暗号化されローカルディスクに保存されるため、システムやセッションの再起動時に資格情報を再入力する必要はありません。Citrix Workspace アプリは、ローカルディスクへの認証トークンの保存を無効にするオプションを提供します。

セキュリティを強化するために、認証トークンストレージを構成するためのグループポリシーオブジェクト (GPO) ポリシーが提供されるようになりました。

注:

この構成は、クラウド展開でのみ適用されます。

グループポリシーオブジェクト (**GPO**) ポリシーを使用して認証トークンの保存を無効にするには:

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [SelfService] に移動します。
3. 認証トークンを保存しますポリシーで、次のいずれかを選択します:
 - 有効: 認証トークンがディスクに保存されていることを示します。デフォルトでは、有効に設定されています。
 - 無効: 認証トークンがディスクに保存されていないことを示します。システムまたはセッションを再起動するときに、資格情報を再入力します。

4. [適用]、[OK] の順にクリックします。

バージョン 2106 以降、Citrix Workspace アプリは、ローカルディスクへの認証トークンの保存を無効にするもう 1 つのオプションを提供します。既存の GPO 構成に加えて、Global App Configuration Service を使用してローカルディスクへの認証トークンの保存を無効にすることもできます。

Global App Configuration Service で、[Store Authentication Tokens](#)属性をFalseに設定します。

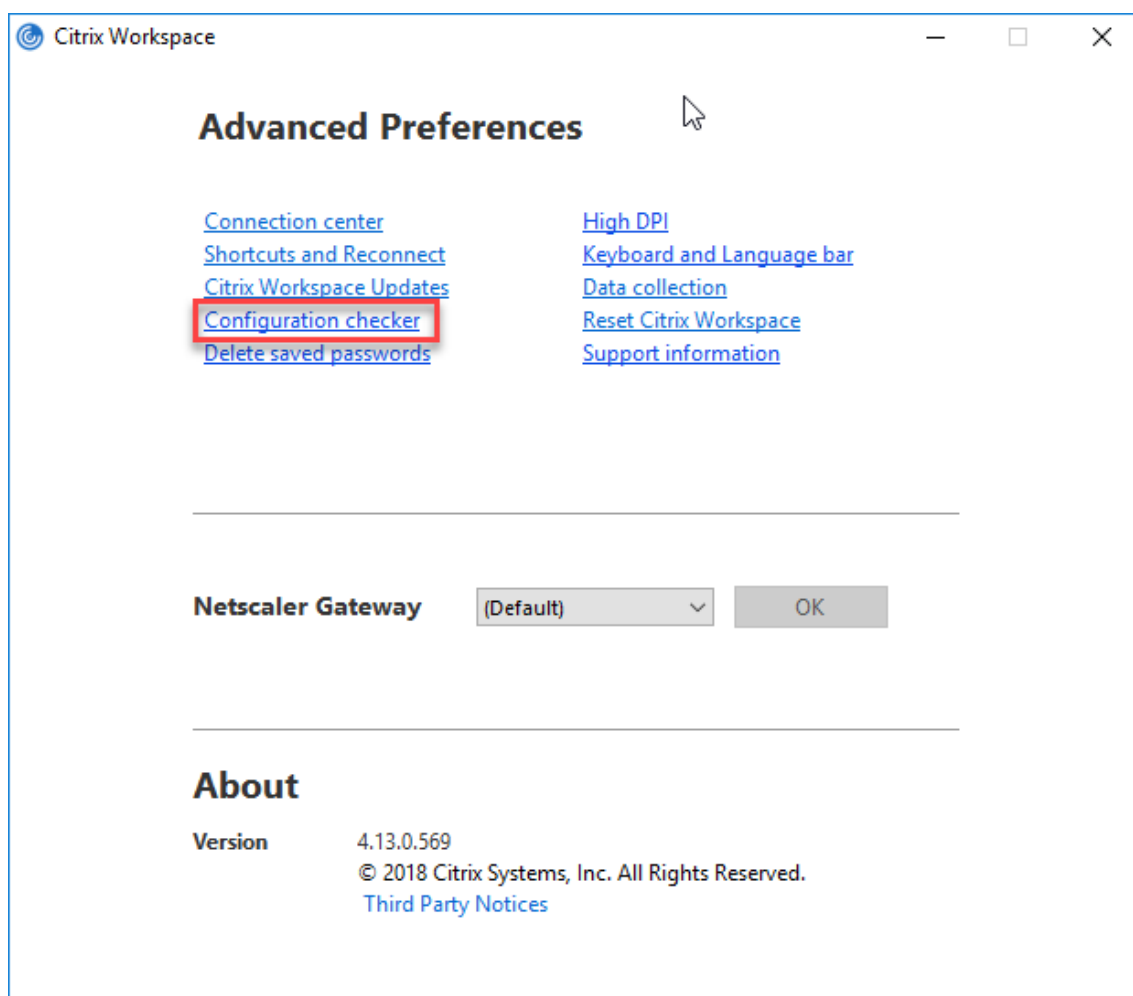
この設定は、次のいずれかの方法で Global App Configuration Service を使用して構成できます：

- Global App Configuration Service のユーザーインターフェイス (UI): UI を使用して構成するには、「[Citrix Workspace アプリの構成](#)」を参照してください。
- API: API を使用して設定を構成するには、[Citrix 開発者向けドキュメント](#)を参照してください。

構成チェッカー

構成チェッカーで、シングルサインオンが正しく構成されているかどうか確認するためのテストを実行できます。テストはシングルサインオン構成の各チェックポイントに対して実行され、構成結果を表示します。

1. 通知領域で Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックし、[高度な設定] をクリックします。
[高度な設定] ダイアログボックスが開きます。
2. [構成チェッカー] をクリックします。
[Citrix 構成チェッカー] ウィンドウが開きます。



3. [選択] ペインで **[SSONChecker]** チェックボックスをオンにします。
4. [実行] をクリックします。テストの状態を示す進捗状況バーが表示されます。

[構成チェッカー] ウィンドウには次の列があります：

1. 状態：特定のチェックポイントでのテスト結果が表示されます。
 - 緑色のチェックマークは、チェックポイントが適切に構成されていることを示します。
 - 青色の I は、チェックポイントに関する情報を示します。
 - 赤色の X は、チェックポイントが適切に構成されていないことを示します。
2. プロバイダー：テストが実行されているモジュールの名前が表示されます。この場合は、シングルサインオンになります。
3. スイート：テストのカテゴリを示します。例：「インストール」。
4. テスト：実行中のテストの名前を示します。
5. 詳細：合格と不合格の両方について、テストに関する詳細情報を提供します。

各チェックポイントおよび対応する結果の詳細を確認することができます。

次のテストが実行されます：

1. シングルサインオンとともにインストール済み。
2. ログオン資格情報のキャプチャ。
3. ネットワークプロバイダーの登録： ネットワークプロバイダーの登録のテスト結果で緑色のチェックマークが表示されるのは、ネットワークプロバイダーの一覧で「Citrix Single Sign-on」が先頭に設定されている場合のみです。「Citrix Single Sign-On」が一覧の先頭以外の場所に表示されている場合、ネットワークプロバイダーの登録のテスト結果では青色の | と詳細情報が表示されます。
4. シングルサインオンプロセスが実行されている。
5. グループポリシー： デフォルトでは、このポリシーはクライアントで構成されます。
6. Internet Explorer のセキュリティゾーンの設定： [インターネットオプション] のセキュリティゾーンの一覧に Store/XenApp サービスの URL を追加していることを確認してください。
セキュリティゾーンをグループポリシー経由で構成しており、そのポリシーを変更した場合、変更を有効にしてテストの正確な状態が表示されるようにするために、[高度な設定] ウィンドウを開き直す必要があります。
7. StoreFront の認証方法。

注：

- Workspace for Web にユーザーがアクセスしている場合、テスト結果は適用されません。
- Citrix Workspace アプリで複数のストアを構成している場合、認証方法テストはすべての構成済みストアに対して実行されます。
- テスト結果はレポートとして保存できます。デフォルトのレポート形式は.txt です。

[高度な設定] ウィンドウの [構成チェッカー] オプションを非表示にする

1. `gpedit.msc`を実行して、Citrix Workspace アプリの GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. グループポリシーエディターで、[Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [Self Service] > [DisableConfigChecker] の順に開きます。
3. [有効] を選択すると、[高度な設定] ウィンドウで [構成チェッカー] オプションが表示されなくなります。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。
5. `gpupdate /force`コマンドを実行します。

制限事項：

構成チェッカーの対象チェックポイントに、Citrix Virtual Apps and Desktops サーバー上の [Citrix XML Service への要求を信頼する] の構成は含まれません。

ピーコンテスト Citrix Workspace アプリを使用して、構成チェッカーユーティリティの一部であるピーコンチェッカーでピーコンテストを実行できます。ピーコンテストは、ピーコン (ping.citrix.com) が到達可能かどうかを確認するのに役立ちます。この診断テストは、リソースの列挙が遅くなる理由として考えられる原因から、ピ

ーコンが使用できないという可能性を排除するのに役立ちます。テストを実行するには、システムトレイの Citrix Workspace アプリを右クリックし、[高度な設定] > [構成チェッカー] を選択します。テスト一覧から [ビーコンチェッカー] オプションを選択して [実行] をクリックします。

テスト結果は、次のいずれかになります：

- Reachable - Citrix Workspace アプリが正常にビーコンに通信できます。
- Not reachable - Citrix Workspace アプリはビーコンに通信できません。
- Partially reachable - Citrix Workspace アプリは、断続的にビーコンに通信できます。

注：

- テスト結果は、Workspace for Web では適用されません。
- テスト結果はレポートとして保存できます。デフォルトのレポート形式は.txt です。

Kerberos を使用したドメインパススルー（シングルサインオン）認証

このトピックの内容は、Windows 向け Citrix Workspace アプリと StoreFront、Citrix Virtual Apps and Desktops、Citrix DaaS との間の接続にのみ適用されます。

Citrix Workspace アプリでは、スマートカードを使用する展開環境での Kerberos によるドメインパススルー（シングルサインオンまたは SSON）認証がサポートされます。Kerberos とは、統合 **Windows** 認証（IWA）に含まれる認証方法の 1 つです。

これを有効にすると、認証時に Citrix Workspace アプリのパスワードが使用されません。その結果、トロイの木馬型の攻撃でユーザーデバイス上のパスワードが漏えいすることを避けることができます。ユーザーは、たとえば指紋リーダーといった生体認証システムなど、任意の認証方法を使用してログオンし、公開リソースにアクセスできます。

スマートカード認証が構成された Citrix Workspace アプリ、StoreFront、Citrix Virtual Apps and Desktops、Citrix DaaS でスマートカードを使用してログオンすると、Citrix Workspace アプリは以下を実行します：

1. シングルサインオン中にスマートカード PIN を取得します。
2. IWA (Kerberos) を使用して StoreFront へのユーザー認証を行います。これによって StoreFront は、使用可能な Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS の情報を Citrix Workspace アプリに提供します。

注：

追加の PIN プロンプトが表示されるのを回避するために Kerberos を有効にします。Citrix Workspace アプリで Kerberos 認証を使用しない場合、StoreFront への認証にはスマートカード資格情報が使用されます。

3. HDX エンジン（従来「ICA クライアント」と呼ばれていたもの）がスマートカードの PIN を VDA に渡します。これにより、ユーザーが Citrix Workspace アプリセッションにログオンできます。Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS が、要求されたリソースを配信します。

Citrix Workspace アプリで Kerberos 認証を使用する場合は、以下のように構成しているかどうかを確認します。

- Kerberos を使用するには、サーバーと Citrix Workspace アプリを、同じまたは信頼されている Windows Server ドメイン内に設置する必要があります。[Active Directory ユーザーとコンピューター] 管理ツールを使って構成するオプションでサーバーの委任に関する信頼関係を構成します。
- ドメイン、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS で Kerberos が有効になっている必要があります。セキュリティを強化して、必ず Kerberos が使用されるようにするには、ドメインで Kerberos 以外の IWA オプションを無効にします。
- リモートデスクトップサービス接続で、基本認証や保存されたログオン情報の使用、または常にユーザーにパスワードを入力させたりする場合、Kerberos によるログオンは使用できません。

警告:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

スマートカードを使用する環境で **Kerberos** によるドメインパススルー（シングルサインオン）認証

続行する前に、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[展開の保護](#)」セクションを参照してください。

Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール時に、以下のコマンドラインオプションを指定します。

- `/includeSSON`

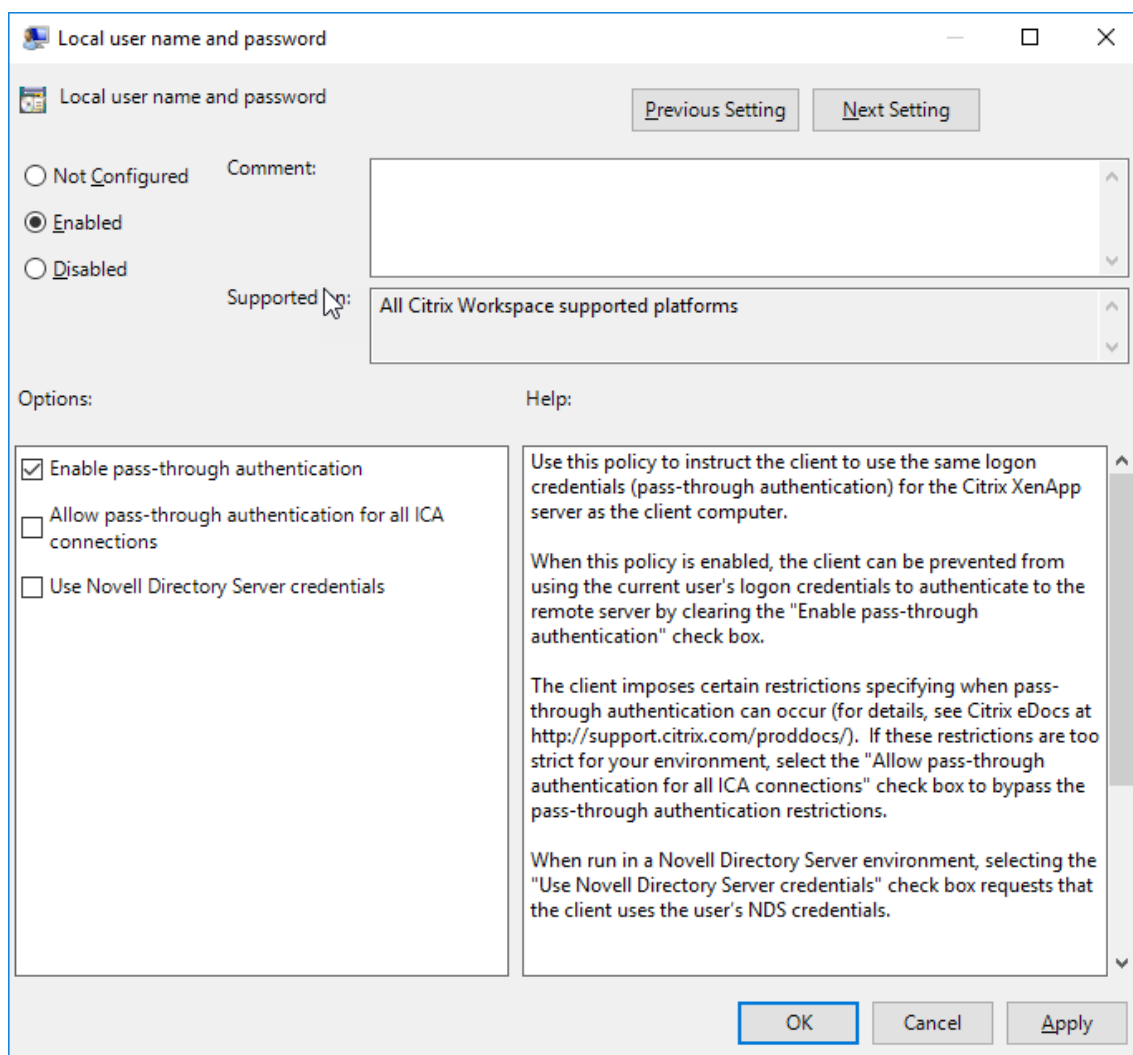
これにより、ドメインに参加しているコンピューターにシングルサインオンコンポーネントがインストールされ、ワークスペースの IWA (Kerberos) による StoreFront への認証が有効になります。シングルサインオンコンポーネントは、スマートカードの PIN を格納します。次に、HDX エンジンがこの PIN を使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS がスマートカードハードウェアと資格情報にアクセスできるようにします。Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS は、自動的にスマートカードから証明書を選択して、HDX エンジンから PIN を取得します。

関連オプション「`ENABLE_SSON`」は、デフォルトで有効になっています。

セキュリティポリシーにより、デバイスでシングルサインオンを有効にできない場合は、グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用して Citrix Workspace アプリを構成します。

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [管理用テンプレート] > [**Citrix** コンポーネント] > [**Citrix Workspace**] > [ユーザー認証] > [ローカルユーザー名とパスワード] を選択します。

3. [パススルー認証を有効にします] チェックボックスをオンにします。
4. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。



StoreFront を構成するには:

StoreFront サーバーの認証サービスを構成するときに、[ドメインパススルー] オプションをオンにします。これにより、統合 Windows 認証が有効になります。[スマートカード] オプションは、スマートカードを使用して StoreFront に接続する非ドメイン参加のクライアントをサポートする場合のみオンにします。

StoreFront でスマートカードを使用する場合は、StoreFront ドキュメントの「[認証サービスの構成](#)」を参照してください。

Azure Active Directory での条件付きアクセスのサポート

条件付きアクセスは、Azure Active Directory が組織のポリシーを適用するために使用するツールです。ワークスペース管理者は、Citrix Workspace アプリへの認証を行うユーザーに対して、Azure Active Directory の条件

付きアクセスポリシーを構成および適用できます。Citrix Workspace アプリを実行する Windows マシンには、Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 99 以降がインストールされている必要があります。

Azure Active Directory を使用して条件付きアクセスポリシーを構成する方法の詳細と手順については、「**Azure AD** の条件付きアクセスのドキュメント」 ([Docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory/conditional-access/](https://docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory/conditional-access/)) を参照してください。

注:

この機能は、Workspace (Cloud) のみでサポートされます。

StoreFront ストアの先進認証方法のサポート

グループポリシーオブジェクト (GPO) テンプレートを使用して、StoreFront ストアの先進認証方法のサポートを有効にすることができます。この機能は、Global App Configuration Service を使用して有効にできます。

次のいずれかの方法を使用して、Citrix StoreFront ストアを認証できます:

- Windows Hello と FIDO2 セキュリティキーの使用。詳しくは、「[その他の認証方法](#)」を参照してください。
- ID プロバイダーとして Azure Active Directory (AAD) を使用し AAD 参加済みのマシンから Citrix StoreFront ストアにシングルサインオン (SSO)。詳しくは、「[その他の認証方法](#)」を参照してください。
- Workspace 管理者は、Citrix StoreFront ストアへの認証を行うユーザーに対して Azure Active Directory の条件付きアクセスポリシーを構成および適用できます。詳しくは、「[Azure AD を使用した条件付きアクセスのサポート](#)」を参照してください。

この機能を有効にするには、Microsoft Edge WebView2 を StoreFront およびゲートウェイによる直接認証の基盤となるブラウザとして使用する必要があります。

注:

Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 102 以降を使用してください。

Global App Config Service およびグループポリシーオブジェクト (GPO) テンプレートを使用して、StoreFront ストアの先進認証方法を有効にすることができます。

Global App Config Service の使用

この機能を有効にするには:

1. **[Citrix Cloud]** メニューから **[ワークスペース構成]** を選択し、**[アプリ構成]** を選択します。
2. **[セキュリティと認証]** をクリックします。
3. **[Windows]** チェックボックスが選択されていることを確認します。

4. [StoreFront 認証用の Microsoft Edge WebView] ドロップダウンリストから [Windows] の横にある [有効] を選択します。

Microsoft Edge WebView For StoreFront Authentication ^

This policy allows to control the WebView where the StoreFront authentication related web content is loaded. Microsoft Edge WebView2 provides support for modern authentication methods for StoreFront authentication.

<input type="checkbox"/>	Android	This setting is not applicable.
<input type="checkbox"/>	iOS	This setting is not applicable.
<input type="checkbox"/>	Mac	This setting is not applicable.
<input checked="" type="checkbox"/>	Windows	Enabled ▼
<input type="checkbox"/>	HTML5	This setting is not applicable.
<input type="checkbox"/>	Linux	This setting is not applicable.

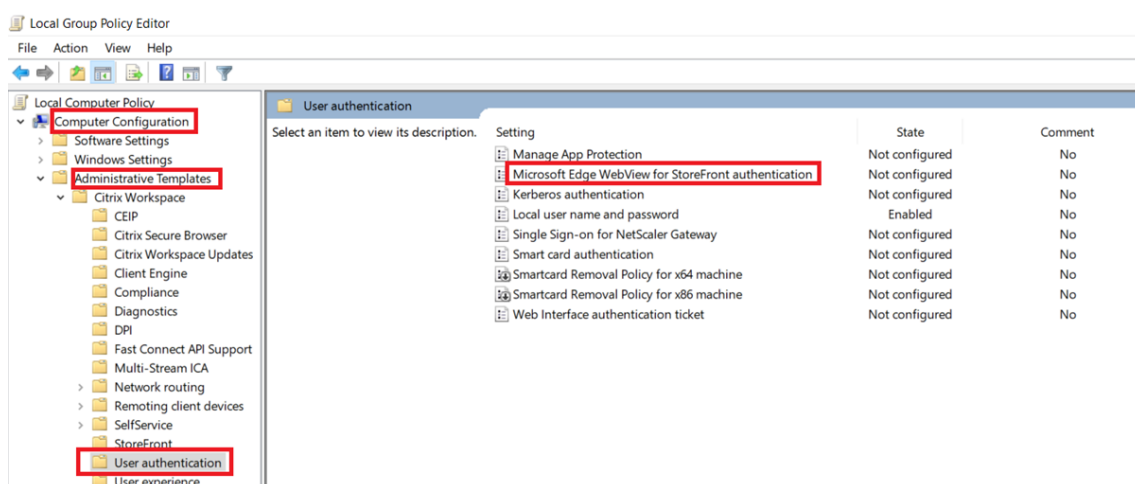
注:

[StoreFront 認証用の Microsoft Edge WebView] ドロップダウンリストから [Windows] の横にある [無効] を選択すると、Citrix Workspace アプリ内で Internet Explorer WebView が使用されます。その結果、Citrix Storefront ストアの先進認証方法はサポートされません。

GPO の使用

この機能を有効にするには:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] の順に移動します。
3. [StoreFront 認証用の Microsoft Edge WebView] ポリシーをクリックして、[有効] に設定します。



4. [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

このポリシーを無効にすると、Citrix Workspace アプリは Internet Explorer WebView を使用します。そのため、Citrix StoreFront ストアで先進認証方法はサポートされていません。

その他の認証方法

Citrix Workspace アプリを使用して、次の認証メカニズムを構成できます。次の認証メカニズムが想定どおりに機能するには、Citrix Workspace アプリを実行する Windows マシンに、Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 99 以降がインストールされている必要があります。

1. Windows Hello ベースの認証-Windows Hello ベースの認証の設定手順については、「ビジネス **Windows Hello** 設定の構成 - 証明書の信頼」 ([Docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/identity-protection/hello-for-business/hello-cert-trust-policy-settings](https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/identity-protection/hello-for-business/hello-cert-trust-policy-settings)) を参照してください。

注:

ドメインパススルー（シングルサインオンまたは SSON）を使用した Windows Hello ベースの認証はサポートされていません。

2. FIDO2 セキュリティキーベースの認証-FIDO2 セキュリティキーは、企業の従業員がユーザー名やパスワードを入力せずに認証するためのシームレスな方法を提供します。Citrix Workspace への FIDO2 セキュリティキーベースの認証を構成できます。ユーザーが FIDO2 セキュリティキーを使用して Azure AD アカウントで Citrix Workspace に対して認証を行うようにする場合は、「パスワードなしのセキュリティキーサインインを有効にする」 ([Docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory/authentication/howto-authentication-passwordless-security-key](https://docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory/authentication/howto-authentication-passwordless-security-key)) を参照してください。
3. ID プロバイダーとして Microsoft Azure Active Directory (AAD) を使用し、AAD 参加済みのマシンから Citrix Workspace アプリへのシングルサインオンを構成することもできます。Azure Active Directory Domain Services の構成について詳しくは、「**Azure Active Directory Domain Services とは**」 ([Docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory-domain-services/overview](https://docs.microsoft.com/en-us/azure/active-directory-domain-services/overview)) を参照してく

ださい。Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する方法については、「[Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する](#)」を参照してください。

スマートカード

Windows 向け Citrix Workspace アプリでは、以下のスマートカード認証がサポートされます：

- パススルー認証（シングルサインオン） - ユーザーが Citrix Workspace アプリにログオンするときに使用するスマートカードの資格情報を取得します。取得した資格情報は以下のように使用されます：
 - ドメインに属しているデバイスのユーザーがスマートカードで Citrix Workspace アプリにログオンした場合、仮想デスクトップやアプリケーションの起動時に資格情報を再入力する必要はありません。
 - ドメインに属していないデバイスで実行している Citrix Workspace アプリがスマートカードの資格情報を使用している場合、仮想デスクトップやアプリケーションの起動時に資格情報を再入力する必要があります。

パススルー認証を使用するには、StoreFront および Citrix Workspace アプリ両方での構成が必要です。

- **2 モード認証** - 認証方法として、スマートカードと、ユーザー名およびパスワードの入力を選択できます。この機能は、スマートカードを使用できない場合に有効です。たとえば、ログオン証明書が期限切れになった場合などです。これを実行できるようにするには、スマートカードを許可するため **False** に設定した **DisableCtrlAltDel** メソッドを使って、サイトごとに専用ストアをセットアップする必要があります。2 モード認証には StoreFront 構成が必要です。

また 2 方式認証により、StoreFront 管理者は StoreFront コンソールでユーザー名とパスワード、およびスマートカード認証の両方を選択して同じストアで使用できるようにします。[StoreFront](#)のドキュメントを参照してください。

- 複数の証明書 - 単一または複数のスマートカードを使用する場合、複数の証明書を使用できます。ユーザーがスマートカードをリーダーに挿入すると、ユーザーデバイス上で実行する、Citrix Workspace アプリを含むすべてのアプリケーションで複数の証明書を適用できるようになります。
- クライアント証明書による認証 - この機能を使用するには、Citrix Gateway および StoreFront での構成が必要です。
 - Citrix Gateway を使って StoreFront にアクセスする場合、ユーザーがスマートカードを取り外した後で再認証が必要です。
 - Citrix Gateway の SSL 構成で常にクライアント証明書による認証が使用されるようにすると、より安全になります。ただし、この構成では 2 方式認証を使用できません。
- ダブルホップセッション - ダブルホップセッションでは、Citrix Workspace アプリとユーザーの仮想デスクトップとの間に接続が確立されます。
- スマートカード対応のアプリケーション - Microsoft Outlook や Microsoft Office などのスマートカード対応アプリケーションでは、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションでドキュメントにデジタル署名を追加したりファイルを暗号化したりできます。

制限事項:

- 証明書は、ユーザーデバイス上ではなくスマートカード上に格納されている必要があります。
- Citrix Workspace アプリはユーザー証明書の選択を保存しませんが、構成時に PIN を格納します。PIN はユーザーセッションの間にのみ非ページ化メモリにキャッシュされ、ディスク内には格納されません。
- Citrix Workspace アプリでは、スマートカードが挿入されたときに自動的に切断セッションに再接続されません。
- スマートカード認証が構成されている場合、Citrix Workspace アプリでは仮想プライベートネットワーク (VPN: Virtual Private Network) のシングルサインオンやセッションの事前起動がサポートされません。スマートカード認証で VPN を使用するには、Citrix Gateway Plug-in をインストールします。スマートカードと PIN を使用して Web ページからログオンし、各ステップで認証します。スマートカードユーザーは、Citrix Gateway Plug-in を使用した StoreFront へのパススルー認証を使用できません。
- Citrix Workspace アプリ更新ツールと citrix.com や Merchandising Server 間の通信では、Citrix Gateway 上のスマートカード認証を使用できません。

警告:

一部の構成では、レジストリの編集が必要です。レジストリエディターの使用を誤ると、問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

スマートカード認証のシングルサインオンを有効にするには:

Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール中に、以下のコマンドラインオプションを指定します:

- `ENABLE_SSON=Yes`

シングルサインオンは、「パススルー認証」と呼ばれることもあります。このオプションを指定すると、Citrix Workspace アプリで PIN を繰り返し入力する必要がなくなります。

- レジストリエディターで次のパスに移動し、シングルサインオンコンポーネントをインストールしていない場合は `SSONCheckEnabled` 文字列を `False` に設定します。

```
HKEY_CURRENT_USER\Software{ Wow6432 } \Citrix\AuthManager\protocols  
\integratedwindows\  

```

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software{ Wow6432 } \Citrix\AuthManager\  
protocols\integratedwindows\  

```

これにより、Citrix Workspace アプリの Authentication Manager でシングルサインオンコンポーネントがチェックされなくなり、Citrix Workspace アプリで StoreFront への認証が可能になります。

Kerberos の代わりに StoreFront に対してスマートカード認証を有効にするには、次のコマンドラインオプションで Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールします:

- `/includeSSON` を指定すると、シングルサインオン認証（パススルー認証）がインストールされます。資格情報のキャッシュおよびパススルーメインベース認証の使用を有効にします。
- ユーザーが別の認証方法（ユーザー名とパスワードなど）でエンドポイントにログオンする場合、コマンドラインは次のようになります：

```
/includeSSON LOGON_CREDENTIAL_CAPTURE_ENABLE=No
```

このタイプの認証では、ログオン時に資格情報がキャプチャされるのを防ぎ、Citrix Workspace アプリへのログイン時に PIN を格納することができます。

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] > [ローカルユーザー名とパスワード] に移動します。
3. [パススルー認証を有効にします] チェックボックスをオンにします。構成およびセキュリティ設定によっては、パススルー認証を実行するために [すべての ICA 接続にパススルー認証を許可します] チェックボックスをオンにします。

StoreFront を構成するには：

- 認証サービスを構成する場合、[スマートカード] チェックボックスをオンにします。

StoreFront でスマートカードを使用する場合は、StoreFront ドキュメントの「[認証サービスの構成](#)」を参照してください。

ユーザーデバイスでスマートカードを使用できるようにするには：

1. デバイスのキーストアに、証明機関のルート証明書をインポートします。
2. ベンダーが提供する暗号化ミドルウェアをインストールします。
3. Citrix Workspace アプリをインストールして構成します。

証明書の選択方法を変更するには：

複数の証明書が有効な場合、Citrix Workspace アプリではデフォルトでそれらの証明書の一覧が表示され、ユーザーは使用する証明書を選択できます。管理者は、代わりにデフォルトの証明書（スマートカードプロバイダー指定の証明書）、または有効期限が最も残っている証明書が使用されるように Citrix Workspace アプリを構成できます。有効なログオン証明書がない場合はユーザーにメッセージが表示され、使用可能なほかのログオン方法が提示されません。

有効な証明書とは、以下のものを指します：

- ローカルコンピューターの現在時刻に基づき、証明書が有効期限内である。
- サブジェクトの公開キーで RSA アルゴリズムが使用されており、キーの長さが 1024 ビット、2048 ビット、または 4096 ビットである。
- キー使用法にデジタル署名が含まれている。
- サブジェクトの別名フィールドにユーザープリンシパル名（UPN）が含まれている。

- 拡張キー使用法フィールドにスマートカードログオンおよびクライアント認証、またはすべてのキー使用法が含まれている。
- 証明書の発行者チェーンに含まれる証明機関の 1 つが、TLS ハンドシェイク時にサーバーから送信される、許可される識別名 (DN) の 1 つに合致している。

証明書の選択方法を変更するには、以下のいずれかの構成を行います：

- Citrix Workspace アプリのコマンドラインで、オプション `AM_CERTIFICATESELECTIONMODE={ Prompt | SmartCardDefault | LatestExpiry }` を指定します。

デフォルト値は、`Prompt` です。`SmartCardDefault` または `LatestExpiry` を指定して複数の証明書が該当する場合は、Citrix Workspace アプリによりユーザーが証明書を選択するための一覧が表示されません。

次のキー値をレジストリキー `SmartCardDefault` `LatestExpiry` }。

`-HKEY_CURRENT_USER OR
HKEY_LOCAL_MACHINE\
Software\[Wow6432Node
\Citrix\AuthManager` に追

加します：

`CertificateSelectionMode={
Prompt`

•

最適な証明書をユーザーが選択できるように、`HKEY_CURRENT_USER` での設定は、`HKEY_LOCAL_MACHINE` の設定よりも優先されます。

CSP の PIN 入力メッセージを使用するには：

Windows 向け Citrix Workspace アプリのデフォルトでは、スマートカードの Cryptographic Service Provider (CSP) ではなく PIN 入力用のメッセージが表示されます。PIN の入力が必要な場合、Citrix Workspace アプリがメッセージを表示して、ユーザーにより入力された PIN をスマートカードの CSP に渡します。プロセスごとやセッションごとの PIN のキャッシュが禁止されているなど、環境やスマートカードでより厳格なセキュリティが求められる場合は、CSP コンポーネントを使用して PIN 入力用のメッセージを表示して PIN を処理するように Citrix Workspace アプリを構成できます。

PIN 入力の処理方法を変更するには、以下のいずれかの構成を行います：

- Citrix Workspace アプリのコマンドラインで、オプション `AM_SMARTCARDPINENTRY=CSP` を指定します。
- 次のキー値をレジストリキー `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\[Wow6432Node\Citrix\AuthManager` に追加します：`SmartCardPINEntry=CSP`

スマートカードのサポートおよび取り出しの変更

スマートカードを取り出すと、Citrix Virtual Apps セッションからログオフされます。Citrix Workspace アプリの認証方法をスマートカードに設定している場合、Citrix Virtual Apps セッションからのログオフを有効にするには Windows 向け Citrix Workspace アプリで対応するポリシーを構成します。ユーザーは Citrix Workspace アプリセッションにログインしたままになります。

制限事項:

スマートカード認証を使用して Citrix Workspace アプリサイトにログインした場合、ユーザー名が [ログオン済み] と表示されます。

高速スマートカード 高速スマートカードは、既存の HDX PC/SC ベースのスマートカードリダイレクトの改良版です。遅延が大きい WAN 環境でスマートカードを使用する場合のパフォーマンスが向上しています。

高速スマートカードは、Windows VDA でのみサポートされています。

Citrix Workspace アプリで高速スマートカードログオンを有効にするには:

高速スマートカードログオンは VDA でデフォルトで有効になっていますが、Citrix Workspace アプリではデフォルトで無効になっています。高速スマートカードログオンを有効にするには、関連する StoreFront サイトの **default.ica** ファイルに次のパラメーターを追加します:

```
1 copy[WFClient]
2 SmartCardCryptographicRedirection=On
3 <!--NeedCopy-->
```

Citrix Workspace アプリで高速スマートカードログオンを無効にするには:

Citrix Workspace アプリで高速スマートカードログオンを無効にするには、関連する StoreFront サイトの **default.ica** ファイルから **SmartCardCryptographicRedirection** パラメーターを削除します。

詳しくは、「[スマートカード](#)」を参照してください。

Citrix Workspace のサイレント認証

Citrix Workspace アプリでは、グループポリシーオブジェクト (GPO) ポリシーが導入され、Citrix Workspace のサイレント認証が有効になります。このポリシーにより、Citrix Workspace アプリがシステムの起動時に Citrix Workspace に自動的にログインできるようになります。このポリシーは、ドメインに参加しているデバイスの Citrix Workspace に対してドメインパススルー (シングルサインオンまたは SSON) が構成されている場合にのみ使用してください。この機能は、Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2012 以降で利用できます。

このポリシーが機能するには、次の条件を満たす必要があります:

- シングルサインオンを有効にする必要があります。

- レジストリエディターで `SelfServiceMode` キーを `Off` に設定する必要があります。

サイレント認証の有効化:

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix Workspace] > [Self Service] の順に移動します。
3. [Citrix Workspace のサイレント認証] ポリシーをクリックして、[有効] に設定します。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。

Windows 向け Citrix Workspace アプリでのパスワードおよびユーザー名のキャッシュ機能の無効化

デフォルトで、Windows 向け Citrix Workspace では最後に入力された姓が自動的に抽出されて入力されます。ユーザー名フィールドの自動入力をオフにするには、ユーザーデバイスのレジストリを編集します:

1. REG_SZ 値の HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\AuthManager\RememberUsername を作成します。
2. 値を「false」に設定します。

[パスワードを保存する] チェックボックスをオフにして自動サインインを禁止するには、Windows 向け Citrix Workspace アプリがインストールされているクライアントマシンで次のレジストリキーを作成します:

- パス: HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\wow6432node\Citrix\AuthManager
- 種類: REG_SZ
- 名前: SavePasswordMode
- 値: Never

注:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。Windows のインストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

StoreFront ストアの資格情報がキャッシュされないようにするには、StoreFront ドキュメントの「[Windows 向け Citrix Workspace アプリでのパスワードおよびユーザー名のキャッシュ機能の無効化](#)」を参照してください。

Azure Active Directory で 200 を超えるグループをサポート

このリリースでは、200 を超えるグループに属している Azure Active Directory ユーザーは、そのユーザーに割り当てられているアプリとデスクトップを表示できるようになります。以前は、同じユーザーがこれらのアプリとデスクトップを表示することはできませんでした。

注:

この機能を有効にするには、ユーザーは Citrix Workspace アプリからサインアウトし、再度サインインする必要があります。

プロキシ認証のサポート

以前は、プロキシ認証で構成されたクライアントマシンで、プロキシの資格情報が **Windows Credential Manager** に存在しない場合、Citrix Workspace アプリへの認証は許可されませんでした。

Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2102 以降、プロキシ認証用に構成されたクライアントマシンでプロキシの資格情報が **Windows Credential Manager** に保存されていない場合は、認証プロンプトが表示され、プロキシの資格情報の入力を求められます。その後、Citrix Workspace アプリがプロキシサーバーの資格情報を **Windows Credential Manager** に保存します。これにより、Citrix Workspace アプリにアクセスする前に Windows 資格情報マネージャーに資格情報を手動で保存する必要がなくなり、シームレスにログインできます。

ユーザーエージェント

Citrix Workspace アプリは、他の ID プロバイダー (IdP) への認証のリダイレクトなど、ネットワーク要求で認証ポリシーの構成に使用できるユーザーエージェントを送信します。

注:

次の表で User-Agent の一部として記載されているバージョン番号は一例であり、使用しているバージョンに基づいて自動的に更新されます。

次の表では、シナリオ、説明、および各シナリオに対応するユーザーエージェントを示します:

シナリオ	説明	ユーザーエージェント
通常の HTTP 要求	一般に、Citrix Workspace アプリによって行われたネットワーク要求はユーザーエージェントが含まれています。たとえば、 <code>GET /Citrix/Roaming/Accounts</code> および <code>GET /AGServices/discover</code> のようなネットワーク要求です	<code>CitrixReceiver/23.5.0.63 Windows/10.0 (22H2 Build 19045.2965) SelfService/23.5.0.63 (Release)X1Class CWACapable</code>

シナリオ	説明	ユーザーエージェント
クラウドストア	Citrix Workspace アプリでユーザーがクラウドストアに対して認証されると、特定のユーザーエージェントでネットワーク要求が作成されます。たとえば、パス/ <code>core/connect/authorize</code> を含むネットワーク要求です。	Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/113.0.0.0 Safari/537.36 Edg/113.0.1774.50 CWA/23.5.0.63 Windows/10.0 (22H2 Build 19045.2965)
Edge WebView を使用した Gateway Advanced Auth を備えたオンプレミスストア	ユーザーが Edge WebView を使用して Citrix Workspace アプリで高度な認証が構成された Gateway に対して認証すると、特定のユーザーエージェントを使用してネットワーク要求が行われます。たとえば、 <code>GET /nf/auth/doWebview.do</code> と <code>GET /logon/LogonPoint/tmindex.html</code> を含むネットワーク要求です。	Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/108.0.0.0 Safari/537.36 Edg/108.0.1462.54 CWAWEVIEW/23.2.0.2111 Windows/10.0 (22H2 Build 19045.2364)
IE WebView を使用した Gateway Advanced Auth を備えたオンプレミスストア	ユーザーが Internet Explorer WebView を使用して Citrix Workspace アプリで高度な認証が構成されたゲートウェイに対して認証すると、特定のユーザーエージェントを使用してネットワークリクエストが行われます。たとえば、 <code>GET /nf/auth/doWebview.do</code> と <code>GET /logon/LogonPoint/tmindex.html</code> を含むネットワーク要求です。	Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; WOW64; Trident/7.0; rv:11.0) like Gecko, CWAWEVIEW/23.5.0.43

シナリオ	説明	ユーザーエージェント
カスタム Web ストア	ユーザーがカスタム Web ストアを Citrix Workspace アプリに追加すると、アプリはユーザーエージェントを送信します。	Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/113.0.0.0 Safari/537.36 Edg/113.0.1774.50 CWA/23.5.0.63 Windows/10.0 (22H2 Build 19045.2965)

ドメインパススルーアクセスのマトリックス

June 14, 2024

Citrix Workspace を使用していて、ドメインパススルーを実現したい場合、サブセクションの表では、さまざまなシナリオと、各シナリオでドメインパススルーを実現できるかどうかについて説明します。

表のさまざまなヘッダー要素とヘッダー要素に関する追加情報は次のとおりです：

- エンドポイントの参加先：エンドポイントが参加しているディレクトリを示します。このディレクトリは、オンプレミスリソースへのアクセス制御を提供します。これは、オンプレミスの Active Directory (AD)、Azure Active Directory (AAD)、またはハイブリッドの場合があります。
- ID プロバイダー (IdP)：Citrix Workspace に認証サービスを提供するために使用されるエンティティ。リソースへの接続を可能にします。
- フェデレーション認証サービス (FAS)：詳しくは、「[Citrix フェデレーション認証サービスを使用したワークスペースに対するシングルサインオンの有効化](#)」を参照してください。
- Virtual Delivery Agent (VDA)：詳しくは、「[VDA のインストール](#)」を参照してください。
- VDA の参加先：VDA デバイスが参加しているディレクトリを示します。詳しくは、「[ID およびアクセス管理](#)」を参照してください。
- Citrix Workspace/VDA へのシングルサインオン (SSO)：「はい」または「いいえ」の値は、Citrix Workspace または VDA へのドメインパススルーがサポートされているかどうかを示します。
- Citrix Workspace アプリ：シングルサインオンを実現するには、「[ドメインパススルー認証での新規インストール中にシングルサインオンを構成する](#)」を参照してください。

注:

次のシナリオの一部では、ドメインパススルーをサポートするために、最新バージョンの Citrix Workspace アプリが必要になる場合があります。

Citrix Workspace でのドメインパススルーのサポート

エンドポイント の参加先	ID プロバイダー	VDA の参加先	Citrix Workspace へ の SSO	VDA への SSO	ドキュメント
AD	オンプレミスの Citrix Gateway	AD	はい	Citrix Workspace ア プリ/FAS	オンプレミス Citrix Gateway を ID プロバイ ダーとして使用 した Citrix Workspace へ のドメインパス スルー。
AD	アダプティブ認 証	AD	はい	Citrix Workspace ア プリ/FAS	アダプティブ認 証を構成するに は、「アダプティ ブ認証サービス」 を参照し、「オ ンプレミスの Citrix Gateway を ID プロバイ ダーとして使用 した Citrix Workspace へ のドメインパス スルー」の手順 に従います。

エンドポイント の参加先	ID プロバイダー	VDA の参加先	Citrix Workspace へ の SSO	VDA への SSO	ドキュメント
AD	別の ID プロバイダー (Azure Active Directory/Okta) とフェデレーションされた Citrix Gateway	AD	はい	Citrix Workspace アプリ/FAS	「 SAML シングルサインオンの構成 」を使用して ID プロバイダーを構成し、ドメインパススルーの構成に使用される ID プロバイダーのドキュメントを参照します。
AD	Okta	AD	はい	Citrix Workspace アプリ/FAS	Okta を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー 。
AD/ハイブリッド参加済み	AAD (AAD 接続による AD)	AD	はい	Citrix Workspace アプリ/FAS**	Azure Active Directory を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー 。

エンドポイント の参加先	ID プロバイダー	VDA の参加先	Citrix Workspace へ の SSO	VDA への SSO	ドキュメント
AD	SAML ベースの 任意の ID プロ バイダー (ADFS など)	AD	はい	Citrix Workspace ア プリ/FAS	「 SAML を ID プ ロバイダーとし て Citrix Cloud に接続する 」を 参照し、ドメイ ンパススルーの 構成に使用され る ID プロバイ ダーのドキュメ ントを参照して ください。
AD	AD	AD	いいえ	未サポート	-
AD	AD+OTP	AD	いいえ	未サポート	-
AD	AAD	AAD	いいえ	未サポート	-
AAD	オンプレミス AD なしの AAD	AD	はい	FAS	Citrix Workspace は、 Microsoft Edge WebView を使用してワー クスペースへの SSO を可能にし ます。VDA への SSO は、FAS を 介してサポート されます。詳し くは、「 Citrix フ ェデレーション 認証サービス を使用したワーク スペースに対す るシングルサイ ンオンの有効化 」 を参照してくだ さい。

エンドポイント の参加先	ID プロバイダー	VDA の参加先	Citrix Workspace へ の SSO	VDA への SSO	ドキュメント
AAD	AAD	AAD	はい	ユーザーは資格 情報を入力する 必要があります。	Citrix Workspace は、 Microsoft Edge WebView を使用してワー クスペースへの SSO を可能にし ます。VDA への SSO はサポート されていません。
ドメイン非参加	パスワード不要 の認証をサポー トする ID プロバ イダー - リンク	AD	いいえ	FAS	Citrix Workspace は、 Microsoft Edge WebView を使用してワー クスペースへの SSO を可能にし ます。VDA への SSO は、FAS を 介してサポート されます。詳しく は、「 Citrix Workspace へ の認証を行う他 の方法 」参照し てください。

メモ:

- Kerberos が機能するには、クライアントが AD に到達できる必要があります。
- **Citrix Single Sign-on (SSONSVR.exe) は、クライアントでユーザー名またはパスワードでのみ機能します。ユーザーが Windows Hello を使用してサインインしている場合は、FAS が必要です。
- LLT が有効になっている場合、またはエンドユーザー承認ポリシーが構成されている場合、クラウドで完全なサイレント認証にならない可能性があります。
- Windows 以外のプラットフォームに適用するためには、FAS を構成することをお勧めします。

StoreFront のドメインパススルーサポート

エンドポイント の参加先	ID プロバイダー	VDA の参加先	Citrix Workspace へ の SSO	VDA への SSO	ドキュメント
AD	StoreFront	AD	はい	Citrix Workspace ア プリ	ドメインパスス ルー認証
AD/ハイブリッ ド参加済 み/Windows Hello for Business	StoreFront	AD	はい (1)	Citrix Workspace ア プリ/FAS (2)	ドメインパスス ルー認証およ びCitrix フェデ レーション認証 サービスを使用 したワークスベ ースに対するシ ングルサインオ ンの有効化
AD	Citrix Gateway - 高度な認証	AD	はい	Citrix Workspace ア プリ (3)	
AD	Citrix Gateway - 基本認証	AD	はい	Citrix Workspace ア プリ (4)	ドメインパスス ルー認証。

メモ:

- レジストリエディターで次のパスに移動し、シングルサインオンコンポーネントをインストールしていない場合はSSONCheckEnabled文字列をFalseに設定します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software{ Wow6432 } \Citrix\AuthManager\
protocols\integratedwindows\
```

The key prevents the Citrix Workspace app authentication manager from checking for the single sign-on component and allows Citrix Workspace app to authenticate to StoreFront.

- Windows Hello を使用してサインインしている場合は、SSO を有効にするために FAS とレジストリ構成が必要です。
- クライアントは Kerberos を使用するために、AD に到達可能である必要があります。
- クライアントが AD に到達できない場合でも機能します。Kerberos を使用していません。

オンプレミス **Citrix Gateway** を ID プロバイダーとして使用した **Citrix Workspace** へのドメインパススルー

June 14, 2024

重要:

本記事は、ドメインパススルー認証の構成に役立ちます。オンプレミスの Gateway を ID プロバイダーとして既に設定している場合は、「[Citrix Gateway の認証方法としてドメインパススルーを構成する](#)」セクションまでスキップしてください。

Citrix Cloud では、オンプレミスの Citrix Gateway を ID プロバイダーとして使用してワークスペースにサインインする利用者が認証されるように設定できます。

Citrix Gateway 認証を使用すると、以下のことを実行できます:

- 引き続き、既存の Citrix Gateway でユーザーを認証するため、Citrix Workspace 経由でオンプレミスの Virtual Apps and Desktops のリソースにアクセスできます。
- Citrix Workspace で Citrix Gateway の認証、承認、および監査機能を使用できます。
- パススルー認証、スマートカード、セキュアトークン、条件付きアクセスポリシー、フェデレーションなどの機能を使用して、ユーザーに必要なリソースへの Citrix Workspace 経由のアクセスを提供します。

Citrix Gateway 認証は、次の製品バージョンでの使用がサポートされています:

- Citrix Gateway 13.1.4.43 Advanced Edition 以降

前提条件:

- Cloud Connectors - Citrix Cloud Connector ソフトウェアのインストール先となるサーバーが少なくとも 2 台必要です。
- Active Directory - ドメインが登録されていることを確認します。
- Citrix Gateway の要件
 - 従来のポリシーは廃止されたため、オンプレミスゲートウェイでは拡張ポリシーを使用してください。
 - Citrix Workspace の利用者を認証するために Gateway を構成する場合、そのゲートウェイは OpenID Connect プロバイダーとして機能します。Citrix Cloud と Gateway 間のメッセージは OIDC プロトコルに準拠し、デジタル署名トークンが含まれます。したがって、これらのトークンに署名するための証明書を構成する必要があります。
 - クロック同期 - Citrix Gateway を NTP (ネットワークタイムプロトコル) の時刻に同期する必要があります。

詳しくは、Citrix Cloud ドキュメントの「[前提条件](#)」を参照してください。

OAuth IdP ポリシーを作成する前に、ID プロバイダーの認証オプションとして Gateway を使用するように Citrix Workspace または Cloud を設定する必要があります。セットアップ方法について詳しくは、「[オンプレミスの](#)

[Citrix Gateway を Citrix Cloud に接続する](#)」を参照してください。セットアップが完了すると、OAuth ID プロバイダーポリシーの作成に必要なクライアント ID、シークレット、およびリダイレクト URL が生成されます。

Web の Workspace でのドメインパススルー認証は、Internet Explorer、Microsoft Edge、Mozilla Firefox、および Google Chrome を使用している場合に、有効になります。ドメインパススルー認証は、クライアントが正常に検出された場合にのみ有効になります。

注:

HTML5 クライアントがユーザーによって優先されているか、管理者によって強制されている場合、ドメインパススルー認証方式は有効になりません。

ブラウザで StoreFront URL を開くと、**[Receiver の検出]** プロンプトが表示されます。

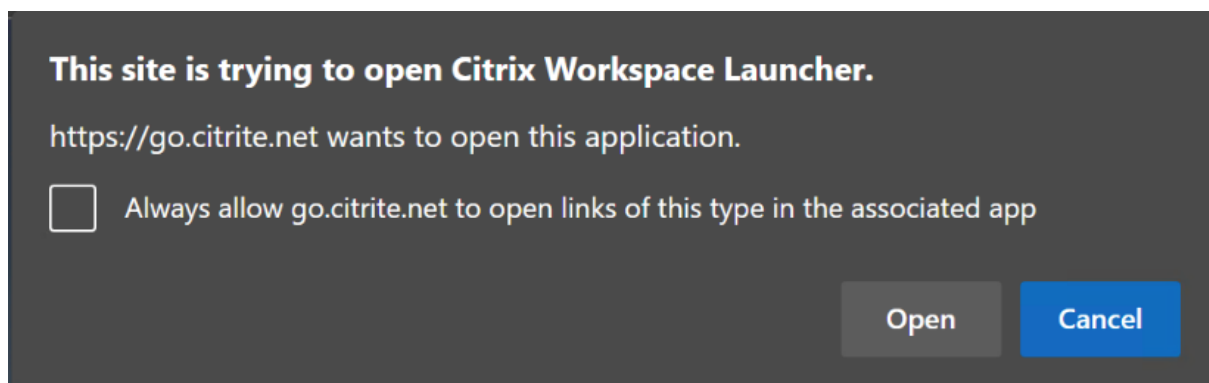
デバイスが管理対象である場合は、クライアント検出を無効にするのではなく、このプロンプトを無効にするようにグループポリシーを構成します。詳しくは、次のトピックを参照してください:

- Microsoft 社ドキュメントの「[URLAllowlist](#)」。
- Google Chrome ドキュメントの「[URLAllowlist](#)」。

注:

Citrix Workspace アプリで使用されるプロトコルハンドラーは、「**receiver:**」です。許可された URL の 1 つとしてこれを構成します。

以下のクライアント検出プロンプトにおける StoreFront URL のプロンプト例のように、ユーザーはチェックボックスをオンにすることもできます。このチェックボックスをオンにすると、後続で起動するプロンプトも回避されます。



次の手順では、Citrix Gateway を ID プロバイダーとして設定する方法について説明します。

オンプレミスの **Citrix Gateway** で **OAuth ID** プロバイダーポリシーを作成する

OAuth ID プロバイダー認証ポリシーの作成には、次のタスクが含まれます:

1. OAuth ID プロバイダープロファイルを作成する。

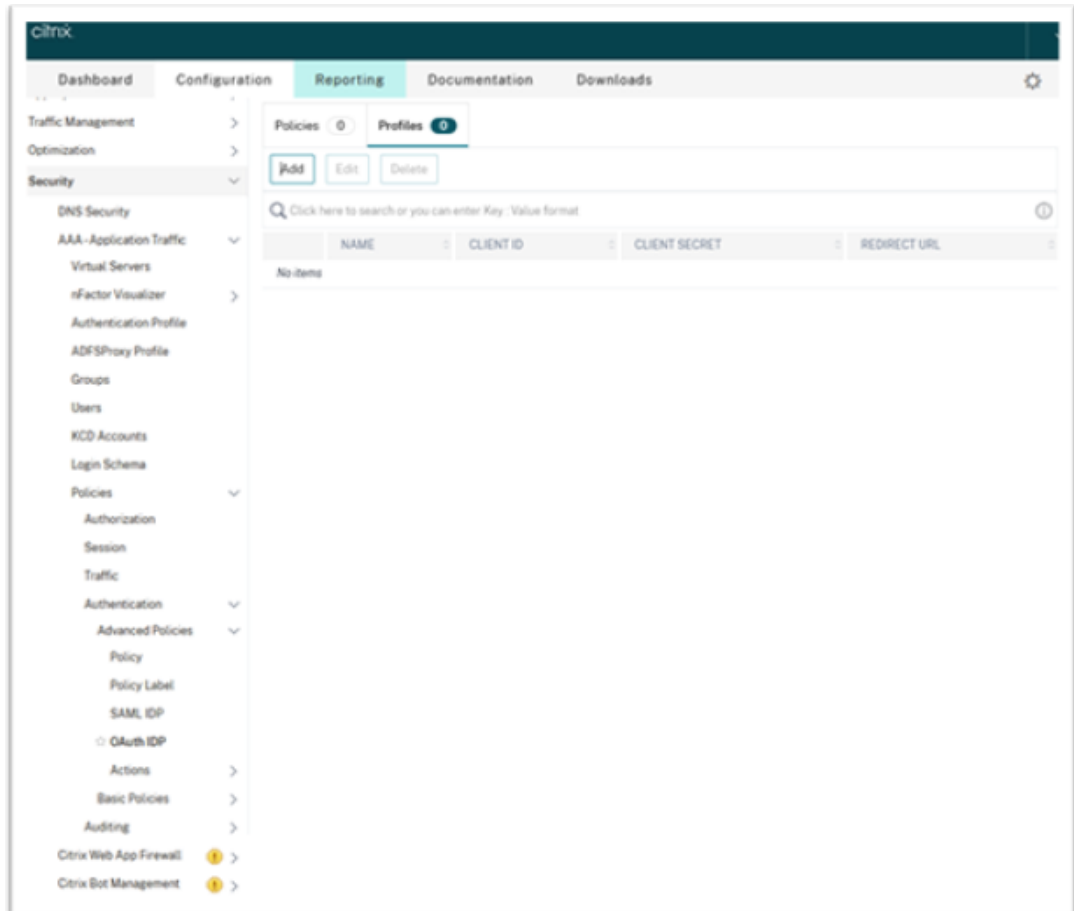
2. OAuth ID プロバイダーポリシーを追加する。
3. OAuth ID プロバイダーポリシーを仮想サーバーにバインドする。
4. 証明書をグローバルにバインドする。

OAuth ID プロバイダープロファイルを作成する

1. CLI を使用して OAuth ID プロバイダープロファイルを作成するには、コマンドプロンプトに次のように入力します：

```
1 add authentication OAuthIdPProfile <name> [-clientID <string>][-  
clientSecret ][-redirectURL <URL>][-issuer <string>][-audience  
<string>][-skewTime <mins>] [-defaultAuthenticationGroup <  
string>]  
2  
3 add authentication OAuthIdPPolicy <name> -rule <expression> [-  
action <string> [-undefAction <string>] [-comment <string>][-  
logAction <string>]  
4  
5 add authentication ldapAction <name> -serverIP <IP> -ldapBase "dc=  
aaa,dc=local"  
6  
7 ldapBindDn <administrator@aaa.local> -ldapBindDnPassword <password  
> -ldapLoginName sAMAccountName  
8  
9 add authentication policy <name> -rule <expression> -action <  
string>  
10  
11 bind authentication vserver auth_vs -policy <ldap_policy_name> -  
priority <integer> -gotoPriorityExpression NEXT  
12  
13 bind authentication vserver auth_vs -policy <OAuthIdPPolicyName> -  
priority <integer> -gotoPriorityExpression END  
14  
15 bind vpn global -certkey <>  
16  
17 <!--NeedCopy-->
```

2. GUI を使用して OAuth ID プロバイダープロファイルを作成するには：
 - a) オンプレミスの Citrix Gateway 管理ポータルにログインし、**[Security]** > **[AAA - Application Traffic]** > **[Policies]** > **[Authentication]** > **[Advanced Policies]** > **[OAuth IDP]** に移動します。



- b) [OAuth IDP] ページで、[Profiles] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
- c) OAuth ID プロバイダープロファイルを構成します。

注:

- [Citrix Cloud] > [ID およびアクセス管理] > [認証] タブで、クライアント ID、シークレット、およびリダイレクト URL の値をコピーして貼り付け、Citrix Cloud への接続を確立します。
- [発行者名] フィールドに Gateway URL を正しく入力します。例: <https://GatewayFQDN.com>。
- また、クライアント ID をコピーして [オーディエンス] フィールドに貼り付けます。
- パスワードの送信: シングルサインオンをサポートするには、このオプションを有効にします。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

- d) [Create Authentication OAuth IDP Profile] 画面で、次のパラメーターの値を設定し、[Create] をクリックします。

- **Name** - 認証プロファイルの名前。文字、数字、またはアンダースコア文字 () で開始する必要があります。名前には、文字、数字、およびハイフン (-)、ピリオド (.), 番号記号 (#)、スペース

()、アットマーク (@)、等号 (=)、コロン (:)、アンダースコア文字のみ使用できます。プロファイル作成後は名前を変更できません。

- **Client ID** - サービスプロバイダーを識別する一意の文字列。承認サーバーは、この ID を使用してクライアントの構成を推測します。最大文字数: 127。
- **Client Secret** - ユーザーと承認サーバーによって確立されたシークレット文字列。最大文字数: 239。
- **Redirect URL** - コード/トークンを投稿する必要があるサービスプロバイダーのエンドポイント。
- **Issuer Name** - トークンを受け入れるサーバーの ID。最大文字数: 127。例: <https://GatewayFQDN.com>。
- **Audience** - ID プロバイダーによって送信されたトークンの宛先。受信側はこのトークンを検証します。
- **Skew Time** - このオプションは、Citrix ADC が受信トークンで許可する許容クロックスキュー (分単位) を指定します。たとえば、スキュー時間が 10 の場合、トークンは (現在の時間 - 10) 分から (現在の時間 + 10) 分まで、つまり合計 20 分有効になります。デフォルト値: 5。
- **Default Authentication Group** - このプロファイルが ID プロバイダーによって選択されたときにセッション内部グループリストに追加されるグループであり、これは nFactor フローで使用できます。これは、認証ポリシーの式 (AAA.USER.IS_MEMBER_OF("xxx")) で使用でき、証明書利用者に関連する nFactor フローを識別します。最大文字数: 63。

このプロファイルのセッションにグループが追加され、ポリシーの評価が簡素化され、ポリシーのカスタマイズに役立ちます。このグループは、抽出されたグループに加えて認証が成功した場合に選択されるデフォルトのグループです。最大長: 63。

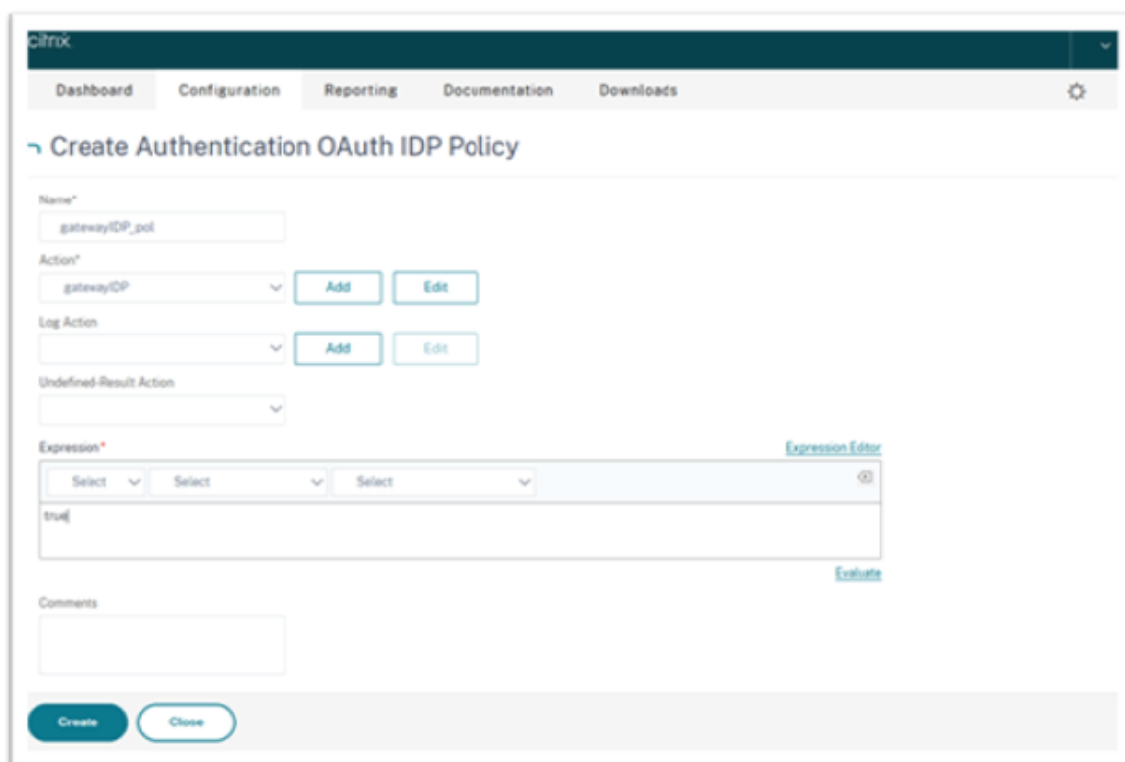
The screenshot shows the Citrix configuration interface for creating an OAuth IDP profile. The interface has a dark blue header with the Citrix logo and navigation tabs: Dashboard, Configuration, Reporting, Documentation, and Downloads. The main content area is titled "Create Authentication OAuth IDP Profile". The form contains the following fields and options:

- Name*: gatewayIDP
- Client ID*: cclientid
- Client Secret*: cclientsecret
- Redirect URL*: https://redirecturl
- Issuer Name: (empty)
- Audience: cclientid
- Skew Time (mins): 5
- Default Authentication Group: testGroup
- Relaying Party Metadata URL: (empty)
- Refresh Interval: 50
- Encrypt Token
- Signature Service: (empty)
- Attributes: (empty)
- Send Password

At the bottom of the form, there are two buttons: "Create" (highlighted in blue) and "Close".

OAuth ID プロバイダーポリシーを追加する

1. [OAuth IDP] ページで、**[Policies]** をクリックし、**[Add]** をクリックします。
2. **[Create Authentication OAuth IDP Policy]** 画面で、次のパラメーターの値を設定し、**[Create]** をクリックします。
 - **Name** - 認証ポリシーの名前。
 - **Action** - 以前に作成されたプロファイルの名前。
 - **Log Action** - 要求がこのポリシーに一致する場合に使用するメッセージログアクションの名前。必須フィールドではありません。
 - **Undefined-Result Action** - ポリシー評価の結果が未定義 (UNDEF) の場合に実行するアクション。必須フィールドではありません。
 - **Expression** - ポリシーが特定の要求に応答するために使用するデフォルトの構文式。例: true。
 - **Comments** - ポリシーに関するコメント。



The screenshot shows the Citrix management console interface for creating an OAuth IDP policy. The navigation menu at the top includes Dashboard, Configuration, Reporting, Documentation, and Downloads. The main heading is 'Create Authentication OAuth IDP Policy'. The form contains the following fields and controls:

- Name***: A text input field containing 'gatewayIDP_pol'.
- Action***: A dropdown menu with 'gatewayIDP' selected, accompanied by 'Add' and 'Edit' buttons.
- Log Action**: A dropdown menu with an empty selection, accompanied by 'Add' and 'Edit' buttons.
- Undefined Result Action**: A dropdown menu with an empty selection.
- Expression***: A section with three 'Select' dropdown menus and an 'Expression Editor' button. Below them is a text area containing 'true' and an 'Evaluate' button.
- Comments**: A large text area for additional notes.
- Buttons**: 'Create' and 'Close' buttons at the bottom of the form.

注:

sendPassword が ON（デフォルトでは OFF）に設定されている場合、ユーザーの資格情報は暗号化され、安全なチャネルを介して Citrix Cloud に渡されます。安全なチャネルを介してユーザー資格情報を渡すことで、起動時に Citrix Virtual Apps and Desktops への SSO（シングルサインオン）を有効にできます。

OAuth ID プロバイダーポリシーと LDAP ポリシーを仮想認証サーバーにバインドする

次に、OAuth ID プロバイダーポリシーをオンプレミスの Citrix Gateway 上の仮想認証サーバーにバインドする必要があります。

1. オンプレミスの Citrix Gateway 管理ポータルにログインし、**[Configuration]** > **[Security]** > **[AAA - Application Traffic]** > **[Policies]** > **[Authentication]** > **[Advanced Policies]** > **[Actions]** > **[LDAP]** に移動します。
2. **[LDAP Actions]** 画面で、**[Add]** をクリックします。
3. **[Create Authentication LDAP Server]** 画面で、次のパラメーターの値を設定し、**[Create]** をクリックします。
 - **Name** - LDAP アクションの名前。
 - **ServerName/ServerIP** - LDAP サーバーの FQDN または IP を入力します。
 - **[Security Type]**、**[Port]**、**[Server Type]**、**[Time-Out]** で適切な値を選択します。

- **[Authentication]** がオンになっていることを確認してください。
- **Base DN** - LDAP 検索を開始するベース。例: `dc=aaa、dc=local`。
- **Administrator Bind DN**: LDAP サーバーへのバインドのユーザー名。例: `admin@aaa.local`。
- **Administrator Password/Confirm Password**: LDAP をバインドするためのパスワード。
- **[Test Connection]** をクリックして、設定をテストします。
- **Server Logon Name Attribute**: 「sAMAccountName」を選択します。
- 他のフィールドは必須ではないため、必要に応じて構成できます。

4. **[Configuration]** > **[Security]** > **[AAA - Application Traffic]** > **[Policies]** > **[Authentication]** > **[Advanced Policies]** > **[Policy]** に移動します。

5. **[Authentication Policies]** 画面で **[Add]** をクリックします。

6. **[Create Authentication Policy]** ページで、次のパラメーターの値を設定し、**[Create]** をクリックします。

- **Name** - LDAP 認証ポリシーの名前。
- **Action Type** - LDAP を選択します。
- **Action** - LDAP アクションを選択します。
- **Expression** - ポリシーが特定の要求に回答するために使用するデフォルトの構文式。例: `true**`。

証明書を **VPN** にグローバルにバインドする

証明書を VPN にグローバルにバインドするには、オンプレミスの Citrix Gateway への CLI アクセスが必要です。Putty (または同様のもの) を使用して、SSH でオンプレミスの Citrix Gateway にログインします。

1. Putty などのコマンドラインユーティリティを起動します。
2. SSH でオンプレミスの Citrix Gateway にサインインします。
3. 次のコマンドを入力します:

```
show vpn global
```

注:

証明書をバインドする必要はありません。

```
Done
> show vpn global

 1)   VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_owa_policy   Priority: 95000
      Bindpoint: REQ_DEFAULT
 2)   VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_sp_policy   Priority: 96000
      Bindpoint: REQ_DEFAULT
 3)   VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_sp2013_policy   Priority: 97000
      Bindpoint: REQ_DEFAULT
 4)   VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_default_policy   Priority: 100000
      Bindpoint: REQ_DEFAULT

Done
>
```


4. オンプレミスの Citrix Gateway で証明書を表示するには、次のコマンドを入力します：

```
show ssl certkey
```

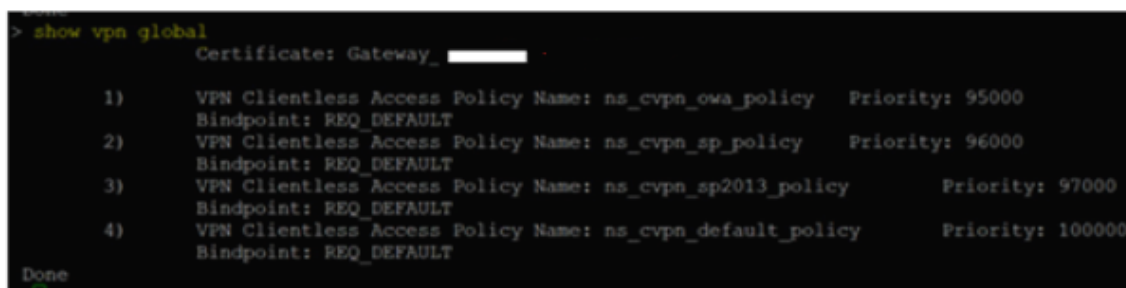
5. 適切な証明書を選択し、次のコマンドを入力して、証明書を VPN にグローバルにバインドします：

```
bind vpn global -certkey cert_key_name
```

ここでの「cert_key_name」は証明書の名前です。

6. 次のコマンドを入力して、証明書が VPN にグローバルにバインドされているかどうかを確認します：

```
show vpn global
```



```
> show vpn global
Certificate: Gateway_ ██████████

1)  VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_owa_policy   Priority: 95000
    Bindpoint: REQ_DEFAULT
2)  VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_sp_policy   Priority: 96000
    Bindpoint: REQ_DEFAULT
3)  VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_sp2013_policy Priority: 97000
    Bindpoint: REQ_DEFAULT
4)  VPN Clientless Access Policy Name: ns_cvpn_default_policy Priority: 100000
    Bindpoint: REQ_DEFAULT

Done
```

Citrix Gateway の認証方法としてドメインパススルーを構成する

Citrix Gateway を ID プロバイダーとして設定し終わったら、次の手順を実行して、Citrix Gateway の認証方法としてドメインパススルーを構成します。

ドメインパススルーが認証方法として設定されている場合、クライアントは資格情報ではなく Kerberos チケットを使用して認証します。

Citrix Gateway は、偽装と Kerberos の制約付き委任（Kerberos Constrained Delegation: KCD）の両方をサポートしています。ただし、本記事では KCD 認証について説明します。この問題について詳しくは、[CTX236593](#)を参照してください。

ドメインパススルーの構成には、次のような手順があります：

1. Kerberos の制約付き委任の構成
2. クライアント構成

Kerberos の制約付き委任の構成

1. Active Directory に KCD ユーザーを作成する

Kerberos は、ユーザーをリソースへと認証させるチケット付与システム上で機能し、クライアント、サーバー、およびキー配布センター（Key Distribution Center: KDC）が含まれます。

Kerberos が機能するには、クライアントが KDC にチケットを要求する必要があります。クライアントは、AS 要求と呼ばれるチケットを要求する前に、まずユーザー名、パスワード、およびドメインを使用して KDC に対して認証する必要があります。

The image shows a Windows dialog box titled "kcduser Properties". It has several tabs: "Member Of", "Dial-in", "Environment", "Sessions", "Remote control", "Remote Desktop Services Profile", "Personal Virtual Desktop", "COM+", "General", "Address", "Account", "Profile", "Telephones", "Delegation", and "Organization". The "General" tab is active. Below the tabs, there is a user icon and the name "kcduser". The fields are as follows:

- First name: Initials:
- Last name:
- Display name:
- Description:
- Office:
- Telephone number: Other... - Email:
- Web page: Other...

At the bottom, there are four buttons: "OK", "Cancel", "Apply", and "Help".

2. 新しいユーザーをサービスプリンシパル名（Service Principal Name: SPN）に関連付けます。

Gateway の SPN は、クライアントが認証するために使用します。

- サービスプリンシパル名 (SPN): サービスプリンシパル名 (SPN) は、サービスインスタンスの一意的識別子です。Kerberos 認証では、SPN を使用して、サービスインスタンスをサービスサインインアカウントに関連付けます。この機能により、クライアントがアカウント名を持っていなくても、クライアントアプリケーションはアカウントのサービス認証を要求できます。

SetSPN は、Windows デバイスで SPN を管理するためのアプリケーションです。SetSPN を使用すると、SPN 登録を表示、編集、および削除できます。

- a) Active Directory サーバーで、コマンドプロンプトを開きます。

b) コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します:

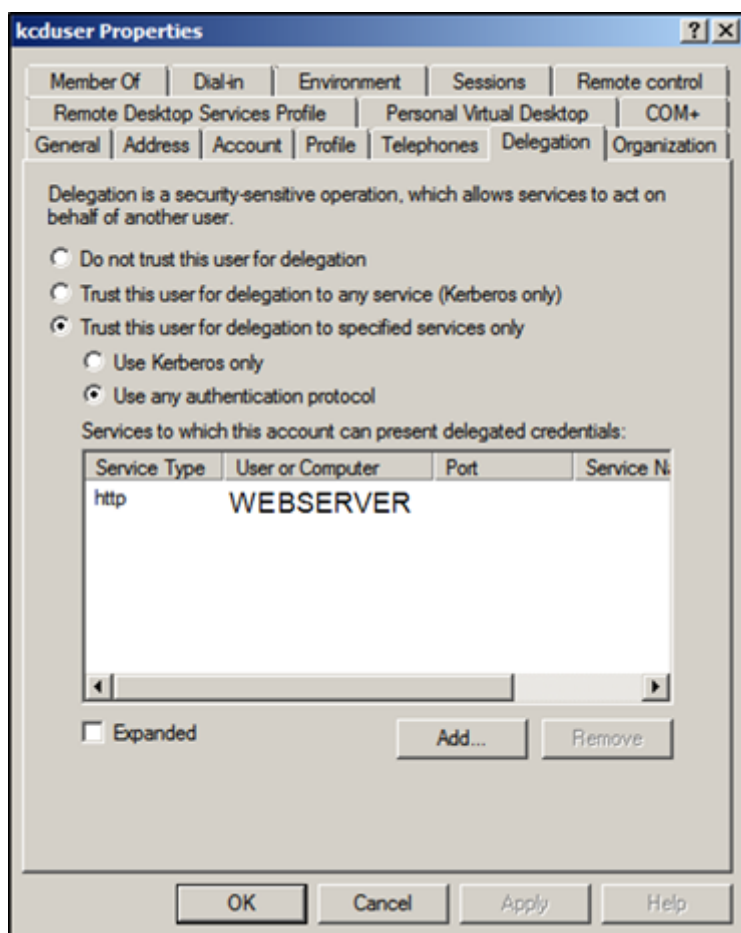
```
setspn -A http/<LB fqdn> <domain\Kerberos user>
```

c) Kerberos ユーザーの SPN を確認するには、次のコマンドを実行します:

```
setspn -l <Kerberos user>
```

setspn コマンドの実行後、[Delegation] タブが表示されます。

d) [指定されたサービスへの委任でのみこのユーザーを信頼する] オプションと、[任意の認証プロトコルを使う] オプションを選択します。Web サーバーを追加し、HTTP サービスを選択します。

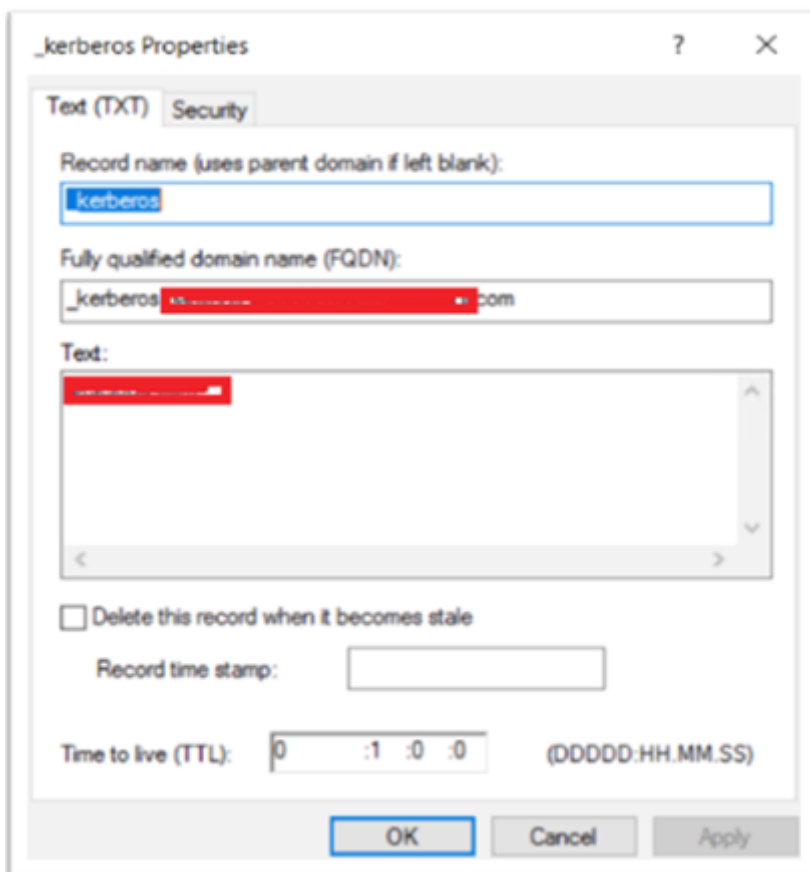


3. クライアントが Gateway の SPN を検索するための DNS レコードを作成します:

Active Directory に TXT DNS レコードを追加します。

注:

名前は「_Kerberos」で始める必要があり、データはドメイン名である必要があります。FQDN (Fully qualified domain name: 完全修飾ドメイン名) は Kerberos を表示する必要があります。



Windows のドメイン参加済みクライアントは「_kerberos.fqdn」を使用してチケットを要求します。たとえば、クライアントが citrite.net に参加している場合、オペレーティングシステムは「*.citrite.net」の Web サイトのチケットを取得できます。ただし、Gateway ドメインが gateway.citrix.com のように外部にある場合、クライアントのオペレーティングシステムは Kerberos チケットを取得できません。

そのため、クライアントが「_kerberos.gateway.citrix.com」を検索するのに役立つ DNS TXT レコードを作成し、認証用の Kerberos チケットを取得する必要があります。

4. 認証要素として Kerberos を構成します。

- a) NetScaler ユーザーの KCD アカウントを作成します。ここでは、これを手動で行うことを選択しましたが、keytab ファイルを作成する方法もあります。

注:

代替ドメイン（内部ドメインと外部ドメイン）を使用している場合は、サービス SPN を `HTTP/PublicFQDN.com@InternalDomain.ext` に設定する必要があります。

- **Realm** - Kerberos 領域。通常は内部ドメインのサフィックス。
- **User Realm** - これはユーザーの内部ドメインのサフィックスです。
- **Enterprise Realm** - これは、KDC がプリンシパル名ではなく Enterprise ユーザー名を想定する特定の KDC 環境でのみ指定する必要があります。

- **Delegated User** - これは、前の手順の AD で作成した KCD の NetScaler ユーザーアカウントです。パスワードが正しいことを確認してください。

The screenshot shows a web form titled "Configure KCD Account". The form has the following fields and options:

- Name:** Text input field containing "kcduser".
- Use Keytab File:** A checkbox that is currently unchecked.
- Realm*:** Text input field containing "READINESS.LAB".
- User Realm:** Empty text input field.
- Enterprise Realm:** Empty text input field.
- Service SPN:** Empty text input field.
- User Certificate:** A dropdown menu with "Choose File" selected and an empty text input field.
- CA Certificate:** A dropdown menu with "Choose File" selected and an empty text input field.
- Delegated User:** Text input field containing "kcduser".
- Password for Delegated User:** A checkbox that is currently unchecked.

- b) セッションプロファイルが正しい KCD アカウントを使用していることを確認します。セッションポリシーを認証、承認、および監査の仮想サーバーにバインドします。

	Override Global
Session Time-out (mins)	<input checked="" type="checkbox"/>
Default Authorization Action*	<input checked="" type="checkbox"/>
Single Sign-on to Web Applications*	<input checked="" type="checkbox"/>
Credential Index*	<input checked="" type="checkbox"/>
Single Sign-on Domain	<input checked="" type="checkbox"/>
HTTPOnly Cookie*	<input type="checkbox"/>
Enable Persistent Cookie*	<input type="checkbox"/>
Persistent Cookie Validity	<input type="checkbox"/>
KCD Account	<input checked="" type="checkbox"/>
Home Page	<input type="checkbox"/>

- c) 認証ポリシーを認証、承認、および監査の仮想サーバーにバインドします。これらのポリシーは、クライアントからパスワードを取得しない認証、承認、および監査の方法を使用するため、KCDを使用する必要があります。ただし、UPN形式でユーザー名とドメイン情報を取得する必要があります。

注:

IP アドレスまたは EPA スキャンを使用してドメイン参加済みデバイスとドメイン非参加デバイスを区別し、認証の要素として Kerberos または通常の LDAP を使用できます。

クライアントを構成する

VDA にシングルサインオンできるようにするには、次の手順を実行します。

前提条件:

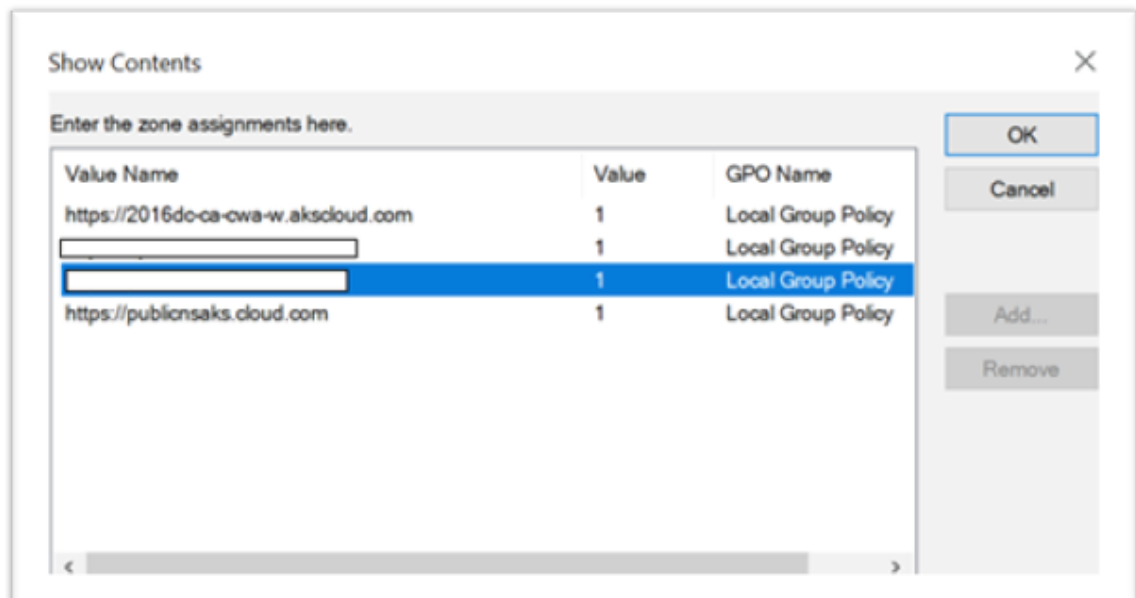
- ドメイン参加済みマシン
- SSO 設定が有効になっている Citrix Workspace 2112.1 以降
- 接続が保護されているかどうかを確認する信頼できる URL
- クライアントと AD から Kerberos を検証します。Kerberos チケットを取得するには、クライアント OS が AD に接続している必要があります。

以下は、ブラウザで信頼される URL の一部です:

- Gateway URL または FQDN
- AD FQDN
- ブラウザーベースの起動からの SSO (シングルサインオン) のワークスペース URL。

1. Internet Explorer、Microsoft Edge、または Google Chrome を使用している場合は、次の手順を実行します:

- a) ブラウザーを起動します。
- b) クライアントでローカルグループポリシーエディターを開きます。



- a) [コンピューターの構成] > [Windows コンポーネント] > [Internet Explorer] > [インターネットコントロールパネル] > [セキュリティ] ページに移動します。
- b) サイトからゾーンへの割り当てリストを開き、リストされているすべての URL を値 1 で追加します。
- c) (オプション) 「Gpupdate」を実行してポリシーを適用します。

2. Mozilla Firefox ブラウザーを使用している場合は、次の手順を実行します：

- a) ブラウザーを開きます。
- b) 検索バーに「`about:config`」と入力します。
- c) リスクを受け入れて続行します。
- d) 検索フィールドに「**negotiate**」と入力します。
- e) 入力したデータのリストで、**network.negotiate-auth.trusted-uris** がドメイン値に設定されているかどうかを確認します。



network.negotiate-auth.proxy	true	
network.negotiate-auth.delegation-uris		
network.negotiate-auth.gsslib		
network.negotiate-auth.trusted-uris	.akscloud.com	
network.negotiate-auth.using-native-gsslib	true	
security.ssl.require_safe_negotiation	false	

これで、クライアント側の構成は完了です。

3. Citrix Workspace アプリまたはブラウザーを使用して Workspace にログインします。

ドメイン参加済みデバイスでユーザー名またはパスワードの入力を求めてはいけません。

Kerberos のトラブルシューティング

注：

この検証手順を実行するには、ドメイン管理者である必要があります。

コマンドプロンプトまたは Windows PowerShell で、次のコマンドを実行して、SPN ユーザーの Kerberos チケット検証を確認します：

```
KLIST get host/FQDN of AD
```

Azure Active Directory を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー

June 14, 2024

ドメイン参加済み、ハイブリッド、および Azure AD 登録済みエンドポイント/VM の ID プロバイダーとして、Azure Active Directory (AAD) を使用して、Citrix Workspace へのシングルサインオン (SSO) を実装できます。

この構成では、Windows Hello を使用して、AAD 登録済みエンドポイントで Citrix Workspace に SSO することもできます。

- Windows Hello を使用して、Citrix Workspace アプリに認証できます。
- Citrix Workspace アプリを使用した FIDO2 ベースの認証。
- Microsoft AAD 参加済みマシン (ID プロバイダーが AAD) から Citrix Workspace アプリへのシングルサインオン、および AAD を使用した条件付きアクセス。

仮想アプリと仮想デスクトップへの SSO を可能にするには、FAS を展開するか、Citrix Workspace アプリを次のように構成します。

注:

Windows Hello を使用している場合にのみ、Citrix Workspace リソースへの SSO が可能になります。ただし、公開された仮想アプリと仮想デスクトップにアクセスするときに、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。このプロンプトを解決するために、FAS と SSO を仮想アプリと仮想デスクトップに展開できます。

前提条件:

1. Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する。詳しくは、Citrix Cloud ドキュメントの「[Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する](#)」を参照してください。
2. ワークスペースにアクセスする Azure AD 認証を有効にする。詳しくは、Citrix Cloud ドキュメントの「[ワークスペースの Azure AD 認証を有効にする](#)」を参照してください。

Citrix Workspace へのシングルサインオンを可能にするには:

1. includeSSON を使用して Citrix Workspace アプリを構成します。
2. Citrix Cloud で `prompt=login` 属性を無効にする。
3. Azure Active Directory Connect を使用して Azure Active Directory パススルーを構成する。

SSO をサポートするように Citrix Workspace アプリを構成する

前提条件:

- Citrix Workspace バージョン 2109 以降。

注:

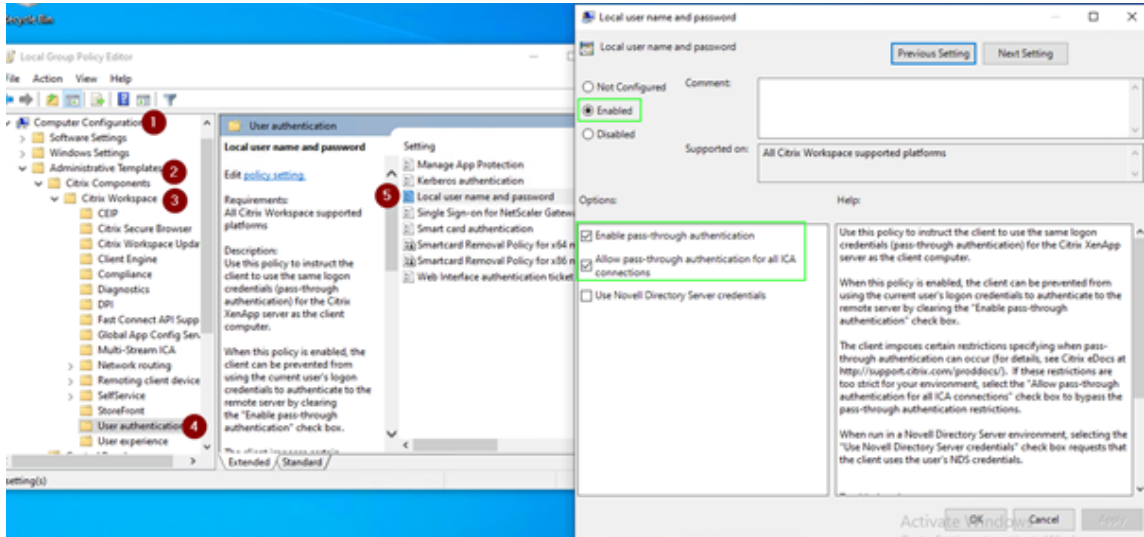
SSO に FAS を使用している場合、Citrix Workspace の構成は必要ありません。

1. `includeSSON` オプションを使用して、管理者のコマンドラインで Citrix Workspace アプリをインストールします:
`CitrixWorkspaceApp.exe /includeSSON`
2. Windows クライアントからサインアウトし、サインインして SSON サーバーを起動します。
3. [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] をクリックし、[Citrix Workspace GPO] を変更して [ローカルユーザー名とパスワード] を許可します。

注:

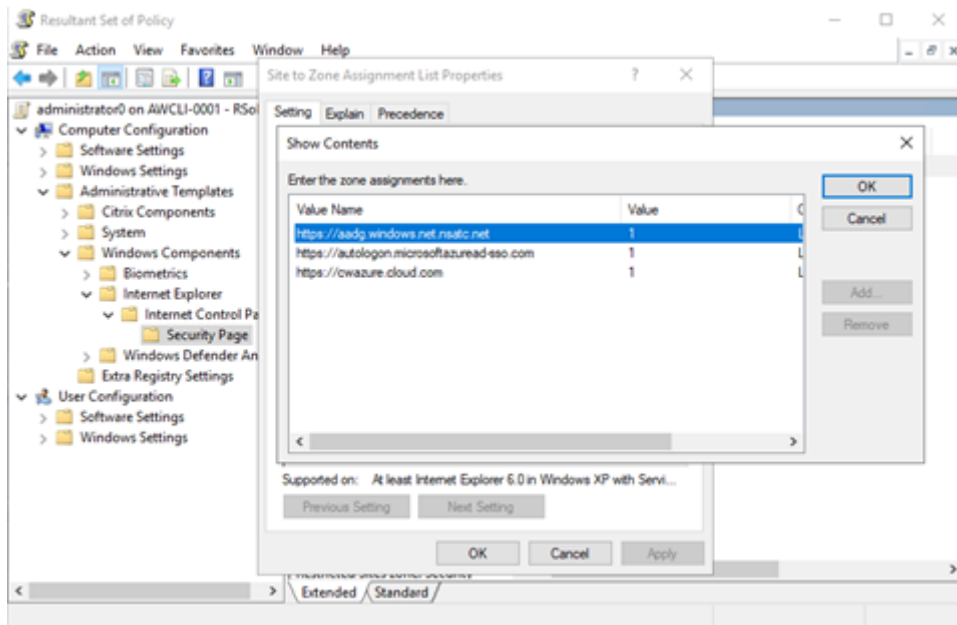
これらのポリシーは、Active Directory を介してクライアントデバイスにプッシュできます。この手順は、Web ブラウザーから Citrix Workspace にアクセスする場合にのみ必要です。

4. スクリーンショットに従って、設定を有効にします。



5. GPO を介して次の信頼済みサイトを追加します:

- <https://aadg.windows.net.nsatc.net>
- <https://autologon.microsoftazuread-ss0.com>
- <https://xxxtenantxxx.cloud.com>: ワークスペース URL



注:

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\Dazzleの **AllowSSOForEdgeWebview** レジストリが false に設定されている場合、AAD のシングルサインオンは無効になります。

Citrix Cloud で **prompt=login** パラメーターを無効にする

デフォルトでは、ユーザーがサインインを維持することを選択した場合、またはデバイスが Azure AD 参加済みである場合でも、認証を強制する Citrix Workspace に対して **prompt=login** が有効になっています。

prompt=login は、Citrix Cloud アカウントで無効にすることができます。Workspace Configuration \Customize\Preferences-Federated Identity Provider Sessions に移動して、トグルを無効にします。

詳しくは、Knowledge Center の [CTX253779](#) を参照してください。

The screenshot shows the Citrix Cloud console interface. At the top, there is a navigation bar with the Citrix logo and a hamburger menu. Below it, a breadcrumb trail shows 'Home > Workspace Configuration' with a red circle '1' next to 'Workspace Configuration'. The main heading is 'Workspace Configuration'. Below the heading, there are several tabs: 'Access', 'Authentication' (with a red circle '2'), 'Customize' (highlighted with a red box), 'Service Integrations', 'Sites', 'Service Continuity', and 'App Configuration'. Under the 'Customize' tab, there are sub-tabs: 'Appearance', 'Features' (with a red circle '3'), and 'Preferences' (highlighted with a red box). The 'Preferences' sub-tab is active, showing the 'Workspace Sessions' section. Under 'Workspace Sessions', there is a sub-section 'Federated Identity Provider Sessions'. A toggle switch is shown in the 'Disabled' position, with a red circle '4' next to it. Below the toggle, there is a paragraph of text explaining the configuration.

注:

AAD 参加済みデバイスまたはハイブリッド AAD 参加済みデバイスで、AAD がワークスペースの ID プロバイダーとして使用されている場合、Citrix Workspace アプリは資格情報を要求しません。ユーザーは、職場または学校のアカウントを使用して自動的にサインインできます。

ユーザーが別のアカウントを使用してサインインできるようにするには、次のレジストリを false に設定します。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\Dazzle または Computer\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\Dazzle でレジストリ文字列

REG_SZ を作成して、名前を **AllowSSOForEdgeWebview**、値を False に設定します。または、ユーザーが Citrix Workspace アプリからサインアウトすると、次のサインイン時に別のアカウントでサインインできます。

Azure Active Directory Connect を使用して Azure Active Directory パススルーを構成する

- Azure Active Directory Connect を初めてインストールする場合は、[ユーザーサインイン] ページで、サインオン方法として [パススルー認証] を選択します。詳しくは、Microsoft 社ドキュメントの「[Azure Active Directory パススルー認証: クイックスタート](#)」を参照してください。
- Microsoft Azure Active Directory Connect がある場合:
 1. [ユーザーサインインの変更] タスクを選択し、[次へ] をクリックします。
 2. サインイン方法として [パススルー認証] を選択します。

注:

クライアントデバイスが Azure AD 参加済みである場合、またはハイブリッド参加済みである場合は、この手順をスキップできます。デバイスが AD 参加済みである場合、ドメインパススルー認証は Kerberos 認証を使用して機能します。

Okta を ID プロバイダーとして使用した Citrix Workspace へのドメインパススルー

June 14, 2024

Okta を ID プロバイダー (IdP) として使用して、Citrix Workspace へのシングルサインオンが可能です。

前提条件:

- Citrix Cloud
 - Cloud Connector

注:

Citrix Cloud を初めて使用する場合は、リソースの場所を定義し、コネクタを構成します。実稼働環境には、少なくとも 2 つのクラウドコネクタを展開することをお勧めします。Citrix Cloud Connector のインストール方法については、「[Cloud Connector のインストール](#)」を参照してください。

- Citrix Workspace
- フェデレーション認証サービス (オプション)。詳しくは、「[Citrix フェデレーション認証サービスを使用したワークスペースに対するシングルサインオンの有効化](#)」を参照してください。
- Citrix DaaS (旧称: Citrix Virtual Apps and Desktops サービス)

- AD ドメイン参加済み VDA、または物理 AD 参加済みデバイス
- Okta テナント
 - Okta IWA エージェント (統合 Windows 認証)
 - Okta Verify (Okta Verify はアプリストアからダウンロードできます) (オプション)
- Active Directory

1. Okta AD エージェントを展開します:

- a) Okta 管理ポータルで、**[Directory]** > **[Directory Integrations]** をクリックします。
- b) **[Add Directory]** > **[Add Active Directory]** をクリックします。
- c) Agent Architecture および Installation Requirements を含むワークフローに従い、インストール要件を確認します。
- d) **[Set Up Active Directory]** ボタンをクリックしてから、**[Download Agent]** をクリックします。
- e) 「[Install the Okta Active Directory agent](#)」に記載されている手順に従って、Okta AD Agent を Windows サーバーにインストールします。

注:

エージェントをインストールする前に、「[Active Directory integration prerequisites](#)」に記載されている前提条件が満たされていることを確認してください。

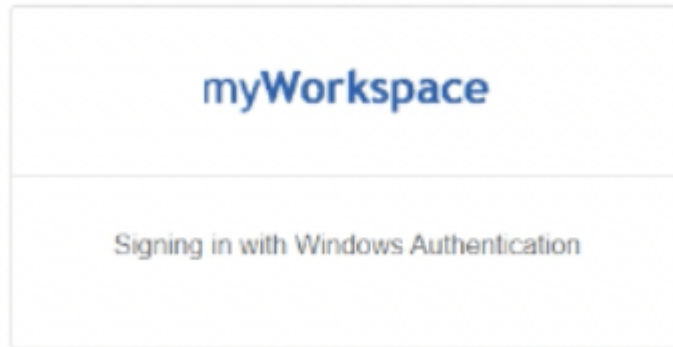
2. 統合 Windows 認証 (IWA) の設定:

- a) Okta 管理ポータルで、**[Security]** > **[Delegated Authentication]** をクリックします。
- b) ロードするページの **[On-prem Desktop SSO]** のところまでスクロールダウンし、**[Download Agent]** をクリックします。
- c) IWA の **[Routing Rules]** を設定します。詳しくは、「[Configure Identity Provider routing rules](#)」を参照してください。

3. Okta 顧客ポータルを起動します。

注:

- Okta IWA Agent をインストールしており、ステータスが有効になっている場合は、Windows ドメイン参加済みデバイスからサインインできます。また、この構成では、ログインから先に進み、IWA ログインページに移動し、ユーザーの資格情報を入力します。



- 問題のトラブルシューティングについて詳しくは、「[Install and configure the Okta IWA Web agent for Desktop single sign-on](#)」を参照してください。

4. <https://citrix.cloud.com>で Citrix Cloud にサインインし、ID プロバイダーとして Okta を有効にします。詳しくは、Citrix Tech Zone ドキュメントの「[Tech Insight: 認証 - Okta](#)」を参照してください。

注:

Citrix Workspace アプリまたは Web ブラウザーのいずれかからサインインできます。どちらも、Tech Zone ドキュメントに記載のとおり、パススルーエクスペリエンスを提供します。

5. 仮想アプリと仮想デスクトップへの SSO を可能にするには、FAS を展開するか、Citrix Workspace アプリを構成します。

注:

FAS がない場合は、AD のユーザー名とパスワードの入力を求められます。詳しくは、「[Citrix フェデレーション認証サービスを使用したワークスペースに対するシングルサインオンの有効化](#)」を参照してください。

FAS を使用しない場合は、「[SSO をサポートするように Citrix Workspace アプリを構成する](#)」を参照してください。

シングルサインオンの拡張ドメインパススルー（強化された **SSO**）

June 14, 2024

以前は、Windows 向け Citrix Workspace アプリは、ユーザー認証情報を使用した Citrix Virtual Apps and Desktops 環境へのシングルサインオンで、SSON またはドメインパススルー認証のみをサポートしていました。この認証により、ユーザーはデバイス上のドメインに対して認証され、再認証することなく仮想アプリとデスクトップを使用できるようになります。

ユーザー資格情報を使用したドメインパススルーのこのアプローチには、次の制限があります：

- Windows Hello や FIDO2 などの先進認証方法によるパスワードレス認証はサポートされていません。シングルサインオン (SSO) には、フェデレーション認証サービス (FAS) と呼ばれる追加コンポーネントが必要です。
- SSON を有効にして Citrix Workspace アプリをインストールまたはアップグレードするには、デバイスを再起動する必要があります。
- Windows 11 マシンで複数プロバイダルーター (MPR) 通知を有効にする必要があります。
- ネットワークプロバイダ一覧の先頭に位置している必要があります。

このリリースでは、Citrix Workspace アプリは、SSO の新しい方法である拡張ドメインパススルーをサポートします。これによってユーザー資格情報の代わりに Kerberos 認証を活用し、前述の制限を克服するのに役立ちます。これで、ユーザーは統合 Windows 認証を使用して Citrix Virtual Apps and Desktops と StoreFront にサインインできるようになりました。

注:

この機能は、32 ビット Windows 10 および Windows Server 2016 ではサポートされていません。

システム要件

- Citrix Workspace アプリ 2309 以降
- Citrix Virtual Apps and Desktops 2308 以降

サポートされる **VDA OS** バージョン

- マルチセッションの場合:
 - Windows Server 2019
 - Windows Server 2022
- シングルセッションの場合:
 - Windows 10 バージョン 22H2
 - Windows 11 バージョン 22H2

前提条件

- クライアントまたはエンドポイントはドメインに接続されている必要があります。
- Active Directory との直接接続が必要です。

StoreFront と Desktop Delivery Controller の設定

次の設定を使用して、ドメインパススルー環境をセットアップします:

注:

環境内でドメインパススルーを既に構成している場合は、この手順をスキップできます。

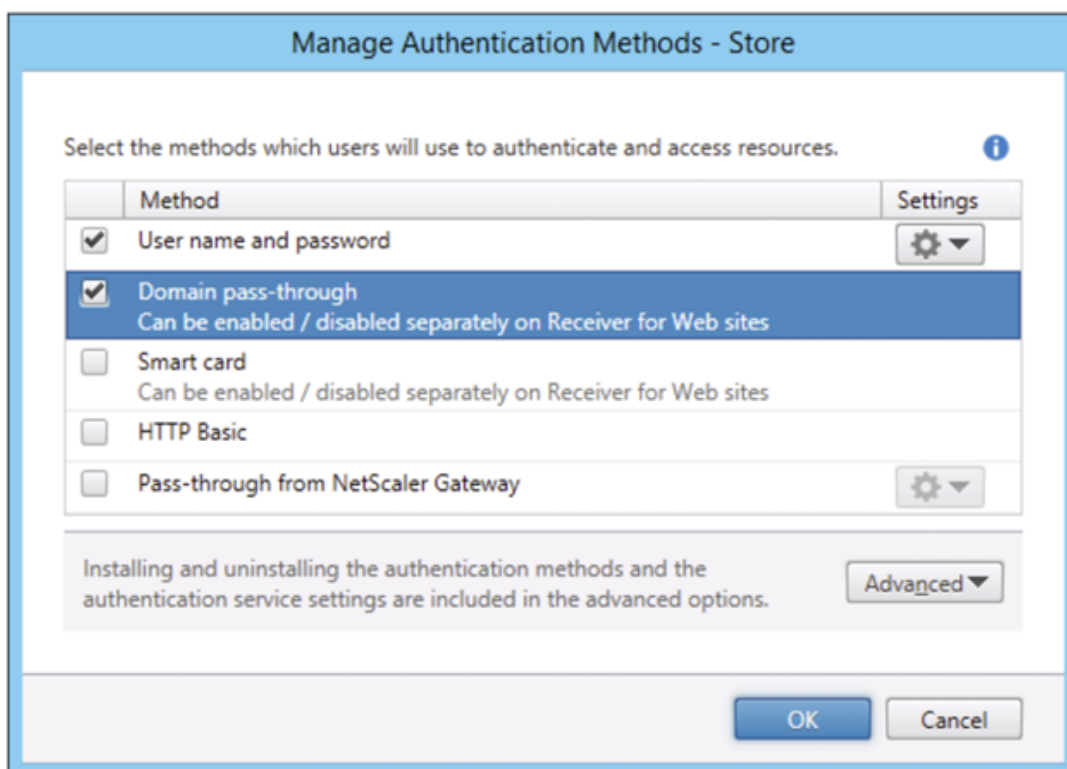
1. Citrix Workspace アプリが StoreFront で構成されている場合:

- a) **StoreFront Studio** を開きます。
- b) [ストア] > [認証方法の管理] に移動します。
- c) [ドメインパススルー] を有効にします。

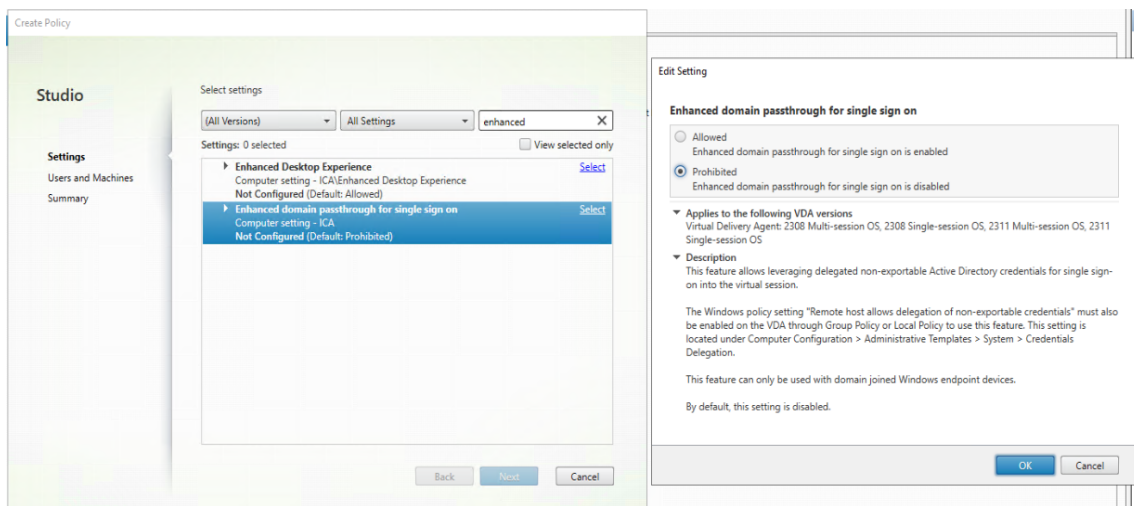
または、

1. ブラウザー経由で Citrix Workspace アプリを使用する場合:

- a) StoreFront を開きます。
- b) [ストア] > [**Receiver for Websites**] > [認証方法の管理] を開きます。
- c) [ドメインパススルー] を有効にします。



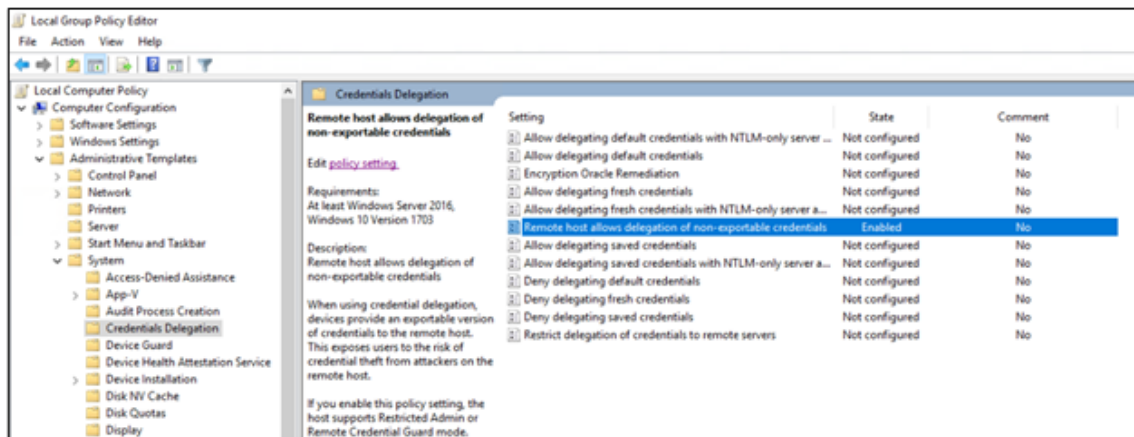
2. Desktop Delivery Controller でシングルサインオンの拡張ドメインパススルーポリシーを有効にします。



3. **[OK]** をクリックします。

VDA 設定

1. VDA で **[コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [資格情報の委任]** の順に移動します。
2. VDA で Windows ポリシー「リモートホストでエクスポート不可の資格情報を許可する」を有効にします。

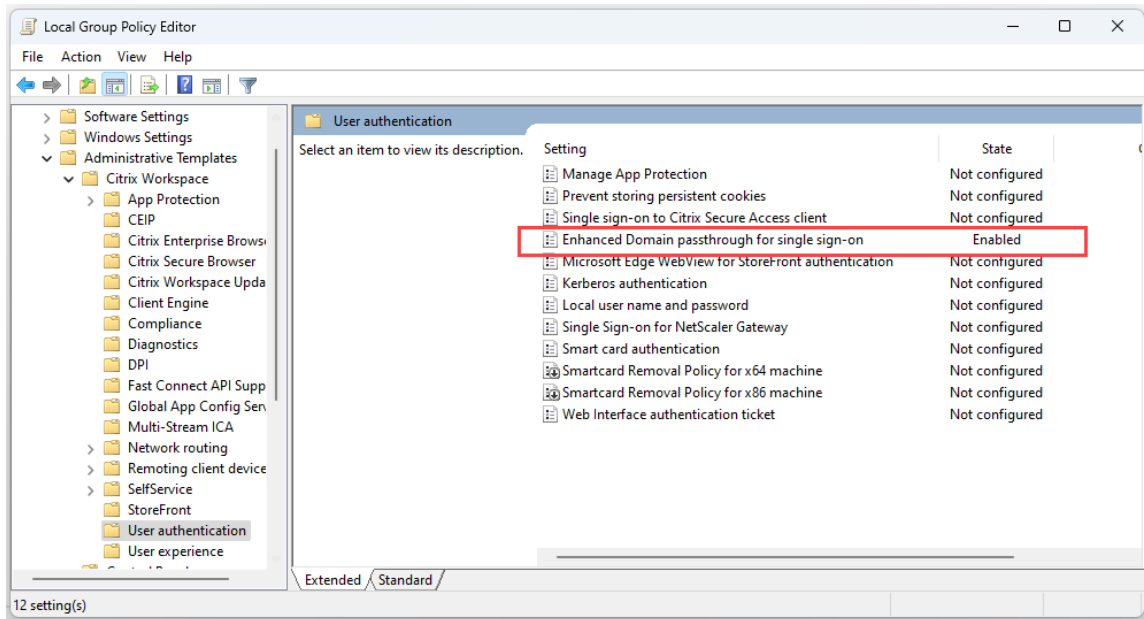


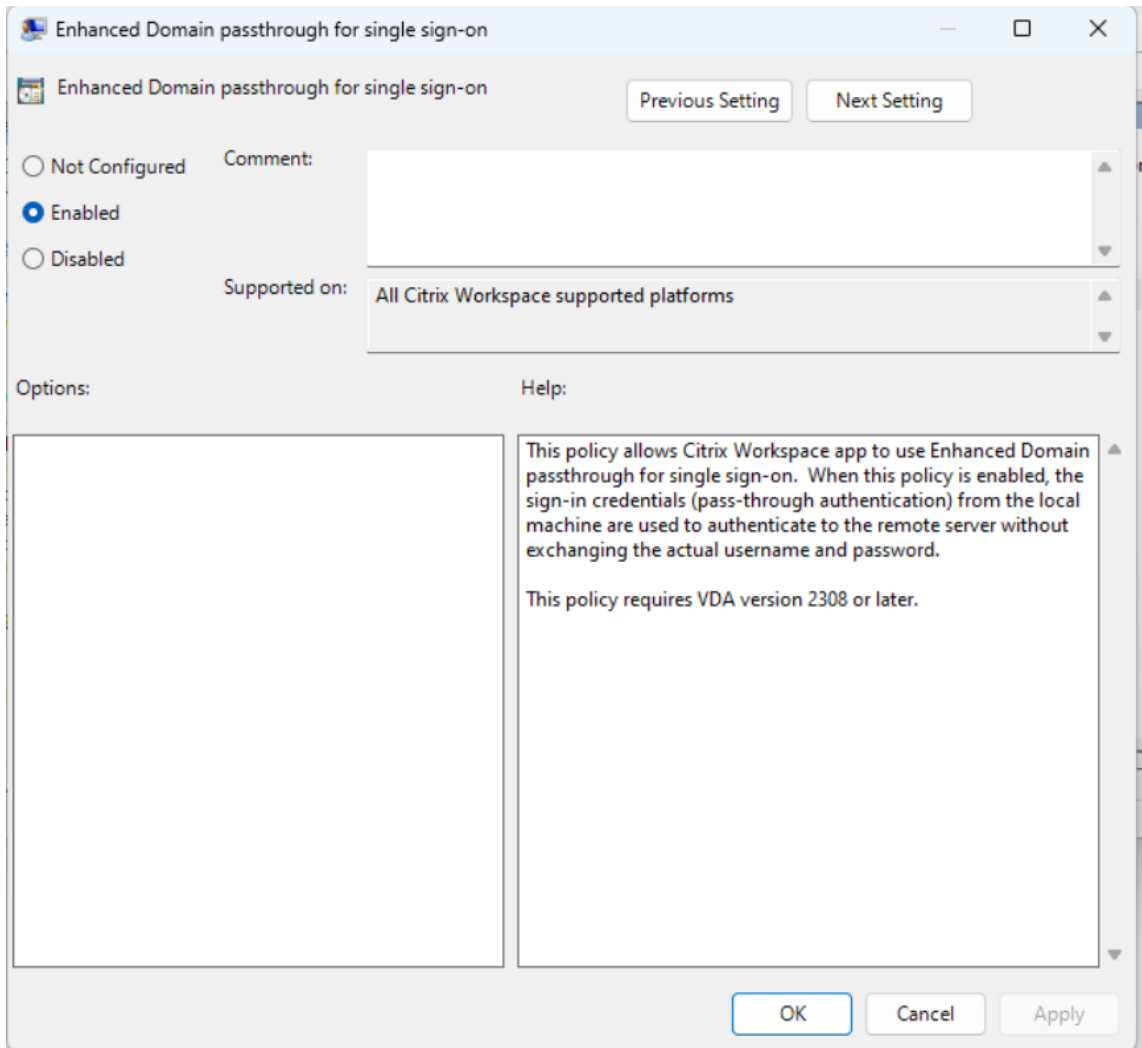
3. VDA マシンを再起動します。

クライアント設定

1. クライアントマシンがドメインに参加していることを確認します。
2. クライアントマシンが 64 ビットであることを確認します。
3. グループポリシーエディターを開きます。
4. **[コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証]** の順に移動します。

5. **Enhanced Domain passthrough for single sign-on** グループを構成します。





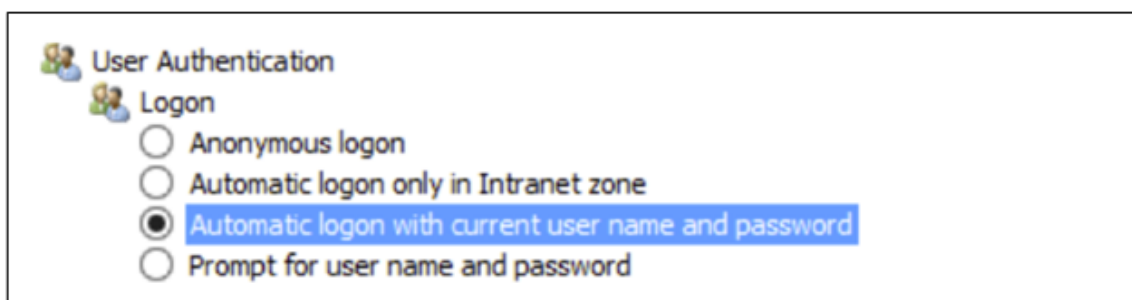
6. クライアントの [インターネットオプション] 設定を変更します。

注:

環境内でドメインパススルーを既に構成している場合は、この手順をスキップできます。

1. [インターネットオプション] を使用して信頼済みサイトの一覧に StoreFront サーバーを追加します。追加するには:
 - a) [コントロールパネル] > [ネットワークとインターネット] から [インターネットオプション] を開きます。
 - b) [セキュリティ] > [ローカルイントラネット] を選択し、[サイト] をクリックします。[ローカルイントラネット] ウィンドウが開きます。
 - c) [詳細設定] タブをクリックします。
 - d) 適切な HTTP または HTTPS プロトコルを使用して、StoreFront の FQDN の URL を追加します。
 - e) [閉じる]、[OK] をクリックします。
2. Internet Explorer で [ユーザー認証] の設定を変更します。変更するには:

- a) [コントロールパネル] > [ネットワークとインターネット] から [インターネットオプション] を開きます。
- b) [セキュリティ] タブ > [ローカルイントラネット] をクリックします。
- c) [レベルのカスタマイズ] をクリックします。[セキュリティ設定 - ローカルイントラネットゾーン] ウィンドウが開きます。
- d) [ユーザー認証] ウィンドウで、[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする] を選択します。



3. [OK] をクリックします。

HDX

April 22, 2024

ここでは、以下の内容について説明します：

- [グラフィックとディスプレイ](#)
- [最適化された Microsoft Teams](#)
- [HDX トランスポート](#)
- [ブラウザコンテンツリダイレクト](#)
- [コンテンツの双方向リダイレクト](#)
- [ICA 設定リファレンス](#)

グラフィックとディスプレイ

June 14, 2024

マルチモニターサポート

Windows 向け Citrix Workspace アプリで最大 8 台のモニターを使用できます。

マルチモニター環境では、各モニターの製造元により解像度が異なる場合があります。また、セッション中にモニターの解像度や向きが変更されることもあります。

セッションを複数のモニター上に表示する場合、以下の2つのモードがあります。

- 全画面モード。セッションはマルチモニター全体に表示されます。ローカルでの場合と同様に、アプリケーションウィンドウが表示領域全体に最大化されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops および **Citrix DaaS**: Desktop Viewer ウィンドウをマルチモニターのいずれかの矩形表示領域内に表示するには、隣接するモニターにかかるようにウィンドウのサイズを変更して [最大化] をクリックします。

- ウィンドウモード。単一のモニターがセッション用に使用されます。アプリケーションウィンドウは個々のモニター上に最大表示されません。

Citrix Virtual Apps and Desktops および **Citrix DaaS**: 同じ割り当て (デスクトップグループ) に含まれるデスクトップを続けて起動すると、ウィンドウ設定が保持され、デスクトップが同じモニターに表示されます。矩形配置構成のマルチモニター環境では、複数の仮想デスクトップを1つのデバイス上で表示できます。デバイスのプライマリモニターを仮想アプリと仮想デスクトップのセッションで使用する場合は、セッションでもそのモニターがプライマリモニターになります。そうでない場合は、セッション内の最も小さい番号のモニターがプライマリモニターになります。

マルチモニターサポートを有効にするには、次の条件を満たしている必要があります:

- ユーザーデバイスの構成でマルチモニターがサポートされている。
- オペレーティングシステムが各モニターを検出できる。Windows プラットフォームでモニターを検出できるかどうかは、[設定] > [システム] に移動し、[ディスプレイ] をクリックして、各モニターが別々に表示されていることを確認します。
- モニターが検出された後は、次の作業を行います。
 - **Citrix Virtual Desktops**: **Citrix** マシンポリシーの [表示メモリの制限] 設定を使用して、グラフィックメモリの制限を構成します。
 - **Citrix Virtual Apps**: インストールした Citrix Virtual Apps サーバーのバージョンに応じて、以下の操作を行います:
 - * **Citrix** ポリシーの [表示メモリの制限] 設定を使用して、グラフィックメモリの制限を構成します。
 - * Citrix Virtual Apps サーバーの Citrix 管理コンソールから、ファームを選択し、タスクペインで次を選択します:
 - ・ [サーバープロパティの変更] > [すべてのプロパティの変更] > [サーバーのデフォルト設定] > [HDX Broadcast] > [表示設定]、または
 - ・ [サーバープロパティの変更] > [すべてのプロパティの変更] > [サーバーのデフォルト設定] > [ICA] > [表示設定]
 - * 各セッションのグラフィックに使用する最大メモリを設定します。

この値が、グラフィックメモリを提供するのに十分なサイズが確認します (単位はキロバイト)。このボックスの値が必要なサイズに満たないと、公開リソースが一部のモニター上でしか表示されません。

Citrix Virtual Desktops をデュアルモニターで使用する：

1. Desktop Viewer を選択し、下向き矢印をクリックします。
2. [ウィンドウ] を選択します。
3. Citrix Virtual Desktops の画面を 2 つのモニターの間にドラッグします。各モニターに画面の約半分が表示されていることを確認してください。
4. Citrix Virtual Desktops のツールバーで、[フルスクリーン] を選択します。
画面が両方のモニターに拡張されます。

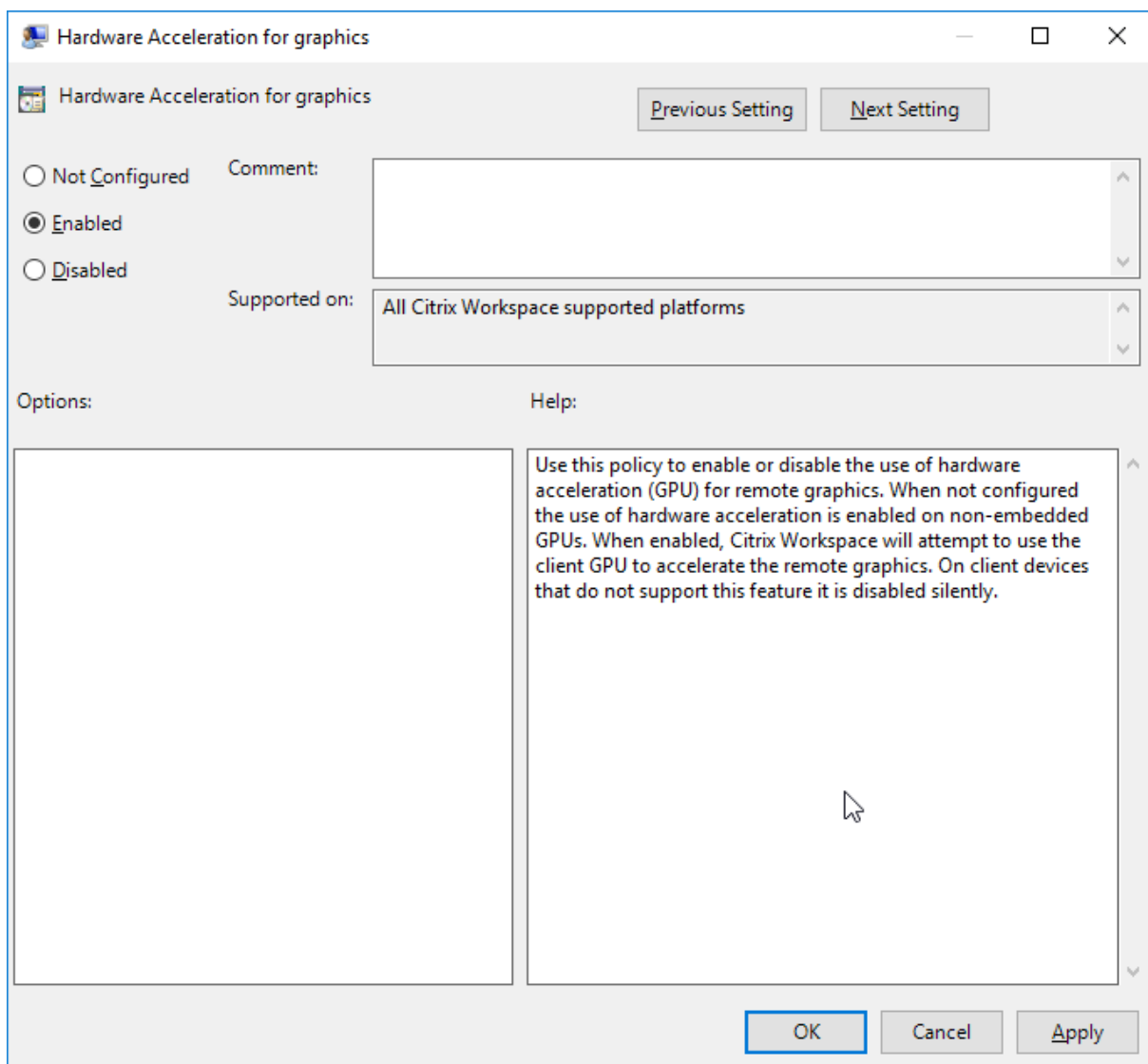
Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS のセッションのグラフィックメモリ要件の計算については、Knowledge Center の[CTX115637](#)を参照してください。

ハードウェアのデコード

Citrix Workspace アプリ (HDX Engine 14.4 を含む) を使用する場合、クライアントで利用できる場合にはいつでも H.264 デコードに GPU を使用できます。GPU デコードで使用される API レイヤーは DirectX Video Acceleration です。

Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用してハードウェアのデコードを有効にするには：

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート]、[**Citrix Workspace**]、[ユーザーエクスペリエンス] の順に移動します。
3. [グラフィックのハードウェアアクセラレーション] を選択します。
4. [有効] を選択して、[適用] および [**OK**] をクリックします。



ポリシーが設定され、ハードウェアアクセラレーションがアクティブな ICA セッションで使用されているかを確認するには、次のレジストリキーを確認します：

レジストリのパス：`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\CEIP\Data\GfxRender`

ヒント

Graphics_GfxRender_Decoder および **Graphics_GfxRender_Renderer** は 2 である必要があります。値が 1 の場合、CPU ベースのデコードが使用されています。

ハードウェアデコード機能が使用されている場合、次の制限事項を考慮してください。

- クライアントに GPU が 2 つあり、モニターの 1 つが 2 つ目の GPU でアクティブな場合、CPU デコードが使用されます。

- Windows Server 2008 R2 で動作している Citrix Virtual Apps サーバーに接続する場合、ユーザーの Windows デバイスではハードウェアデコードを使用しないでください。これが有効な場合、文字列を強調表示する場合のパフォーマンスの低下やちらつきの問題が発生します。

仮想ディスプレイレイアウト

この機能を使用すると、リモートデスクトップに適用される仮想モニターのレイアウトを定義できます。また、リモートデスクトップ上で、単一のクライアントモニターを仮想的に最大 8 台のモニターに分割することもできます。仮想モニターは、Desktop Viewer の [モニターレイアウト] タブで設定できます。ここでは、垂直または水平の線で画面を仮想モニターに分けることができます。画面は、クライアントのモニター解像度で指定されたパーセンテージに従って分割されます。

DPI スケーリングまたは DPI マッチングに使用される仮想モニター用 DPI を設定できます。仮想モニターレイアウトを適用した後、セッションのサイズを変更するか、再接続します。

この構成は、全画面、単一モニターのデスクトップセッションにのみ適用され、公開アプリケーションには影響しません。この構成は、以降のこのクライアントからのすべての接続に適用されます。

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2106 以降、仮想ディスプレイレイアウトは、全画面のマルチモニターデスクトップセッションでもサポートされています。仮想ディスプレイレイアウトはデフォルトで有効になっています。マルチモニターシナリオでは、仮想ディスプレイの総数が 8 台を超えない場合、同じ仮想ディスプレイレイアウトがすべてのセッションモニターに適用されます。この制限を超えた場合、仮想ディスプレイレイアウトは無視され、どのセッションモニターにも適用されません。

次のレジストリキーを設定すると、マルチモニターの機能強化を無効にできます：

- `HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\XenDesktop\DesktopViewer`

名前: **SplitAllMonitors**

種類: DWORD

値:

1 - 有効

0 - 無効

DPI スケール機能

Citrix Workspace アプリは DPI に対応しており、Windows クライアントのディスプレイ解像度と DPI スケール設定を仮想アプリおよび仮想デスクトップのセッションに一致させる機能をサポートしています。

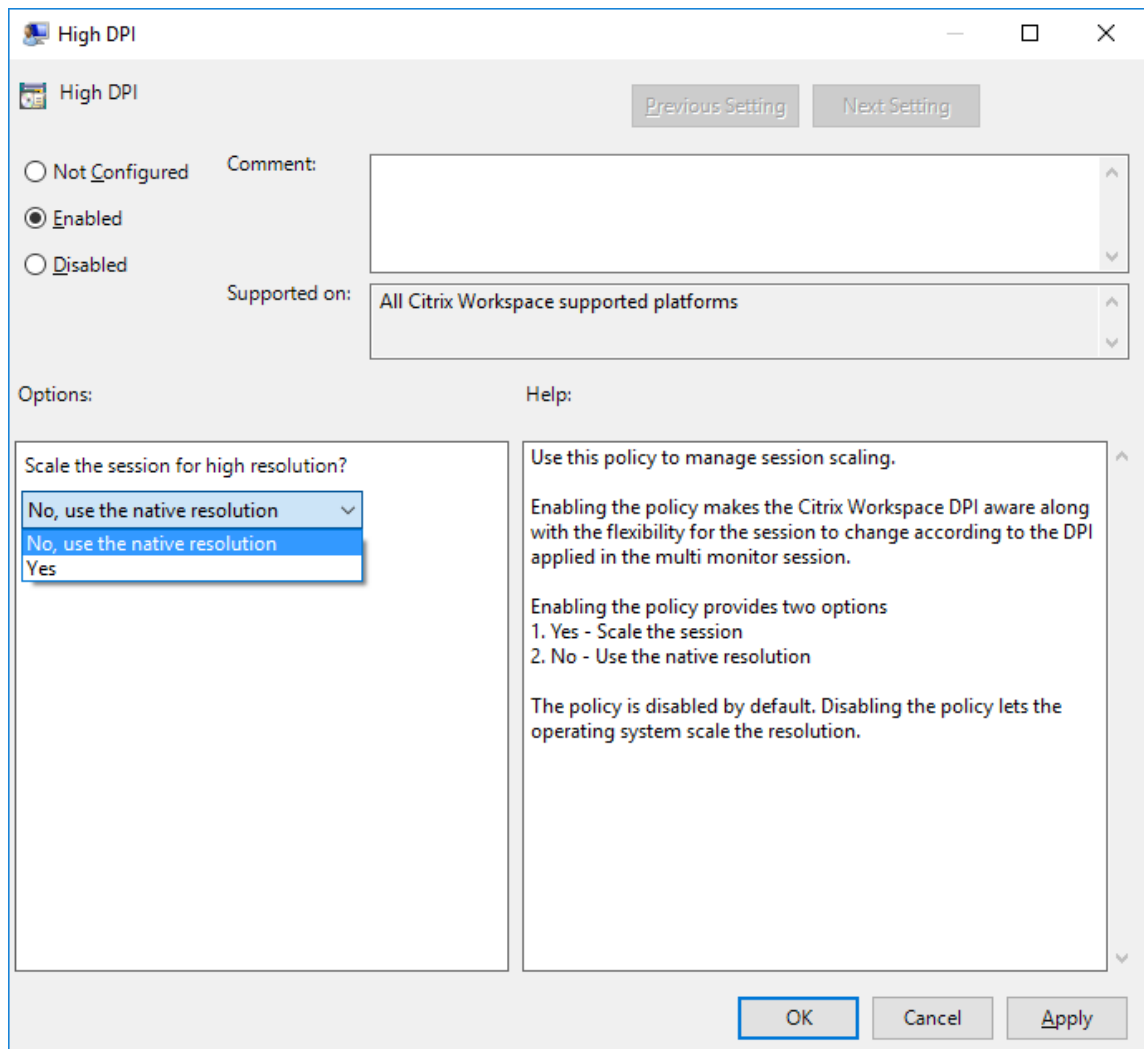
DPI スケーリングは、アプリケーション、テキスト、画像、およびその他のグラフィック要素をユーザーが快適に使用できるサイズで表示するために、主に大型および高解像度のモニターで使用されます。

この機能はデフォルトで有効になっており、すべてのユースケースで推奨される設定です。ただし、管理者は必要に応じて、グループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレート（マシンごとの構成）を使用して DPI スケーリングを構成できます。

GPO 管理用テンプレートを使用して DPI スケールを構成するには：

GPO 管理用テンプレートを使用して **DPI** スケールを構成するには：

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [DPI] の順に移動します。
3. 高 DPI ポリシーを選択します。



4. 次のいずれかのオプションを選択します：

a) はい - セッションに高 DPI が適用されます。

- b) いいえ、ネイティブ解像度を使用します - オペレーティングシステムによって設定されている解像度を使用します。
5. [適用]、[OK] の順にクリックします。
6. コマンドラインから `gpupdate /force` コマンドを実行して変更を適用します。

グラフィカルユーザーインターフェイスを使用した **DPI** スケールの構成:

1. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックします。
2. [高度な設定] を選択して [高 DPI] をクリックします。
3. 次のいずれかのオプションを選択します:
 - a) はい - セッションに高 DPI が適用されます。
 - b) いいえ、ネイティブ解像度を使用します - Citrix Workspace アプリは、VDA の DPI を検出して適用します。
 - c) オペレーティングシステムの解像度スケールを適用します - デフォルトではこのオプションが選択されています。これにより、Windows は DPI スケールを処理できます。また、高 DPI ポリシーは無効に設定されます。
4. [Save] をクリックします。
5. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

注:

補足的な注意事項:

- DPI マッチングには、Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 1912 LTSR 以降が必要です。
- ほとんどの場合、[いいえ、ネイティブ解像度を使用します] (DPI マッチング) 設定を使用することをお勧めします。
- デフォルト設定の [オペレーティングシステムの解像度スケールを適用します] では、Citrix Workspace アプリの DPI 対応は無効になります。このモードでは、Windows クライアントの DPI スケールが 100% 以外に設定されていると、グラフィックがぼやける可能性があります。このモードは、DPI スケールが異なる複数のモニターをサポートしていません。
- 「はい」の設定は、Citrix Workspace アプリがセッションウィンドウを拡大して、Windows クライアントで構成されている DPI スケールと一致させます。これは、クライアントで 100% を超える DPI スケールが必要な場合に、従来の XenApp および XenDesktop 環境への接続にのみ推奨されるレガシー機能です。このモードでは、グラフィックがぼやける可能性があります。

DPI スケーリングの問題のトラブルシューティングについて詳しくは、Knowledge Center の [CTX230017](#) を参照してください。

ビデオコーデックの自動選択

Windows 向け Citrix Workspace アプリが、使用できる最適なビデオコーデックを自動的に検出するようになりました。Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール中に、エンドポイントのデコード機能が評価されます。この情報に基づいて、Windows 向け Citrix Workspace アプリは、セッションの開始時に VDA で使用する最適なコーデックを選択します。ビデオコーデックが評価される順序は次のとおりです：

1. AV1
2. H.265
3. H.264

この機能は、圧縮にビデオコーデックを使用するポリシーが次のいずれかに設定されている場合に使用できます：

- 可能であれば使用
- 画面全体に使用
- 領域をアクティブに変更

圧縮にビデオコーデックを使用するポリシーについて詳しくは、「[圧縮にビデオコーデックを使用する](#)」を参照してください。

自動選択は、これらのコーデックの YUV 4:2:0 バリエーションにのみ適用されます。YUV 4:2:0 は使用する帯域幅が少なくなり、品質が低下します。表示品質ポリシー設定が [操作時は低品質] または [常に無損失] に設定されており、視覚的無損失の圧縮を使用するポリシーが [有効] に設定されている場合、ビデオコーデックの自動選択は無効になり、代わりに YUV 4:4:4 H.264 または H.265 が使用されます。

これらのポリシーについて詳しくは、次を参照してください：

- [表示品質](#)
- [視覚的無損失の圧縮を使用する](#)

注：

YUV 4:2:0 はクロマサブサンプリングであり、全体的な帯域幅の消費を削減する色圧縮技術です。

リソースに接続するときに、Citrix Workspace アプリはエンドポイントの H.265 および AV1 をデコードする機能をテストし、その機能をレジストリに保存します。その後、Citrix Workspace アプリは使用する最適なビデオコーデックを自動的に選択し、このコーデックを VDA とネゴシエートします。VDA とクライアントの両方が H.265 と AV1 を使用できる場合、AV1 がビデオコーデックとして選択されます。AV1 が VDA またはクライアントのいずれでも利用できない場合は、H.265 が選択されます。どちらでも H.265 が利用できない場合、セッションはビデオコーデックとして H.264 を使用します。

この機能はデフォルトで有効になっています。

ビデオコーデックの自動選択を無効にするには、次のように **DisableDecoderCaps** を設定します：

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。

2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\Policies\Citrix\ICA Client\Graphics Engine`にアクセスします。

または、

`HKEY_CURRENT_USER\Software\Policies\Citrix\ICA Client\Graphics Engine`にアクセスします

3. **DisableDecoderCaps** という名前で DWORD キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。

HKEY_LOCAL_MACHINE または HKEY_CURRENT_USER で **DisableDecoderCaps** の値が 1 に設定されている場合、ビデオコーデックの自動選択は使用されません。

H.265 ビデオエンコーディング

Citrix Workspace アプリは、リモートグラフィックやビデオのハードウェアアクセラレーションで H.265 ビデオコーデックの使用をサポートしています。H.265 ビデオコーデックが、VDA および Citrix Workspace アプリの両方でサポートされ、かつ有効になっている必要があります。エンドポイントの GPU が DXVA インターフェイスを使用する H.265 デコードをサポートしていない場合、グラフィックポリシー設定の H.265 デコードは無視され、セッションは H.264 ビデオコーデックの使用に戻ります。

前提条件:

1. VDA 7.16 以降。
2. VDA で **3D** 画像ワークロードの最適化ポリシーが有効になっている。
3. VDA でビデオコーデックにハードウェアエンコーディングを使用しますポリシーが有効になっている。

H.265 デコードをサポートするクライアント GPU:

- NVIDIA Pascal 世代以降の GPU
- Intel 第 6 世代以降の GPU
- AMD GCN3 世代以降の GPU

注:

この機能には、次のような追加の VDA 要件があります:

- NVIDIA Maxwell 世代以降の GPU
- Intel 第 6 世代以降の GPU
- AMD Raven 世代以降の GPU

この機能は、ビデオコーデックの自動選択機能の導入により、自動的に有効になります。

この動作は、クライアント側のレジストリキー **EnableH265** を使用して H.265 デコードを明示的に制御することで変更できます。

レジストリエディターを使用して **H.265** ビデオエンコーディングを構成する:

32 ビットオペレーティングシステムのドメイン不参加のネットワークで H.265 ビデオエンコーディングを有効にする:

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICA Client\Graphics Engine` にアクセスします。
3. **EnableH265** という名前で DWORD キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。

64 ビットオペレーティングシステムのドメイン不参加のネットワークで H.265 ビデオエンコーディングを有効にする:

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Policies\Citrix\ICA Client\Graphics Engine` にアクセスします。
3. **EnableH265** という名前で DWORD キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。
4. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

EnableH265 が存在すると、自動検出が無効になります。**EnableH265** を 0 に設定すると、H.265 デコードが無効になります。したがって、VDA で H.265 ビデオコーデックが構成されている場合でも、セッションでは H.265 ビデオコーデックは使用されません。

EnableH265 を 1 に設定すると、Windows 向け Citrix Workspace アプリは H.265 デコードの使用を試行します。H.265 デコードが失敗した場合、クライアントとサーバーは H.264 エンコードにフォールバックします。

H.265 の使用は、グループポリシーオブジェクト (GPO) の管理用テンプレートを使用して Citrix Workspace アプリで H.265 ビデオエンコーディングを構成することで有効にすることもできます:

1. `gpedit.msc` を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューター構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [] > [ユーザーエクスペリエンス] の順に移動します。
3. グラフィックの H.265 デコードポリシーを選択します。
4. [有効] をクリックします。
5. [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
6. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

注:

- Citrix Workspace アプリのグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートで [グラフィックのハードウェアアクセラレーション] ポリシーが無効になっている場合、[グラフィックの H.265 デコード] ポリシー設定は無視されます。その後、この機能は適用されず、H.264 ビデオコーデックの使用にフォールバックします。

- グラフィック状態インジケータと Citrix HDX モニターを使用して、ビデオコーデックの使用状況を検証できます。

AV1

Citrix Workspace アプリは、リモートグラフィックやビデオのハードウェアアクセラレーションで AV1 ビデオコーデックの使用をサポートしています。AV1 ビデオコーデックが VDA と Citrix Workspace アプリの両方でサポートされ、有効になっている必要があります。

AV1 の前提条件は次のとおりです：

- VDA 2308 以降。
- Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2305 以降
- VDA で [ビデオコーデックにハードウェアエンコーディングを使用します] ポリシーが有効になっている（デフォルト）。
- Windows 向け Citrix Workspace アプリには、AV1 に関する次のクライアントハードウェア要件があります：
 - NVIDIA Ampere 以降
 - Intel 第 11 世代/Arc 以降
 - AMD Radeon RX 6000 / Radeon Pro W6000 シリーズ（RDNA2）以降

注：

AV1 には、次のような追加の VDA 要件があります：

- NVIDIA Lovelace 世代以降の GPU（L4/L40 など）
- Intel Arc 世代以降の GPU

この機能は、ビデオコーデックの自動選択機能の導入により、自動的に有効になります。

この動作は、クライアント側のレジストリキー **EnableAV1** を使用して AV1 デコードを明示的に制御することで変更できます。

レジストリエディターを使用して **AV1** ビデオエンコーディングを構成する：

32 ビットオペレーティングシステムのドメイン不参加のネットワークで AV1 ビデオエンコーディングを有効にする：

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICA Client\Graphics Engine` にアクセスします。
3. **EnableAV1** という名前で DWORD キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。
4. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

64 ビットオペレーティングシステムのドメイン不参加のネットワークで AV1 ビデオエンコーディングを有効にする:

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Policies\Citrix\ICA Client\Graphics Engine` にアクセスします。
3. **EnableAV1** という名前で DWORD キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。
4. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

EnableAV1 が存在すると、自動検出が無効になります。**EnableAV1** を 0 に設定すると、AV1 デコードが無効になるため、セッションでは AV1 ビデオコーデックが使用されません。

EnableAV1 を 1 に設定すると、Windows 向け Citrix Workspace アプリは AV1 デコードの使用を試行します。AV1 デコードが失敗した場合、クライアントとサーバーは H.264 エンコードにフォールバックします。

注:

Citrix Workspace アプリのグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートで [グラフィックのハードウェアアクセラレーション] ポリシーが無効になっている場合、グラフィックの AV1 デコードポリシー設定は無視されます。その後、この機能は適用されず、H.264 ビデオコーデックの使用にフォールバックします。

グラフィック状態インジケータと Citrix HDX モニターを使用して、ビデオコーデックの使用状況を検証できます。

最適化された Microsoft Teams

June 14, 2024

Microsoft Teams VDI プラグインのインストール

次のいずれかのオプションを使用して、Citrix Workspace アプリのインストール中に Microsoft Teams VDI プラグインをインストールできます。

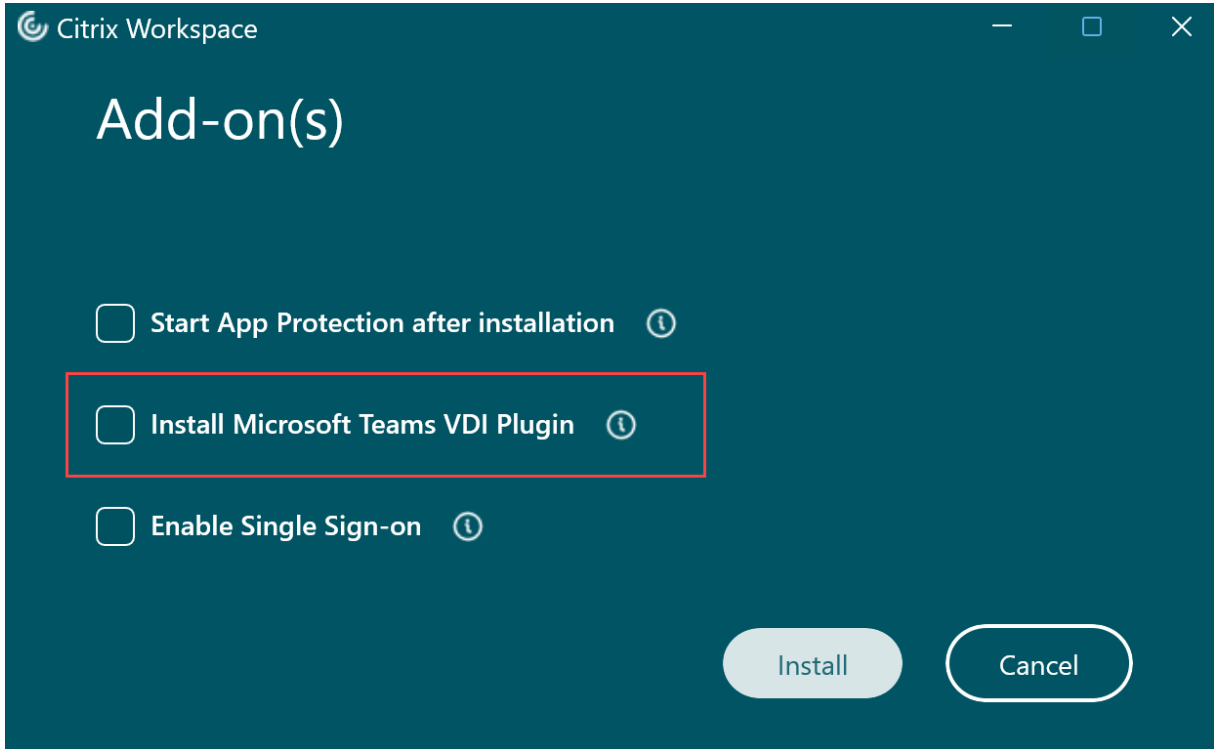
注:

VDI とのバージョン互換性と構成の詳細については、「[Microsoft Teams 2.1 Supported for VDI/Daas](#)」と新しい [Teams VDI の要件](#) のサポートを参照してください。

UI の使用

1. [アドオン] ページで、**[Install Microsoft Teams VDI plug-in]** チェックボックスをオンにし、[インストール] をクリックします。

2. ポップアップ表示されるユーザー契約に同意し、Citrix Workspace アプリのインストールを続行します。



コマンドラインの使用

コマンドラインスイッチ `/installMSTeamsPlugin` を使用します。

たとえば、次のようになります: `CitrixWorkspaceApp.exe /installMSTeamsPlugin`

最適化された **Microsoft Teams** で短いトーンを再生するサポートを追加

以前は、セカンダリ呼び出し機能が有効になっていると、ビープ音や通知などの短いトーンが繰り返し再生されました。たとえば、ゲストが Microsoft Teams 会議に参加するときのトーンが繰り返し再生されました。これを回避する唯一の方法は、Microsoft Teams を終了して再起動することでした。この問題により、エンドユーザーエクスペリエンスが低下していました。

Citrix Workspace アプリは必要に応じた短いトーンの再生をサポートします。このサポートでは、セカンダリ呼び出し機能も有効にすることができます。

前提条件:

Microsoft Teams を最新バージョンに更新してください。

最適化された **Microsoft Teams** ビデオ会議通話のエクスペリエンスの向上

最適化された Microsoft Teams ビデオ会議通話に対して、デフォルトでサイマルキャストサポートが有効になっています。このサポートにより、すべての発信者に最適な通話エクスペリエンスを提供できる適切な解像度に適応するため、さまざまなエンドポイントでのビデオ会議通話の品質とエクスペリエンスが向上します。

この向上したエクスペリエンスにより、各ユーザーは、エンドポイントの機能、ネットワークの状態などのいくつかの要因に応じて、複数のビデオストリームを異なる解像度（720p、360p など）で配信できます。受信側のエンドポイントは、最高品質の解像度を要求します。これにより、すべてのユーザーに最適なビデオ体験を提供できます。

HDX を使用した **Microsoft Teams** 最適化の背景のぼかしおよび効果

Windows 向け Citrix Workspace アプリで、HDX を使用した Microsoft Teams の最適化における背景のぼかしと効果が導入されるようになりました。

これで、背景をぼかしたり、カスタムイメージに置き換えたりして、会話の最中シルエット（体と顔）に集中できるようにすることで、突然集中力が乱されることを回避できます。この機能は、P2P または電話会議のいずれかで使用できます。

背景のぼかしと効果については、次のオプションを選択できます：

- 背景効果なし
- 背景のぼかしを選択
- 背景画像を選択

注：

この機能は、Microsoft Teams の UI/ボタンと統合されました。マルチウィンドウのサポートは、VDA を 2112 以降に更新するときに必要な前提条件です。詳しくは、「マルチウィンドウ会議とチャット」を参照してください。

制限事項：

- ユーザーが定義したバックグラウンドの置換はサポートされていません。
- バックグラウンド効果はセッション間で持続しません。Microsoft Teams を閉じて再起動するか、VDA を再接続すると、バックグラウンド効果がオフにリセットされます。
- ICA セッションが再接続された後、効果はオフになります。ただし、Microsoft Teams UI は、前の効果がまだオンになっていることをチェックマークで示しています。Citrix と Microsoft は、この問題を解決するために協力しています。
- 背景画像を置き換えるときは、デバイスをインターネットに接続する必要があります。

注：

この機能は、今後の更新が Microsoft Teams からロールアウトされた後のみ使用できます。Microsoft によって更新プログラムがロールアウトされたら、[CTX253754](#)および[Microsoft 365 の公開ロードマップ](#)を参

照してください。

アコースティックエコーキャンセレーション

`HdxRtcEngine.exe`でエコーキャンセルを無効にして、オーディオパフォーマンスの問題や、AEC 機能が組み込まれている周辺機器との互換性のトラブルシューティングを行うことができます。

レジストリパス `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\HDXMediaStream` に移動し、次のキーを作成します：

名前: EnableAEC

種類: REG_DWORD

データ: 0

(0 で AEC を無効に、1 で AEC を有効にします。Regkeyが存在しない場合、HdxRtcEngine のデフォルトの動作は、周辺機器のハードウェア機能に関係なく、AEC を有効にすることです。)

Microsoft Teams 最適化の機能強化

- 最適化された Microsoft Teams に使用される WebRTC のバージョンは、バージョン M98 にアップグレードされます。
- 最適化された **Microsoft Teams** 用のオーディオデバイス選択動作の更新 - エンドポイントのサウンド設定でデフォルトのオーディオデバイスを変更すると、Citrix VDI の最適化された Microsoft Teams は、エンドポイントのデフォルトに一致するように現在のオーディオデバイスの選択を変更します。

1 However, **if** you make an explicit device selection in Microsoft Teams, your selection takes precedence and does not follow the endpoint defaults. Your selection is persistent until you clear the Microsoft Teams cache.

製品終了 (EOL) に達したリリースの一部の機能については、[古いドキュメント](#)を参照してください。

HDX トランスポート

June 14, 2024

HDX アダプティブスループット

HDX アダプティブスループットは、出力バッファを調整することで、ICA セッションのピークスループットをインテリジェントに微調整します。出力バッファの数は、最初は大きい値に設定されます。値を大きくすることで、特に高遅延のネットワークで、データをより迅速かつ効率的にクライアントに送信できます。

高い双方向性、高速なファイル転送、スムーズなビデオ再生、および高いフレームレートと解像度により、優れたユーザーエクスペリエンスを実現します。

セッションの双方向性を常に測定して、ICA セッション内のデータストリームが双方向性に悪影響を及ぼしているかどうかを判別します。悪影響を及ぼしている場合、スループットを低下させて、大規模データストリームがセッションに与える影響を減らし、双方向性を回復できるようにします。

この機能は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1811 以降でのみサポートされています。

重要:

HDX アダプティブスループットでは、メカニズムをクライアントから VDA に移行することにより、出力バッファを変更しています。そのため、Knowledge Center の記事 [CTX125027](#) に記載されているとおり、クライアント上の出力バッファ数を調整しても効果はありません。

アダプティブトランスポート

アダプティブトランスポートは、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS のメカニズムであり、ICA 接続のトランスポートプロトコルとして Enlightened Data Transport (EDT) の使用を可能にします。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[アダプティブトランスポート](#)」を参照してください。

オーディオの損失耐性モード

Citrix Workspace アプリは オーディオリダイレクトの損失耐性モードを使用します。この機能により、ユーザーが遅延やパケット損失が大きいネットワーク経由で接続している場合に、リアルタイムストリーミングのユーザーエクスペリエンスが向上します。

VDA バージョン 2311 以降を使用する必要があります。デフォルトでは、この機能は Windows 向け Citrix Workspace アプリで有効になっています。ただし、VDA では無効になっています。

オーディオの損失耐性モードを有効にするには、次のレジストリ値を構成し、マシンを再起動します。

マルチセッション **VDA** の場合:

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\Audio
- 値の名前: EdtUnreliableAllowed
- 値の種類: DWORD
- 値のデータ: 1

ワークステーション **VDA** の場合:

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\Audio
- 値の名前: EdtUnreliableAllowed
- 値の種類: DWORD
- 値のデータ: 1

ブラウザコンテンツリダイレクト

June 14, 2024

ブラウザコンテンツリダイレクトのために、VDA 側の許可リストに登録された Web ページのレンダリングができません。この機能は、Citrix Workspace アプリを使用してクライアント側の対応するレンダリングエンジンをインスタンス化し、URL から HTTP および HTTPS コンテンツを取得します。

ブラウザコンテンツリダイレクトは、Google Chrome ブラウザーでも使用できます。ブラウザのコンテンツをクライアントデバイスにリダイレクトし、Citrix Workspace アプリに埋め込まれた対応する Web ブラウザーを作成します。この機能は、ネットワーク使用量、ページ処理、エンドポイントで表示されているグラフィックをオフロードします。そうすることで、要求の多い Web ページ、特に HTML5 または WebRTC ビデオを組み込んだ Web ページを閲覧する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- Cookie はセッション間で永続的です。Web ブラウザーを終了して再起動しても、資格情報の再入力を求められません。
- ブラウザーはローカルシステムで設定された言語を優先するようになりました。

詳しくは、「[ブラウザコンテンツリダイレクト](#)」を参照してください。

重要:

- ブラウザーコンテンツリダイレクトは、コマンドラインを使用して 2402 LTSR で有効にすることができます
- これは、Windows 向け Citrix Workspace アプリのすべての最新リリースでデフォルトで有効になっています。
- ブラウザーコンテンツリダイレクトは、Citrix Workspace アプリ LTSR 1912 および 2203.1 バージョンではサポートされていません。

VDA でブラウザコンテンツリダイレクトを有効にするには、Citrix Web Studio で次のポリシーが有効になっていることを確認してください:

- [ブラウザコンテンツリダイレクト](#)
- [ブラウザコンテンツリダイレクトの ACL 構成](#)
- [Web ブラウザーコンテンツリダイレクト認証サイト](#)

ブラウザコンテンツリダイレクトオーバーレイのブラウザの一時データストレージパスを構成する

Chromium Embedded Framework (CEF) ベースのブラウザの一時データストレージパスを構成できます。VDA またはクライアント上のパスは次のように構成できます:

VDA の場合:

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。

2. レジストリパス `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\DXMediaStream\ClientConfigurations\WindowsCef` に移動します。

3. 文字列エントリ「**BCRProfilePath**」を作成し、その値を CEF ベースの BCRtmp ファイルのフォルダーに設定します。例:

```
"BCRProfilePath"="C:\\tmp\\AlternateBcrProfilePath"
```

4. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

クライアントの場合:

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。

2. レジストリパス `HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\HdxMediaStream` に移動します。

3. 次の属性でレジストリ値を作成します:

- レジストリキー名: `BCRProfilePath`
- レジストリ値: 文字列 <folder for CEF based BCRtmp files>

4. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

注:

Chromium Embedded Framework (CEF) のバージョンは 117 にアップグレードされました。このバージョンのアップグレードは、セキュリティの脆弱性の解決に役立ちます。

制限事項:

ブラウザコンテンツリダイレクトには次の制限があります:

- ポップアップウィンドウやセッション Cookie のパーシステンスを必要とする Web アプリケーションはサポートされません。
- Microsoft Internet Explorer はサポートされていません。
- Google 認証サービスに依存するアプリケーション (Google Meet など) は現在ブロックされています。
- 現在、拡張機能プラグインは Microsoft Edge では正式に公開されていません。ただし、回避策はあります。
- ブラウザーコンテンツリダイレクトが使用されている場合は、HTML5 ビデオリダイレクトポリシーを無効にする必要があります。
- ネットワークの状態が不安定であったり、待ち時間が非常に変わりやすかったりする場合、また、無線デバイスの伝送距離に制限がある場合に、セッションが切断されてしまうことがあります。ブラウザコンテンツリダイレクトには、このようなシナリオに対する十分なフォールバックメカニズムやレポートメカニズムがありません。
- オーバーレイ経由でダウンロードされたファイルは、ローカル (エンドユーザーのクライアントマシン上) に保存されます。

BCR のパフォーマンスの向上

以前は、BCR はクライアント側のディスクスペースキャッシュを使用しており、キャッシュされた情報はアップグレード中に削除されませんでした。この設定により、時間の経過とともにディスクスペースの使用量が増加し、BCR を使用してページがリダイレクトされる際の動作に一貫性がなくなります。

この問題を解決するために、BCR はインメモリキャッシュを使用します。この機能強化は、BCR のパフォーマンスの向上に役立ちます。

この機能はデフォルトでは無効になっています。次のようにして、VDA またはクライアントでこの機能を有効にできます：

VDA の場合：

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。
2. レジストリパス `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\HDXMediaStream\ClientConfigurations\WindowsCef` に移動します。
3. `BCRStoreCEFCacheInMemory` という名前で `DWORD` キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。

`BCRStoreCEFCacheInMemory` の値が 0 に設定されている場合、BCR はクライアントのディスクスペースを使用します。

クライアントの場合：

1. [ファイル名を指定して実行] コマンドで `regedit` を使用してレジストリエディターを起動します。
2. レジストリパス `HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\HDXMediaStream` に移動します。
3. `BCRStoreCEFCacheInMemory` という名前で `DWORD` キーを作成し、キーの値を 1 に設定します。

`BCRStoreCEFCacheInMemory` の値が 0 に設定されている場合、BCR はクライアントのディスクスペースを使用します。

注：

- `BCRStoreCEFCacheInMemory` がクライアントと VDA の両方に設定されている場合、クライアントの設定が優先されます。
- `BCRProfilePath` と `BCRStoreCEFCacheInMemory` の両方が設定されている場合は、`BCRProfilePath` の構成が優先され、`BCRStoreCEFCacheInMemory` の構成は無視されません。

制限事項：

インメモリキャッシュのサイズ制限は 10MB に設定されています。

コンテンツの双方向リダイレクト

June 14, 2024

双方向のコンテンツリダイレクトポリシーによって、クライアントからホスト（およびホストからクライアント）への URL リダイレクトを有効にするか無効にできます。サーバーポリシーは Citrix Studio で設定し、クライアントポリシーは、Citrix Workspace アプリのグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートで設定します。

Citrix は、ホストからクライアントへのリダイレクトと、クライアントから URL へのリダイレクトのためのローカルアプリアクセスを提供します。ただし、ドメイン参加済みの Windows クライアントについては、コンテンツの双方向リダイレクトを使用することをお勧めします。

次のいずれかの方法を使用して、コンテンツの双方向リダイレクトを有効にできます：

1. グループポリシーオブジェクト（GPO）管理用テンプレート
2. レジストリエディター

注：

- ローカルアプリアクセスが有効であるセッションでは、コンテンツの双方向リダイレクトは機能しません。
- コンテンツの双方向リダイレクトは、サーバーとクライアントの両方で有効である必要があります。サーバーとクライアントのいずれかで無効になると、機能が無効になります。
- URL が複数ある場合、URL を 1 つずつ指定することもできますが、セミコロンで区切った URL の一覧で指定しても構いません。ワイルドカード文字としてアスタリスク（*）を使用できます。

GPO 管理用テンプレートを使用してコンテンツの双方向リダイレクトを有効化するには：

Windows 向け Citrix Workspace アプリを初めてインストールした場合のみ、グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート構成を使用します。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [ユーザー構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [従来の管理用テンプレート (ADM)] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザーエクスペリエンス] の順に移動します。
3. [コンテンツの双方向リダイレクト] ポリシーを選択します。

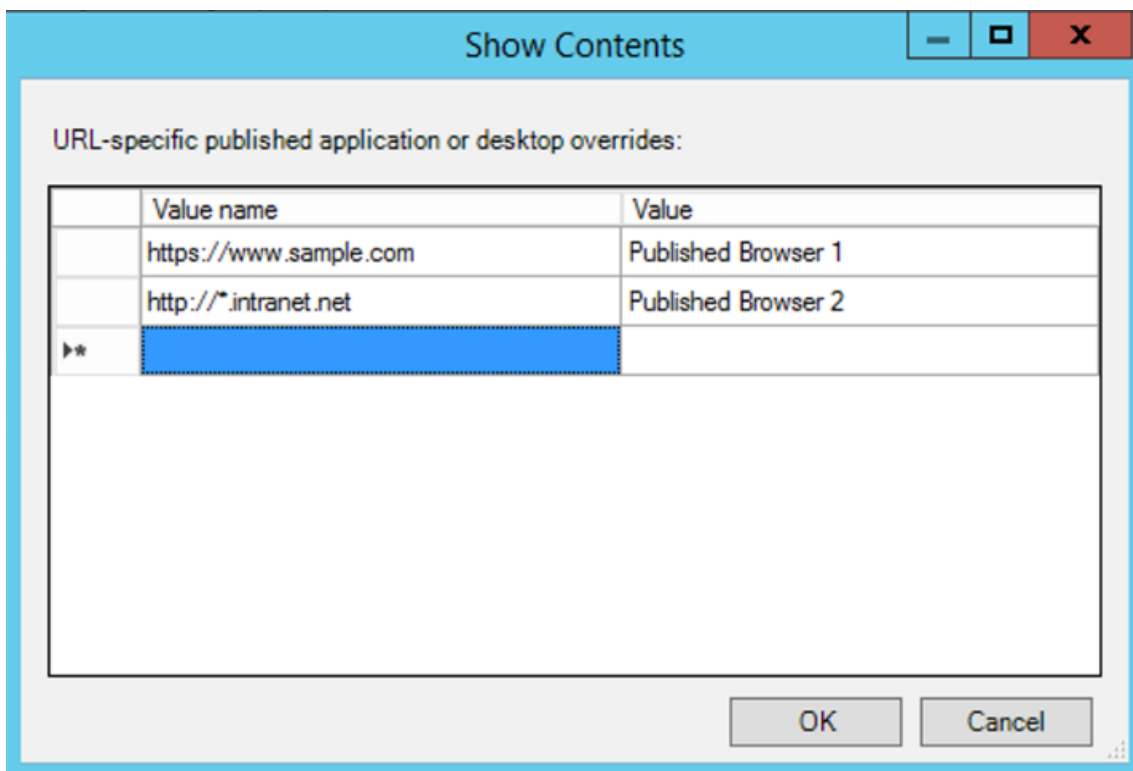
1. [公開アプリケーション名またはデスクトップ名] フィールドに、リダイレクトされた URL の起動に使用するリソースの名前を入力します。

注:

URL が複数ある場合、URL を 1 つずつ指定するか、セミコロンで区切った URL の一覧で指定します。ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。

2. [上記の名前の種類] で、必要に応じてリソースの [アプリケーション] または [デスクトップ] を選択します。
3. [VDA へのリダイレクトを許可する URL] フィールドに、リダイレクトする必要がある URL を入力します。一覧はセミコロンで区切ります。

4. [URL 固有の公開アプリケーションまたはデスクトップの上書きを有効にしますか?] オプションを選択して URL を上書きします。
5. [表示] をクリックして、[VDA へのリダイレクトを許可する URL] フィールドのいずれかと一致する必要がある値の名前の一覧を表示します。値は公開アプリケーション名と一致する必要があります。



6. [クライアントへのリダイレクトを許可する URL:] フィールドに、サーバーからクライアントにリダイレクトする必要がある URL を入力します。一覧はセミコロンで区切ります。

注:

URL が複数ある場合、URL を 1 つずつ指定するか、セミコロンで区切った URL の一覧で指定します。ワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を使用できます。

7. [適用]、[OK] の順にクリックします。
8. コマンドラインから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

レジストリを使用してコンテンツの双方向リダイレクトを有効化するには:

コンテンツの双方向リダイレクトを有効化するには、Citrix Workspace アプリクライアントで Citrix Workspace アプリインストールフォルダー (`C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client`) から、`redirector.exe /RegIE` コマンドを実行します。

重要:

- リダイレクト規則がループした構成になっていないことを確認してください。VDA 規則が、たとえば 1

- つの URL、https://www.my__company.com がクライアントにリダイレクトされるように構成され、同じ URL が VDA にリダイレクトされるように構成されている場合、ループ構成になります。
- 明示的な URL リダイレクトのみがサポートされます。つまり、Web ブラウザーのアドレスバーに表示される URL や、ブラウザー内ナビゲーションによる URL だけが正しくリダイレクトされます。
 - 同じ表示名を持つ 2 つのアプリケーションが複数の StoreFront アカウントを使用する場合、プライマリ StoreFront アカウントの表示名を使用して、アプリケーションまたはデスクトップのセッションが起動されます。
 - 新しいブラウザーウィンドウが開くのは、URL がクライアントにリダイレクトされた場合だけです。URL が VDA にリダイレクトされたときにブラウザーが既に開いていた場合、リダイレクトされた URL は新しいタブで開かれます。
 - ドキュメント、メール、PDF などの、ファイルに埋め込まれたリンクがサポートされます。
 - 同じマシンで、サーバーファイルタイプの関連付けのうちいずれか 1 つのみが存在すること、ホストコンテンツのリダイレクトポリシーが [有効] に設定されていることを確認します。URL リダイレクトが正しく機能するように、Citrix ではサーバーファイルタイプの関連付け機能またはホストコンテンツ (URL) リダイレクト機能のいずれかを無効にすることをお勧めします。
 - Internet Explorer で、[設定] > [インターネットオプション] > [詳細設定] をクリックして、[ブラウズ] セクションの [サードパーティ製のブラウザー拡張を有効にする] チェックボックスをオンにします。

制限事項:

セッションの起動に関する問題のため、リダイレクトが失敗してもフォールバックメカニズムは存在しません。

Chromium ベースのブラウザーでの双方向 **URL** サポート

コンテンツの双方向リダイレクトを使用すると、サーバーとクライアントのポリシーを使用して、クライアントからサーバーへ、およびサーバーからクライアントへリダイレクトするように URL を構成できます。

サーバーポリシーは Delivery Controller と Citrix Workspace アプリのクライアントポリシーで設定されます。ポリシーは、グループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレートを使用して設定されます。

バージョン 2106 以降、Google Chrome と Microsoft Edge に URL の双方向リダイレクトのサポートが追加されています。

前提条件:

- Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 2106 以降。
- ブラウザーリダイレクトの拡張バージョン 5.0。

Google Chrome ブラウザーで URL の双方向リダイレクトを登録するには、Citrix Workspace アプリインストールフォルダーから、次のコマンドを実行します:

```
%ProgramFiles(x86)%\Citrix\ICA Client\redirector.exe /regChrome /verbose
```

注:

Chrome ブラウザーでこれらのコマンドを使用すると、[コンテンツの双方向リダイレクト拡張機能](#)が Chrome ウェブストアから自動的にインストールされます。

Google Chrome ブラウザーで URL の双方向リダイレクトの登録を解除するには、Citrix Workspace アプリインストールフォルダーから、次のコマンドを実行します:

```
%ProgramFiles(x86)%\Citrix\ICA Client\Redirector.exe /unregChrome /verbose
```

注:

ブラウザー拡張機能ページにアクセスしたときに次のエラーが発生した場合は、エラーメッセージを無視してください:

```
WebSocket connection to wss://... failed.
```

Citrix Workspace アプリでの URL リダイレクトの構成については、「[コンテンツの双方向リダイレクト](#)」を参照してください。

Web ブラウザーコンテンツのリダイレクトについて詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[ブラウザーコンテンツリダイレクト](#)」を参照してください。

非アクティブな **Desktop Viewer** ウィンドウの減光を無効にするには:

Desktop Viewer の複数のウィンドウを使用する場合、デフォルトではアクティブでないウィンドウが減光されます。複数のデスクトップを同時に表示する必要がある場合は、非アクティブなデスクトップの情報は読みづらくなる可能性があります。レジストリエディターを編集してデフォルトの設定を無効にし、**Desktop Viewer** ウィンドウの減光を防ぐことができます。

注意

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- ユーザーデバイスで、デバイスの現在のユーザーまたはデバイス自体で減光を防止するかどうかによって、**DisableDimming** という REG_DWORD エントリを次のいずれかのキーで作成します。デバイスで Desktop Viewer を使用したことがある場合は、エントリが既に存在します:

- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\XenDesktop\DesktopViewer
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\XenDesktop\DesktopViewer

または、減光を制御する代わりに、同じ REG_WORD エントリを次のキーのどちらかに作成することによって、ローカルポリシーを定義できます。

- HKEY_CURRENT_USER\Software\Policies\Citrix\XenDesktop\DesktopViewer
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix\XenDesktop\DesktopViewer

これらのキーを使用する前に、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS の管理者がこの機能のポリシーを設定しているかどうか確認してください。

エントリーを 1 または true のような 0 以外の値に設定します。

エントリーが未指定、または 0 に設定されている場合は、**Desktop Viewer** ウィンドウが減光します。複数のエントリーが指定されている場合、次の方法が使用されます。この一覧の最初とそのエントリーの値によって、ウィンドウが減光するかどうかが決まります：

1. HKEY_CURRENT_USER\Software\Policies\Citrix\...
2. HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix\...
3. HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\...
4. HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\...

ICA 設定リファレンス

June 14, 2024

ICA 設定リファレンスファイルは、レジストリ設定および ICA ファイル設定のリストを提供し、管理者は環境に対して Citrix Workspace アプリの動作を高度にカスタマイズできます。また、ICA 設定リファレンスを使用して、予期しない Citrix Workspace アプリの動作をトラブルシューティングできます。

[ICA 設定リファレンス \(PDF のダウンロード\)](#)

デバイス

April 22, 2024

ここでは、以下の内容について説明します：

- [マウス](#)
- [キーボード](#)
- [印刷](#)
- [USB](#)
- [クライアントドライブマッピング](#)
- [マイク](#)

マウス

June 14, 2024

相対マウス

相対マウス機能は、ウィンドウまたは画面内の最後のフレームからマウスが移動した距離を判断します。

相対マウスは、マウス移動の距離にピクセルデルタを使用します。たとえば、マウスコントロールを使用してカメラの方向を変更する場合、この機能が役立ちます。またアプリでは、3D オブジェクトやシーンの操作時に画面座標に対するマウスカーソルの位置は関係ないため、カーソルが隠されることがよくあります。

相対マウスのサポートでは、マウスの絶対位置ではなく相対位置を読み取るオプションを提供します。この読み取り機能は、マウスの絶対位置ではなく相対位置の入力を必要とするアプリケーションに必要です。

この機能は、ユーザーごととセッションごとの両方で構成できます。これにより、機能の可用性をより細かく制御できます。

注

この機能を適用できるのは、公開デスクトップセッションのみです。

レジストリエディターまたは `default.ica` ファイルを使用してこの機能を構成すると、セッションが終了した後も設定は保持されます。

レジストリエディターを使用した相対マウスの構成

この機能を構成するには、次のレジストリキーが適用されるよう設定し、セッションを再起動して変更を有効にします：

この機能をセッション単位で使用できるようにする場合：

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICA Client\Engine\Lockdown Profiles\All Regions\Lockdown\Virtual Channels\RelativeMouse
```

この機能をユーザー単位で使用できるようにする場合：

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\Policies\Citrix\ICA Client\Engine\Lockdown Profiles\All Regions\Lockdown\Virtual Channels\RelativeMouse
```

- 名前: Mouse
- 種類: REG_SZ
- 値: True

注:

- レジストリエディターで設定した値は、ICA ファイルの設定よりも優先されます。
- HKEY_LOCAL_MACHINE と HKEY_CURRENT_USER は同じ値を設定する必要があります。値が異なると、競合が発生する可能性があります。

デフォルトの **.ica** ファイルを使用した相対マウスの構成

1. default.ica ファイルを開きます。このファイルは通常 `C:\inetpub\wwwroot\Citrix\\conf\default.ica` にあります。ここで、sitename はストアの作成時にサイトに指定された名前です。StoreFront ユーザーの場合、default.ica ファイルは通常 `C:\inetpub\wwwroot\Citrix\\App_Data\default.ica` にあります。ここで、storename はストアの作成時にストアに設定された名前です。
2. WFClient セクションに「RelativeMouse」という名前のキーを追加します。その値を JSON オブジェクトと同じ構成に設定します。
3. 必要に応じて値を設定します。
 - true –相対マウスを有効にする
 - false –相対マウスを無効にする
4. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

注:

レジストリエディターで設定した値は、ICA ファイルの設定よりも優先されます。

Desktop Viewer から相対マウスを有効にする

1. Citrix Workspace アプリにログインします。
2. 公開デスクトップセッションを開始します。
3. Desktop Viewer のツールバーで [基本設定] をクリックします。
[Citrix Workspace - 基本設定] ウィンドウが開きます。
4. [接続] をクリックします。
5. [相対マウスの設定] で [相対マウスを使用する] をオンにします。
6. [適用]、[OK] の順にクリックします。

注:

Desktop Viewer から相対マウスを構成すると、セッション単位のみで適用されます。

キーボード

June 14, 2024

キーボードショートカット

Citrix Workspace アプリで特定の機能を実行するキーの組み合わせを構成できます。キーボードショートカットのポリシーが有効な場合、Citrix ショートカットキーのマッピング、Windows ショートカットキーの動作、およびセッションでのキーボードの種類を指定できます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザーエクスペリエンス] の順に移動します。
3. キーボードショートカットポリシーを選択します。
4. [有効] と必要なオプションを選択します。
5. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

Citrix Workspace アプリの 32 ビットカラーアイコンのサポート:

Citrix Workspace アプリでは、32 ビット High Color アイコンがサポートされます。シームレスアプリケーションを提供するために、次の色深度を自動的に選択します:

- [コネクションセンター] ダイアログボックスに表示されるアプリケーション
- スタートメニュー
- タスクバー

注意

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix は一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

優先する深さを設定するには、`TWIDesiredIconColor` という文字列レジストリキーを `HKEY\LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\ICA Client\Engine\Lockdown Profiles\All Regions\Preferences` に追加して、必要な値に設定します。定義できるアイコンの色数は、4、8、16、24、および 32 ビット/ピクセルです。ネットワーク接続が低速な場合は、ユーザーはより少ない色数を選択できます。

コマンドラインを使用したアプリケーションショートカットの場所のカスタマイズ

[スタート] メニュー統合およびデスクトップショートカットのみの機能により、公開アプリケーションのショートカットを **Windows** の [スタート] メニューやデスクトップ上に配置できます。ユーザーが Citrix Workspace のユーザーインターフェイスからアプリケーションをサブスクライブする必要はありません。[スタート] メニュー統合とデスクトップショートカット管理により、ユーザーのグループにシームレスなデスクトップエクスペリエンスが提供されます。頻繁に使用するアプリケーションに一貫した方法でアクセスする必要があるユーザーも同様です。

このフラグは **SelfServiceMode** と呼ばれ、デフォルトで **True** に設定されています。管理者が **SelfServiceMode** フラグを **False** に設定すると、セルフサービスのユーザーインターフェイスにアクセスできなくなります。代わりに、[スタート] メニューから、または「ショートカットのみのモード」と呼ばれるデスクトップショートカットを使用して、サブスクライブしたアプリにアクセスできます。

ユーザーおよび管理者は、複数のレジストリ設定を使用してアプリケーションのショートカットをカスタマイズできます。

ショートカットの操作

- ユーザーはアプリを削除できません。**SelfServiceMode** フラグを **false** に設定（ショートカットのみのモード）すると、すべてのアプリが必須アプリになります。デスクトップからショートカットアイコンを削除しても、システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンで [更新] を選択すると、アイコンが再表示されます。
- ユーザーはストアを 1 つだけ構成できます。[アカウント] と [環境設定] のオプションは、ユーザーが複数のストアを構成するのを防ぐために使用できないようになっています。管理者は、グループポリシーオブジェクトテンプレートを使用して複数のアカウントを追加できる特別な特権を、ユーザーに付与できます。管理者はまた、クライアントマシンでレジストリキー（HideEditStoresDialog）を手動で追加することで特別な権限を付与することもできます。管理者がユーザーにこの権限を付与すると、ユーザーのシステムトレイの Receiver アイコンに [基本設定] オプションが表示され、アカウントを追加および削除できるようになります。
- ユーザーは **Windows** のコントロールパネルを介してアプリを削除することはできません。
- カスタマイズ可能なレジストリ設定を介してデスクトップショートカットを追加できます。デスクトップショートカットはデフォルトでは追加されていません。レジストリ設定を編集後、Citrix Workspace アプリを再起動する必要があります。
- ショートカットは、[スタート] メニューにデフォルトのカテゴリパス UseCategoryAsStartMenuPath で作成されます。

注:

Windows 10 では、[スタート] メニュー内には階層分けされたフォルダーを作成できません。アプリケーションは、Citrix Virtual Apps で定義されたカテゴリサブフォルダー内ではないルートフォルダーの下に表示できます。

- インストール時にフラグ [/DESKTOPDIR=" Dir_name"] を指定すると、すべてのショートカットを単一のフォルダー内に配置できます。デスクトップショートカットのため CategoryPath がサポートされます。
- 変更アプリの自動再インストール機能は、レジストリキー **AutoReInstallModifiedApps** を使って有効にできます。 **AutoReInstallModifiedApps** が有効な場合、サーバー上の公開アプリおよび公開デスクトップの属性に対する変更はすべて、クライアントマシンに表示されます。 **AutoReInstallModifiedApps** キーが無効になっている場合、アプリとデスクトップの属性は更新されません。また、ショートカットがクライアント上で削除された場合、ショートカットは更新時に復元されません。デフォルトで、 **AutoReInstallModifiedApps** は有効になっています。

レジストリエディターを使用したアプリケーションショートカットの場所のカスタマイズ

注:

- デフォルトでは、レジストリキーは文字列形式を使用します。
 - ストアを構成する前に、レジストリキーを変更します。管理者またはユーザーがレジストリキーをカスタマイズするときは、いかなる場合でも、次の手順に従います:
1. Citrix Workspace アプリをリセットします。
 2. レジストリキーを構成します。
 3. ストアを再構成します。

ワークスペースコントロール再接続の管理

ワークスペースコントロール機能を有効にすると、ユーザーがセッションの途中でデバイスを切り替えても、新しいデバイス上でそのアプリケーションでの作業を継続できます。これにより、たとえば病院で臨床医がほかのワークステーションに移動しても、移動先のデバイスでアプリケーションを起動し直す必要がなくなります。Citrix Workspace アプリの場合、クライアントデバイスのワークスペースコントロールの管理はレジストリを変更して行います。また、ワークスペースコントロールは、グループポリシーを使用するドメイン参加クライアントデバイスに対しても実行できます。

注意:

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix は一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

WSCReconnectModeUser を作成し、既存のレジストリキー **WSCReconnectMode** を Master Desktop Image または Citrix Virtual Apps サーバーで変更します。公開デスクトップでは Citrix Workspace アプリの動作を変更できます。

Citrix Workspace アプリの WSCReconnectMode キー設定は次のとおりです:

- 0 = いずれに既存のセッションにも再接続しない
- 1 = アプリケーションの起動時に再接続する
- 2 = アプリケーションの更新時に再接続する
- 3 = アプリケーションの起動または更新時に再接続する
- 4 = Citrix Workspace インターフェイスを開いたときに再接続する
- 8 = Windows サインオン時に再接続する
- 11 = 3 と 8 の組み合わせ

ワークスペースコントロールを無効にする ワークスペースコントロールを無効にするには、次のキーを作成します:

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\Dazzle (64 ビット)

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\Dazzle (32 ビット)

名前: **WSCReconnectModeUser**

種類: REG_SZ

値のデータ: 0

次のキーをデフォルト値の3から0に変更

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\Dazzle (64 ビット)

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\Dazzle (32 ビット)

名前: **WSCReconnectMode**

種類: REG_SZ

値のデータ: 0

注:

キーを作成しない代わりに、**WSCReconnectAll** キーを false に設定することもできます。

32 ビットマシンのレジストリキー

レジストリキー: **WSCSupported** 値: True

キーのパス:

- 1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
- 2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" + primaryStoreID + \Properties
- 3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix\Dazzle
- 4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle

レジストリキー: **WSCReconnectAll** 値: True

キーのパス:

```
1 - `HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle`
2 - `HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" +
   primaryStoreID + \Properties`
3 - `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix\Dazzle`
4 - `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle`
```

レジストリキー: **WSCReconnectMode** 値: 3

キーのパス:

```
1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" +
   primaryStoreID +\Properties
3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix\Dazzle
4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle
```

レジストリキー: **WSCReconnectModeUser** 値: インストール中はレジストリが作成されません。

キーのパス:

```
1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" + primaryStoreID
   +\Properties
3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix\Dazzle
4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle
```

64 ビットマシンのレジストリキー:

レジストリキー: **WSCSupported** 値: True

キーのパス:

```
1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" + primaryStoreID
   +\Properties
3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Policies\Citrix\Dazzle
4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Citrix\Dazzle
```

レジストリキー: **WSCReconnectAll** 値: True

キーのパス:

```
1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" +
   primaryStoreID + \Properties
```

- 3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Policies\Citrix\Dazzle
- 4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Citrix\Dazzle

レジストリキー: **WSCReconnectMode** 値: 3

キーのパス:

- 1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
- 2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" + primaryStoreID + \Properties
- 3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Policies\Citrix\Dazzle
- 4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Citrix\Dazzle

レジストリキー: **WSCReconnectModeUser** 値: インストール中はレジストリが作成されません。

キーのパス:

- 1 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
- 2 - HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver\SR\Store" + primaryStoreID + \Properties
- 3 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Policies\Citrix\Dazzle
- 4 - HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Citrix\Dazzle

キーボードレイアウトと言語バー

キーボードレイアウト

注:

システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンから表示できる [高度な設定] シートの一部または全部を非表示にすることができます。詳しくは、「[高度な設定シート](#)」を参照してください。

キーボードレイアウトの同期によって、クライアントデバイスの優先キーボードレイアウトを切り替えることができます。この機能はデフォルトでは無効になっています。キーボードレイアウトの同期により、クライアントのキーボードレイアウトが仮想アプリおよび仮想デスクトップのセッションに自動的に同期されます。

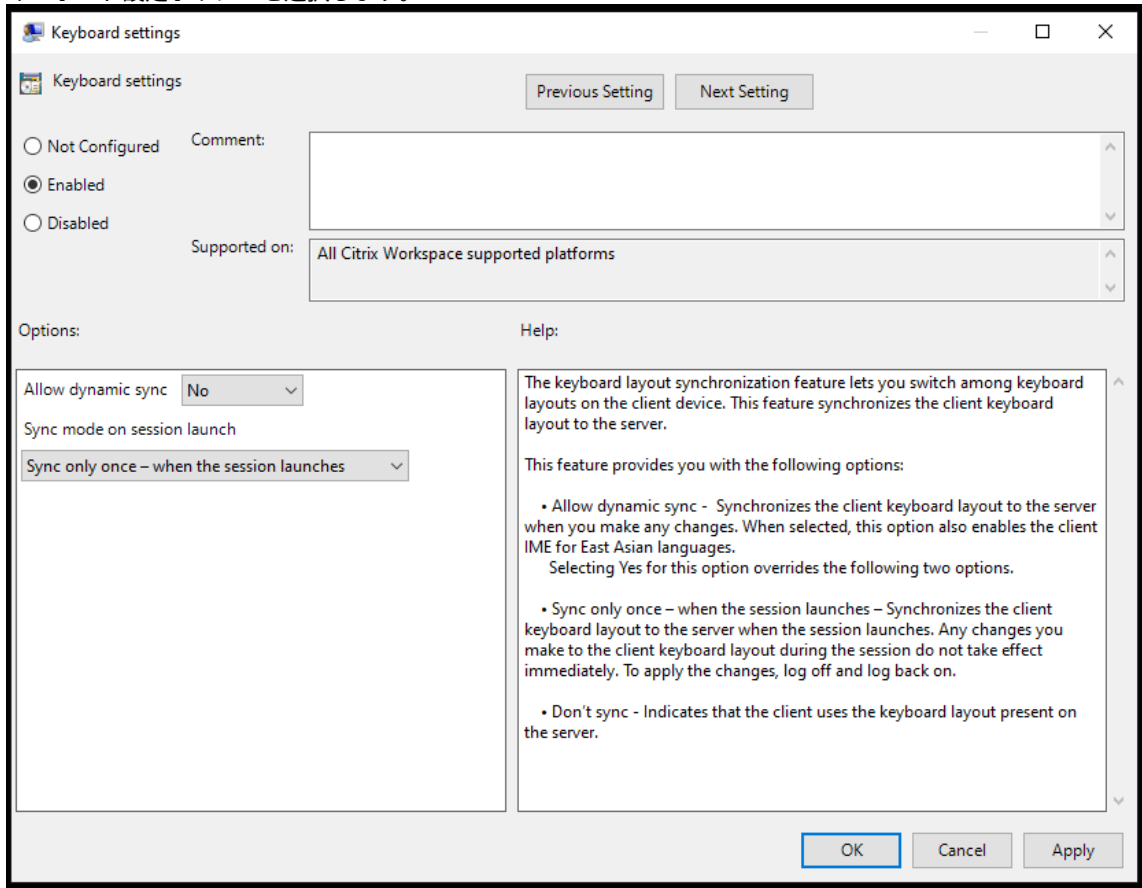
GPO 管理用テンプレートを使用してキーボードレイアウトの同期を構成:

注:

GPO 構成は、StoreFront および GUI の構成よりも優先されます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] または [ユーザー構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [管理用テンプレート (ADM)] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザーエクスペリエンス] の順に移動します。

3. キーボード設定ポリシーを選択します。



4. [有効] を選択し、次のいずれかのオプションを選択します：

- 動的な同期を許可する - ドロップダウンメニューから [はい] か [いいえ] を選択します。このオプションは、クライアントのキーボードレイアウトを変更したときに、クライアントのキーボードレイアウトをサーバーに同期します。このオプションを選択すると、日本語、中国語、韓国語のクライアント IME も有効になります。

このオプションで [はい] を選択すると、次の 2 つのオプションが上書きされます。

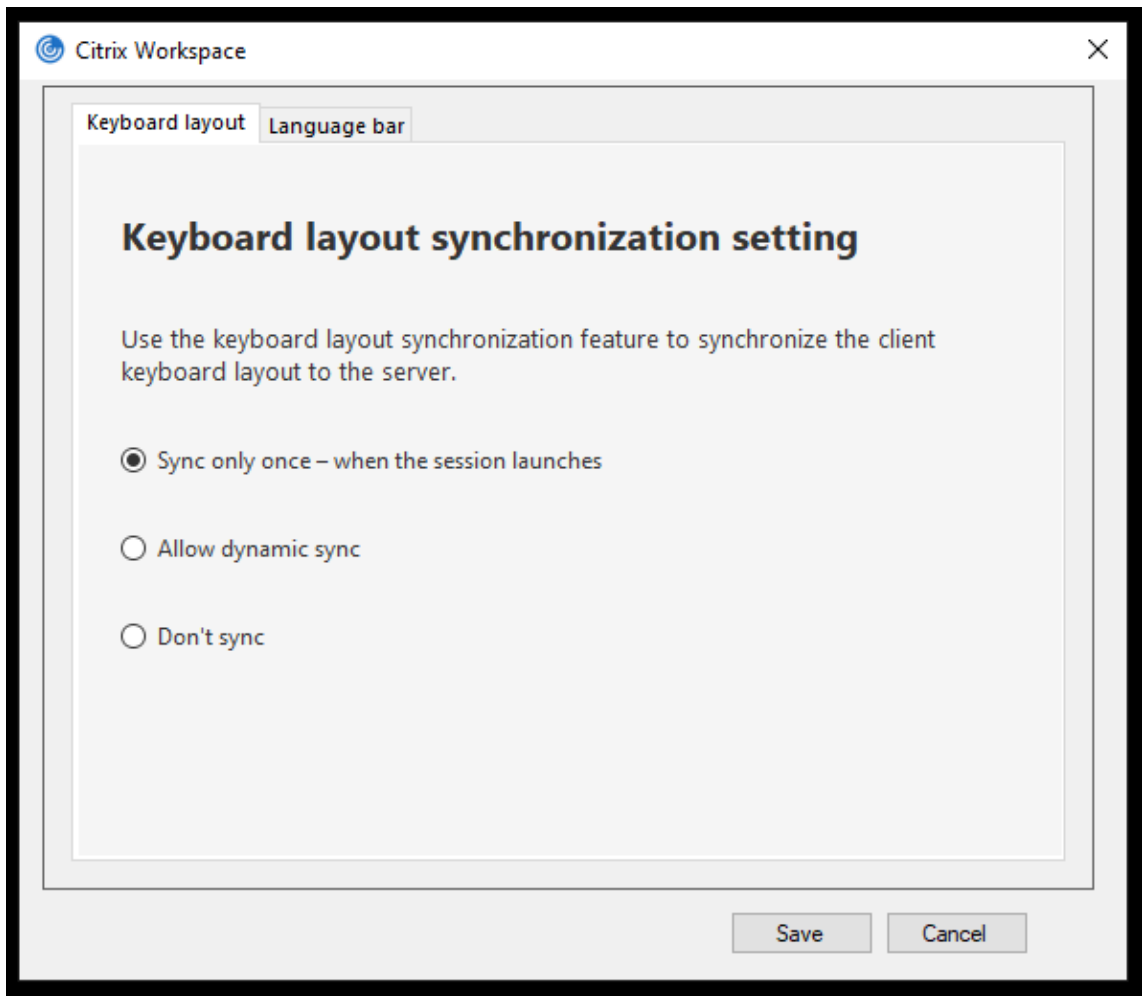
- セッション起動時の同期モード - ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオプションを選択します：
 - セッション起動時に **1** 回だけ同期する - セッション起動時にクライアントのキーボードレイアウトをサーバーに同期します。セッション中にクライアントのキーボードレイアウトに加えた変更は、すぐに有効になりません。変更を適用するには、ログオフしてから再度ログオンします。
 - 同期させない - クライアントがサーバーのキーボードレイアウトを使用することを示します。

5. [適用] と [OK] を選択します

グラフィカルユーザーインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成するには：

- システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンから [高度な設定] > [キーボードと言語バー] の順に選択します。

キーボードと言語バーのダイアログが開きます。



2. 次のいずれかのオプションを選択します：

- セッション起動時に **1** 回だけ同期する - セッション起動時に 1 度のみキーボードレイアウトを VDA から同期させます。
- 動的な同期を許可する - セッション内でクライアントキーボードが変更されると、キーボードレイアウトは VDA に動的に同期されます。
- 同期させない - クライアントがサーバーのキーボードレイアウトを使用することを示します。

3. **[Save]** をクリックします。

CLI を使用してキーボードレイアウトの同期を構成するには：

Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストールフォルダーから次のコマンドを実行します。

通常、Citrix Workspace アプリのインストールフォルダーは `C:\Program files (x86)\Citrix\ICA Client` にあります。

- 有効にするには: `wfica32:exe /localime:on`

- 無効にするには: `wfica32.exe /localime:off`

クライアントのキーボードレイアウトオプションで、クライアント IME (Input Method Editor) をアクティブにします。日本語、中国語、または韓国語を使用しているユーザーがサーバー IME を使用する場合、[いいえ] を選択するか、`wfica32.exe /localime:off` を実行してローカルキーボードレイアウトオプションを無効にする必要があります。次のセッションに接続すると、セッションは、リモートサーバーで指定されたキーボードレイアウトに戻します。

クライアントのキーボードレイアウトの切り替えがアクティブなセッションで有効にならないことがあります。この問題を解決するには、いったん Citrix Workspace アプリからログオフしてから、再度ログインしてください。

コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成 次のコマンドは、コマンドラインインターフェイスを使用してキーボードレイアウトの同期を構成するために導入されました:

コマンド	説明
<code>wfica32.exe /kbsyncmode:once</code>	キーボードの同期モードを「1 回だけ同期する」に設定します。
<code>wfica32.exe /kbsyncmode:dynamic</code>	キーボードの同期モードを「動的な同期」に設定します。
<code>wfica32.exe /kbsyncmode:no</code>	キーボードの同期モードを「同期しない」に設定します。

Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストールフォルダーから上記のコマンドを実行します。

通常、Citrix Workspace アプリのインストールフォルダーは「C:\Program files (x86)\Citrix\ICA Client」にあります。

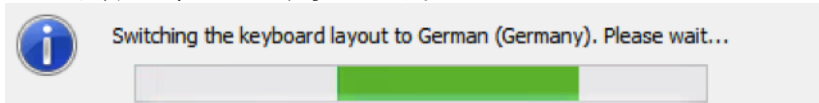
Windows VDA でのキーボード同期の構成

注:

次の手順は、Windows Server 2016 以降にのみ適用されます。Windows Server 2012 R2 以前では、キーボード同期機能はデフォルトで有効になっています。

1. レジストリエディターを起動して、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\IcaIme` に移動します。
2. DWORD エントリ `DisableKeyboardSync` を作成し、その値を `0` に設定します。
1 はキーボードレイアウトの同期機能を無効にします。
3. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

VDA と Citrix Workspace アプリの両方でキーボードレイアウトを有効にした後、キーボードレイアウトを切り替えると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウは、セッションのキーボードレイアウトがクライアントのキーボードレイアウトに切り替えられていることを示しています。

Linux VDA でのキーボード同期の構成

コマンドプロンプトを起動して、次のコマンドを実行します：

```
/opt/Citrix/VDA/bin/ctxreg update -k "HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\Citrix\LanguageBar"-v "SyncKeyboardLayout"-d "0x00000001"
```

変更を保存するには、VDA を再起動します。

Linux VDA でのキーボードレイアウトの同期について詳しくは、「[動的なキーボードレイアウトの同期](#)」を参照してください。

キーボードレイアウトの切り替え通知ダイアログを非表示にする：

キーボードレイアウトの変更通知ダイアログでは、VDA セッションがキーボードレイアウトを切り替えるときに通知します。キーボードレイアウトの切り替えには、約 2 秒かかります。通知ダイアログを非表示にする場合、間違った文字入力を避けるために、しばらく待ってから入力を開始してください。

警告：

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix は一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

レジストリエディターを使用してキーボードレイアウトの切り替え通知ダイアログを非表示にする：

1. レジストリエディターを起動して、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\IcaIme` に移動します。
2. **HideNotificationWindow** という名前で文字列値キーを作成します。
3. DWORD 値を **1** に設定します。
4. **[OK]** をクリックします。
5. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

制限事項：

- 管理者権限で実行しているリモートアプリケーション（例：アプリケーションアイコンを右クリックして、[管理者として実行]）は、クライアントのキーボードレイアウトと同期することはできません。この問題を解決するには、サーバー側（VDA）で手動でキーボードレイアウトを変更するか、UAC を無効にします。
- クライアントのキーボードレイアウトをサーバーでサポートされていないレイアウトに変更すると、キーボードレイアウトの同期機能は、セキュリティ上の理由で無効になります。認識されないキーボードレイアウトは、

潜在的なセキュリティの脅威として扱われます。キーボードレイアウト同期機能を復元するには、ログオフしてセッションに再ログインします。

- RDP セッションでは、**Alt + Shift**のショートカットキーでキーボードレイアウトを変更することはできません。この問題を回避するには、RDP セッションの言語バーを使用してキーボードレイアウトを切り替えます。

言語バー

言語バーには、セッションで優先される入力言語が表示されます。言語バーは、デフォルトでセッションに表示されます。

注:

この機能は、VDA 7.17 以降で動作するセッションで使用できます。

GPO 管理用テンプレートを使用した言語バーの構成:

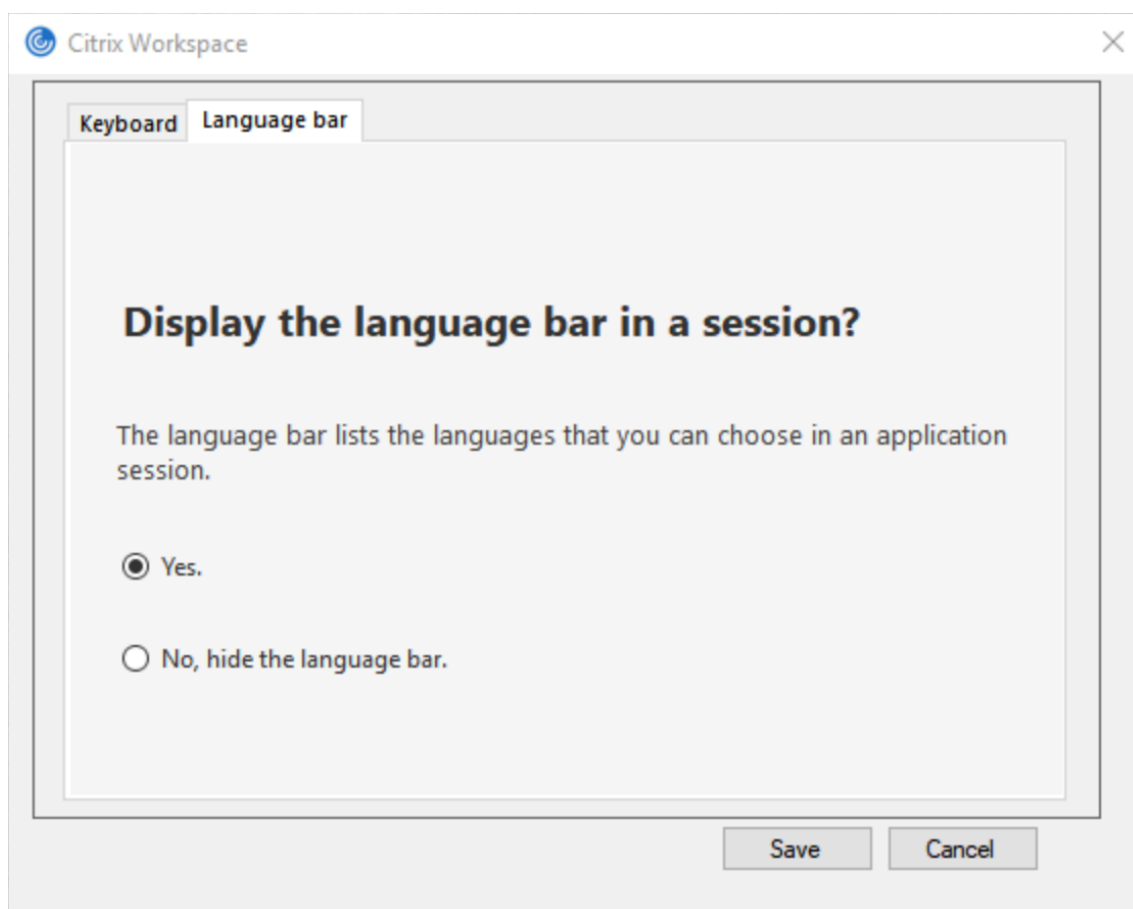
言語バーには、アプリケーションセッションでの優先される入力言語が表示されます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] または [ユーザー構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [管理用テンプレート (ADM)] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザーエクスペリエンス] の順に移動します。
3. 言語バーポリシーを選択します。
4. [有効] を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
 - はい-言語バーがアプリケーションセッションに表示されることを示します。
 - いいえ。言語バーを非表示にします - アプリケーションセッションで言語バーが非表示になります。
5. [適用]、[OK] の順にクリックします。

グラフィカルユーザーインターフェイスを使用した言語バーの構成:

1. 通知領域で Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックし、[高度な設定] をクリックします。
2. [キーボードと言語バー] を選択します。
3. [言語バー] タブを選択します。
4. 次のいずれかのオプションを選択します:
 - a) はい - 言語バーがセッションに表示されることを示します。
 - b) いいえ。言語バーを非表示にします - セッションで言語バーが非表示になります。
5. [Save] をクリックします。

設定の変更は直ちに有効になります。



注:

- アクティブなセッションの設定を変更できます。
- 入力言語が1つだけの場合、リモート言語バーはセッションに表示されません。

高度な設定シートで言語バータブを非表示にする:

レジストリを使用して、[高度な設定] シートから言語バータブを非表示にすることができます。

1. レジストリエディターを起動します。
2. `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\Engine\Configuration\Advanced\Modules\LocalIME` にアクセスします。
3. DWORD 値キー **ToggleOffLanguageBarFeature** を作成し、**1** に設定すると、[高度な設定] シートで言語バーオプションが非表示になります。

汎用クライアント入力システム (IME)

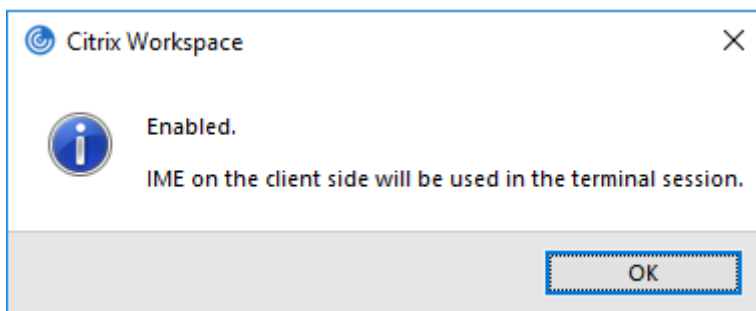
注:

Windows 10 バージョン 2004 オペレーティングシステムを使用している場合、セッションで IME 機能を使

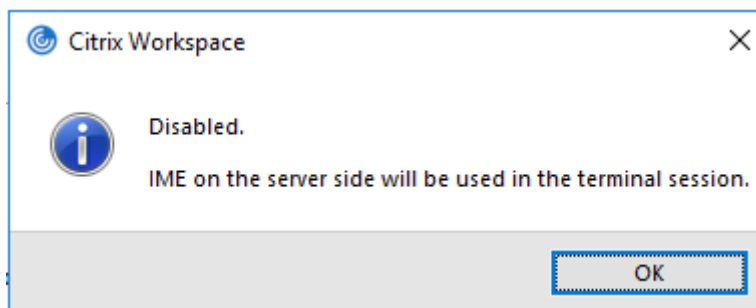
用すると、特定の技術的な問題が発生する可能性があります。これらの問題は、サードパーティの制限事項によるものです。詳しくは、[Microsoft 社のサポート記事](#)を参照してください。

コマンドラインインターフェイスを使用した汎用クライアント **IME** の構成:

- 汎用クライアント IME を有効にするには、Citrix Workspace アプリインストールフォルダー (C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client) から `wfica32.exe /localime:on` コマンドを実行します。



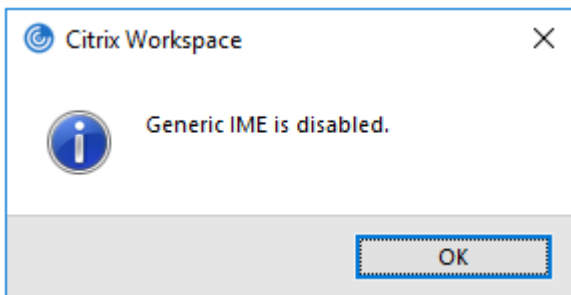
- 汎用クライアント IME を無効にするには、Citrix Workspace アプリインストールフォルダー (C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client) から `wfica32.exe /localime:off` コマンドを実行します。



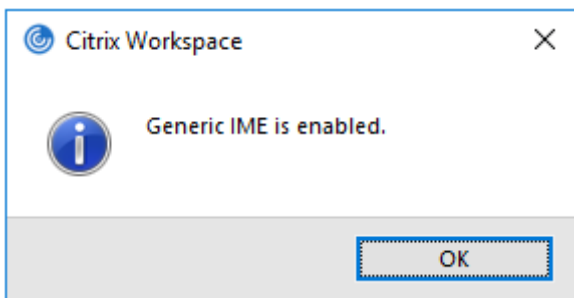
注:

コマンドラインスイッチ `wfica32.exe /localime:on` を使用して、汎用クライアント IME とキーボードレイアウトの同期の両方を有効にすることができます。

- 汎用クライアント IME を無効にするには、Citrix Workspace アプリインストールフォルダー (C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client) から `wfica32.exe /localgenericime:off` コマンドを実行します。このコマンドは、キーボードレイアウトの同期設定に影響を及ぼしません。



コマンドラインインターフェイスを使用して汎用クライアント IME を無効にした場合、`wfica32.exe / localgenericime:off` コマンドを実行することによって、再び機能を有効化できます。



トグル:

Citrix Workspace アプリは、この機能に対するトグルスイッチ機能をサポートしています。`wfica32.exe / localgenericime:off` コマンドを実行して、機能を有効/無効にできます。ただし、キーボードレイアウトの同期設定は、トグルスイッチより優先されます。キーボードレイアウトの同期がオフに設定されている場合、切り替えても汎用クライアント IME は有効になりません。

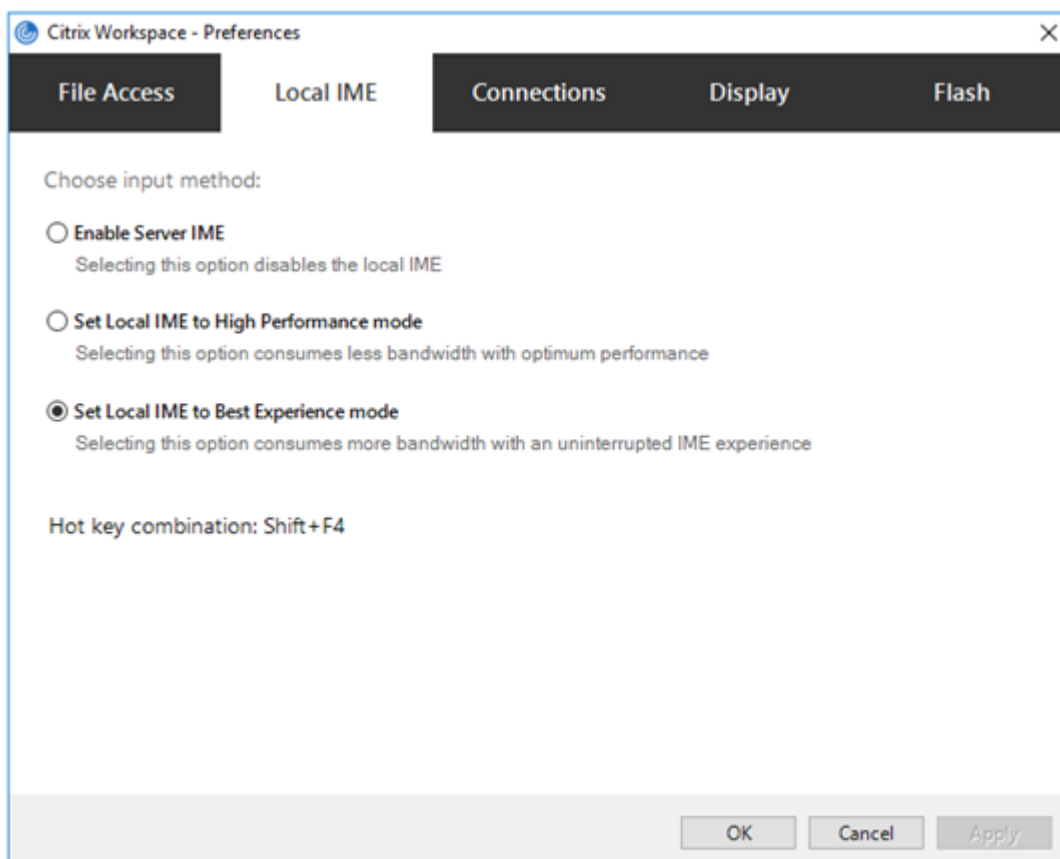
グラフィカルユーザーインターフェイスを使用した汎用クライアント **IME** の構成:

汎用クライアント IME には VDA Version 7.13 以降が必要です。

キーボードレイアウトの同期を有効化することにより、汎用クライアント IME 機能を有効化できます。詳しくは、「[キーボードレイアウトの同期](#)」を参照してください。

Citrix Workspace アプリを使用すると、汎用クライアント IME を使用するためのさまざまなオプションを構成できます。要件および使用状況に基づいて、これらのオプションのいずれかから選択できます。

1. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックして、[コネクションセンター] を選択します。
2. [基本設定]、[ローカル **IME**] を選択します。



さまざまな IME モードをサポートするために以下のオプションを利用できます：

1. サーバー **IME** を有効にする - ローカル IME を無効にするため、サーバーの言語セットのみが利用できます。
2. ローカル **IME** を高パフォーマンスモードに設定する - ローカル IME を限られた帯域幅で使用できます。このオプションは、候補ウィンドウの機能を制限します。
3. ローカル **IME** を最適なエクスペリエンスモードに設定する - ローカル IME を最適なユーザーエクスペリエンスで使用できます。このオプションは、高帯域を消費します。デフォルトで、汎用クライアント IME が有効の場合、このオプションが選択されます。

変更は、現在のセッションにのみ適用されます。

レジストリエディターを使用したホットキー構成の有効化：

汎用クライアント IME が有効の場合、異なる IME モードを選択するには、**Shift+F4** ホットキーを使用できます。IME モードのさまざまなオプションがセッションの右上隅に表示されます。

デフォルトで、汎用クライアント IME のホットキーは無効です。

レジストリエディターで、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\Engine\Lockdown Profiles\All Regions\Lockdown\Client Engine\Hot Key`に移動します。

AllowHotKey を選択して、デフォルト値を 1 に変更します。

Shift+F4 のホットキーを使用して、セッションで異なる IME モードを選択できます。

これらのホットキーの組み合わせを使用して切り替える場合、IME モードのさまざまなオプションがセッションの右上隅に表示されます。



制限事項:

- 汎用クライアント IME は、Search UI などの UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム) アプリや、Windows 10 オペレーティングシステムの Edge ブラウザーをサポートしません。回避策として、代わりにサーバー IME を使用します。
- 汎用クライアント IME は、保護モードの Internet Explorer バージョン 11 ではサポートされません。回避策として、インターネットオプションを使用して保護モードを無効にできます。無効にするには、[セキュリティ] をクリックして、[保護モードを有効にする] をオフにします。

セッション開始時に複数のキーボードを同期

以前は、セッションが全画面モードで開始された後、クライアント上のアクティブなキーボードのみが VDA と同期されました。このシナリオでは、Citrix Workspace アプリで [セッション起動時に 1 回だけ同期する] を構成してから、別のキーボードに変更する必要がある場合は、リモートデスクトップにキーボードを手動でインストールする必要があります。同様に、Citrix Workspace アプリで [動的な同期を許可する] を構成した場合は、ウィンドウモードに移行し、クライアントのキーボードを変更してから、全画面モードに戻る必要があります。

セッションが全画面モードで開始された後、クライアントで使用可能なすべてのキーボードが VDA と同期されます。セッションが全画面モードで開始された後、クライアントにインストールされているキーボードまたは使用可能なキーボードの一覧から必要なキーボードを選択できます。

セッション開始時に複数のキーボードを同期する機能は、VDA ではデフォルトで有効になり、Citrix Workspace アプリではデフォルトで無効になります。

前提条件

Windows 向け **Citrix Workspace** アプリの場合:

[セッション起動時に 1 回だけ同期する] キーボードレイアウト設定を有効にします。詳しくは、[キーボードレイアウト](#)のドキュメントを参照してください。

VDA の場合:

次の VDA ポリシーを有効にします:

- Unicode キーボードレイアウトマッピング。詳しくは、「[Unicode キーボードレイアウトのマッピングを有効にする](#)」または「[キーボードと入力システム \(IME\)](#)」を参照してください
- クライアントキーボードレイアウトの同期と IME の改善。詳しくは、「[キーボードと入力システム \(IME\)](#)」を参照してください

Citrix Workspace アプリの構成:

この機能は仮想デスクトップにのみ適用されます。この機能はデフォルトでは無効になっています。この機能を有効にするには、次の手順を実行します:

1. **All_Regions.ini** ファイルの [Virtual Channels\Keyboard] セクションに移動します。
2. ブーリアン型のレジストリキー `SyncKbdLayoutList to HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\Ica Client\Engine\Lockdown Profiles\All Regions\Lockdown\Virtual Channels\Keyboard` を追加します。
3. 値を 1 に設定します。

VDA の構成:

セッション開始時に複数のキーボードを同期する機能は、VDA ではデフォルトで有効になっています。

この機能を無効にするには、次のように VDA レジストリを更新します:

1. レジストリエディターを開き、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\IcaIme` に移動します。
2. DWORD エントリ `DisableKbdLayoutList` を作成し、その値を 0 に設定します。値を 1 に設定すると、セッション開始時に複数のキーボードを同期する機能が無効になります。
3. 変更を保存するには、セッションを再起動します。

印刷

June 14, 2024

プリンター

ユーザーがプリンター設定を上書きするには

1. ユーザーデバイス上で、アプリケーションの [印刷] ダイアログボックスを開き、[プロパティ] をクリックします。
2. [クライアント設定] タブで [高度な最適化] をクリックし、[イメージ圧縮] および [イメージおよびフォント キャッシュ] オプションの設定を変更します。

スクリーンキーボードの制御

Windows タブレットから仮想アプリケーションおよびデスクトップへのタッチ操作によるアクセスを有効にするため、次の場合、Citrix Workspace アプリによって自動的にスクリーンキーボードが表示されます：

- テキスト入力フィールドをアクティブにする。
- デバイスがテントモードまたはタブレットモードになる。

一部のデバイスおよび一部の環境下では、Citrix Workspace アプリがデバイスのモードを正確に検出できないことがあります。また、スクリーンキーボードが、必要ない場合に表示される場合もあります。

コンバーチブルデバイスを使用しているときにスクリーンキーボードが表示されないようにするには、次の手順に従います：

- `HKEY_CURRENT_USER\\SOFTWARE\\Citrix\\ICA Client\\Engine\\Configuration\\Advanced\\Modules\\MobileReceiver`で `REG_DWORD` の値「DisableKeyboardPopup」を作成し、
- 値を 1 に設定します。

注：

x64 マシンでは、`HKEY_LOCAL_MACHINE\\SOFTWARE\\Wow6432Node\\Citrix\\ICA Client\\Engine\\Configuration\\Advanced` に値を作成します。

キーは、次の 3 つの異なるモードに設定できます：

- 自動： `AlwaysKeyboardPopup = 0; DisableKeyboardPopup = 0`
- 常にポップアップ（スクリーンキーボード）： `AlwaysKeyboardPopup = 1; DisableKeyboardPopup = 0`
- ポップアップしない（スクリーンキーボード）： `AlwaysKeyboardPopup = 0; DisableKeyboardPopup = 1`

PDF 印刷

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、セッションでの PDF 印刷をサポートしています。Citrix PDF ユニバーサルプリンタードライバーを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS で実行されているホストアプリケーションやデスクトップを使用して起動したドキュメントを印刷できます。

[印刷] ダイアログボックスで [Citrix PDF プリンター] オプションを選択すると、ドライバーがファイルを PDF に変換して、これをローカルデバイスに転送します。その後、デフォルトの PDF ビューアで PDF を表示したり、ローカルに接続されたプリンターで印刷したりできます。

Citrix では PDF の表示には、Google Chrome ブラウザーまたは Adobe Acrobat Reader をお勧めします。

Delivery Controller で Citrix Studio を使用して、Citrix PDF 印刷を有効にできます。

前提条件:

- Citrix Virtual Apps and Desktops バージョン 7 1808 以降。
- 少なくとも 1 つの PDF ビューアがコンピューターにインストールされている。

PDF 印刷を有効にするには:

1. Delivery Controller で Citrix Studio を使用して、左ペインの [ポリシー] ノードを選択します。ポリシーを作成するか、既存のポリシーを編集することができます。
2. [PDF ユニバーサルプリンターの自動作成] ポリシーを [有効] にします。

Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

制限事項:

- PDF の表示と印刷は、Microsoft Edge ブラウザーではサポートされていません。

Windows Continuum を使用して Windows 10 のタブレットモードを拡張

Windows Continuum は、クライアントデバイスの使用方法に対応する Windows 10 の機能です。Windows 向け Citrix Workspace アプリでは、モードの動的変更を含む Windows Continuum がサポートされています。

タッチ操作可能なデバイスの場合、キーボードまたはマウスが接続されていないと、Windows 10 VDA はタブレットモードで起動します。キーボード、マウス、またはその両方が接続されている場合は、デスクトップモードで起動します。Surface Pro のような 2 in 1 デバイスの画面やクライアントデバイスでキーボードを接続したり、接続解除したりすると、タブレットモードとデスクトップモードが切り替わります。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[タッチスクリーンデバイス用タブレットモード](#)」を参照してください。

タッチ操作可能なクライアントデバイスでは、セッションに接続または再接続すると、Windows 10 VDA はキーボードまたはマウスを検出します。また、セッション中にキーボードやマウスの接続や接続解除も検出します。この機能は VDA でデフォルトで有効になっています。この機能を無効にするには、Citrix Studio を使用して [タブレットモードの切り替え] ポリシーを変更します。

タブレットモードでは、タッチスクリーンにより適した以下のユーザーインターフェイスが提供されます。

- やや大きめのボタン
- スタート画面や開始したすべてのアプリを全画面で開く
- タスクバーに [戻る] ボタンがある
- タスクバーからアイコンを削除

デスクトップモードでは、PC でキーボードとマウスを使用するのと同じように操作できる従来のユーザーインターフェイスが提供されます。

注:

Workspace for Web では、Windows Continuum の機能はサポートしていません。

USB

June 14, 2024

USB サポート

USB サポート機能により、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS 上で作業しているときにさまざまな種類の USB デバイスを使用できるようになります。コンピューターに USB デバイスを接続すると、仮想デスクトップ内でそのデバイスを操作できるようになります。この機能では、フラッシュドライブ、スマートフォン、PDA、プリンター、スキャナー、MP3 プレーヤー、セキュリティデバイス、およびタブレットなどの USB デバイスがサポートされます。Desktop Viewer のユーザーは、ツールバーの基本設定を使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS で USB デバイスを使用できるようにするかどうかを制御できます。

Web カメラ、マイク、スピーカー、およびヘッドセットなどの USB デバイスのアイソクロナス機能は、一般的な低遅延または高速 LAN 環境でサポートされます。このような環境では、Microsoft Office Communicator や Skype などのパッケージでこれらのデバイスを使用することができます。

以下の種類のデバイスは直接サポートされるため、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションで USB サポート機能は使用されません。

- キーボード
- マウス
- スマートカード

特殊用途の USB デバイス (Bloomberg キーボードや 3D マウスなど) では、USB サポート機能が使用されるように構成できます。Bloomberg キーボードの構成について詳しくは、「[Bloomberg キーボードの構成](#)」を参照してください。

そのほかの特殊用途の USB デバイスのポリシー規則の構成について詳しくは、Knowledge Center の [CTX122615](#) を参照してください。

デフォルトでは、特定の種類の USB デバイスが Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS で動作しないように設定されています。たとえば、内部 USB でシステムボードに装着された NIC は、このデバイスのリモート操作は適しません。次の種類の USB デバイスは、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションでの使用をデフォルトでサポートされていません。

- Bluetooth ドングル
- 統合された NIC
- USB ハブ
- USB グラフィックアダプター

USB ハブに接続されたデバイスは仮想デスクトップで使用できますが、USB ハブ自体はリモート処理できません。

次の種類の USB デバイスは、仮想アプリセッションでの使用をデフォルトでサポートしていません:

- Bluetooth ドングル
- 統合された NIC
- USB ハブ
- USB グラフィックアダプター
- オーディオデバイス
- 大容量記憶装置デバイス

USB サポートのしくみ:

ユーザーがエンドポイントに USB デバイスを接続すると、USB ポリシーが照合され、許可されているデバイスであることが認識されると、仮想デスクトップ上で使用可能になります。デフォルトのポリシーで拒否されるデバイスは、ローカルのデスクトップ上でのみ使用可能になります。

USB デバイスを接続すると、新しいデバイスについて知らせる通知が表示されます。ユーザーは、接続するたびに、仮想デスクトップで使用する必要がある USB デバイスを選択できます。ユーザーは、仮想デスクトップセッションの開始前、またはセッション実行中に接続した USB デバイスが、フォーカスのある仮想デスクトップで自動的に使用可能になるように設定することもできます。

デフォルトで許可される **USB** デバイスのクラス

デフォルトの USB ポリシー規則では、さまざまなクラスの USB デバイスが許可されています。

この一覧に記載されていても、一部のクラスは構成を追加しなければ仮想アプリと仮想デスクトップのセッションでリモート処理ができません。このような USB デバイスクラスは次のとおりです。

- オーディオ (クラス **01**) - このクラスのデバイスとして、オーディオ入力デバイス (マイク)、オーディオ出力デバイス、および MIDI コントローラーがあります。最近のオーディオデバイスでは一般的に、XenDesktop 4 以降でサポートされているアイソクロナス転送が使用されます。USB サポートを使用する仮想アプリでオーディオデバイスをリモート操作できないため、オーディオ (クラス 01) は仮想アプリに適用できません。

注:

VoIP 電話などの一部の特殊デバイスには追加の構成が必要です。詳しくは、Knowledge Center の [CTX123015](#) を参照してください。

- 物理インターフェイスデバイス (クラス **05**) - このデバイスはヒューマンインターフェイスデバイス (HID) と似ていますが、一般的に「リアルタイム」の入力またはフィードバックを提供し、フォースフィードバック

ジョイスティック、モーションプラットフォーム、およびフォースフィードバックエクソスケルトンなどがあります。

- 静止画 (クラス **06**) - このクラスのデバイスとして、デジタルカメラおよびスキャナーがあります。ほとんどのデジタルカメラは、画像転送プロトコル (PTP) またはメディア転送プロトコル (MTP) を使ってコンピューターやほかの周辺機器にイメージを転送する静止画クラスをサポートします。カメラは大容量記憶装置としても機能する場合があります。また、カメラ自体のメニューを使っていずれかのクラスを使用するように構成することも可能な場合があります。

注:

カメラがマストストレージデバイスとして機能する場合はクライアントドライブマッピングが使用され、USB サポートは必要ありません。

- プリンター (クラス **07**) - 一部のプリンターではベンダー固有のプロトコル (クラス ff) が使用されますが、一般的にはこのクラスにほとんどのプリンターが含まれます。マルチ機能プリンターの場合は、USB ハブが内蔵されていたり、混合デバイスであったりする場合があります。いずれの場合も、印刷機能では一般的にプリンタークラスが使用され、スキャナーや FAX 機能では静止画などの別のクラスが使用されます。

プリンターは通常、USB サポートなしで適切に動作します。

注

このクラスのデバイス (特にスキャナー機能を持つプリンター) には追加の構成が必要です。手順については、Knowledge Center の [CTX123015](#) を参照してください。

- マストストレージデバイス (クラス **08**) - 最も一般的なマストストレージデバイス (大容量記憶装置) として、USB フラッシュドライブがあります。そのほかには、USB 接続のハードドライブ、CD/DVD ドライブ、および SD/MMC カードリーダーがあります。また、内部ストレージを持つさまざまなデバイスがあり、これらもこのクラスのインターフェイスを提供します。たとえば、メディアプレーヤー、デジタルカメラ、携帯電話などがあります。USB サポートを使用する仮想アプリでマストストレージデバイスをリモート操作できないため、マストストレージ (クラス 08) は仮想アプリに適用できません。既知のサブクラスには次のものが含まれます:

- 01 制限付きフラッシュデバイス
- 02 一般的な CD/DVD デバイス (ATAPI/MMC-2)
- 03 一般的なテープデバイス (QIC-157)
- 04 一般的なフロッピーディスクドライブ (UFI)
- 05 一般的なフロッピーディスクドライブ (SFF-8070i)
- 06 ほとんどの大容量記憶装置デバイスはこの SCSI のバリエーションを使用します

マストストレージデバイスには、クライアントドライブマッピングを介して頻繁にアクセスすることができ、USB サポートは必要ありません。

- コンテンツセキュリティ (クラス **0d**) - 通常、ライセンスまたはデジタル権利の管理のためのコンテンツ保護を実行します。このクラスのデバイスとして、ドングルがあります。

- ビデオ (クラス **0e**) - ビデオクラスは、ビデオまたはビデオ関連の素材を操作するために使用されるデバイスをカバーします。デバイスとしては、Web カメラ、デジタルカムコーダー、アナログビデオ変換機、一部のテレビチューナー、およびビデオストリーミングをサポートする一部のデジタルカメラなどがあります。

重要

ほとんどのビデオストリーミングデバイスでは、XenDesktop 4 以降でサポートされているアイソクロナス転送が使用されます。動作検知機能付きの Web カメラなど、一部のビデオデバイスには追加の構成が必要です。手順については、Knowledge Center の[CTX123015](#)を参照してください。

- パーソナルヘルスケア (クラス **0f**) - このデバイスには、血圧センサー、心拍数モニター、万歩計、薬剤モニター、肺活量計などの個人用健康器具があります。
- アプリケーションおよびベンダー固有 (クラス **fe** および **ff**) - 多くのデバイスがベンダー独自のプロトコルまたは USB コンソーシアムで標準化されていないプロトコルを使用しており、このようなデバイスは通常、ベンダー固有 (クラス **ff**) として表示されます。

デフォルトで拒否される **USB** デバイスのクラス

デフォルトの USB ポリシー規則では、次の異なるクラスの USB デバイスは許可されません：

- 通信および CDC コントロール (クラス 02 および 0a)。仮想デスクトップ自体への接続にこれらのデバイスのいずれかが使用される場合があるため、デフォルトの USB ポリシーではこれらのデバイスのリモートでの実行は許可されていません。
- ヒューマンインターフェイスデバイス (クラス 03)。さまざまな種類の入出力デバイスを含みます。一般的なヒューマンインターフェイスデバイス (HID) として、キーボード、マウス、ポインティングデバイス、グラフィックタブレット、センサー、およびゲームのコントローラー、ボタン、およびコントロール機能などがあります。

サブクラス 01 は「起動インターフェイス」クラスとして知られ、キーボードおよびマウスで使用されます。

デフォルトの USB ポリシーは USB キーボード (クラス 03、サブクラス 01、プロトコル 1) または USB マウス (クラス 03、サブクラス 01、プロトコル 2) を許可しません。これは、ほとんどのキーボードとマウスは USB のサポートを必要とすることなく適切に処理できるためです。また、通常、こうしたデバイスは仮想デスクトップに接続したときに、リモートと同様、ローカルでも使用する必要があります。

- USB ハブ (クラス 09)。USB ハブを使用すると、より多くのデバイスをローカルのコンピューターに接続できます。これらのデバイスにリモートでアクセスする必要はありません。
- スマートカード (クラス 0b)。スマートカードリーダーには、非接触型および接触型のスマートカードリーダーと、スマートカードと同等のチップを埋め込んだ USB トークンがあります。

スマートカードリーダーは、スマートカードサポート機能によりアクセスできるため、USB サポートは必要ありません。

- ワイヤレスコントローラー（クラス e0）。これらのデバイスの中には、重要なネットワークアクセスを提供していたり、Bluetooth キーボードやマウスなどの基幹周辺装置を接続していたりするものがあります。

デフォルトの USB ポリシーはこれらのデバイスを許可していません。ただし、USB サポートを使ったアクセスを提供することが適したデバイスもあります。

- その他のネットワークデバイス（クラス ef、サブクラス 04） - これらのデバイスの一部は、重要なネットワークアクセスを提供している可能性があります。デフォルトの USB ポリシーはこれらのデバイスを許可していません。ただし、USB サポートを使ったアクセスを提供することが適したデバイスもあります。

仮想デスクトップで使用できる **USB** デバイスの一覧の変更

Windows 向け Citrix Workspace のテンプレートファイルを編集して、仮想デスクトップセッション内で使用できる USB デバイスの範囲を更新できます。更新によって、グループポリシーを使用して Windows 向け Citrix Workspace に変更を加えることができます。このファイルは、次のインストールフォルダーにあります：

`\C:\Program Files\Citrix\ICA Client\Configuration\en`

または、各ユーザーデバイスのレジストリに次のレジストリキーを追加できます：

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICA Client\GenericUSB 種類 = 文字列 名前 =” DeviceRules” 値 =

重要

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

製品のデフォルトの規則は、次の場所に保存されています：

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\GenericUSB 種類 =MultiSz 名前 =” DeviceRules” 値 =

これらのデフォルトの規則は変更しないでください。

USB デバイスのポリシー設定について詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[USB デバイスのポリシー設定](#)」を参照してください。

複合 **USB** デバイスリダイレクト

USB 2.1 以降は、複数の子デバイスが同じ USB バスで単一の接続を共有する USB 複合デバイスの概念をサポートしています。このようなデバイスは、単一の構成スペースと共有バス接続を採用しており、一意のインターフェイス

番号 00-ff を使用して各子デバイスを識別します。また、このようなデバイスは USB ハブとは異なります。USB ハブは、ほかの個別にアドレス指定された USB デバイスが接続する USB バスの新しい起点を提供します。

クライアントエンドポイントで検出された複合デバイスは、次のいずれかとして仮想ホストに転送できます：

- 単一の複合 USB デバイス、または
- 独立した子デバイスのセット（分割デバイス）

複合 USB デバイスが転送されると、デバイス全体がエンドポイントで使用できなくなります。転送により、最適化された HDX リモートエクスペリエンスに必要な Citrix Workspace クライアントを含む、エンドポイント上のすべてのアプリケーションでのデバイスのローカル使用がブロックされます。

オーディオデバイスとミュートとボリュームコントロール用の HID ボタンの両方を備えた USB ヘッドセットデバイスを検討してください。デバイス全体が汎用 USB チャネルを使用して転送される場合、デバイスは最適化された HDX オーディオチャネルを介したりダイレクトで使用できなくなります。ただし、汎用 USB リモート処理経由でホスト側のオーディオドライバーを使用して送信されるオーディオとは異なり、最適化された HDX オーディオチャネル経由で送信されるオーディオでは、最高のエクスペリエンスを実現できます。この挙動は、USB オーディオプロトコルの性質がノイズが多いためです。

また、システムキーボードまたはポインティングデバイスが、リモートセッションのサポートに必要な他の統合機能を備えた複合デバイスの一部である場合にも問題が発生します。完全な複合デバイスが転送されると、システムのキーボードまたはマウスは、リモートデスクトップセッションまたはアプリケーション内を除いて、エンドポイントで操作できなくなります。

これらの問題を解決するために、複合デバイスを分割し、汎用 USB チャネルを使用する子インターフェイスのみを転送することを Citrix ではお勧めします。このようなメカニズムにより、最適化された HDX エクスペリエンスを提供する Citrix Workspace アプリなど、クライアントエンドポイント上のアプリケーションでほかの子デバイスを使用できるようになり、必要なデバイスのみを転送してリモートセッションで使用できるようになります。

デバイス規則：

通常の USB デバイスと同様に、エンドポイントのポリシーまたはクライアント Citrix Workspace アプリ構成で設定されたデバイス規則は、転送する複合デバイスを選択します。Citrix Workspace アプリは、これらの規則を使用して、リモートセッションへの転送を許可または禁止する USB デバイスを決定します。

各規則は、アクションキーワード（Allow、Connect、または Deny）、コロンの (:)、およびエンドポイント USB サブシステムの実際のデバイスと一致する 0 個以上のフィルターパラメーターで構成されています。これらのフィルターパラメーターは、すべての USB デバイスが自身を識別するために使用する USB デバイスの記述子メタデータに対応します。

デバイス規則はクリアテキストであり、各規則は 1 行に表示され、オプションのコメントは # 文字の後に記載されています。規則はトップダウンで照合されます（優先度の降順）。デバイスまたは子インターフェイスに一致する最初の規則が適用されます。同じデバイスまたはインターフェイスを選択する後続の規則は無視されます。

サンプルデバイス規則：

- ALLOW: vid=046D pid=0102 # vid/pid により特定のデバイスを許可する

- ALLOW: vid=0505 class=03 subclass=01 # subclass=01 の場合にベンダー 0505 のすべての pid を許可する
- DENY: vid=0850 pid=040C # 特定のデバイスを拒否する (すべての子デバイスを含む)
- DENY: class=03 subclass=01 prot=01 # すべてのフィルターに一致するデバイスをすべて拒否する
- CONNECT: vid=0911 pid=0C1C # 特定のデバイスを許可して自動接続する
- ALLOW: vid=0286 pid=0101 split=01 # このデバイスを分割し、すべてのインターフェイスを許可する
- ALLOW: vid=1050 pid=0407 split=01 intf=00,01 # 分割して 2 つのインターフェイスのみを許可する
- CONNECT: vid=1050 pid=0407 split=01 intf=02 # 分割してインターフェイス 2 を自動接続する
- DENY: vid=1050 pid=0407 split=1 intf=03 # インターフェイス 03 がリモート化されないようにする

次のフィルターパラメーターのいずれかを使用して、検出されたデバイスに規則を適用できます：

フィルターパラメーター	説明
vid=xxxx	USB デバイスのベンダー ID (4 桁の 16 進コード)
pid=xxxx	USB デバイスの製品 ID (4 桁の 16 進コード)
rel=xxxx	USB デバイスのリリース ID (4 桁の 16 進コード)
class=xx	USB デバイスのクラスコード (2 桁の 16 進コード)
subclass=xx	USB デバイスのサブクラスコード (2 桁の 16 進コード)
prot=xx	USB デバイスのプロトコルコード (2 桁の 16 進コード)
split=1 (または split=0)	分割する (または分割しない) 複合デバイスを選択します
intf=xx[,xx,xx,...]	複合デバイスの子インターフェイスの特定のセットを選択します (2 桁の 16 進コードのコンマで区切られた一覧)

最初の 6 つのパラメーターは、規則を適用する必要がある USB デバイスを選択します。パラメーターが指定されていない場合、規則はそのパラメーターが ANY の値を持つデバイスと一致します。

USB Implementors Forum (USB-IF) は、[Defined Class Code](#)のクラス、サブクラス、およびプロトコル値の定義済み一覧を維持管理しています。USB-IF は、登録されたベンダー ID の一覧も所有しています。特定のデバイスのベンダー、製品、リリース、およびインターフェイス ID は、Windows デバイスマネージャーで直接確認するか、UsbTreeView などの無料ツールを使用して確認できます。

最後の 2 つのパラメーター (存在する場合) は USB 複合デバイスにのみ適用されます。split パラメーターは、複合デバイスを分割デバイスとして転送するか、単一の複合デバイスとして転送する必要があるかを決定します。

- Split=1 は、複合デバイスの選択された子インターフェイスは分割デバイスとして転送する必要があることを示します。
- Split=0 は、複合デバイスを分割するべきではないことを示します。

注:

split パラメーターを省略した場合、*Split=0* と見なされます。

intf パラメーターでは、アクションを適用する必要がある複合デバイスの特定の子インターフェイスを選択します。省略した場合、アクションは複合デバイスのすべてのインターフェイスに適用されます。

3つのインターフェイスを備えた複合 USB ヘッドセットデバイスについて考えてみましょう

- インターフェイス 0 - オーディオクラスのデバイスエンドポイント
- インターフェイス 3 - HID クラスのデバイスエンドポイント (音量ボタンとミュートボタン)
- インターフェイス 5 - 管理/更新インターフェイス

この種類のデバイスに推奨される規則は次のとおりです:

- CONNECT: vid=047F pid=C039 split=1 intf=03 # HID デバイスを許可して自動接続する
- DENY: vid=047F pid=C039 split=1 intf=00 # オーディオエンドポイントを拒否する
- ALLOW: vid=047F pid=C039 split=1 intf=05 # mgmt intf を許可するが、自動接続しない

デバイス規則ポリシーを有効にする:

Windows 向け Citrix Workspace アプリには、特定の望ましくないクラスのデバイスをフィルタリングし、顧客が頻繁に遭遇するデバイスのクラスを許可するデフォルトのデバイス規則セットが含まれています。

これらのデフォルトのデバイス規則は、次のいずれかのシステムレジストリで確認できます:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\ICA Client\GenericUSB` (32 ビット Windows) または
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\Citrix\ICA Client\GenericUSB` (64 ビット Windows)、**DeviceRules** という名前のマルチストリング値。

ただし、Windows 向け Citrix Workspace アプリでは、**USB** デバイス規則ポリシーを適用して、これらのデフォルトの規則を上書きできます。

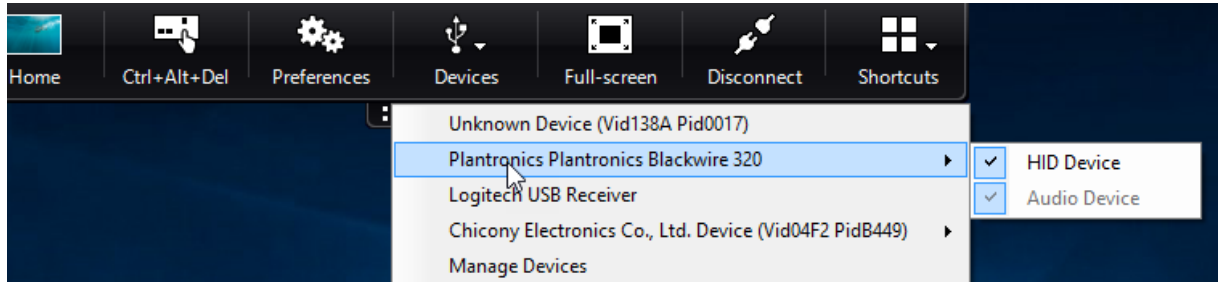
Windows 向け Citrix Workspace アプリのデバイス規則ポリシーを有効にするには:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [ユーザー構成] ノード配下で、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [クライアントデバイスをリモート処理します] > [一般的な **USB** のリモート処理] の順に移動します。
3. **USB** デバイス規則ポリシーを選択します。
4. [有効] をクリックします。
5. [**USB** デバイス規則] テキストボックスに、展開する USB デバイス規則を貼り付けます (または直接編集します)。
6. [適用]、[OK] の順にクリックします。

このポリシーを作成するときは、クライアントに付属しているデフォルトの規則を保存してから元の規則をコピーし、新しい規則を挿入して必要に応じて動作を変更することを Citrix ではお勧めします。

USB デバイスの接続:

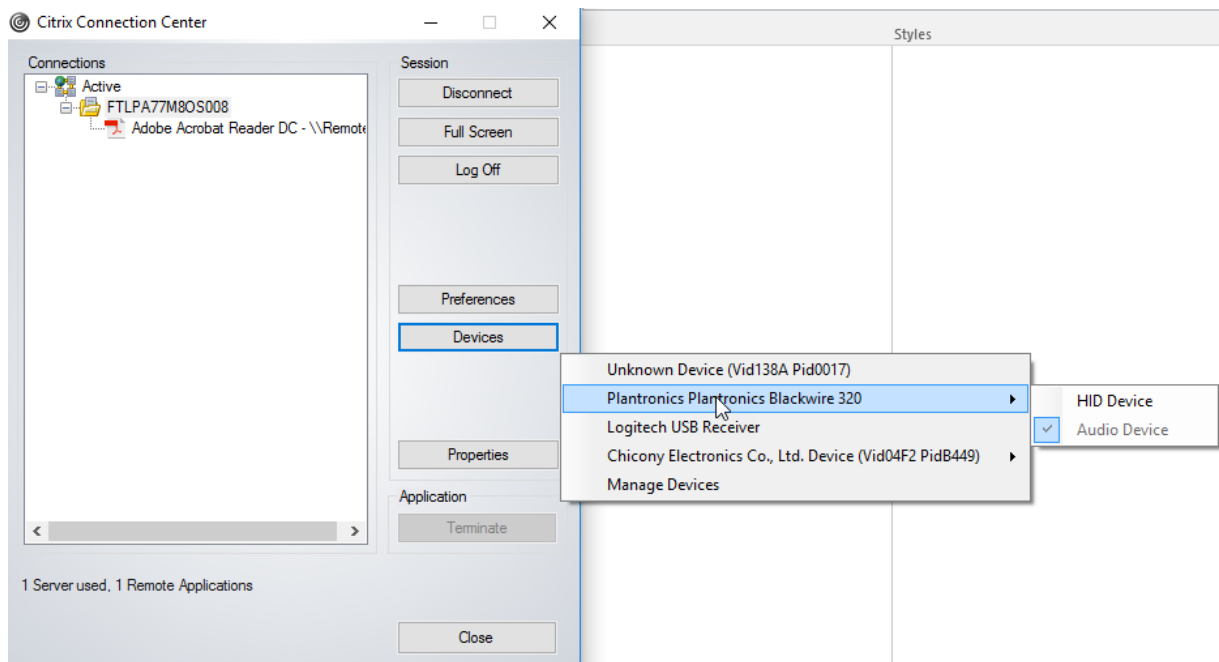
デスクトップセッションでは、分割された USB デバイスは [デバイス] の Desktop Viewer で表示されます。また、[基本設定] > [デバイス] から分割された USB デバイスを表示できます。



注:

CONNECT キーワードは、USB デバイスの自動接続を有効にします。ただし、汎用 USB リダイレクト用に複数 USB デバイスを分割するときに CONNECT キーワードが使用されない場合、Desktop Viewer またはコネクションセンターからデバイスを手動で選択する必要があります。

アプリケーションセッションでは、分割デバイスはコネクションセンターで表示されます。



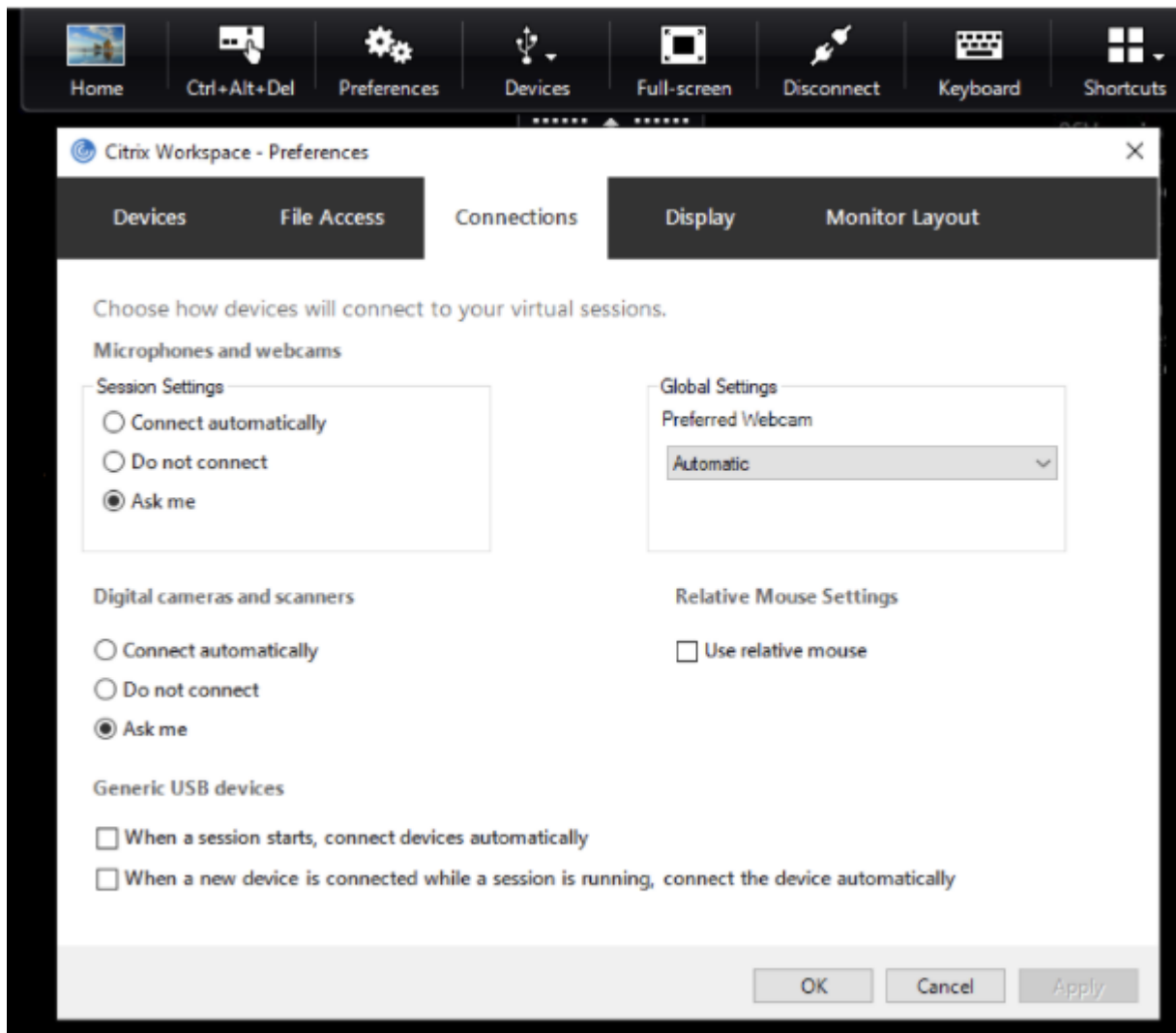
インターフェイスを自動的に接続するには:

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2109 で導入された CONNECT キーワードにより、USB デバイスの自動リダイレクトが可能になります。セッションで自動的に接続することを管理者がデバイスまたは選択したインターフェイスに許可している場合、CONNECT 規則は ALLOW 規則に置き換わることができます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [ユーザー構成] ノード配下で、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [クライアントデバイスをリモート処理します] > [一般的な **USB** のリモート処理] の順に移動します。
3. **USB** デバイス規則ポリシーを選択します。
4. [有効] をクリックします。
5. [**USB** デバイス規則] テキストボックスで、自動接続する USB デバイスを追加します。
たとえば、CONNECT: vid=047F pid=C039 split=01 intf=00,03 は複合デバイスの分割と、インターフェイス 00 および 03 インターフェイスの自動接続を可能にし、そのデバイスの他のインターフェイスを制限します。
6. [適用] および [**OK**] をクリックしてポリシーを保存します。

USB デバイスの自動接続設定の変更:

Citrix Workspace アプリは、現在のデスクトップリソースの設定に基づいて、CONNECT アクションでタグ付けされた USB デバイスを自動的に接続します。次の図に示すように、**Desktop Viewer** のツールバーで設定を変更できます。



ペインの下部にある2つのチェックボックスは、デバイスが自動的に接続する必要があるか、セッションで手動接続を待つ必要があるかを制御します。これらの設定はデフォルトでは有効になっていません。汎用 USB デバイスを自動的に接続する必要がある場合は、設定を変更できます。

または、管理者は、Citrix Workspace アプリのグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートから対応するポリシーを展開することにより、ユーザー設定を上書きできます。マシンポリシーとユーザーポリシーは両方とも、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [クライアントデバイスをリモート処理します] > [一般的な USB のリモート処理] の順でアクセスできます。対応するポリシーには、それぞれ [既存の USB デバイス] と [新しい USB デバイス] のラベルが付いています。

分割デバイスのデフォルト設定の変更:

デフォルトでは、Windows 向け Citrix Workspace アプリは、デバイス規則で *Split=1* として明示的にタグ付けされた複合デバイスのみを分割します。ただし、デフォルトの配置を変更して、一致するデバイス規則で *Split=0* としてタグ付けされていないすべての複合デバイスを分割することは可能です。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開

きます。

2. [ユーザー構成] ノード配下で、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [クライアントデバイスをリモート処理します] > [一般的な **USB** のリモート処理] の順に移動します。
3. **SplitDevices** ポリシーを選択します。
4. [有効] をクリックします。
5. [適用] および [OK] をクリックしてポリシーを保存します。

注:

デフォルトを変更するのではなく、明示的なデバイス規則を使用して、分割する必要のある特定のデバイスまたはインターフェイスを識別することを Citrix ではお勧めします。この設定は、将来のリリースで廃止されます。

制限事項:

- Citrix では Web カメラのインターフェイスは分割しないことをお勧めします。代わりに、汎用 USB リダイレクトを使用してデバイスを単一のデバイスにリダイレクトします。パフォーマンスを向上させるには、最適化された仮想チャネルを使用してください。
- 場合によっては、デバイスを分割するように正しいデバイスリダイレクト規則が設定されている場合でも、USB 複合デバイスが自動的に分割されないことがあります。この問題は、デバイスが省電力モードであるために発生します。このような場合、省電力モードになった子デバイスはデバイス一覧に存在しない可能性があります。この問題を解決するには、次の回避策のいずれかを使用できます：
 - セッションを切断し、USB デバイスを挿入して、セッションに再接続します。
 - USB デバイスを取り外し、再度差し込みます。この操作により、デバイスの省電力モードが解除されます。[HDX-34143]

Bloomberg キーボード

Citrix Workspace アプリは、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションで Bloomberg キーボードの使用をサポートします。必要なコンポーネントはプラグインとともにインストールされます。Bloomberg キーボード機能は、Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール時またはレジストリエディターで有効にできます。

Bloomberg キーボードは、標準のキーボードと比較すると、ユーザーが金融市場データにアクセスして取引を実行できるという別の機能を提供します。

Bloomberg キーボードは、1 つの物理シェルに組み込まれた複数の USB デバイスで構成されています:

- キーボード
- 指紋リーダー
- オーディオデバイス
- これらのすべてのデバイスをシステムに接続するための USB ハブ
- オーディオデバイスの HID ボタン (ミュート、音量大、音量小など)

これらのデバイスの通常の機能に加えて、オーディオデバイスには、一部のキー、キーボードの制御、およびキーボード LED のサポートが含まれています。

セッション内で特殊な機能を使用するには、オーディオデバイスを USB デバイスとしてリダイレクトする必要があります。このリダイレクトは、オーディオデバイスをセッションで使用できるようにして、ローカルでは使用されないようにします。さらに、特殊な機能は 1 つのセッションでのみ使用でき、複数のセッション間で共有することはできません。

複数のセッションで Bloomberg キーボードを使用しないでください。このキーボードはシングルセッション環境でのみ動作します。

Bloomberg キーボード 5 の構成:

Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2109 バージョンから、新しい CONNECT キーワードが導入され、セッションの起動時とデバイスの挿入時に USB デバイスを自動的に接続できるようになりました。ユーザーが USB デバイスまたはインターフェイスを自動的に接続する場合は、CONNECT キーワードを使用して ALLOW キーワードを置き換えることができます。

注:

Citrix Virtual Apps and Desktops の Studio にデバイスリダイレクト規則バージョン 2 が導入されたことにより、Windows 向け Citrix Workspace アプリのクライアント側のグループポリシーで Bloomberg 5 キーボードを構成する必要がなくなりました。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[クライアント USB デバイスリダイレクト規則 \(バージョン 2\)](#)」を参照してください。

Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 2212 より前のバージョンの場合、次の例は、CONNECT キーワードの使用方法を示しています:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [クライアントデバイスをリモート処理します] > [一般的な **USB** のリモート処理] の順に移動します。
3. **SplitDevices** ポリシーを選択します。
4. [有効] をクリックします。
5. [**USB** デバイス規則] テキストボックスに、次の規則を追加します (存在しない場合)。
 - CONNECT: vid=1188 pid=A101 # Bloomberg 5 生体認証モジュール
 - DENY: vid=1188 pid=A001 split=01 intf=00 # Bloomberg 5 プライマリキーボード
 - CONNECT: vid=1188 pid=A001 split=01 intf=01 # Bloomberg 5 キーボード HID
 - DENY: vid=1188 pid=A301 split=01 intf=02 # Bloomberg 5 キーボードオーディオチャネル
 - CONNECT: vid=1188 pid=A301 split=01 intf=00,01 # Bloomberg 5 キーボードオーディオ HID

注:

改行またはセミコロンで区切ることで、単一行または複数行のレジストリ値を読み取れます。

6. [適用] および [OK] をクリックしてポリシーを保存します。
7. [設定] ウィンドウで、[接続] タブを選択し、1 つまたは両方のチェックボックスを選択してデバイスを自動的に接続します。[設定] ウィンドウには、デスクトップツールバーまたは接続マネージャーからアクセスできません。

この手順により、Bloomberg キーボード 5 を使用できるようになります。手順で説明されている DENY 規則は、プライマリキーボードとオーディオチャンネルが汎用 USB 経由でリダイレクトされるのではなく、最適化されたチャンネル経由でリダイレクトされることを強制します。CONNECT 規則は、指紋モジュール、キーボードの特殊キー、およびオーディオ制御に関連するキーの自動リダイレクトを有効にします。

Bloomberg キーボード 4 または 3 の構成:

注意

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります。オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

1. レジストリで次のキーを検索します:

`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\GenericUSB`

2. 次のいずれかを行います:

- この機能を有効にするには、種類が DWORD で名前が **EnableBloombergHID** の値のデータを 1 に設定します。
- この機能を無効にするには、値のデータを 0 に設定します。

Bloomberg キーボード 3 のサポートは、Online Plug-in 11.2 for Windows 以降のバージョンで利用できます。

Bloomberg キーボード 4 のサポートは、Windows Receiver 4.8 以降のバージョンで利用できます。

Bloomberg キーボードのサポートが有効になっているかどうかの確認:

- Bloomberg キーボードのサポートが Online Plug-in で有効になっているかどうかを確認するには、Desktop Viewer で Bloomberg キーボードのデバイスがどのように報告されているかを確認します。Desktop Viewer を使用しない場合は、Online Plug-in が実行されているマシンのレジストリを確認できません。
- Bloomberg キーボードのサポートが有効になっていない場合は、Desktop Viewer に次が表示されています:

- **Bloomberg Fingerprint Scanner** および **Bloomberg Keyboard Audio** として表示される Bloomberg キーボード 3 用の 2 つのデバイス。
 - Bloomberg キーボード 4 用の 1 つのポリシーリダイレクトデバイス。このデバイスは、**Bloomberg LP Keyboard 2013** として表示されます。
- Bloomberg キーボードのサポートが有効になっている場合は、Desktop Viewer に 2 つのデバイスが表示されます: 1 つは以前と同じように **Bloomberg Fingerprint Scanner** として表示され、もう 1 つは **Bloomberg Keyboard Features** として表示されます。
 - Bloomberg Fingerprint Scanner デバイスのドライバーがインストールされていない場合、Bloomberg Fingerprint Scanner エントリが Desktop Viewer に表示されない場合があります。エントリが見つからない場合、Bloomberg Fingerprint Scanner はリダイレクトに使用できない可能性があります。Bloomberg キーボードのサポートが有効になっている他の Bloomberg デバイスの名前は引き続き確認できます。
 - レジストリの値をチェックして、サポートが有効になっているかどうかを確認することもできます:

`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICAClient\GenericUSB\EnableBloombergHID`

値が存在しないか、0 (ゼロ) の場合、Bloomberg キーボードのサポートは有効になっていません。値が 1 の場合、サポートが有効になっています。

Bloomberg キーボードのサポートの有効化:

注:

Citrix Receiver for Windows 4.8 で、**SplitDevices** ポリシーを使用した複合デバイスのサポートが導入されました。ただし、Bloomberg キーボード 4 の場合は、このポリシーではなく、Bloomberg キーボード機能を使用する必要があります。

Bloomberg キーボードのサポートにより、特定の USB デバイスがセッションにリダイレクトされる方法が変わります。このサポートはデフォルトでは有効になっていません。

- インストール時にサポートを有効にするには、インストールコマンドラインで **ENABLE_HID_REDIRECTION** プロパティの値を TRUE に指定します。例:

```
CitrixOnlinePluginFull.exe /silent
ADDLOCAL="ICA_CLIENT,PN_AGENT,SSON,USB"
ENABLE_SSON="no"INSTALLDIR="c:\test"
ENABLE_DYNAMIC_CLIENT_NAME="Yes"
DEFAULT_NDSCONTEXT="Context1,Context2"
SERVER_LOCATION="http://testserver.net"ENABLE_HID_REDIRECTION="
TRUE"
```

- Online Plug-in のインストール後にサポートを有効にするには、Online Plug-in が実行されているシステムで Windows レジストリを編集します。

1. レジストリエディターを開きます。
2. 次のキーに移動します:
`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\GenericUSB。`
3. 値 **EnableBloombergHID** が存在する場合は、値データが 1 になるように変更します。
4. 値 **EnableBloombergHID** が存在しない場合は、EnableBloombergHID という名前で DWORD 値を作成し、値データを 1 として指定します。

Bloomberg キーボードのサポートの無効化:

次のように、Online Plug-in で Bloomberg キーボードのサポートを無効にできます:

1. Online Plug-in ソフトウェアを実行しているシステムでレジストリエディターを開きます。
2. 次のキーに移動します:
`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\GenericUSB。`
3. 値 **EnableBloombergHID** が存在する場合は、値データが 0 (ゼロ) になるように変更します。

値 **EnableBloombergHID** が存在しない場合は、Bloomberg キーボードのサポートが有効になっていないことを示しています。このような場合、レジストリ値を変更する必要はありません。

サポートを有効にせずに **Bloomberg** キーボードを使用:

- Online Plug-in で Bloomberg キーボードのサポートを有効にしなくても、キーボードを使用できます。ただし、複数のセッション間で特殊な機能を共有するメリットは使用できず、オーディオによってネットワーク帯域幅が増加する可能性があります。
- Bloomberg キーボードの通常のキーは、他のキーボードと同じように使用できます。特別なアクションは必要ありません。
- 専用の Bloomberg キーボードを使用するには、Bloomberg キーボードオーディオデバイスをセッションにリダイレクトする必要があります。Desktop Viewer を使用している場合は、USB デバイスの製造元名とデバイス名が表示され、Bloomberg キーボードオーディオデバイスが **Bloomberg Keyboard Audio** として表示されます。
- 指紋リーダーを使用するには、デバイスを Bloomberg Fingerprint Scanner にリダイレクトする必要があります。指紋リーダーのドライバーがローカルにインストールされていない場合、デバイスには次の情報のみが表示されます:
 - Online Plug-in がデバイスを自動的に接続するように設定されているか、または
 - ユーザーがデバイスの接続を選択できるようにするかが設定されているか。

また、セッションを確立する前に Bloomberg キーボードが接続されていて、指紋リーダーのドライバーがローカルにインストールされていない場合、指紋リーダーは表示されず、セッション内で使用できません。

注:

Bloomberg 3 の場合、指紋リーダーは単一のセッションまたはローカルシステムで使用でき、共有することはできません。Bloomberg 4 ではリダイレクトが禁止されています。

サポートを有効にした後 **Bloomberg** キーボードを使用:

- Online Plug-in で Bloomberg キーボードのサポートを有効にすると、特殊なキーボード機能を複数のセッションで共有できるというメリットがあります。また、オーディオからのネットワーク帯域幅も抑えられます。
- Bloomberg キーボードのサポートを有効にすると、Bloomberg キーボードオーディオデバイスのリダイレクトが妨げられます。代わりに、新しいデバイスが利用可能になります。Desktop Viewer を使用している場合、このデバイスは Bloomberg キーボード機能と呼ばれます。このデバイスをリダイレクトすると、セッションで特殊な Bloomberg キーを使用できます。

Bloomberg キーボードのサポートを有効にすると、専用の Bloomberg キーとオーディオデバイスにのみ影響します。通常のキーと指紋リーダーは、サポートが有効になっていない場合と同じように使用されます。

HDX Plug-n-Play USB デバイスリダイレクト

HDX Plug-n-Play の USB デバイスリダイレクトにより、メディアデバイスをサーバーに動的にリダイレクトできます。メディアデバイスには、カメラ、スキャナー、メディアプレーヤー、POS デバイスなどがあります。管理者やユーザーは、すべてまたは一部のデバイスのリダイレクトを制限できます。サーバー上でポリシーを編集するかユーザーデバイス上でグループポリシーを適用して、リダイレクト設定を構成します。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントの「[USB とクライアント側ドライブの考慮事項](#)」を参照してください。

重要:

サーバーポリシーでこの USB デバイスリダイレクトを禁止すると、ユーザー側でこの機能を有効にすることはできなくなります。

ユーザーは、デバイスのリダイレクトを常に許可または拒否するか、またはデバイスの接続時に毎回確認のメッセージを表示するように、Citrix Workspace アプリで権限を設定することができます。この設定は新しく接続するデバイスにのみ適用され、接続済みのデバイスには適用されません。

クライアントの **COM** ポートをサーバーの **COM** ポートにマップするには

クライアント側 COM ポートのマッピングを有効にすると、セッション内でローカルマシンの COM ポート上のデバイスにアクセスできるようになります。マップされたクライアントの COM ポートは、ほかのネットワークドライブのマッピングと同様の方法で使用できます。

コマンドプロンプトからクライアント COM ポートをマップできます。また、Windows の管理ツールのリモートデスクトップ (ターミナルサービス) 構成ツールまたはポリシーを使用して、クライアント COM ポートのマッピング

を制御することもできます。ポリシーについて詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントを参照してください。

重要:

COM ポートマッピングは TAPI 対応ではありません。

1. Citrix Virtual Apps and Desktops の展開では、クライアント COM ポートリダイレクトポリシー設定を有効にします。
2. Citrix Workspace アプリにログオンします。
3. コマンドプロンプトで以下を入力します:

```
net use comx: \\client\comz:
```

各項目の意味は次のとおりです:

- <x> はサーバー上の COM ポートの番号です (マッピングに使用できるのはポート 1~9 です)。
- <z> は、マップするクライアント COM ポートの番号です。

4. 操作を確認するには、

```
net use
```

マップされているドライブ、LPT ポート、およびマップされている COM ポートの一覧が表示されます。

この COM ポートを仮想デスクトップやアプリケーションのセッションで使用するには、割り当てられている COM ポートにデバイスをインストールします。たとえば、クライアントの COM1 をサーバーの COM5 にマップするには、セッション内で、COM5 に COM ポートデバイスをインストールします。この方法でマップした COM ポートは、ユーザーデバイスの COM ポートと同じように使用できます。

USB オーディオの構成

注:

- Windows 向け Citrix Workspace アプリを初めてアップグレードまたはインストールする場合、最新のテンプレートファイルをローカル GPO に追加します。テンプレートファイルをローカル GPO に追加する方法について詳しくは、「[グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート](#)」を参照してください。アップグレードの場合、最新のファイルをインポートするときに既存の設定が保持されます。
- この機能は、Citrix Virtual Apps サーバーでのみ使用できます。

USB オーディオデバイスを構成するには:

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリグループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [従来の管理用テンプレート (ADM)] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザーエクスペリエンス] の順に移動し、[一般的な USB リダイレクトによるオーディオ] をクリックします。

3. 設定を編集します。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。
5. コマンドプロンプトを管理者モードで開きます。
6. 次のコマンド
`gpupdate /force`を実行します。

大容量記憶装置デバイス

大容量記憶装置デバイスの場合のみ、USB サポートに加えて、クライアントドライブマッピングを介してリモートアクセスを利用できます。これは、Windows 向け Citrix Workspace アプリポリシー [クライアントデバイスをリモート処理します] > [クライアントドライブマッピング] から構成できます。このポリシーを適用すると、ユーザーのログオン時にユーザーデバイス上のドライブが自動的に仮想デスクトップ上のドライブ文字にマップされます。これらのドライブは、マップされたドライブ文字を持つ共有フォルダーとして表示されます。

クライアント側リムーバブルドライブマッピングと USB サポートの 2 つの設定の主な違いは以下のとおりです。

機能	クライアントドライブマッピング	USB サポート
デフォルトで有効	はい	いいえ
読み取り専用アクセスの構成が可能	はい	いいえ
セッション中にデバイスを安全に取り外せる	いいえ	はい（ユーザーがシステムトレイの [ハードウェアの安全な取り外し] をクリックする場合）

汎用 USB とクライアントドライブマッピングの両方のポリシーを有効にし、セッションの開始前に大容量記憶装置デバイスを挿入した場合は、USB サポート機能によるリダイレクトの前にクライアントドライブマッピングによるリダイレクトが実行されます。マスのストレージデバイスがセッションの開始後に装着された場合は、クライアントドライブマッピングの前に USB サポートによるリダイレクトが実行されます。

クライアントドライブマッピング

June 14, 2024

クライアントドライブマッピングで、データをホストとクライアントの間でストリームとして転送できます。ファイル転送は、ネットワークスループットの状態の変化に適応できます。また、使用可能な追加の帯域幅を使用して、データ転送速度を高めることもできます。

この機能は、デフォルトで有効になります。

この機能を無効にするには、次のレジストリキーを設定し、サーバーを再起動します：

パス: `HKEY_LOCAL_MACHINE\System\Currentcontrolset\services\picadm\Parameters`

名前: `DisableFullStreamWrite`

種類: `REG_DWORD`

値:

`0x01` - 無効、

`0` または削除 - 有効

Windows 向け Citrix Workspace アプリではユーザーデバイスでのデバイスマッピング（割り当て）機能がサポートされており、ユーザーはセッション内でこれらのデバイスを使用できます。次のことを実行できます：

- ローカルのディスクドライブ、プリンター、および COM ポートにセッションから透過的にアクセスする。
- セッションとローカルの Windows クリップボードの間で、データをコピーして貼り付ける。
- セッション内で、サーバー上のサウンドを再生する。

サインイン時、Citrix Workspace アプリは、使用できるクライアントドライブ、COM ポート、LPT ポートの情報をサーバーに送信します。デフォルトでは、クライアントドライブがサーバーのドライブ文字にマップされ、クライアントプリンターの印刷キューがサーバー上に作成されます。このため、これらのデバイスがサーバーに直接接続されているかのように見えます。マップされたクライアント側デバイスは、そのセッションを実行中のユーザーだけが使用できます。ユーザーがログオフするとマッピングが削除され、そのユーザーが次にログオンしたときに再び作成されます。

ログオン時に特定のデバイスが自動的にマップされないように設定するには、ポリシーのリダイレクト設定を使用します。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops のドキュメントを参照してください。

デバイスマッピングを無効にする

Windows のサーバーマネージャーを使用して、ユーザーデバイスマッピング（ドライブ、プリンター、ポートなどのオプション）を構成できます。指定できるオプションについて詳しくは、リモートデスクトップサービスのドキュメントを参照してください。

クライアントフォルダーのリダイレクト

クライアントフォルダーのリダイレクトは、クライアント側のファイルがホスト側のセッションのヘアクセスする方法を変更します。サーバー上でクライアント側ドライブのマッピングのみを有効にすると、クライアントの側の全ボリュームが UNC（Universal Naming Convention：汎用名前付け規則）リンクとしてセッションに自動的にマップされます。管理者がサーバー上でクライアントフォルダーのリダイレクトを有効にして、ユーザーがそれをユーザーデバイス上で構成すると、ユーザーが指定したローカルボリュームの一部がリダイレクトされます。

セッション内では、ユーザーデバイス上のすべてのファイルシステムではなく、ユーザー指定のフォルダーのみが UNC リンクとして表示されます。レジストリで UNC リンクを無効にすると、クライアントフォルダーはマップされ

たドライブとしてセッション内で表示されます。構成方法など、クライアントフォルダーのリダイレクトについて詳しくは Citrix Virtual Apps and Desktops のドキュメントを参照してください。

クライアントドライブをホスト側のドライブ文字にマップする

クライアント側ドライブのマッピング機能により、ホスト側のドライブ文字がユーザーデバイス上のドライブにリダイレクトされます。たとえば、Citrix ユーザーセッション内で表示される H ドライブにアクセスしたときに、Windows 向け Citrix Workspace アプリを実行するユーザーデバイスの C ドライブにリダイレクトされるように設定できます。

クライアントドライブマッピングは、Citrix の標準デバイスリダイレクト機能に透過的に組み込まれています。この方法でマップされたドライブ文字は、通常のネットワークドライブのマッピングの場合と同様に、ファイルマネージャー、エクスプローラー、およびアプリケーションで使用することができます。

仮想デスクトップやアプリケーションをホストするサーバーにインストールするときに、クライアントドライブが自動的にマップされるサーバーのドライブ文字のセットを設定できます。デフォルトでは、インストール時に、個々のハードディスクおよび CD ドライブに 1 文字ずつ、V からのアルファベットで未使用のドライブ文字がマップされます（クライアントのフロッピーディスクドライブには、元のドライブ文字がそのままマップされます）。この場合、セッションでのドライブマッピングは、次のようになります：

クライアントドライブ文字	セッション内でアクセスするときのドライブ文字:
A	A
B	B
C	V
D	U

サーバーは、サーバーのドライブ文字がクライアントのドライブ文字と競合しないように構成することができます。そのため、サーバーのドライブ文字は上位のドライブ文字に変更されています。

次の例では、サーバーの C ドライブを M に、D を N に変更すると、クライアントデバイスは C ドライブや D ドライブにそのままアクセスすることができます。この場合、セッションでのドライブマッピングは、次のようになります：

クライアントドライブ文字	セッション内でアクセスするときのドライブ文字:
A	A
B	B
C	C
D	D

クライアントドライブ文字

セッション内でアクセスするときのドライブ文字:

サーバーの C ドライブを置き換えるために使用するドライブ文字は、インストール時に定義できます。そのほかの固定ドライブおよび CD/DVD ドライブのドライブ文字は、連続するドライブ文字に置き換えられます。たとえば、C ドライブは M、D は N、E は O に置き換えられます。これらのドライブ文字が、既存のネットワークドライブのマッピングと競合しないようにしてください。ネットワークドライブをサーバードライブ文字と同じドライブ文字にマップすると、ネットワークドライブのマッピングが無効になります。

クライアント側デバイスの自動マッピングを無効にしない限り、ユーザーデバイスでサーバーに接続すると、クライアントのマッピングが再確立されます。デフォルトでは、クライアントドライブマッピングが有効になっています。設定を変更するには、リモートデスクトップ（ターミナルサービス）構成ツールを使用します。また、ポリシーを使用して、クライアントデバイスマッピングを詳細に制御できます。ポリシーについて詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops ドキュメントを参照してください。

マイク

June 14, 2024

Citrix Workspace アプリは、クライアント側の複数のマイク入力をサポートします。ローカルにインストールされたマイクは、次の目的で使用できます：

- ソフトフォンでの通話や Web 会議などのリアルタイムのアクティビティ。
- ホストされている録音アプリケーション（ディクテーションプログラムなど）の使用。
- 録画と録音。

Citrix Workspace アプリのユーザーは、コネクションセンターを使用して、デバイスに付属しているマイクを使用するかどうか選択することができます。Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS ユーザーも、ビューアの [基本設定] ダイアログボックスを使用してマイクおよび Web カメラを無効にできます。

グループポリシー

June 14, 2024

グループポリシーオブジェクト管理用テンプレート

次の規則を構成するには、グループポリシーオブジェクト管理用テンプレートを使用することをお勧めします：

- ネットワークルーティング
- プロキシサーバー
- 信頼するサーバーの構成
- ユーザールーティング
- リモートユーザーデバイス
- ユーザーエクスペリエンス

ドメインポリシーおよびローカルコンピューターのポリシーで `receiver.admx/receiver.adml` テンプレートファイルを使用することができます。ドメインポリシーの場合、グループポリシー管理コンソールを使ってテンプレートファイルをインポートします。インポートは、組織全体に存在する多くの異なるユーザーデバイスに Citrix Workspace アプリの設定を適用するのに有用です。単一ユーザーデバイスで変更する場合は、デバイス上のローカルのグループポリシーエディターを使ってテンプレートをインポートします。

Windows グループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレートを使用して Citrix Workspace アプリを構成することをお勧めします。

インストールディレクトリに、`CitrixBase.admx` および `CitrixBase.adml` 管理用テンプレートファイル (`receiver.adml` または `receiver.admx` 'receiver.adml') が含まれています。

注:

.admxml および .adml ファイルは、[互換性マトリックス](#)に記載されている Windows バージョンで使用するためのものです。

Citrix Workspace アプリを VDA とともにインストールする場合、ADMXML/ADML ファイルは通常 `<installation directory>\Online Plugin\Configuration` ディレクトリにあります。

Citrix Workspace アプリを VDA なしでインストールする場合、ADMXML/ADML ファイルは通常、次のディレクトリにあります。

- 64ビットの場合: `C:\Program Files (x86)\Citrix\ICA Client\Configuration directory`
- 32ビットの場合: `C:\Program Files\Citrix\ICA Client\Configuration directory`

Citrix Workspace アプリの各テンプレートファイルとその配置場所については以下の表を参照してください。

注:

最新バージョンの Citrix Workspace アプリと共に提供される GPO テンプレートファイルを使用することをお勧めします。

ファイルタイプ	ファイルの場所
receiver.adm	\ICA Client\Configuration
receiver.admx	\ICA Client\Configuration
receiver.adml	\ICA Client\Configuration\[MUIculture]
CitrixBase.admx	\ICA Client\Configuration
CitrixBase.adml	\ICA Client\Configuration\[MUIculture]

注:

- CitrixBase.admx\adml がローカル GPO に追加されないと、[ICA ファイルの署名を有効にします] ポリシーが失われることがあります。
- Citrix Workspace アプリをアップグレードする場合、最新のテンプレートをローカル GPO に追加します。以前の設定はインポート後も保持されます。詳しくは、次の手順を参照してください:

ローカル **GPO** に **receiver.admx/adml** テンプレートファイルを追加するには:

adm テンプレートファイルを使用して、ローカル GPO とドメインベース GPO の両方を構成できます。ADMX ファイルの管理については、[こちらの Microsoft MSDN の記事](#)を参照してください。

Citrix Workspace アプリをインストールしてから、以下のテンプレートファイルをコピーします:

ファイルタイプ	コピー元	コピー先
receiver.admx	Installation Directory\ICA Client\ Configuration\ receiver.admx	%systemroot%\ policyDefinitions
CitrixBase.admx	Installation Directory\ICA Client\ Configuration\ CitrixBase.admx	%systemroot%\ policyDefinitions
receiver.adml	Installation Directory\ICA Client\ Configuration\ [MUIculture]receiver. adml	%systemroot%\ policyDefinitions\ [MUIculture]

ファイルタイプ	コピー元	コピー先
CitrixBase.adml	Installation Directory\ICA Client\ Configuration\ MUIculture]\ CitrixBase.adml	%systemroot%\ policyDefinitions\ MUIculture]

注:

CitrixBase.admx/CitrixBase.adml を `\PolicyDefinitions` フォルダーに追加して、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] のテンプレートファイルを表示します。

セッションエクスペリエンス

June 14, 2024

アプリケーションの起動時間

セッションの事前起動機能を使用すると、通常時および高トラフィック負荷時のアプリケーションの起動時間が短縮され、ユーザーエクスペリエンスが向上します。事前起動機能を使用すると、事前起動セッションを作成できます。事前起動セッションは、ユーザーが Citrix Workspace アプリにログオンするとき、またはサインイン済みの場合は予定された時間に作成されます。

事前起動セッションにより、最初のアプリケーションの起動時間が短縮されます。ユーザーが Windows 向け Citrix Workspace アプリで新しいアカウント接続を追加した場合、次のセッションまで事前起動セッションは適用されません。このセッションでは、デフォルトのアプリケーション `ctxprelaunch.exe` が実行されます。ただし、このアプリケーションはユーザーには表示されません。

詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops の記事「[デリバリーグループの管理](#)」のセッションの事前起動とセッションの残留に関するガイダンスを参照してください。

セッションの事前起動機能はデフォルトでは無効になっています。この機能を有効にするには、Workspace のコマンドラインで `ENABLEPRELAUNCH=true` パラメーターを指定するか、レジストリキー `EnablePreLaunch` に `true` を設定します。デフォルト値 (null) は、事前起動が無効であることを示します。

注:

ドメインパススルー (SSON) 認証をサポートするようにクライアントマシンが構成されている場合、事前起動機能が自動的に有効になります。事前起動なしでドメインパススルー (SSON) を使用する場合は、

EnablePreLaunch レジストリキーの値を
false に設定します。

レジストリの場所は以下のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\[Wow6432Node\]Citrix\Dazzle`
- `HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle`

事前起動には 2 つの種類があります：

- 即時事前起動 - トラフィック量にかかわらず、ユーザーの資格情報が認証されると直ちに事前起動が開始されます。この設定は、通常のトラフィック負荷時に使用します。ユーザーは、Citrix Workspace アプリを再起動することで事前起動セッションを起動できます。
- 予定事前起動 - 予定した時間に事前起動が開始されます。予定事前起動は、ユーザーデバイスが実行中で認証済みの場合のみ開始されます。これら 2 つの条件が満たされない場合は、予定された事前起動時間になってもセッションが起動しません。ネットワークとサーバーの負荷を共有するため、セッションは予定された時刻を含む一定期間内に起動します。たとえば、事前起動が 13 時 45 分に予定されている場合は、セッションが実際に起動するのは 13 時 15 分から 13 時 45 分の間です。この設定は、トラフィックの負荷が高いときに使用します。

Citrix Virtual Apps サーバーでの事前起動の構成は次のとおりです：

- 起動前アプリケーションを作成、変更、または削除します。また、
- 起動前アプリケーションを制御するユーザーポリシー設定を更新します。

`receiver.admx` ファイルで事前起動機能をカスタマイズすることはできません。ただし、レジストリ値を変更することにより、事前起動の構成を変更できます。レジストリ値は、Windows 向け Citrix Workspace アプリのインストール中またはインストール後に変更できます。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` 値は、Workspace のインストール時に追加されます。
- `HKEY_CURRENT_USER` 値では、同一マシン上の特定ユーザーに異なる値を設定できます。ユーザーは、管理者権限がなくても `HKEY_CURRENT_USER` 値を変更できます。管理者は、この値を変更するためのスクリプトをユーザーに提供できます。

HKEY_LOCAL_MACHINE レジストリ値：

64 ビット Windows オペレーティングシステムの場合：`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\ICA Client\PreLaunch`

32 ビット Windows オペレーティングシステムの場合：`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\PreLaunch`

値の名前：**UserOverride**

種類：REG_DWORD

値：

0 - HKEY_CURRENT_USER の値が存在しても、HKEY_LOCAL_MACHINE の値を使用します。

1 - 存在する場合は HKEY_CURRENT_USER の値を使用します。そうでない場合は、HKEY_LOCAL_MACHINE の値を使用します。

値の名前: **State**

種類: REG_DWORD

値:

0 - 事前起動を無効にします。

1 - 即時事前起動を有効にします (ユーザーの資格情報が認証されたら事前起動が開始されます)。

2 - 予定事前起動を有効にします (Schedule 値に指定した時刻に事前起動が開始されます)。

値の名前: **Schedule**

種類: REG_DWORD

値:

予定事前起動を開始する、24 時間形式の時刻と曜日です。入力形式は次のとおりです:

HH:MM	M:T:W:TH:F:S:SU - ここで、HH は時、MM は分です。 M:T:W:TH:F:S:SU は曜日です。たとえば、月曜日、水曜日、および金曜日の 13 時 45 分に予定事前起動を有効にするには、Schedule=13:45 と設定します。	1:0:1:0:1:0:0。セッションは実際には、13 時 15 分から 13 時 45 分の間に起動します。
-------	--	---

HKEY_CURRENT_USER レジストリ値:

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\ICA Client\Prelaunch`

値については、HKEY_LOCAL_MACHINE と同じ **State** および **Schedule** 値を使用します。

Desktop Viewer

企業ニーズは、各社で異なる場合があります。ユーザーが仮想デスクトップにアクセスする方法の要件は、ユーザーによって、そして企業ニーズが展開するにつれて変化する可能性があります。仮想デスクトップに接続するというユーザーエクスペリエンスや、ユーザーが接続を構成できる範囲は、Windows 向け Citrix Workspace アプリのセットアップ方法によって異なります。

ユーザーが仮想デスクトップを操作する必要がある場合は、**Desktop Viewer** を使用します。ユーザーの仮想デスクトップには公開仮想デスクトップを使用でき、共有または専用デスクトップのいずれでも可能です。このアクセスシナリオでは、**Desktop Viewer** ツールバー機能により、ユーザーが仮想デスクトップをローカルデスクトップ上

のウィンドウ内に開いて、必要に応じて仮想デスクトップの表示領域や表示サイズを変更できます。ユーザーは必要に応じて設定を変更でき、同じユーザーデバイス上で複数の Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS 接続を使用して複数の仮想デスクトップを実行できます。

注:

仮想デスクトップの解像度を変更する場合は、Citrix Workspace アプリを使用します。Windows コントロールパネルで画面の解像度を変更することはできません。

Desktop Viewer でのキーボード入力

Desktop Viewer セッションでは、**Windows** ロゴ + L キーはローカルコンピューターに送信されます。

Ctrl+Alt+Del キーは、ローカルコンピューターに送信されます。

通常、Microsoft の特定のユーザー補助機能（例：固定キー、フィルターキー、切り替えキー）を有効にするキー入力は、ローカルコンピューターに送信されます。

Desktop Viewer のユーザー補助機能として、Ctrl + Alt + Break キーを押すと、ポップアップウィンドウで **Desktop Viewer** ツールバーが開きます。

Ctrl + Esc キーは、リモートの仮想デスクトップに送信されます。

注:

デフォルトでは、Desktop Viewer を最大化した場合は Alt + Tab キーを押すとセッション内のウィンドウ間でフォーカスが切り替わります。Desktop Viewer をウィンドウ内に表示している場合は、Alt + Tab キーを押すとセッション外のウィンドウ間でフォーカスが切り替わります。

ホットキーシーケンスは、Citrix により設計されたキーの組み合わせです。ホットキーシーケンスの例を挙げると、Ctrl + F1 シーケンスは Ctrl + Alt + Del キーを再現し、Shift + F2 はアプリケーションの全画面モードとウィンドウモードを切り替えます。

注:

Desktop Viewer で表示されている仮想デスクトップ（つまり、仮想アプリと仮想デスクトップのセッション）ではホットキーシーケンスを使用できません。ただし、公開アプリケーション（つまり、仮想アプリセッション）では使用できます。

状態インジケータのタイムアウト

ユーザーがセッションを起動しているときに状態インジケータが表示される時間を変更できます。

タイムアウト期間を変更するには、次の手順を実行します:

1. レジストリエディターを起動します。
2. 次のパスに移動します:

- 64 ビットの場合: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\ICA CLIENT\Engine`
- 32 ビットの場合: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA CLIENT\Engine\`

3. 次のようにレジストリキーを作成します:

- 種類: `REG_DWORD`
- 値の名前: `SI_INACTIVE_MS`
- 値: 状態インジケータをすぐに非表示にしたい場合は、4 に設定します。

このキーを構成すると、状態インジケータが頻繁に、表示されてから非表示になることがあります。これは、正常な動作です。状態インジケータが表示されないようにするには、次の手順を実行します:

1. レジストリエディターを起動します。

2. 次のパスに移動します:

- 64 ビットの場合: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\ICA CLIENT\`
- 32 ビットの場合: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\ICA CLIENT\`

3. 次のようにレジストリキーを作成します:

- 種類: `REG_DWORD`
- 値の名前: `NotificationDelay`
- 値: ミリ秒単位の任意の値 (たとえば、120000)

仮想アプリとデスクトップの再接続エクスペリエンスの向上

Citrix Workspace 2302 リリースでは、切断された仮想アプリやデスクトップに再接続する際のユーザーエクスペリエンスが強化されています。

Citrix Workspace アプリが、切断された Citrix Workspace アプリを更新するか、ワークスペースコントロール機能の一部として新しい仮想アプリまたはデスクトップを開始しようとする時、次のプロンプトが表示されます:

Restore session?

You have one or more apps/desktops running from the previous session in Citrix Workspace app. Would you like to restore them?

Remember my preference



このプロンプトは、Global App Configuration Service で **show reconnection prompt to reconnect sessions** が true に設定されている場合にのみ表示されます。

[復元] をクリックして再接続し、切断された新しい仮想アプリとデスクトップを開きます。新しく選択したアプリとデスクトップのみを起動する場合は、[キャンセル] をクリックします。

また、[基本設定を記憶する] を選択して、選択した設定を次のログインに適用することもできます。

上記の新しい [セッションを復元しますか] メッセージは次の場合にのみ表示されます：

- ユーザーがワークスペースストアに属するアプリを起動しようとする、
- ワークスペースコントロール機能が管理ポリシーまたはアプリ構成設定で構成されていない、
- ワークスペースコントロールの再接続オプションが、クライアントでデフォルトに設定されている。

注：

[再接続オプション] の再接続設定は、ダイアログボックスで設定されたものよりも優先されます。詳しくは、「[\[高度な設定\] ダイアログを使用した再接続オプションの構成](#)」を参照してください。

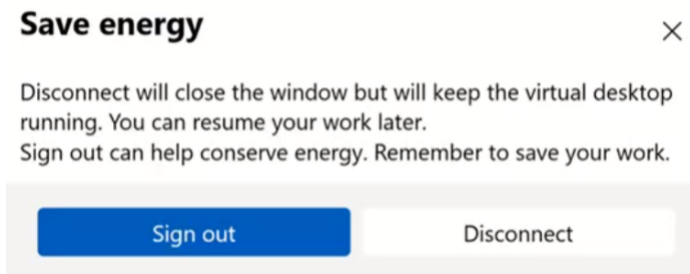
Citrix Workspace アプリでのサステナビリティに関する取り組み

ネイティブ起動の場合

この機能が有効になっていると、ユーザーが仮想デスクトップを閉じるときに、デスクトップセッションからのサインアウトを求めるプロンプトが表示されます。ユーザーがログインしていないときに仮想マシンをシャットダウンするために使用される Windows OS ポリシーがある場合、この機能は電力の節約に役立つ可能性があります。

この機能を有効にするには、次の手順を実行します：

1. Citrix Studio に移動します。
2. 左側のナビゲーションペインで [デリバリーグループ] をクリックします。
3. [デリバリーグループ] セクションから必要な VDA を選択します。
4. [編集] アイコンをクリックします。[デリバリーグループの編集] ページが表示されます。
5. 左側のナビゲーションペインで [デスクトップ] をクリックします。
6. キーワードを追加する必要がある必須の VDA を選択します。
7. [編集] をクリックします。[デスクトップの編集] ページが表示されます。
8. [説明] フィールドで `LogoffOnClose` キーワードを **true** に設定します。
9. [OK] をクリックします。仮想デスクトップを閉じると、次のダイアログボックスが表示されます：



[省エネ操作] 画面のテキストのカスタマイズ [省エネ操作] 画面のテキストをカスタマイズすることもできます。

1. 前のセクションの手順 1~8 に従います。
2. `PromptMessage` キーワードを [説明] フィールドの必須テキストに設定します。

例：

```
1 KEYWORDS:LogoffOnClose=true PromptMessage="Do you want to Log off?"  
2 <!--NeedCopy-->
```


Edit Desktop

Display name:

TSVDA-2019

Description:

KEYWORDS:LogoffOnClose=true PromptMessage="Do you want to Log off?"

The name and description are shown in Citrix Workspace app.

Restrict launches to machines with tag:

Select...

Allow everyone with access to this delivery group to use a desktop

Restrict desktop use:

Allow list ?

You have not yet added any users or groups.

[Add](#)

Enable desktop

Clear this check box to disable delivery of this desktop.

Session roaming

When enabled, if the user launches this desktop and then moves to another device, the same session is used, and applications are available on both devices. When disabled, the session no longer roams between devices.

OK

Cancel

キーワードは、グループに割り当てられた新しいデスクトップマシンにデフォルトで割り当てられます。既存のデスクトップマシンの場合、変更を適用するには次の PowerShell コマンドを実行する必要があります：

```

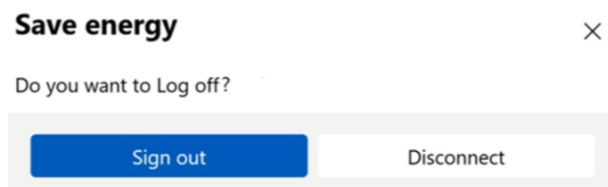
1 $dg = Get-BrokerDesktopGroup -Name '<group name>' -Property 'Name'
   , 'Uid'
2
3 $apr = @( Get-BrokerAssignmentPolicyRule -DesktopGroupUid $dg.Uid
   -Property 'Description' )
4
5 Get-BrokerMachine -DesktopGroupUid $dg.Uid -IsAssigned $true | Set
   -BrokerMachine -Description $apr[0].Description
6 <!--NeedCopy-->

```

この PowerShell スクリプトを使用すると、単一のデリバリーグループに対して複数の割り当てポリシー規

則を設定できます。Citrix Studio を使用すると、複数の割り当てポリシー規則を構成できます。各規則には一意の説明値と、設定可能な、さまざまなキーワードのセットが含まれます。

3. **[OK]** をクリックします。仮想デスクトップを閉じると、次のダイアログボックスが表示されます。

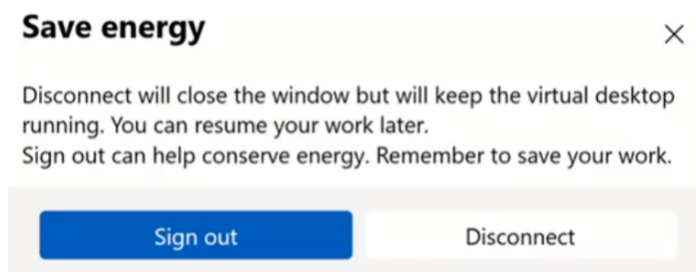


ハイブリッドクラウド起動の場合

Citrix Workspace アプリ 2402 バージョン以降では、この機能はクラウド上のハイブリッド起動で利用できます。この機能を有効にすると、ユーザーが仮想デスクトップを閉じるときに、デスクトップセッションからのサインアウトを求めるプロンプトが表示されます。ユーザーがログインしていないときに仮想マシンをシャットダウンするために使用される Windows OS ポリシーがある場合、この機能は省エネに役立ちます。

この機能を有効にするには、次の手順を実行します：

1. Citrix Studio に移動します。
2. 左側のナビゲーションペインで [デリバリーグループ] をクリックします。
3. [デリバリーグループ] セクションから必要な VDA を選択します。
4. [編集] アイコンをクリックします。[デリバリーグループの編集] ページが表示されます。
5. 左側のナビゲーションペインで [デスクトップ] をクリックします。
6. キーワードを追加する必要がある必須の VDA を選択します。
7. [編集] をクリックします。[デスクトップの編集] ページが表示されます。
8. [説明] フィールドで `ICA-LogOffOnClose` キーワードを **true** に設定します。
9. **[OK]** をクリックします。仮想デスクトップを閉じると、次のダイアログボックスが表示されます：



省エネ操作画面のテキストのカスタマイズ [Save energy] 画面のテキストをカスタマイズすることもできます。

1. 前のセクションの手順 1~8 に従います。
2. `ICA-PromptMessage` キーワードを [説明] フィールドの必須テキストに設定します。

注:

説明フィールドに入力できる文字数は最大 200 文字です。

例:

```
1 KEYWORDS:ICA-LogOffOnClose=true ICA-PromptMessage="Do you want to  
Log off?"  
2 <!--NeedCopy-->
```

Edit Desktop

Display name:

Description:

The name and description are shown in Citrix Workspace app.

Restrict launches to machines with tag:

Allow everyone with access to this delivery group to use a desktop

Restrict desktop use:

Allow list ? ↓
CWAWINAD\Domain Users
TestVeda(CWAWINAD\TestVeda)

Enable desktop
Clear this check box to disable delivery of this desktop.

Session roaming
When enabled, if the user launches this desktop and then moves to another device, the same session is used, and applications are available on both devices. When disabled, the session no longer roams between devices.

キーワードは、グループに割り当てられた新しいデスクトップマシンにデフォルトで割り当てられます。既存のデスクトップマシンの場合、変更を適用するには次の PowerShell コマンドを実行する必要があります：

```
1 $dgc = Get-BrokerDesktopGroup -Name '<group name>' -Property 'Name'  
    , 'UId'  
2  
3 $sapr = @( Get-BrokerAssignmentPolicyRule -DesktopGroupUId $dgc.UId  
    -Property 'Description' )  
4  
5 Get-BrokerMachine -DesktopGroupUId $dgc.UId -IsAssigned $true | Set  
    -BrokerMachine -Description $sapr[0].Description  
6 <!--NeedCopy-->
```

この PowerShell スクリプトを使用すると、単一のデリバリーグループに対して複数の割り当てポリシー規則を設定できます。Citrix Studio を使用すると、複数の割り当てポリシー規則を構成できます。各規則には一意の説明値と、設定可能な、さまざまなキーワードのセットが含まれます。

3. [OK] をクリックします。仮想デスクトップを閉じると、次のダイアログボックスが表示されます。



Citrix Workspace アプリ Desktop Lock

June 14, 2024

ローカルのデスクトップを操作する必要がない場合は、Citrix Workspace アプリ Desktop Lock を使用できます。Desktop Viewer（有効な場合）を使用することはできますが、ツールバー上には次の必須オプションしか表示されません：

- Ctrl+Alt+Del
- 基本設定
- デバイス
- 切断。

Windows 向け Citrix Workspace アプリ Desktop Lock は、シングルサインオンが有効でありストアが構成済みのドメイン参加マシンで機能します。PNA サイトはサポートしません。以前のバージョンの Desktop Lock は、Citrix Receiver for Windows 4.2 以降へアップグレードするとサポートされません。

注：

Desktop Lock を有効にして Windows 向け Citrix Workspace アプリを使用する場合、ユーザーは、ユーザ

ーが使用できるすべてのデスクトップの名前をアルファベット順に並べ替えられたときの最初のデスクトップにサインインします。現在、ユーザーがサインインする必要があるデスクトップを選択するオプションはありません。また、この機能はデスクトップのみをサポートし、アプリはサポートしません。

Windows 向け Citrix Workspace アプリを、`/includeSSON`フラグを使用してインストールします。adm/admx ファイルまたはコマンドラインオプションのいずれかを使って、ストアおよびシングルサインオンを構成します。詳しくは、「[インストール](#)」を参照してください。

次に、管理者として[Citrix ダウンロード](#)ページにある `CitrixWorkspaceDesktopLock.msi` を使って Citrix Workspace アプリ Desktop Lock をインストールします。

システム要件

- Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ。詳しくは、[Microsoft のダウンロードページ](#)を参照してください。
- Windows 10 (Anniversary Update を含む)、および Windows 11 でサポートされます。
- ネイティブプロトコルのみを介して StoreFront に接続します。
- ドメイン参加のエンドポイントです。
- ユーザーデバイスは LAN または WAN に接続する必要があります。

ローカルアプリアクセス

重要

ローカルアプリアクセスを有効にすると、グループポリシーオブジェクトテンプレートまたは同様のポリシーでフルロックダウンが適用されていない限り、ローカルデスクトップアクセスが許可される場合があります。詳しくは、Citrix Virtual Apps and Desktops のドキュメントで「[ローカルアプリアクセスと URL リダイレクト](#)」セクションを参照してください。

Citrix Workspace アプリ Desktop Lock の使用

- Citrix Workspace アプリ Desktop Lock では次の Citrix Workspace アプリの機能を実行できます。
 - 3Dpro、Flash、USB、HDX Insight、Microsoft Lync 2013 プラグイン、およびローカルアプリアクセス
 - ドメイン、2 要素認証、またはスマートカード認証のみ
- Citrix Workspace アプリ Desktop Lock セッションを切断すると、エンドデバイスがログアウトされます。
- Flash のリダイレクトは Windows 8 以降では無効です。Windows 7 では有効です。
- Desktop Viewer は Home、Restore、Maximize、および Display の各プロパティが未設定の Citrix Workspace アプリ Desktop Lock に最適化されています。
- Desktop Viewer のツールバーでは、Ctrl+Alt+Del キーの組み合わせを使用できます。

- Windows+L キー以外のほとんどの Windows ショートカットキーをリモートセッションで実行できます。
- 接続を無効にするまたはデスクトップ接続の Desktop Viewer を無効にする場合、Ctrl+F1 キーを押すと Ctrl+Alt+Del を押すのと同じように動作します。
- ユーザーがシステムにログインすると、端末にローカルユーザープロファイルが作成されます。プロファイルは、ユーザーがログアウトしても Profile Management 構成に基づいて、端末に保持されます。

注:

Desktop Lock がインストールされ、LiveInDesktopDisconnectOnLockがレジストリパス HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\Dazzle または HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\Dazzle で **False** に設定されている場合、エンドポイントが休止状態またはスタンバイモードから復帰すると、アクティブなセッションが切断されます。

Citrix Workspace アプリ Desktop Lock のインストール

この手順では、Citrix Workspace アプリ Desktop Lock を使用して仮想デスクトップが表示されるように、Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールします。スマートカードを使用する展開については、「[スマートカード](#)」を参照してください。

1. ローカルの管理者アカウントを使用してログオンします。
2. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します:

例:

```
1 CitrixWorkspaceApp.exe
2 /includeSSON
3 STORE0="DesktopStore;https://my.storefront.server/Citrix/MyStore/
  discovery;on;Desktop Store"
4 <!--NeedCopy-->
```

コマンドは、Citrix Workspace アプリおよびインストールメディアのプラグイン >**Windows>Citrix Workspace** アプリフォルダーで利用できます。コマンドについて詳しくは、「[インストール](#)」にある Citrix Workspace アプリのインストールに関するドキュメントを参照してください。

3. インストールメディアの同じフォルダーにある `CitrixWorkspaceDesktopLock.msi` をダブルクリックします。Desktop Lock ウィザードが開きます。画面の指示に従って操作します。
4. インストールが完了したら、ユーザーデバイスを再起動します。デスクトップへのアクセスが許可されていて、ドメインユーザーとしてログオンすると、Citrix Workspace アプリ Desktop Lock でデスクトップが表示されます。

ただし、インストールの完了後にユーザーデバイスを管理できるようにするため、`CitrixWorkspaceDesktopLock.msi` をインストールしたときのアカウントでは代替シェルが使用されません。このアカウントを削除すると、デバイスにログオンして管理することはできません。

Citrix Workspace アプリ Desktop Lock のサイレントインストールを実行するには、次のコマンドラインを使用します。

```
msiexec /i CitrixWorkspaceDesktopLock.msi /qn
```

Citrix Workspace アプリ Desktop Lock の構成

非管理者としてログインすると、Desktop Lock は割り当てられたデスクトップセッションを自動的に起動します。

Active Directory ポリシーを使用して、ユーザーが仮想デスクトップを休止状態にできないようにします。

Citrix Workspace アプリ Desktop Lock を構成するときは、インストール時に使用した管理者アカウントを使用します。

- receiver.admx (または receiver.adml) と receiver_usb.admx (.adml) ファイルがグループポリシーにロードされているかどうか確認します (ポリシーは [コンピューターの構成] または [ユーザーの構成] > [管理用テンプレート] > [従来の管理用テンプレート (ADMX)] > [Citrix コンポーネント] の順に展開すると表示されます)。これらの.admx ファイルは、%Program Files%\Citrix\ICA Client\Configuration\にあります。
- USB 基本設定 - ユーザーが USB デバイスを接続すると、そのデバイスは自動的に仮想デスクトップで使用可能になります。このとき、ユーザーが何らかの操作を行う必要はありません。仮想デスクトップは USB デバイスを制御して、ユーザーインターフェイスに表示します。
 - USB ポリシー規則を有効にします。
 - [Citrix Workspace アプリ] > [クライアントデバイスをリモート処理します] > [一般的な USB のリモート処理] の順に選択して、[既存の USB デバイス] と [新しい USB デバイス] ポリシーを有効にして構成します。
- ドライブマッピング - [Citrix Workspace アプリ] > [クライアントデバイスをリモート処理します] の順に選択して、[クライアントドライブマッピング] ポリシーを有効にして構成します。
- マイク - [Citrix Workspace アプリ] > [クライアントデバイスをリモート処理します] の順に選択して、[クライアント側マイク] ポリシーを有効にして構成します。

Desktop Lock を実行する Windows デバイスでのスマートカードの使用を構成

1. StoreFront を構成します。
 - a) Citrix XML Service の DNS アドレス解決を有効にして、Kerberos 認証を使用できるように構成します。
 - b) StoreFront サイトの HTTPS アクセスを構成して、ドメインの証明機関による署名付きのサーバー証明書を作成し、デフォルトの Web サイトに HTTPS バインドを追加します。

- c) [スマートカードパススルー認証] が有効になっていることを確認します（デフォルトで有効になっています）。
 - d) [Kerberos] を有効にします。
 - e) [Kerberos] および [スマートカードパススルー認証] を有効にします。
 - f) IIS の Default Web Site で [匿名アクセス] を有効にして、[統合 Windows 認証] を使用します。
 - g) IIS の Default Web Site の SSL 設定で [SSL が必要] チェックボックスがオフで、[クライアント証明書] で [無視] が選択されていることを確認します。
2. グループポリシー管理コンソールを使用して、ユーザーデバイスでローカルコンピューターのポリシーを構成します。
- a) %Program Files%\Citrix\ICA Client\Configuration\から Receiver.admx テンプレートをインポートします。
 - b) [管理用テンプレート] > [従来の管理用テンプレート (ADMX)] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] の順に展開します。
 - c) [スマートカード認証] を有効にします。
 - d) [ローカルユーザー名とパスワード] を有効にします。
3. Citrix Workspace アプリ Desktop Lock をインストールする前に、ユーザーデバイスを構成します。
- a) Windows Internet Explorer の信頼済みサイトの一覧に、Delivery Controller の URL を追加します。
 - b) Internet Explorer の信頼済みサイトの一覧に、最初のデリバリーグループの URL を追加します。URL は、「desktop://delivery-group-name」形式で追加します。
 - c) 信頼済みサイトに対する Internet Explorer の自動ログオン機能を有効にします。

Citrix Workspace アプリ Desktop Lock がユーザーデバイスにインストールされている場合、スマートカード取り出し時の動作に競合が生じないようにポリシーが適用されます。たとえば、Windows のスマートカードの取り出しポリシーがデスクトップで強制ログオフに設定されている場合、Windows のスマートカードの取り出しポリシーが設定されているかどうかにかかわらず、ユーザーはユーザーデバイスからログオフする必要があります。Desktop Lock により、ユーザーデバイスの整合性が維持されます。これは、Citrix Workspace アプリ Desktop Lock が有効なユーザーデバイスにのみ適用されます。

Desktop Lock の削除

次のようにコンポーネントを両方とも削除する必要があります：

1. Citrix Workspace アプリ Desktop Lock のインストールと構成に使用したローカル管理者アカウントでログオンします。
2. プログラムの削除や変更を行うための Windows 機能（コントロールパネルの [プログラムと機能] など）を開き、以下の操作を行います：
 - Citrix Workspace アプリ Desktop Lock をアンインストールします。
 - Windows 向け Citrix Workspace アプリをアンインストールします。

リモートセッションでの **Windows** ショートカットキーの実行

ほとんどの Windows ショートカットキーはリモートセッションで実行できます。このセクションでは、一般的なものについていくつか説明します。

Windows

- Win+D - すべてのウィンドウをデスクトップ上で最小化します。
- Alt+Tab - アクティブなウィンドウを変更します。
- Ctrl+Alt+Del - Ctrl+F1 および Desktop Viewer ツールバーを介します。
- Alt+Shift+Tab
- Windows+Tab
- Windows+Shift+Tab
- Windows+ すべての文字キー

Windows 8

- Win+C - チャームを開きます。
- Win+Q - チャームを検索します。
- Win+H - チャームを共有します。
- Win+K - デバイスのチャーム。
- Win+I - 設定のチャーム。
- Win+Q - アプリを検索します。
- Win+W - 設定を検索します。
- Win+F - ファイルを検索します。

Windows 8 のアプリ

- Win+Z - アプリのオプションを開きます。
- Win+, - アプリを左にスナップします。
- Win+Shift+, - アプリを右にスナップします。
- Ctrl+Tab - アプリ履歴を循環させます。
- Alt+F4 - アプリを閉じます。

デスクトップ

- Win+D - デスクトップを開きます。
- Win+,- デスクトップでプレビューします。
- Win+B - デスクトップに戻ります。

その他

- Win+U - コンピューターの簡単操作センターを開きます。
- Ctrl+Esc - 画面を開始します。
- Win+Enter - Windows ナレーターを開きます。
- Win+X - システムユーティリティ設定メニューを開きます。
- Win+PrintScrn - スクリーンショットを取りピクチャに保存します。
- Win+Tab - スイッチ一覧を開きます。
- Win+T - タスクバーの開いているウィンドウをプレビューします。

ソフトウェア開発キット (SDK) と API

June 14, 2024

Certificate Identity Declaration SDK

Certificate Identity Declaration (CID) SDK を使用すると、開発者はプラグインを作成できます。このプラグインにより、クライアントマシンにインストールされている証明書を使用して、Citrix Workspace アプリが StoreFront サーバーに認証できます。CID は、スマートカードベースの認証を実行せずに、ユーザーのスマートカード ID を StoreFront サーバーに宣言します。

[Windows 向け Citrix Workspace の Certificate Identity Declaration](#)の最新バージョンは **2212** です。

詳しくは、「[Certificate Identity Declaration SDK for Citrix Workspace app for Windows](#)」のドキュメントを参照してください。

Citrix Common Connection Manager SDK

Common Connection Manager (CCM) SDK は、基本的な操作をプログラマ的にやりとりして実行できるネイティブ API のセットを提供します。この SDK は、Windows 向け Citrix Workspace アプリインストールパッケージの一部であるため、別途ダウンロードする必要はありません。

注:

起動に関連する API によっては、仮想アプリと仮想デスクトップのセッションの起動プロセスの開始に ICA ファイルが必要な場合があります。

CCM SDK の機能は次のとおりです。

- セッションの起動

- 生成された ICA ファイルを使用してアプリケーションおよびデスクトップを起動できます。
- セッションの切断
 - コネクションセンターを使用した切断と同様の操作です。切断は、すべてのセッションまたは特定のユーザーに対して行うことができます。
- セッションのログオフ
 - コネクションセンターを使用したログオフと同様の操作です。ログオフは、すべてのセッションまたは特定のユーザーに対して行うことができます。
- セッション情報
 - 起動されたセッションの接続関連情報を取得するさまざまな方法を提供します。対象となるのは、デスクトップセッション、アプリケーションセッション、リバースシームレスアプリケーションセッションなどです。

SDK のドキュメントについては、[Programmers guide to Citrix CCM SDK](#)を参照してください。

Citrix 仮想チャネル SDK

Citrix 仮想チャネルソフトウェア開発キット (SDK) は、ICA プロトコルを使用する追加の仮想チャネルのための、サーバー側アプリケーションやクライアント側ドライバーの作成をサポートします。サーバー側仮想チャネルアプリケーションは、Citrix Virtual Apps and Desktops サーバー上にあります。他のクライアントプラットフォーム用の仮想ドライバーの作成については、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

仮想チャネル SDK には、以下のものが用意されています。

- Citrix Server API SDK (WFAPI SDK) の仮想チャネル機能とともに使用して新しい仮想チャネルを作成する、Citrix Virtual Driver Application Programming Interface (VD-API)。VD-API によって提供される仮想チャネルサポートは、独自の仮想チャネルを容易に作成できるように設計されています。
- 視覚的要素を強化し、ICA と統合されたサードパーティアプリケーションをサポートする Windows Monitoring API。
- プログラミングテクニックの実例となる仮想チャネルサンプルプログラムの、実際に機能するソースコード。
- 仮想チャネル SDK では、WFAPI SDK で仮想チャネルのサーバー側を作成する必要があります。

[仮想チャネル SDK for Windows](#)の最新バージョンは **2302** です。

詳しくは、[Citrix Virtual Channel SDK for Citrix Workspace app for Windows](#)のドキュメントを参照してください。

Fast Connect 3 Credential Insertion API

Fast Connect 3 Credential Insertion API は、シングルサインオン (SSON) 機能に対してユーザーの資格情報を提供するインターフェイスです。この機能は、Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 4.2 以降で利用

できます。この API により、Citrix パートナーは、StoreFront を使用して仮想アプリケーションまたはデスクトップにユーザーをログオンさせ、その後でそれらのセッションからユーザーを切断する、認証や SSO にかかわる製品を提供できます。

Windows 向け Citrix Workspace の Fast Connect API の最新バージョンは **2212** です。

詳しくは、「[Fast Connect 3 Credential Insertion API for Citrix Workspace app for Windows](#)」のドキュメントを参照してください。

Windows 向け Citrix Workspace を展開するためのスクリプト

これらは、Citrix Workspace アプリを展開および構成するためのサンプルスクリプトです。

Windows 向け Citrix Workspace を展開するためのスクリプトの最新バージョンは **2212** です。

Storebrowse

June 14, 2024

注:

この記事は、Citrix Workspace のオンプレミス展開にのみ適用されます。クラウド展開については、「[Workspace の Storebrowse](#)」のドキュメントを参照してください。

Storebrowse は、クライアントとサーバー間の相互通信に使用されるコマンドラインユーティリティです。StoreFront 内および Citrix Gateway 内のすべての操作を認証するために使用されます。

Storebrowse ユーティリティを使用すると、管理者は以下のような操作を自動化できます:

- ストアを追加します。
- 構成済みのストアから公開アプリと公開デスクトップを一覧表示します。
- 公開された仮想アプリと仮想デスクトップを選択して、ICA ファイルを手動で生成します。
- **Storebrowse** コマンドラインを使用して ICA ファイルを生成します。
- 公開アプリケーションを起動します。

Storebrowse ユーティリティは、**Authmanager** コンポーネントの一部です。Citrix Workspace アプリのインストールが完了すると、**Storebrowse** ユーティリティは **AuthManager** インストールフォルダーに格納されます。

Storebrowse ユーティリティが **Authmanager** コンポーネントにインストールされているかどうかは、次のレジストリパスを確認してください:

管理者が **Citrix Workspace** アプリをインストールする場合:

32 ビットマシンの場合	[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\AuthManager\Inst
64 ビットマシンの場合	[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\A

ユーザー（管理者以外）が **Citrix Workspace** アプリをインストールする場合：

32 ビットマシンの場合	[HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\AuthManager\Inst
64 ビットマシンの場合	[HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\A

要件

- Windows 向け Citrix Workspace アプリバージョン 1808 以降。
- 530MB 以上の空きディスクスペース。
- 2GB の RAM。

互換性マトリックス

Storebrowse ユーティリティは、以下のオペレーティングシステムと互換性があります：

オペレーティングシステム

Windows 10 32 ビット版および 64 ビット版

Windows Server 2022

Windows Server 2016

Windows Server 2008 R2 (64 ビット版)

Windows Server 2008 R2 (64 ビット版)

接続

Storebrowse ユーティリティは、以下の接続の種類をサポートします：

- HTTP ストア
- HTTPS ストア
- Citrix Gateway 11.0 以降

注:

Storebrowse ユーティリティは、HTTP ストア上でコマンドラインを使用して資格情報を承認しません。

認証方法

StoreFront サーバー StoreFront は、ストアにアクセスするためのさまざまな認証方法をサポートしますが、すべてが推奨されるわけではありません。セキュリティ上の理由により、ストアの作成時には一部の認証方法がデフォルトで無効になります。

- **ユーザー名とパスワード**: ストアにアクセスするときに、認証のために資格情報を入力します。デフォルトで、最初のストアの作成時に、指定ユーザー認証が有効になります。
- **ドメインパススルー**: ドメインに参加している Windows コンピューターに認証されると、ストアに自動的にログオンできます。このオプションを使用するには、Citrix Workspace アプリのインストール時にパススルー認証を有効にします。ドメインパススルーについて詳しくは、「[パススルー認証の構成](#)」を参照してください。
- **HTTP 基本**: 外部ユーザーインターフェイスを使用してドメイン修飾ユーザー名とパスワードを取得する、サードパーティクライアント統合および Web ポータルで使用されます。StoreFront は、IIS の基本認証機能を使用して、資格情報を StoreFront サーバーに転送します。次に、StoreFront は [Domain Services](#) または [Broker XML Service 認証](#) を使用して資格情報を検証し、グループ情報を取得します。HTTP 基本認証を有効にする方法については、「[認証方法の管理](#)」ドキュメントの「[HTTP 基本](#)」を参照してください。
- **Storebrowse の高度な NetScaler ポリシー**: Windows 向け Citrix Workspace アプリは、Storebrowse を使用した NetScaler Gateway の高度なポリシーをサポートします。サポートされている認証プロトコルは LDAP 認証です。

注:

nFactor 認証プロトコルは、Windows 上の Storebrowse ではサポートされていません。

Storebrowse ユーティリティは、以下のいずれかの方式の認証方法をサポートします:

- **Storebrowse** ユーティリティに組み込みの [AuthManager](#) を使用します。注: **Storebrowse** ユーティリティを使用する場合、StoreFront で HTTP 基本認証方式を有効にします。この方法は、ユーザーが **Storebrowse** コマンドを使用して資格情報を提供する場合に適用されます。
- Windows 向け Citrix Workspace アプリに含まれる [Authmanager](#) を使用します。ドメインパススルー認証を使用する場合は、この方法を使用できます。詳しくは、「[ドメインパススルー認証](#)」を参照してください。

公開デスクトップまたはアプリケーションからの起動

ICA ファイルを使用せずに、ストアから直接リソースを起動できるようになりました。

注:

Storebrowse コマンドを使用して SaaS アプリ、または公開コンテンツを開くことはできません。

コマンドの使用方法

以下のセクションでは、**Storebrowse** ユーティリティで使用できるコマンドについて詳しく説明します。

ストアの追加

`-a, --addstore`

説明:

新しいストアを追加します。ストアの完全な URL を返します。失敗するとエラーが表示されます。

注:

複数ストア構成は、**Storebrowse** ユーティリティでサポートされています。

StoreFront のコマンド例:

コマンド:

```
storebrowse.exe -U *username* -P *password* -D *domain* -a *URL of Storefront*
```

例:

```
.\storebrowse.exe -U {Username} -P {Password} -D {Domain} -a https://my.firstexamplestore.net'
```

Citrix Gateway のコマンド例:

コマンド:

```
storebrowse.exe -U *username* -P *password* -D *domain* -a *URL of CitrixGateway*
```

例:

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -a < https://mysecondexample.com>
```

ヘルプ

`/?`

説明:

Storebrowse ユーティリティの使用法の詳細を提供します。

ストアの一覧表示

`(-l), --liststore`

説明:

ユーザーが追加したストアを一覧表示します。

StoreFront のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -l
```

Citrix Gateway のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -l
```

列挙

`(-M 0x2000 -E)`

説明:

リソースが列挙されます。

StoreFront のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -M 0x2000 -E <https://my.firstexamplestore.net/Citrix/Store/discovery>
```

Citrix Gateway のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -M 0x2000 -E <https://my.seconddexample.net>
```

クイック起動

`-q, --quicklaunch`

説明:

Storebrowse ユーティリティを使用して、公開アプリおよび公開デスクトップの ICA ファイルを生成します。**quicklaunch** オプションを使用するには、起動 URL とストア URL の入力が必要です。起動 URL は、StoreFront サーバーまたは Citrix Gateway URL のいずれかになります。ICA ファイルは、`%LocalAppData%\Citrix\Storebrowse\cache` ディレクトリに生成されます。

以下のコマンドを実行して、公開されているすべてのアプリとデスクトップの起動 URL を取得できます:

```
.\storebrowse -M 0X2000 -E https://myfirstexamplestore.net/Citrix/Second/discovery
```

一般的な起動 URL は次のとおりです：

```
'Controller.Calculator' 'Calculator' '\ ' 'http://abc-sf.xyz.com/Citrix/
/Stress/resources/v2/Q29udHJvbGxlcj5DYWxjdWxhdG9y/launch/ica
```

StoreFront のコマンド例：

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -q {
Launch_URL_of_published_apps and desktops } <https://my.firstexamplestore
.net/Citrix/Store/resources/v2/Q2hJk0lmNoPQrSTV9y/launch/ica> <https
://my.firstexamplestore.net/Citrix/Store/discovery>
```

Citrix Gateway のコマンド例：

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -q {
Launch_URL_of_published_apps and desktops } <https://my.secondexamplestore
.com>
```

起動

-L, --launch

説明：

Storebrowse ユーティリティを使用して、公開アプリおよび公開デスクトップに必要な ICA ファイルを生成します。起動オプションを使用するには、リソース名とストア URL が必要です。この名前は、StoreFront サーバーまたは Citrix Gateway URL のいずれかになります。ICA ファイルは、%LocalAppData%\Citrix\Storebrowse\cache ディレクトリに生成されます。

公開アプリとデスクトップの表示名を取得するには、次のコマンドを実行します：

```
.\storebrowse -M 0X2000 -E https://myfirstexamplestore.net/Citrix/
Second/discovery
```

以下は、このコマンドの結果です：

```
'Controller.Calculator' 'Calculator' '\ ' 'http://abc-sf.xyz.com/Citrix/
/Stress/resources/v2/Q29udHJvbGxlcj5DYWxjdWxhdG9y/launch/ica
```

前の結果で太字の名前は、起動オプションの入力パラメーターとして使用されます。

StoreFront のコマンド例：

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -L
"{ Resource_Name } <https://my.firstexamplestore.net/Citrix/Store/
discovery>
```

Citrix Gateway のコマンド例：

```
<.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -L { Resource_Name } https://my.secondexamplestore.com>
```

セッションの起動

`-S, --sessionlaunch`

説明:

このコマンドを使用すると、ストアを追加し、検証し、公開リソースを起動できます。このオプションは、以下の情報をパラメーターとして使用します:

- ユーザー名
- パスワード
- ドメイン
- 起動するリソースの名前
- ストア URL

ただし、ユーザーが資格情報を指定しない場合、資格情報を入力するためのAuthManagerプロンプトが表示され、リソースが起動されます。

次のコマンドを実行して、公開アプリや公開デスクトップのリソース名を取得できます:

```
.\storebrowse -M 0X2000 -E https://myfirstexamplestore.net/Citrix/Second/discovery
```

以下は、このコマンドの結果です:

```
'Controller.Calculator' 'Calculator' '\ ' 'http://abc-sf.xyz.com/Citrix/Stress/resources/v2/Q29udHJvbGxlcj5DYWxjdWxhdG9y/launch/ica
```

前の結果で太字の名前は、`-S`オプションの入力パラメーターとして使用されます。

StoreFront のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -S “ { Friendly_Resource_Name } <https://my.firstexamplestore.net/Citrix/Store/discovery >
```

Citrix Gateway のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -U { Username } -P { Password } -D { Domain } -S { Friendly_Resource_Name } <https://my.secondexamplestore.com>
```

ファイルフォルダー

`-f, --filefolder`

説明:

公開アプリおよび公開デスクトップのカスタムパスに ICA ファイルを生成します。

起動オプションを使用するには、フォルダー名とリソース名の入力がストア URL とともに必要です。ストア URL は、StoreFront サーバーまたは Citrix Gateway URL のいずれかになります。

StoreFront のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -f "C:\Temp\Launch.ica" -L "Resource_Name" { Store  
}
```

Citrix Gateway のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -f "C:\Temp\Launch.ica" -L "Resource_Name" {  
NSG_URL }
```

認証のトレース

`-t, --traceauthentication`

説明:

AuthManagerコンポーネントのログを生成します。ログは、**Storebrowse** ユーティリティが組み込みのAuthManagerを使用している場合にのみ生成されます。localappdata%\Citrix\Storebrowse\logsディレクトリに生成されます。

注:

このオプションを、ユーザーのコマンドラインに表示される最後のパラメーターにすることはできません。

StoreFront のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -t -U { UserName } -P { Password } -D { Domain } -a  
{ StoreURL }
```

Citrix Gateway のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -t -U { UserName } -P { Password } -D { Domain } -a  
{ NSG_URL }
```

ストアの削除

`-d, --deletestore`

説明:

既存の StoreFront または Citrix Gateway ストアを削除します。

StoreFront のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -d https://my.firstexamplestore.net/Citrix/Store/  
discovery
```

Citrix Gateway のコマンド例:

```
.\storebrowse.exe -d https://my.secondexamplestore.com
```

Storebrowse コマンドのステータスの追跡

Storebrowse コマンドの実行ステータスをファイルで追跡できます。成功ステータスを追跡するには、`-f launch` コマンドで一意的なファイル名を指定します。このコマンドは、指定した名前のファイルを作成します。失敗ステータスは、自動的に作成される `ica.error` ファイルに存在します。

注:

`-f launch` コマンドでファイル名に必ず `.ica` 拡張子を追加してください。そうしない場合、ファイルは生成されません。

成功と失敗の両方を追跡するファイルは `%LOCALAPPDATA%\citrix\selfservice\cache` にあり、必要に応じてこれらのファイルを監視できます。

この拡張機能は、デフォルトで有効になっています。

以下は、`-f` オプションで起動コマンドを使用する例です:

```
1 -launch -f <uniqueFileName.ica> "launchcommandline"  
2 For example:  
3 SelfService.exe storebrowse -launch -f uniqueFileName.ica -s store0-5  
   c3ec017 -CitrixID store0-5c3ec017@a9a8e3ac-099d-4577-b84e-  
   e33d0695df39.Notepad -ica "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/  
   Citrix/Store/resources/v2/  
   YTLh0GUzYWMtMDk5ZC00NTc3LWI4NGUtZTMzZDA20TVkZjM5Lk5vdGVwYWQ-/launch/  
   ica" -cmdline  
4  
5 <!--NeedCopy-->
```

Citrix Gateway でのシングルサインオンのサポート

シングルサインオンを使用すると、ドメインに認証でき、ドメインが提供する Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS (Citrix Virtual Apps and Desktops サービスの新名称) を使用できます。各アプリやデスクトップに再認証する必要なくサインインできます。ストアを追加すると、Citrix Virtual Apps and Desktops および Citrix DaaS とともに資格情報とスタートメニューの設定が Citrix Gateway サーバーにパススルーされます。

この機能は、Citrix Gateway バージョン 11 以降でサポートされています。

前提条件:

Citrix Gateway のシングルサインオンを構成するための前提条件については、「[ドメインパススルー認証の構成](#)」を参照してください。

グループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレートを使用して Citrix Gateway でシングルサインオン機能を有効にできます。

1. gpedit.msc を実行して、Citrix Workspace アプリ GPO 管理用テンプレートを開きます。
2. [コンピューターの構成] ノードで、[管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Citrix Workspace] > [ユーザー認証] > [Citrix Gateway のシングルサインオン] に移動します。
3. シングルサインオンオプションで [有効] または [無効] に切り替えます。
4. [適用]、[OK] の順にクリックします。
5. Citrix Workspace アプリのセッションを再起動して、この変更を適用します。

制限事項:

- **Storebrowse** ユーティリティでの資格情報入力操作のために、StoreFront サーバーで **HTTP** 基本認証方式を有効にします。
- HTTP ストアがあり、公開された仮想アプリと仮想デスクトップを確認または起動するためにユーティリティを使用してストアに接続しようとする場合、コマンドラインオプションを使用した資格情報の入力はサポートされません。この問題を回避するには、コマンドラインで資格情報を提供しないときに外部 **AuthManager** モジュールを使用します。
- **Storebrowse** ユーティリティは、現在、StoreFront サーバー上の Citrix Gateway で構成された単一ストアのみをサポートしています。
- **Storebrowse** ユーティリティの資格情報の入力は、Citrix Gateway が単一要素認証で構成されている場合にのみ機能します。
- **Storebrowse** ユーティリティのコマンドラインオプション **Username (-U)**、**Password (-P)** **Domain (-D)** では大文字小文字が区別され、大文字のみを使用する必要があります。

ICOSDK を使用するサードパーティのアプリケーションで SSON を有効にするには、次のレジストリを作成します:

- レジストリキー: `Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\ICA Client\NonIEAppsWithSson`
- レジストリ値: サードパーティアプリケーションのフルパス
- レジストリの種類: `reg_multi_sz`

例:

- レジストリキー: `Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\ICA Client\NonIEAppsWithSson`
- レジストリ値: `C:\temp1\abc.exe;C:\temp2\xyz.exe`
- レジストリの種類: `reg_multi_sz`

注:

- セミコロンで区切られた複数のサードパーティアプリケーションを提供できます。
- この機能は、バージョン 2107 以降でサポートされています。

Workspace の Storebrowse

June 17, 2024

Windows 向け Citrix Workspace アプリは、セルフサービスと Citrix Workspace アプリのオンプレミス環境に **Storebrowse** サポートを提供し、**Storebrowse** ユーザーが Cloud および Workspace の機能にアクセスできるようにします。

注:

- この記事は、Citrix Workspace のクラウド展開のみに適用されます。オンプレミス展開については、「[Storebrowse](#)」のドキュメントを参照してください。
- この機能は、シングルサインオンのみで **Storebrowse** のサポートを提供します。
- この機能を使用するには、「[システム要件と互換性](#)」に記載されている前提条件が利用できる必要があります。
- Storebrowse コマンドを使用して SaaS アプリ、または[公開コンテンツ](#)を開くことはできません。

コマンドの使用方法

以下のセクションでは、**Storebrowse** ユーティリティで使用できるコマンドについて詳しく説明します。

注:

- この機能は、[CTX200337](#)に記載されている他の Self-service Plug-in もサポートします。
 - コマンドプロンプトで次のコマンドを実行できます。
- `-a "discoveryurl"`: コマンドラインからストアを追加します。このコマンドは、シングルサインオンが有効になっている場合に認証プロンプトを表示しません。たとえば、AAD ドメインは、Web ビュー経由で認証が行われるデバイスに参加します。他のデバイスでは、認証プロンプトが表示されます。
 - 例: `SelfService.exe storebrowse -a "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/citrix/store/discovery"`
 - `-d "discoveryurl"`: ストアを削除します。
 - 例: `SelfService.exe storebrowse -d "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/citrix/store/discovery"`

- `-e "discoveryurl"`: リソースの詳細を JSON 形式でエクスポートします。このコマンドにより、`resource.json` ファイルをデフォルトの場所 (`%LOCALAPPDATA%\citrix\selfservice`) に保存します。このコマンドを実行するには、Citrix Workspace アプリがアクティブであり、ユーザーがサインインしている必要があります。

- 例: `SelfService.exe storebrowse -e "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/citrix/store/discovery"`

`resource.json` をデフォルトの場所に保存しない場合は、独自のパスを指定することもできます。

- 例: `.\SelfService.exe storebrowse -e "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/citrix/store/discovery" "C:\Users\\Documents\Fiddler2"`。これにより、`resource.json` ファイルが `C:\Users\\Documents\Fiddler2` に保存されます。

- `-q "FriendlyName"discoveryurl"`: このコマンドを使用して、指定したリソースのクイック起動を実行します。

- 例: `SelfService.exe storebrowse -q "Excel 2016" "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/citrix/store/discovery"`

- `-launch "launchcommandline"`: `resource.json` の「`launchcommandline`」を使用したリソースを起動します。

注:

- `resource.json` から「`launchcommandline`」をコピーします。
- コマンドを実行する前に、`resource.json` ファイルにある「`launchcommandline`」から「`/`」を削除します。

- 例: `SelfService.exe storebrowse -launch -s store0-5c3ec017 - CitrixID store0-5c3ec017@@a9a8e3ac-099d-4577-b84e-e33d0695df39 .Notepad -ica "https://cwawiniwstest.cloudburrito.com/Citrix/Store/resources/v2/YTlh0GUzYWMtMDk5ZC00NTc3LWI4NGUtZTMzZDA2OTVkJm5Lk5 -/launch/ica"-cmdline`

「`-launch "launchcommandline"`」を実行すると、`ica` ファイルは `%LOCALAPPDATA%\citrix\selfservice\cache` ディレクトリに保存されます。`ica` ファイルをダブルクリックしてリソースを起動します。

- `-liststore`: SSP (Self-service Plug-in) 内に追加されたストアを一覧表示します。各ストアの `storeID`、検出 URL を含むストア一覧。

- 例: `SelfService.exe storebrowse -liststore`

注:

「-liststore」コマンドを実行するには、Citrix Workspace アプリがアクティブである必要があります。

「Selfservice.exe storebrowse -liststore」コマンドにより、storedetails.json ファイルがAppData\Local\Citrix\SelfServiceに保存されます。

トラブルシューティング

June 14, 2024

ログ収集

ログ収集では、Citrix Workspace アプリのログを収集するプロセスが簡素化されました。ログは、Citrix でのトラブルシューティングに役立ち、問題が複雑な場合はサポートを提供します。この機能は、Windows 向け Citrix Workspace アプリ 2012 バージョン以降で利用できます。

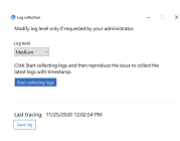
GUI を使用してログを収集できます。

ログの収集:

1. システムトレイで Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックし、[高度な設定] をクリックします。

2. [ログ収集] を選択します。

[ログ収集] ダイアログが表示されます。

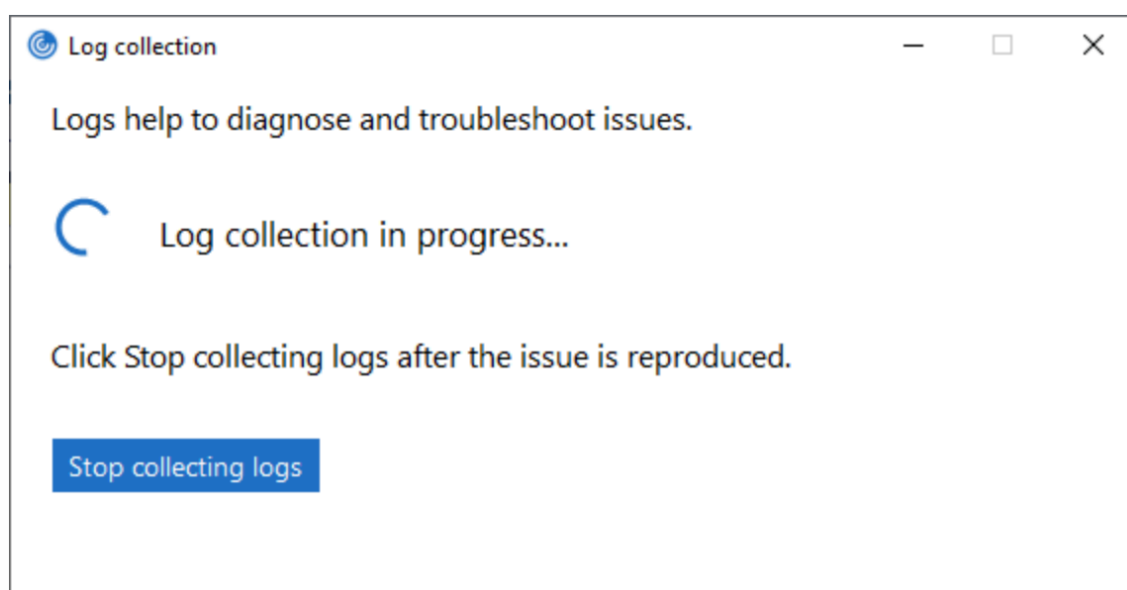


3. 次のログレベルのいずれかを選択します:

- Low
- 中
- 詳細

4. [ログの収集を開始する] をクリックし、問題を再現して、最新のログを収集します。

ログ収集プロセスが開始されます。



5. 問題が再現されたら、[ログ収集を停止する] をクリックします。

6. [ログを保存] をクリックして、ログを目的の場所に保存します。

ログを通じて収集されたデータ

ハードウェア

- 接続モニター情報
- メモリ情報
- ネットワークアダプター
- プロセッサ
- Direct X 診断情報

ソフトウェア

- Citrix Workspace アプリのバージョン
- OS 情報 (バージョン、サービスパック、アーキテクチャ)
- Internet Explorer バージョン
- デフォルトブラウザ
- ActiveX Flash のバージョン
- NPAPI Flash のバージョン

レジストリ

- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\AuthManager
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\CitrixCAB

- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Dazzle
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\ICA Client
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Install
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\InstallDetect
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\PluginPackages
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\Receiver
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\ReceiverInside
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Citrix\XenDesktop
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Policies\Citrix
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings\Zones
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings\ZoneMap\Domains
- HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\NetworkProvider\Order
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\AuthManager
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\CitrixCAB
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Dazzle
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\ICA Client\Engine
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Install
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\InstallDetect
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\PluginPackages
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\Receiver
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\ReceiverInside
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Citrix\XenDesktop
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Policies\Citrix
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\VisualEffects
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings\Zones
- HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings\ZoneMap\Domains

イベントログ

- アプリケーションイベントログ
- システムイベントログ

トレース

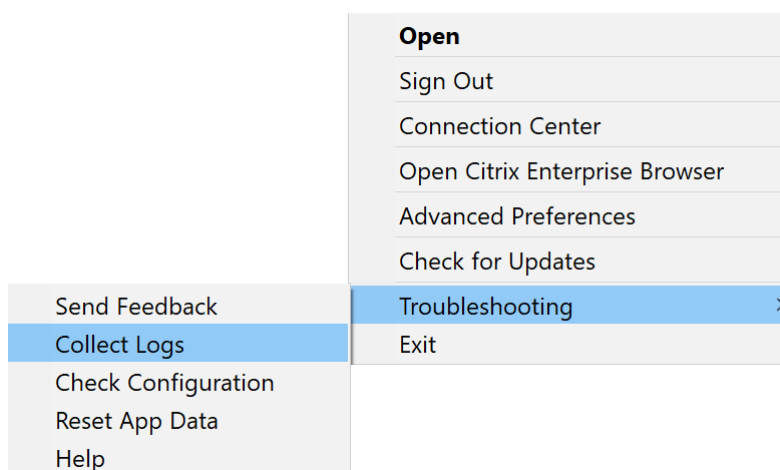
- HDX
- Citrix Receiver シェル、Auth Manager、および Self-service Plug-in
- インストールログ
- 常時接続ログ

Citrix Workspace アプリのシステムトレイにトラブルシューティングオプションを追加

トラブルシューティングオプションは、ユーザーエクスペリエンスを向上させ、トラブルシューティングを容易にするために導入されました。画面の右下隅にあるシステムトレイで Citrix Workspace アプリのアイコンを右クリックし、[トラブルシューティング] を選択してアクセスできます。

[トラブルシューティング] で使用できるオプションは次のとおりです：

- フィードバックの送信
- ログの収集
- 構成の確認
- アプリデータのリセット
- ヘルプ

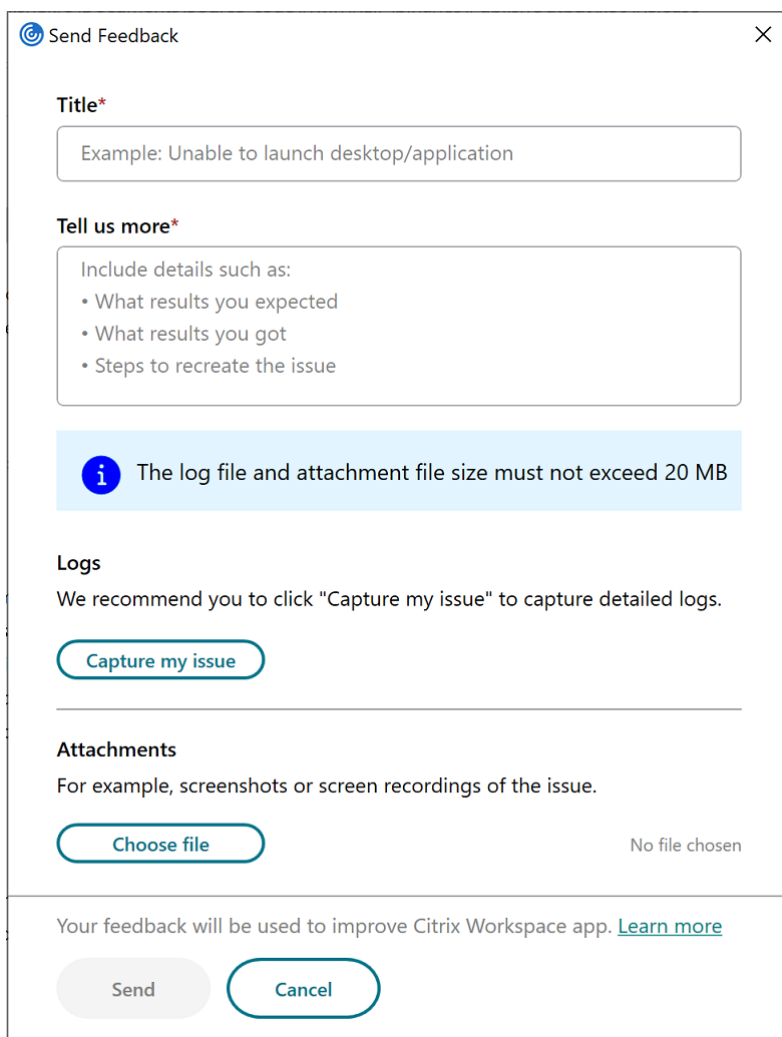


Citrix Workspace アプリに関するフィードバックを送信する

[フィードバックの送信] オプションを使用すると、Citrix Workspace アプリの使用中に問題が発生した場合に Citrix に通知できます。Citrix Workspace アプリのエクスペリエンスを改善するためのご提案を送信いただくこともできます。

次の手順を使用してフィードバックを送信できます：

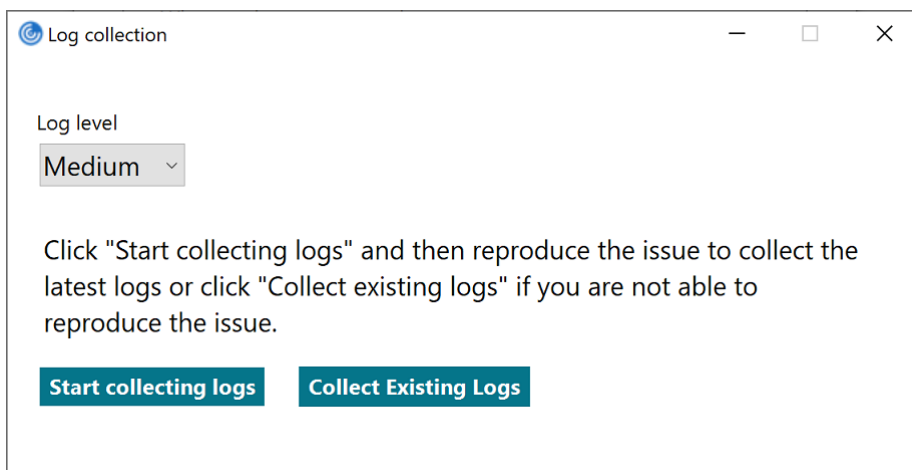
1. システムトレイの Citrix Workspace アプリアイコンを右クリックして、[トラブルシューティング] > [フィードバックを送信] の順に選択します。[フィードバックを送信] 画面が開きます。



The image shows a 'Send Feedback' dialog box with the following sections:

- Title***: A text input field containing the example text 'Example: Unable to launch desktop/application'.
- Tell us more***: A text area containing the instruction 'Include details such as:' followed by a bulleted list: 'What results you expected', 'What results you got', and 'Steps to recreate the issue'.
- Information banner**: A light blue banner with an information icon and the text 'The log file and attachment file size must not exceed 20 MB'.
- Logs**: A section with the text 'We recommend you to click "Capture my issue" to capture detailed logs.' and a 'Capture my issue' button.
- Attachments**: A section with the text 'For example, screenshots or screen recordings of the issue.' and a 'Choose file' button. To the right of the button, it says 'No file chosen'.
- Footer**: A line of text stating 'Your feedback will be used to improve Citrix Workspace app. [Learn more](#)'.
- Buttons**: 'Send' and 'Cancel' buttons at the bottom.

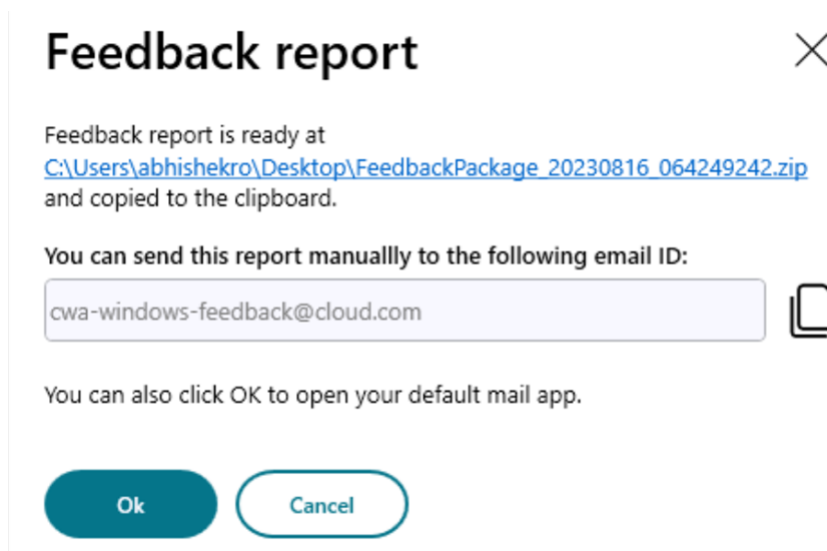
2. 問題の [タイトル] を入力します。
3. [詳細の入力をお願いします] フィールドに問題の詳細を追加します。
4. [問題をキャプチャする] をクリックします。[ログ収集] 画面が開きます。



The image shows a 'Log collection' dialog box with the following sections:

- Log level**: A dropdown menu currently set to 'Medium'.
- Instructions**: Text stating 'Click "Start collecting logs" and then reproduce the issue to collect the latest logs or click "Collect existing logs" if you are not able to reproduce the issue.'
- Buttons**: Two buttons: 'Start collecting logs' and 'Collect Existing Logs'.

- a) [ログ収集を開始する] をクリックし、問題を再現して、最新のログを収集します。
 - b) 問題が再現されたら、[ログ収集を停止する] をクリックします。
または、
問題を再現できない場合は、[既存のログを収集する] をクリックします。
 - c) 問題が再現されたら、[ログ収集を停止する] をクリックします。
5. ログファイルが [問題をキャプチャする] の横に表示されていることを確認します。
 6. [ファイルの選択] をクリックし、スクリーンショットや画面録画など、問題の説明となる添付ファイルを追加します。ログファイルを含むすべての添付ファイルで許可される最大ファイルサイズは 20MB です。
 7. [送信] をクリックします。[フィードバックレポート] 画面が開きます。



.zip ファイルには、ログファイル、問題の説明となるテストファイル、および添付ファイルが含まれています。

8. 次のオプションを使用して、フィードバックレポートを Citrix に送信できます：
 - **[OK]** をクリックして、システムのデフォルトのメールアプリを使用します。

または、

- 指定されたメール ID にレポートを手動で送信します。

注:

.zip ファイルがメールに添付されていることを確認してください。

廃止

June 14, 2024

この記事の告知は、段階的に廃止されるプラットフォーム、Citrix 製品、機能について前もってお知らせするためのものです。これらの告知を基にして、お客様は適宜ビジネス上の決定を下すことができます。

Citrix ではお客様の使用状況とフィードバックをチェックして、各プラットフォーム、Citrix 製品、機能を撤廃するかどうかを判断しています。お知らせする内容は以降のリリースで変わることがあり、廃止される機能がすべて含まれるわけではありません。

廃止となったアイテムはすぐには削除されません。このリリースでは引き続きサポートされますが、今後削除される予定です。

廃止情報

アイテム	廃止が発表されたリリース	削除されたリリース	代替手段
XenApp Services (PNAgent と呼ばれる)	2402	2402	Workspace アプリ内で、XenApp Services の URL ではなくストア URL を使用してストアに接続します
Internet Explorer ベースのブラウザーコンテンツ リダイレクト	2311.1	2311.1	Google Chrome ベースのブラウザーコンテンツリダイレクト
WebRTC SDP 形式 (Plan B) のサポート	2309		Citrix Workspace アプリをサポートされているバージョンにアップグレードしてください。
Microsoft Teams 最適化 におけるシングルウィンドウモードのサポート	2309		Citrix Workspace アプリをマルチウィンドウモードをサポートするバージョンにアップグレードしてください。詳しくは、「 機能マトリックスとバージョンのサポート 」を参照してください。

アイテム	廃止が発表されたリリース	削除されたリリース	代替手段
/ includeappprotection スイッチ	2212	2212	/ startappprotection を使用してアプリ保護コンポーネントを開始します
301 リダイレクトを使用したカスタマイズした URL のサポート	2210		StoreFront から Workspace への URL の移行
Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2 のサポート	2204.1	2204.1	「 システム要件 」セクションに記載された、サポートされているオペレーティングシステムを使用します。
Citrix Casting は、Citrix Workspace アプリとともにデフォルトでインストールされます	2112.1	2205	Citrix Casting は、Citrix Workspace アプリと一緒にオンデマンドでインストールできます。注: Citrix Casting は、Citrix Workspace アプリの使用中はデフォルトではインストールされません。
Workspace (クラウド) ストアのメニューの [すべてのアカウント] オプションのみ。	2112.1	2202	
Workspace アプリの (クラウド) ストアのログオン画面にある [パスワードを記憶する] オプション。	2008	2008	
Citrix Receiver for UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム)	2006	2102	
[アカウントの追加または削除] ダイアログでストアの説明を追加または削除するオプション。説明列は廃止されました。	2006.1		説明を追加しなくても、ストアアカウントの詳細を追加または削除できます。

アイテム	廃止が発表されたリリース	削除されたリリース	代替手段
[アカウントの追加または削除] ダイアログでストアを有効または無効にするオプション	2006.1		
Windows 7 のサポート	2002	2006.1	「 システム要件 」セクションに記載された、サポートされているオペレーティングシステムを使用します。 注 Windows 7 はバージョン 2002 でサポートされています。
<code>/rcu</code> インストーラスイッチ	1909		<code>/rcu</code> の代わりに <code>/forceinstall</code> スイッチを使用します。
Citrix Workspace アプリを使用した Citrix Casting のオンデマンドインストール	2112.1	2402	Citrix Workspace アプリの古いバージョンを使用する



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).